

令和6年度

大分大学 医学部 概要

医学部附属病院

OITA UNIVERSITY FACULTY OF MEDICINE AND OITA UNIVERSITY HOSPITAL
GENERAL PROSPECTUS 2024

2024







目 次

C o n t e n t s

理 念	02
Principle	
ご挨拶	03
Greeting	
沿 革	05
History	
組織図	10
Organization	
役職員等	12
Administrative Officers	
教職員等	15
Number of Staff	
外部資金等	15
External Funds etc.	
医学部	16
Faculty of Medicine	
講座	18
Department	
附属センター	41
Included Center	
学生数等	44
Student Statistics	
医学系研究科	47
Graduate School of Medicine	
博士課程	47
Doctoral Program	
修士課程	56
Master's Program	
学生数等	56
Student Statistics	
関連教育病院	57
Affiliated Teaching Hospital	
国際交流	58
International Exchange Programs	
附属病院	61
University Hospital	
診療科	63
Clinical Departments	
中央診療施設等	76
Central Clinical Facilities	
病院各階案内	90
Hospital Floor Guide	
診療実績	91
Clinical Statistics	
関連施設	94
Affiliated Facilities	
グローバル感染症研究センター	94
Research Center for GLOBAL and LOCAL Infectious Diseases (RCGLID)	
研究マネジメント機構	94
Institute for Research Management	
クライシスマネジメント機構	96
Crisis Management Organization	
学術情報拠点（医学図書館）	96
Center for Academic Information & Library services (Medical Library)	
学術情報拠点（医学情報センター）	99
Center for Academic Information & Library services (Medical Information Center)	
保健管理センター挟間健康相談室	99
Hasama Division, Health Support Center	
大分大学挟間キャンパス案内図	100
Hasama Campus Map of Oita University	
位置図・施設所在地	102
Location, Mailing Address, and Telephone Number	



理 念

PRINCIPLE



本学部は、最新の学術を教授・研究し、高度の医学、看護学及び医療科学の知識と技術を身につけ、さらに豊かな教養と高い倫理観を備えた医療人及び研究者を育成し、もって医学、看護学及び医療科学の進歩、国民健康の維持増進、さらに医療・保健を中心に地域及び国際社会の福祉に貢献する。

また、「患者本位の最良の医療」を基本理念とし、高度先進医療の開発と提供及び倫理観豊かな医療人の育成により地域社会の医療・福祉の向上に貢献する。

We conduct cutting edge academic medical research. With an eye to the future, our goal is to educate the next generation of medical staff and researchers with a high level of knowledge, skill and ethical awareness in the fields of medicine, nursing, and medical science. We aim to advance the studies of medicine, nursing, and medical science to improve national healthcare and societal welfare both domestically and internationally.

Our vision is to provide the best patient-centered medical care. We contribute to the well-being of the community by fostering medical personnel with high ethical standards who provide highly advanced medical care.



大分大学医学部長
Dean of Oita University Faculty of Medicine

猪股 雅史
INOMATA Masafumi

大分は歴史上、日本に西洋医学が初めて導入された地です。豊後を統治した大友宗麟の庇護のもと、ポルトガルの宣教師で医師でもあったルイス・デ・アルメイダ（1525-1583）が、1557年に豊後府内（現在の太田市）に日本で西洋医学を初めて導入した外科、内科、ハンセン氏病科を備えた総合病院を建て、また、医学学校も併設され、西洋医学教育が行われました。また、福沢諭吉（学問のすゝめ、慶應義塾大学創立）や前野良沢（解体新書）は、大分県中津市の出身です。

このような医学歴史に深い大分の地に、大分大学医学部の前身である大分医科大学は1976年（昭和51年）10月に開学しました。1978年4月に第一期生が入学し、1984年に卒業と同時に、1984年に大学院医学研究科を設置しています。1994年には看護学科を設置し、同時に第一期生が入学しています。2003年（平成15年）に大分大学と統合し大分大学医学部になり、そして2023年（令和5年）4月、29年ぶりとなる新学科である先進医療科学科を設置し、医学部は3学科体制となりました。附属病院は、1981年（昭和56年）10月に開院し、2021年に開院40周年となりました。そして2026年には、大分大学医学部は創立50周年を迎えます。

大分大学医学部は、講座再編などにより、現在、医学科は基礎医学系18講座、臨床医学系30講座、寄附講座6講座、看護学科は2講座、先進医療科学科は2コース、医学部附属センター8施設となっています。これまでに、医学科4,008名、看護学科1,763名を、大学院では、博士課程医学専攻の課程博士715名、論文博士391名、修士課程看護学専攻173名、医科学専攻137名という優秀な医療人・研究者を、大分県下をはじめ国内、さらには海外に輩出してきました。

大分大学医学部および医学系研究科の理念は、「最新の学術を教授・研究し、高度の医学及び看護学、先進医療科学の知識と技術並びにそれらの本義を見失わない道徳観と、それを支える豊かな教養を身に付けた医療人及び研究者を育成すること」実際には、大分県内の医療に携わり地域医療を担う医師・看護師などの医療人を育成すること、一方、国際感覚を有し最先端の医療を提供する医学者を輩出すること、これらが使命と考えています。医学科カリキュラムの特徴としては、1年次の早期体験実習や1年から6年まで通年での医学英語・医療英会話、また臨床実習時の地域医療実習があります。

入学試験制度では、地域医療の向上に関して、総合型選抜35名のうち地域枠を13名に設定しており、2021年度から一般選抜65名のうち地元出身者枠10名を設定いたしました。最新の先進医療を身につけつつ地域医療に貢献できることが期待されています。

卒前教育においては、医学科では、世界医学教育連盟が示す国際基準を満たしたカリキュラム改訂を行い、日本医学教育評価機構（JACME）に基づく医学教育分野別評価受審にて、2023年2月に国際基準を満たした医学部として認定されています。すなわち臨床実習を強化し、卒前卒後教育をシームレスに連動させていく学修成果基盤型教育への改革に取り組むとともに、国際的視野を有した医療人を育成します。看護学科においては、看護師教育と保健師教育との統合カリキュラムをさらに改訂し、看護学を基盤に看護実践を展開できる看護師および保健師の育成を目指しています。先進医療科学科では、医学・医療の基盤を支え、自然科学と社会科学の融合による「総合知」を創造し、イノベーション創出に発展させることのできる融合人材の育成を目指します。

卒後教育・大学院教育では、2021年度から「ORPhDプログラム」、2022年度から「基礎研究医プログラム」を開始しました。研修医・博士課程コース（ORPhD）は、初期研修期間中から大学院博士課程に進学できる制度です。基礎研究医プログラムは、初期臨床研修の必修科目修了後の選択科目研修期間中に基礎医学教室での研修が認められている制度です。いずれも研修医の多様化したニーズに応えるために、基礎研究を早い段階から始める制度です。また、海外からの留学生の受け入れをはじめとする国際交流を推進しています。国際的な観点からは、ASEAN諸国、ロシア、サウジアラビアなど多くの海外の大学との協定を結び、人材育成、医療協力を行うとともに、医学生及び専攻医の人事交流を行っています。さらにアイルラング大学（インドネシア）と大学院ダブルディグリー制度を開始しています。

研究面においては、本学の強みと特色を踏まえた戦略的な研究や国際的に、あるいは地域貢献につながる研究を推し進めています。ピロリ菌や狂犬病ウイルスなど感染症研究、AIデータサイエンスを活用した低侵襲医療機器システム開発は、国際的な研究拠点として高い評価を受けています。また認知症における早期診断治療研究や種々の病気におけるゲノム研究も推進しています。大学直轄の「グローバル感染症研究センター」が2021年10月に設立され、感染症分野の研究が一層、推進されています。

2020年初めからの新型コロナウイルス感染症パンデミックにより、医学教育、研究、人的交流など様々な影響が出ました。今後のポストコロナ時代では、社会の変化への対応力と医学に対する高い使命感と倫理観を持ち、未来の医療・医学を担う人材を育成したいと考えています。



大分大学医学部附属病院長
Director of Oita University Hospital

三股 浩光
MIMATA Hiromitsu

本院は1981年に大分医科大学医学部附属病院として開院しました。40年余りの間に、開院時の321床から618床に増床し、高度救命救急センターや認知症先端医療推進センター、臨床医工学センター等、様々な組織を設置し、特定機能病院に相応しい陣容を整えてきました。本院の特徴は、腹腔鏡手術や血管内治療、大動脈ステント留置術等を黎明期より開始し、低侵襲治療に関する多くの実績を挙げていることです。特に消化器疾患領域では、東南アジアを中心に消化器内視鏡や腹腔鏡手術の実技指導を行って、内視鏡技術の普及に携わっています。昨年度からはブータンでの胃癌撲滅を目指した活動を、環境・予防医学講座を中心に行っています。

本院の手術室は15室と同規模国立大学の中で最も多く、本院の強みである低侵襲で高度な先端医療を推進すべく腹腔鏡手術専用室やハイブリッド手術室を設置しています。現在、多くのロボット支援手術が保険収載されています。本院では2012年よりda Vinci Siによるロボット支援手術を開始し、一昨年から九州で初めて国産ロボットのhinotoriを導入し、da Vinci Xiとあわせて2台体制になり、消化器外科や泌尿器科、呼吸器外科、産科婦人科、耳鼻咽喉科でロボット支援手術を行っております。消化器外科では人工知能技術を活用した新たな腹腔鏡手術のナビゲーション・システムを開発し、世界初の臨床応用を目指しています。また、心臓血管外科では再生医療技術を用いた新規動脈グラフトを作成し、新たな血管内治療の開発に取り組んでいます。

大分大学医学部では本邦初の臨床薬理学講座が設置されました。同講座を核に総合臨床研究センターを設け、臨床研究の推進と新薬の開発に努めています。認知症先端医療推進センターでは、地域住民や行政の協力のもと、PET-CTを駆使した認知症の早期診断法や治療薬の開発を進めており、地域に密着した先端医療を展開しています。また、高度救命救急センターは平成24年より稼働し、ドクターヘリによって大分県のほぼ全域から約30分で緊急患者を搬送できる態勢になっています。現在、本院は大分県の基幹災害拠点病院に認定され、大規模災害やテロ、放射性物質による汚染への対応など、通常の医療だけでなく災害医療でも大分県における最後の砦としての役割が求められています。

令和2年に新型コロナウイルス感染症に対しては、本院は中等症以上の患者を最も多く受入れ、大分県下で唯一ECMOによる治療を実施し、新型コロナウイルス感染症の重症患者を救命してきました。また、ワクチンの職域接種、大規模PCR検査、宿泊療養施設や県外医療機関への医師・看護師の派遣等を行い、本県における指導的役割を担ってきました。令和5年5月8日、新型コロナウイルス感染症は5類型になり、ようやく新型コロナ禍は収束しました。将来の新興・再興感染症に対しても、大分県の最後の砦として最大限の対応をする所存です。

病棟のアメニティーに関しては、新病棟の病室を広くし、東病棟と西病棟では3床室までとし、個室及び準個室を大幅に増やしています。また、従来から要望の多かったWi-Fi環境の整備を行い、入院生活が快適になるよう、さらなる環境整備を努めていきます。長年の本院の課題であった外来混雑は、駐車場の拡大・整備や、医学部への進入口の変更を行い、改善しつつあります。さらに、医療DXの導入により、外来混雑を緩和しスムーズな外来診療を目指しております。

本院の理念は「患者本位の最良の医療」を実践することです。これからも皆様に信頼される病院を目指し、職員一同、益々の精進に努めてまいります。大分県の皆様に安心・安全な高度先端医療を提供し、地域医療に貢献していく所存です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



医学部及び附属病院

大分大学医学部は、昭和46年に文部省が発表した全国的な医師不足と無医大県解消のための医師増員計画に基づいて大分医科大学が設置され、平成15年10月大分大学との統合により大分大学医学部となった。

現在までの主な沿革は、次のとおりである。

Oita University Faculty of Medicine was founded in 1971, response to the Ministry of Education, Culture, Science's plan to deal with a nationwide shortage of doctors, and to ensure the presence of a medical university in every prefecture. In October 2003, it merged with Oita University to become the Oita University Faculty of Medicine.

The main developments to date are as follows.

昭和49年 8月 1日 Aug. 1, 1974	大分大学に国立医学教育機関創設準備室を設置 The Planning Office for the Establishment of a National Medical School was set up at Oita University.
昭和51年 5月 8日 May 8, 1976	国立医学教育機関創設準備室を大分大学大分医科大学創設準備室に改称 The above was renamed the Planning Office for the Establishment of Oita University Oita Medical University.
10月 1日 Oct. 1, 1976	大分医科大学開学 Oita Medical University was established.
昭和53年3月3・4日 Mar. 3,4, 1978	第1回入学者選抜試験実施 First Entrance Examinations administered.
4月12日 Apr. 12, 1978	第1回入学式挙行 First University entrance ceremony.
6月 1日 Jun. 1, 1978	開学記念式典挙行 University Inauguration ceremony.
	附属図書館開館 University Library Opened.
昭和54年 4月 1日 Apr. 1, 1979	附属病院創設準備室を設置 The Planning Office for the Creation of a University Hospital was established.
昭和56年 3月19日 Mar. 19, 1981	第1回解剖体慰霊祭、慰霊碑除幕式挙行 First memorial service for dissected bodies and unveiling of the monument.
4月 1日 Apr. 1, 1981	医学部附属病院を設置（附属病院創設準備室廃止） University Hospital was established.
10月 1日 Oct. 1, 1981	医学部附属病院開院（321床） University Hospital opened. (321 beds)
10月19日 Oct. 19, 1981	医学部附属病院診療開始 Clinical practice in the University Hospital started.
昭和57年11月 1日 Nov. 1, 1982	医学部附属病院 病床の増床（計445床） Number of beds reached 445.
昭和58年 5月 1日 May 1, 1983	医学部附属病院 病床の増床（計604床） Number of beds reached 604.
昭和59年 3月24日 Mar. 24, 1984	第1回卒業式挙行 First graduation ceremony.
4月12日 Apr. 12, 1984	大学院医学研究科（博士課程）設置 Graduate School (Doctor's Course) was established.
4月28日 Apr. 28, 1984	第1回大学院入学式挙行 First Graduate School entrance ceremony.



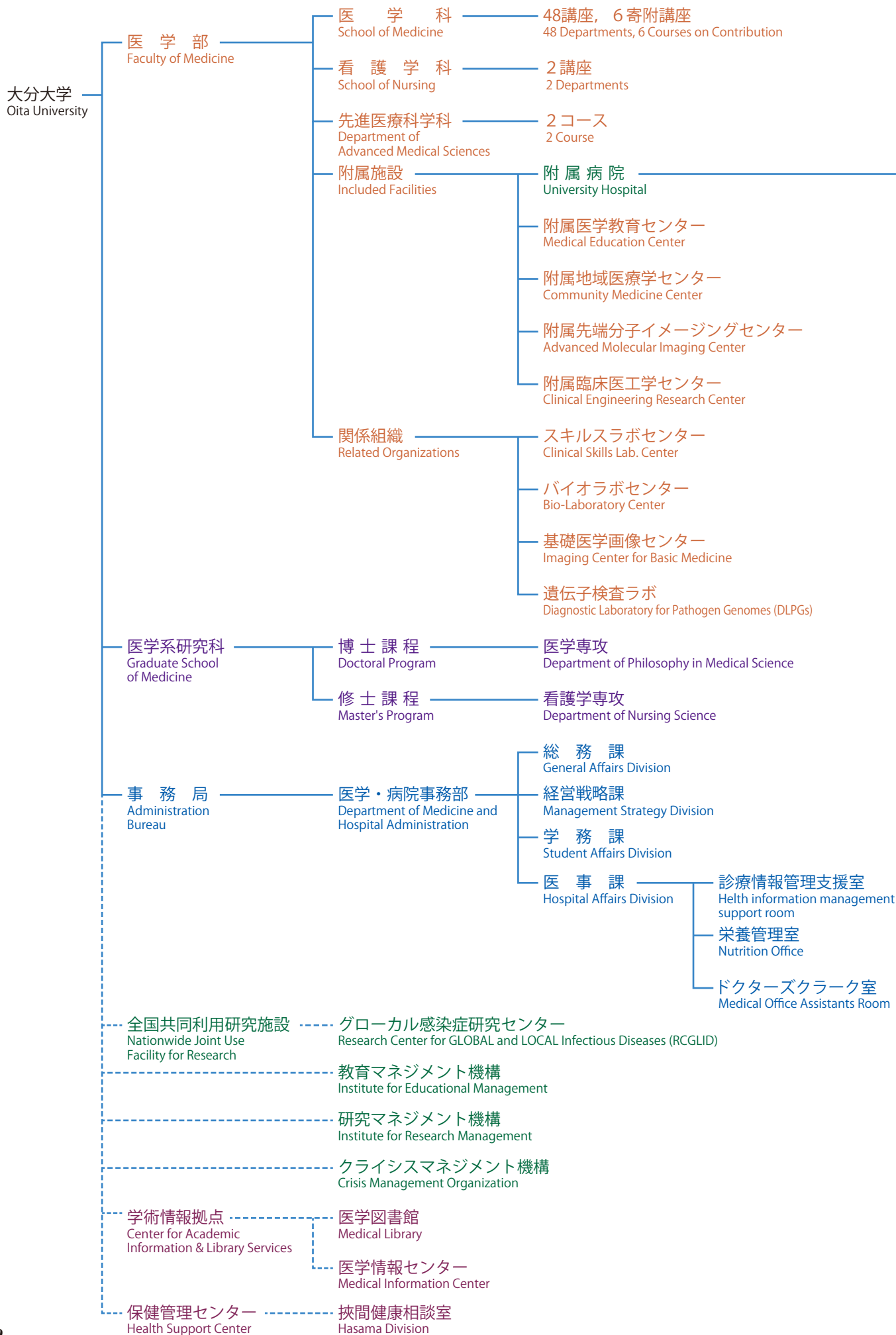
大分医科大学開学当時の航空写真
Aerial Shot of the School at the Time of Founding

昭和60年 4月22日 Apr. 22, 1985	実験動物慰霊碑除幕式举行 Unveiling ceremony of the cenotaph for animals sacrificed.
昭和62年 4月 1日 Apr. 1, 1987	医学部附属実験実習機器センター設置 Research Laboratory Center was established.
昭和63年 3月18日 Mar. 18, 1988	第1回学位記授与式举行 First graduation ceremony for Graduate School.
平成元年 6月28日 Jun. 28, 1989	医学部附属病院救急部設置 Emergency Center was established.
平成2年 6月 8日 Jun. 8, 1990	医学部附属動物実験施設設置 Laboratory Animal Research Center was established.
平成4年 4月10日 Apr. 10, 1992	医学部附属病院集中治療部設置 Intensive Care Unit was established.
平成5年 4月 1日 Apr. 1, 1993	医学部附属病院輸血部設置 Blood Supply Center was established.
平成6年 3月31日 Mar. 31, 1994	エイズ治療の中核拠点病院に指定 Designated as AIDS treatment core base hospital.
4月 1日 Apr. 1, 1994	医学部看護学科設置 School of Nursing was established.
4月22日 Apr. 22, 1994	第1回医学部看護学科入学式举行 First entrance ceremony for School of Nursing.
11月 1日 Nov. 1, 1994	医学部附属病院 特定機能病院の名称承認 The University Hospital received certification as a Special Functioning Hospital.
平成8年 4月 1日 Apr. 1, 1996	保健管理センター設置 Health Care Center was established.
平成10年 3月24日 Mar. 24, 1998	第1回医学部看護学科卒業式举行 First graduation ceremony for School of Nursing.
4月 1日 Apr. 1, 1998	大学院医学系研究科に改称し、看護学専攻（修士課程）設置 Master's degree program for School of Nursing was established.
	医学部附属病院病理部設置 Pathology Center was established.
	医学部附属病院内視鏡部設置 Endoscopy Center was established.
4月22日 Apr. 22, 1998	第1回看護学専攻（修士課程）入学式举行 First entrance ceremony for Master's degree program for School of Nursing.
10月 3日 Oct. 3, 1998	開学20周年記念式典举行 The Twentieth Anniversary ceremony of the University.
平成11年 4月 1日 Apr. 1, 1999	医学部附属病院医療情報部設置 Hospital Informatics Center was established.
平成12年 3月23日 Mar. 23, 2000	第1回大学院医学系研究科看護学専攻（修士課程）学位記授与式举行 First graduation ceremony for Master's degree program for School of Nursing.
4月 1日 Apr. 1, 2000	医学部附属病院総合診療部設置 University Hospital General Medicine Center was established.
平成13年 4月 1日 Apr. 1, 2001	医学部附属病院臨床薬理センター・創薬オフィス（治験管理センター）設置 Clinical Pharmacology Center and medicine office (Division of Clinical Trials) was established.
	医学部附属病院感染制御部設置 Hospital Infection Control Center was established.
	医学部附属病院ME機器センター設置 Medical Engineering Center was established.

平成13年 10月 9日 Oct. 9, 2001	第1回学士編入学式 First entrance ceremony for transfer students already holding a bachelor's degree.
平成14年 4月 1日 Apr. 1, 2002	医学科講座等を8大講座に改組 Reorganization of medical departments into 8 major departments.
	医学部附属病院リハビリテーション部設置 Rehabilitation Center was established.
	医学部附属病院CCU部設置 Coronary Care Unit was established.
	医学部附属病院人工透析部設置 Artificial Dialysis Center was established.
	医学部附属病院医療安全管理部設置 Medical Safety Management Center was established.
平成15年 4月 1日 Apr. 1, 2003	医科学専攻（修士課程）設置 Master's degree program for School of Medical Science was established.
	総合科学研究支援センター設置 Institute of Scientific Research was established.
	医学部附属病院地域医療連携センター設置 Regional Medical Liaison Center was established.
	医学部附属病院卒後臨床研修センター設置 Center for Postgraduate Education and Training was established.
	医学部附属病院周産母子センター設置 Maternity and Perinatal Care Center was established.
10月 1日 Oct. 1, 2003	大分大学と大分医科大学の統合により大分大学医学部となる The Faculty of Medicine at Oita University was established upon the merger of Oita University and Oita Medical University.
平成16年 4月 1日 Apr. 1, 2004	国立大学法人大分大学設立 National University Corporation Oita University was established.
8月23日 Aug. 23, 2004	医学部附属病院が日本医療機能評価機構の病院機能評価認定病院となる The University Hospital became an authorized hospital of Japan Council for Quality Health Care.
平成17年 4月 1日 Apr. 1, 2005	医学部附属医学教育センター設置 The University Hospital Medical Education Center was established.
	先端医工学研究センター設置 Research Center for Applied Medical Engineering was established.
平成18年 10月 1日 Oct. 1, 2006	医学部附属病院医療技術部を設置 Medical Technology Department was established.
平成19年 7月 2日 Jul. 2, 2007	厚生労働省より治験中核病院に指定 Designated as core clinical research center by MHLW.
10月17日 Oct. 17, 2007	医学部附属病院腫瘍センター設置 Cancer Center was established.
平成20年 2月 8日 Feb. 8, 2008	都道府県がん診療連携拠点病院に指定 Designated as core prefectural hospital for collaborative cancer treatment.
4月 1日 Apr. 1, 2008	医学部附属病院総合臨床研究センター設置 General Clinical Research Center was established.
4月21日 Apr. 21, 2008	肝疾患診療連携拠点病院に指定 Designated as Liver disease care liaison hospital.
5月 1日 May 1, 2008	医学部附属病院救命救急センター設置 Emergency and Critical Care Center was established.
7月 1日 Jul. 1, 2008	医学科講座を47講座（医学基盤教育系9講座、基礎医学系14講座、臨床医学系24講座）へ再編 Reorganization of medical departments into 47 departments.

平成20年 11月 1日 Nov. 1, 2008	医学部附属病院肝疾患相談センター設置 Liver Disease Consultation Unit was established.
11月15日 Nov. 15, 2008	医学部30周年記念式典挙行 The Thirtieth Anniversary ceremony of the Faculty of Medicine.
平成21年 4月 1日 Apr. 1, 2009	医学部附属病院臨床栄養管理室設置 Clinical Nutrition Office was established.
10月 1日 Oct. 1, 2009	総合科学研究支援センターと先端医工学研究センターを全学研究推進機構に改組 Reorganization of Institute of Scientific Research and Research Center for Applied Medical Engineering into Research Promotion Project.
平成22年 2月 1日 Feb. 1, 2010	医学部附属地域医療学センター設置 Center for Community Medicine was established.
4月 1日 Apr. 1, 2010	医学部医学科腫瘍内科学講座設置 Department of Medical Oncology was established.
6月 9日 Jun. 9, 2010	医学部スキルスラボセンター設置 Clinical Skills Lab. Center was established.
	医学部基礎医学画像センター設置 Imaging Center for Basic Medicine was established.
11月10日 Nov. 10, 2010	医学部バイオラボセンター設置 Department Bio Laboratory Center was established.
12月 9日 Dec. 9, 2010	医学部附属先端分子イメージングセンター設置 Advanced Molecular Imaging Center was established.
平成23年 10月15日 Oct. 15, 2011	医学部附属病院開院30周年記念式典挙行 The Thirtieth Anniversary ceremony of the University Hospital.
平成24年 10月 1日 Oct. 1, 2012	医学部附属病院 救命救急センター棟稼働開始（大分県ドクターヘリ基地病院） Critical Care Center Build was opened.
	医学部附属病院 病床の増床（計618床） Number of beds reached 618.
平成25年 4月 1日 Apr. 1, 2013	医学科講座を再編（内科学講座及び外科学講座） Reorganization of medical departments. (internal medicine and surgery)
	看護学科講座を再編 Reorganization of nursing departments.
	医学部附属病院災害対策室設置 Disaster Risk Management Office was established.
4月29日 Apr. 29, 2013	医学部附属病院 新病棟稼働開始 New Wards was opened.
10月 1日 Oct. 1, 2013	高度救命救急センターに指定 Designated as Advanced Trauma, Emergency and Critical Care Center.
平成26年 2月 1日 Feb. 1, 2014	医学部附属病院遺伝子診療室設置 Genetic Counselling Office was established.
3月26日 Mar. 26, 2014	地域災害拠点病院に指定 Designated as Disaster base hospital (Community) .
12月24日 Dec. 24, 2014	医学部附属病院女性医療人キャリア支援センター設置 Career Path Support Center for Medical Staff was established.
平成27年 2月 1日 Feb. 1, 2015	医学部附属病院認知症先端医療推進センター設置 Center for Propulsion of Advanced Medicine for Dementia was established.
4月 1日 Apr. 1, 2015	医学部附属臨床医工学センター設置 Clinical Engineering Research Center was established.
平成28年 4月 1日 Apr. 1, 2016	医学科講座を47講座（基礎医学系19講座，臨床医学系講座28講座）へ再編 Reorganization of medical departments into 47 departments.

平成28年 4月 1日 Apr. 1, 2016	医学部医学科医療安全管理医学講座設置 Department of Medical Safety Management was established.
5月25日 May 25, 2016	医学部附属病院移植・再生医療支援室設置 Support Office for Transplantation and Regenerative Medicine was established.
10月 1日 Oct. 1, 2016	医学部附属病院総合患者支援センター設置（地域医療連携センター廃止） Comprehensive Patient Support Center was established.
平成29年 2月 1日 Feb. 1, 2017	医学科講座を49講座（基礎医学系19講座，臨床医学系講座30講座）へ再編 Reorganization of medical departments into 49 departments.
	医学部医学科総合診療・総合内科学講座設置 Department of General Medicine was established.
	医学部医学科総合外科・地域連携学講座設置 Department of Comprehensive surgery for community medicine was established.
4月 1日 Apr. 1, 2017	医学部附属病院クオリティマネジメント室設置 Quality Management Office was established.
平成30年 4月 1日 Apr. 1, 2018	国際教育研究推進機構（国際医療戦略研究推進センター）設置 Institute for Global Education and Advanced Research (Global Oita Medical Advanced Research Center for Health) was established.
平成31年 4月 1日 Apr. 1, 2019	医学科講座を48講座（基礎医学系18講座，臨床医学系講座30講座）へ再編 Reorganization of medical departments into 48 departments.
	生体構造医学講座と分子解剖学講座を解剖学講座に改組 Reorganization of Department of Human Anatomy and Department of Molecular Anatomy into Department of Anatomy.
令和 元年12月 1日 Dec. 1, 2019	医学部附属病院看護職キャリア開発支援センター設置 Nursing Career Development Support Center was established.
令和 2年10月 1日 Oct. 1, 2020	医学部附属病院生殖医療センター設置 Reproduction Center was established.
11月 1日 Nov. 1, 2020	医学部遺伝子検査ラボ設置 Diagnostic Laboratory for Pathogen Genomes (DLPGs) was established.
令和 3年 4月 1日 Apr. 1, 2021	医学部附属病院看護師特定行為統括センター設置 General Center Pertaining to Specified Medical Acts for Nurse was established.
	基幹災害拠点病院に指定 Designated as Core disaster base hospital.
10月 1日 Oct. 1, 2021	グローバル感染症研究センター設置 Research Center for GLOBAL and LOCAL Infectious Diseases (RCGLID) was established.
10月 2日 Oct. 2, 2021	医学部附属病院開院40周年記念式典挙行 The Fortieth Anniversary ceremony of the University Hospital.
令和 4年 8月 1日 Aug. 1, 2022	医学部附属病院低侵襲手術センター設置 Minimally Invasive Surgery Center was established.
令和 5年 4月 1日 Apr. 1, 2023	医学部附属病院肥満・糖尿病先進治療センター設置 Obesity and Diabetes Center for Advanced Medicine was established.
	医学部先進医療科学科設置 Department of Advanced Medical Sciences was established.
令和 6年 4月 1日 Apr. 1, 2024	災害マネジメント総合支援センター設置 Disaster Management Center was established.





役職員等

Administrative Officers

学部長 Dean 猪股雅史 INOMATA Masafumi	副学部長 Vice-Dean 上村尚人 UEMURA Naoto 小林隆志 KOBAYASHI Takashi 谷川雅人 TANIGAWA Masato	医学科長 Dean of School of Medicine 井原健二 IHARA Kenji 看護学科長 Dean of School of Nursing 三重野英子 MIENO Eiko	病院長 Director of University Hospital 三股浩光 MIMATA Hiromitsu	副病院長 Deputy Director of University Hospital 高橋尚彦 TAKAHASHI Naohiko 宮本伸二 MIYAMOTO Shinji 伊東弘樹 ITO Hiroki	平松和史 HIRAMATSU Kazufumi 寺尾 岳 TERAO Takeshi 富永志津代 TOMINAGA Shizuyo	宮崎英士 MIYAZAKI Eishi 下村 剛 SHIMOMURA Tsuyoshi 染矢朋宏 SOMEYA Tomohiro
	学部長補佐 Advisors to Dean 花田俊勝 HANADA Toshikatsu 斉藤 功 SAITO Isao 山本恭子 YAMAMOTO Kyoko	先進医療科学科長 Dean of Department of Advanced Medical Sciences 穴井博文 ANAI Hirofumi		病院長補佐 Advisors to the Director of University Hospital 柴田洋孝 SHIBATA Hirotaka	緒方正男 OGATA Masao	

医 学 部 Faculty of Medicine

医 学 科 School of Medicine	
講 座 名 Department	教 授 名 Professors
基礎医学系 Basic Medicine	
解 剖 学 講 座 Anatomy	濱田文彦 Prof. HAMADA Fumihiko
神 經 生 理 学 講 座 Neurophysiology	花田礼子 Prof. HANADA Reiko
病 態 生 理 学 講 座 Pathophysiology	(欠員) (Vacant)
細 胞 生 物 学 講 座 Cell Biology	花田俊勝 Prof. HANADA Toshikatsu
マトリックス医学講座 Matrix Medicine	(欠員) (Vacant)
医 学 生 物 学 講 座 Biomedicine	松浦恵子 Prof. MATSUURA Keiko
医 化 学 講 座 Biomedical Chemistry	(欠員) (Vacant)
生 物 物 理 学 講 座 Biophysics	谷川雅人 Prof. TANIGAWA Masato
分 子 病 理 学 講 座 Molecular Pathology	(欠員) (Vacant)
微 生 物 学 講 座 Microbiology	西園 晃 Prof. NISHIZONO Akira
感 染 予 防 医 学 講 座 Infectious Disease Control	小林隆志 Prof. KOBAYASHI Takashi
薬 理 学 講 座 Pharmacology	石崎敏理 Prof. ISHIZAKI Toshimasa
公衆衛生・疫学講座 Public Health and Epidemiology	斉藤 功 Prof. SAITO Isao
環境・予防医学講座 Environmental and Preventive Medicine	山岡吉生 Prof. YAMAOKA Yoshio
法 医 学 講 座 Forensic Medicine	森 晋二郎 Prof. MORI Shinjiro
医 療 倫 理 学 講 座 Medical Ethics	今井浩光 Prof. IMAI Hiromitsu
臨床社会心理学講座 Social and Clinical Psychology	(欠員) (Vacant)
医学英語教育学講座 Medical English Education	森 茂 Prof. MORI Shigeru
臨床医学系 Clinical Medicine	
内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座 Endocrinology, Metabolism, Rheumatology and Nephrology	柴田洋孝 Prof. SHIBATA Hirotaka
呼吸器・感染症内科学講座 Respiratory Medicine and Infectious Diseases	小宮幸作 Prof. KOMIYA Kosaku
神 經 内 科 学 講 座 Neurology	(欠員) (Vacant)
腫瘍・血液内科学講座 Medical Oncology and Hematology	緒方正男 Prof. OGATA Masao

循環器内科・臨床検査診断学講座 Cardiology and Clinical Examination	高橋尚彦 Prof. TAKAHASHI Naohiko
消化器内科学講座 Gastroenterology	(欠員) (Vacant)
総合診療・総合内科学講座 General Medicine	宮崎英士 Prof. MIYAZAKI Eishi
精神神経医学講座 Neuropsychiatry	寺尾 岳 Prof. TERAOKA Takeshi
小 児 科 学 講 座 Pediatrics	井原健二 Prof. IHARA Kenji
放 射 線 医 学 講 座 Radiology	浅山良樹 Prof. ASAYAMA Yoshiki
臨床薬理学講座 Clinical Pharmacology and Therapeutics	上村尚人 Prof. UEMURA Naoto
消化器・小児外科学講座 Gastroenterological and Pediatric Surgery	猪股雅史 Prof. INOMATA Masafumi
呼吸器・乳腺外科学講座 Thoracic and Breast Surgery	(兼)杉尾賢二 Prof. SUGIO Kenji
心臓血管外科学講座 Cardiovascular Surgery	宮本伸二 Prof. MIYAMOTO Shinji
総合外科・地域連携学講座 Comprehensive surgery for Community Medicine	上田貴威 Prof. UEDA Yoshitake
脳神経外科学講座 Neurosurgery	(兼)藤木 稔 Prof. FUJIKI Minoru
整 形 外 科 学 講 座 Orthopaedic Surgery	加来信広 Prof. KAKU Nobuhiro
皮 膚 科 学 講 座 Dermatology	波多野 豊 Prof. HATANOKUCHI Yutaka
腎泌尿器外科学講座 Urology	秦 聡孝 Prof. SHIN Toshitaka
眼 科 学 講 座 Ophthalmology	武田篤信 Prof. TAKEDA Atsunobu
耳鼻咽喉科学講座 Otolaryngology & Head and Neck Surgery	(欠員) (Vacant)
産科婦人科学講座 Obstetrics and Gynecology	小林栄仁 Prof. KOBAYASHI Eiji
麻酔科学講座 Anesthesiology and Intensive Care Medicine	(欠員) (Vacant)
救 急 医 学 講 座 Emergency Medicine	安部隆三 Prof. ABE Ryuzo
歯科口腔外科学講座 Oral and Maxillofacial Surgery	河野憲司 Prof. KAWANO Kenji
診 断 病 理 学 講 座 Diagnostic Pathology	駄阿 勉 Prof. DAA Tsutomu
医 療 情 報 学 講 座 Medical Informatics	(兼)下村 剛 Prof. SHIMOMURA Tsuyoshi
薬 剤 学 講 座 Pharmacy	(兼)伊東弘樹 Prof. ITO Hiroki
臨床統計・データマネジメント学講座 Biostatistics	(欠員) (Vacant)
医療安全管理医学講座 Medical Safety Management	平松和史 Prof. HIRAMATSU Kazufumi

計48講座

令和6年4月1日現在
(as of April 1, 2024)

寄附講座等 Courses on Contribution and others	
人工関節学講座 Endoprothetic Surgery	(兼)加来信広 Prof. KAKU Nobuhiro
内視鏡下心臓外科学講座 Department of Endoscopic Cardiovascular Surgery	(併)宮本伸二 Prof. MIYAMOTO Shinji
ヘルスケア AI・データサイエンス学講座 Department of Healthcare AI Data Science	(併)猪股雅史 Prof. INOMATA Masafumi
先端がん毛髪医療開発講座 [アデランス] Department of advanced medical research and development for cancer and hair [Aderans]	(併)猪股雅史 Prof. INOMATA Masafumi
高度医療人育成講座 Department of Advanced Medical Personnel nurturing	白下英史 Prof. SHIROSHITA Hidefumi
運動器疾患治療学講座 Department of Musculoskeletal Disease Therapy	(兼)加来信広 Prof. KAKU Nobuhiro
おおいた地域医療支援システム構築事業 Oita Regional Medical Support System Construction Project	河野康志 Prof. KAWANO Yasushi
大分こども急性救急疾患学部門医療・研究事業 Division of General Pediatrics and Emergency Medicine	脇口宏之 Prof. WAKIGUCHI Hiroyuki

附属センター Included Center	
医学教育センター Medical Education Center	センター長(教務委員長) Director (兼)井原健二 Prof. IHARA Kenji
	(兼)宮崎英士 Prof. MIYAZAKI Eishi
地域医療学センター Center for Community Medicine	センター長(学部長) Director (兼)猪股雅史 Prof. INOMATA Masafumi
	(兼)宮崎英士 Prof. MIYAZAKI Eishi
	(兼)上田貴威 Prof. UEDA Yoshitake
先端分子イメージングセンター Advanced Molecular Imaging Center	センター長(学部長) Director (兼)猪股雅史 Prof. INOMATA Masafumi
臨床医工学センター Clinical Engineering Research Center	センター長(学部長) Director (兼)猪股雅史 Prof. INOMATA Masafumi
	(兼)穴井博文 Prof. ANAI Hirofumi
スキルスラボセンター Clinical skills Lab. Center	センター長(医学教育センター教授) Director (兼)宮崎英士 Prof. MIYAZAKI Eishi
基礎医学画像センター Imaging Center for Basic Medicine	センター長 Director 森 晋二郎 Prof. MORI Shinjiro
バイオラボセンター Bio-Laboratory Center (BLC)	センター長(学部長) Director (兼)猪股雅史 Prof. INOMATA Masafumi
遺伝子検査ラボ Diagnostic Laboratory for Pathogen Genomes (DLPGs)	センター長(兼) Director 西園 晃 Prof. NISHIZONO Akira

看護学科 School of Nursing	
講座名 Department	教授名 Professors
基盤看護学講座 Fundamental Nursing Sciences	原田千鶴 Prof. HARADA Chizuru
	清村紀子 Prof. KIYOMURA Noriko
	加隈哲也 Prof. KAKUMA Tetsuya
	(欠員) (Vacant)
実践看護学講座 Practical Nursing Sciences	井上 亮 Prof. INOUE Ryo
	末弘理恵 Prof. SUEHIRO Rie
	三重野英子 Prof. MIENO Eiko
	正木孝幸 Prof. MASAKI Takayuki
	脇 幸子 Prof. WAKI Sachiko
	(欠員) (Vacant)

医学部関連施設等 Related facilities under the Faculty of Medicine	
グローバル感染症研究センター センター長 Director of Research Center for GLOBAL and LOCAL Infectious Diseases (RCGLID)	(兼)西園 晃 Prof. NISHIZONO Akira
研究マネジメント機構 機構長 Deputy Director of Institute for Research Management	(兼)藤木 稔 Prof. FUJIKI Minoru
クライシスマネジメント機構 機構長 Director of Crisis Management Organization	(兼)山岡吉生 Prof. YAMAOKA Yoshio
学術情報拠点 副拠点長 (医学図書館担当) Deputy Director of Center for Academic Information & Library Services (Director of Medical Library)	(兼)石崎敏理 Prof. ISHIZAKI Toshimasa
学術情報拠点 副拠点長 (医学情報センター担当) Deputy Director of Center for Academic Information & Library Services (Director of Medical Information Center)	(兼)下村 剛 Prof. SHIMOMURA Tsuyoshi

先進医療科学科 Department of Advanced Medical Sciences	
講座名 Department	教授名 Professors
生命健康科学コース The Course of Life and Health Sciences	大崎美泉 Prof. OSAKI Yoshimi
	加藤優子 Prof. KATO Yuko
	田仲和宏 Prof. TANAKA Kazuhiro
	手嶋泰之 Prof. TESHIMA Yasushi
臨床医工学コース The Course of Clinical Engineering	穴井博文 Prof. ANAI Hirofumi
	兒玉雅明 Prof. KODAMA Masaaki
	池内秀隆 Prof. IKEUCHI Hidetaka

医学・病院事務部 Department of Medicine and Hospital Administration	
部長 Director	染矢朋宏 SOMEYA Tomohiro
課 Section	課長 Chief of Section
総務課 General Affairs Division	吉野誠治 YOSHINO Seiji
経営戦略課 Management Strategy Division	得丸公紀 TOKUMARU Kiminori
学務課 Student Affairs Division	染矢朋宏 SOMEYA Tomohiro (事務取扱)
医事課 Hospital Affairs Division	山口正一 YAMAGUCHI Shoichi

役職員等 Administrative Officers

令和6年4月1日現在 (as of April 1, 2024)

医学部附属病院 University Hospital	
診療科 Clinical Departments	科長 Head
呼吸器・感染症内科 Respiratory Medicine and Infectious Diseases	(兼)小宮 幸作 Prof. KOMIYA Kosaku
内分泌・糖尿病内科 Endocrinology, Diabetology and Metabolism	(兼)柴田 洋孝 Prof. SHIBATA Hirotaka
膠原病内科 Rheumatology	(兼)柴田 洋孝 Prof. SHIBATA Hirotaka
腎臓内科 Nephrology	(兼)柴田 洋孝 Prof. SHIBATA Hirotaka
脳神経内科 Neurology	(兼)木村 成志 A. Prof. KIMURA Noriyuki
消化器内科 Gastroenterology	(兼)水上一 弘 A. Prof. MIZUKAMI Kazuhiro
循環器内科 Cardiovascular Medicine	(兼)高橋 尚彦 Prof. TAKAHASHI Naohiko
血液内科 Hematology	(兼)緒方正 男 Prof. OGATA Masao
腫瘍内科 Medical Oncology	(兼)緒方正 男 Prof. OGATA Masao
総合内科・総合診療科 General Medicine	(兼)宮崎 英士 Prof. MIYAZAKI Eishi
精神科 Psychiatry	(兼)寺尾 岳 Prof. TERAOKA Takeshi
小児科 Pediatrics	(兼)井原 健二 Prof. IHARA Kenji
消化器外科 Gastroenterological Surgery	(兼)猪股 雅史 Prof. INOMATA Masafumi
呼吸器外科 Thoracic Surgery	(兼)小副川 敦 A. Prof. OSOEGAWA Atsushi
小児外科 Pediatric Surgery	(兼)猪股 雅史 Prof. INOMATA Masafumi
乳腺外科 Breast Surgery	(兼)小副川 敦 A. Prof. OSOEGAWA Atsushi
心臓血管外科 Cardiovascular Surgery	(兼)宮本 伸二 Prof. MIYAMOTO Shinji
脳神経外科 Neurosurgery	(兼)秦 暢宏 A. Prof. HATA Nobuhiro
整形外科 Orthopaedic Surgery	(兼)加来 信広 Prof. KAKU Nobuhiro
形成外科 Plastic Surgery	(兼)清水 史明 A. Prof. SHIMIZU Fumiaki
皮膚科 Dermatology	(兼)波多野 豊 Prof. HATANOKI Yutaka
腎臓外科・泌尿器科 Renal Surgery and Urology	(兼)秦 聡孝 Prof. SHIN Toshitaka
眼科 Ophthalmology	(兼)武田 篤信 Prof. TAKEDA Atsunobu
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 Otolaryngology & Head and Neck Surgery	(兼)渡邊 哲生 A. Prof. WATANABE Tetsuo
産科婦人科 Obstetrics and Gynecology	(兼)小林 栄仁 Prof. KOBAYASHI Eiji
放射線科 Radiology	(兼)浅山 良樹 Prof. ASAYAMA Yoshiki
麻酔科 Anesthesiology	(兼)松本 重清 A. Prof. MATSUMOTO Shigeakiyo
救命救急科 Emergency and Critical Care Medicine	(兼)安部 隆三 Prof. ABE Ryuzo
リハビリテーション科 Rehabilitation Medicine	(兼)加来 信広 Prof. KAKU Nobuhiro
歯科口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery	(兼)河野 憲司 Prof. KAWANO Kenji

計30診療科

中央診療施設等 Central Clinical Facilities	
施設等 Clinical Facilities	部長・センター長・室長 Head
検査部 Clinical Laboratory Center	(兼)手嶋 泰之 Prof. TESHIMA Yasushi
手術部 Surgery Center	(兼)松本 重清 A. Prof. MATSUMOTO Shigeakiyo

放射線部 Radiological Center	(兼)浅山 良樹 Prof. ASAYAMA Yoshiki
材料部 Sterile Supplies	(兼)秦 聡孝 Prof. SHIN Toshitaka
クオリティマネジメント室 Quality Management Office	(兼)宮本 伸二 Prof. MIYAMOTO Shinji
高度救命救急センター Advanced Trauma, Emergency and Critical Care Center	(兼)安部 隆三 Prof. ABE Ryuzo
集中治療部 Intensive Care Unit	(兼)松本 重清 A. Prof. MATSUMOTO Shigeakiyo
輸血部 Blood Transfusion Center	(兼)緒方正 男 Prof. OGATA Masao
病理診断科・病理部 Department of Diagnostic Pathology	(兼)駄阿 勉 Prof. DAA Tsutomu
医療情報部 Hospital Informatics Center	下村 剛 Prof. SHIMOMURA Tsuyoshi
臨床薬理センター Clinical Pharmacology Center	(兼)上村 尚人 Prof. UEMURA Naoto
リハビリテーション部 Rehabilitation Center	(兼)加来 信広 Prof. KAKU Nobuhiro
総合患者支援センター Comprehensive Patient Support Center	(兼)緒方正 男 Prof. OGATA Masao
周産母子センター Maternity and Perinatal Care Center	(兼)小林 栄仁 Prof. KOBAYASHI Eiji
CCU部 Coronary Care Unit	(兼)高橋 尚彦 Prof. TAKAHASHI Naohiko
血液浄化センター Blood Purification Center	(兼)秦 聡孝 Prof. SHIN Toshitaka
内視鏡診療部 Endoscopy Center	(兼)水上一 弘 A. Prof. MIZUKAMI Kazuhiro
感染制御部 Hospital Infection Control Center	(兼)平松 和史 Prof. HIRAMATSU Kazufumi
MEセンター Medical Engineering Center	(兼)穴井 博文 Prof. ANAI Hirofumi
医療安全管理部 Medical Safety Management Center	(兼)平松 和史 Prof. HIRAMATSU Kazufumi
卒後臨床研修センター Center for Postgraduate Education and Training	(兼)宮崎 英士 Prof. MIYAZAKI Eishi
腫瘍センター Cancer Center	(兼)大津 智 Lec. OTSU Satoshi
総合臨床研究センター General Clinical Research Center	(兼)上村 尚人 Prof. UEMURA Naoto
肝疾患相談センター Liver Disease Consultation Unit	(兼)水上一 弘 A. Prof. MIZUKAMI Kazuhiro
臨床栄養管理室 Clinical Nutrition Office	(兼)廣田 優子 Chief. HIROTA Yuko
遺伝子診療室 Genetic Counselling Office	(兼)井原 健二 Prof. IHARA Kenji
認知症先端医療推進センター Center for Propulsion of Advanced Medicine for Dementia	(兼)寺尾 岳 Prof. TERAOKA Takeshi
生殖医療センター Reproduction Center	(兼)小林 栄仁 Prof. KOBAYASHI Eiji
看護師特定行為統括センター General Center Pertaining to Specified Medical Acts for Nurse	(兼)安部 隆三 Prof. ABE Ryuzo
低侵襲手術センター Minimally Invasive Surgery Center	(兼)猪股 雅史 Prof. INOMATA Masafumi
肥満・糖尿病先進治療センター Obesity and Diabetes Center for Advanced Medicine	(兼)柴田 洋孝 Prof. SHIBATA Hirotaka
薬剤部 Pharmacy	伊東 弘樹 Prof. ITO Hiroki
看護部 Nursing Department	富永志津代 Head. TOMINAGA Shizuyo
医療技術部 Medical Technology Department	(兼)吉田 幸人 Head. YOSHIDA Yukito
災害マネジメント総合支援センター Disaster Management Center	下村 剛 Prof. SHIMOMURA Tsuyoshi
女性医療人キャリア支援センター Career Path Support Center for Medical Staff	(兼)松浦 恵子 Prof. MATSUURA Keiko
移植・再生医療支援室 Support Office for Transplantation and Regenerative Medicine	(兼)波多野 豊 Prof. HATANOKI Yutaka
看護職キャリア開発支援センター Nursing Career Development Support Center	(兼)富永志津代 Head. TOMINAGA Shizuyo

計38部署

教職員等 *Number of staff*

令和6年4月1日現在
(as of April 1, 2024)

区 分 Classification	教育職員等 Academic Staff and others													医療系職員 Medical Staff													合 計 Total				
	教授 Professors	特任教授 Contract Professors	准教授 Associate Professors	特任准教授 Contract Associate Professors	講師 Assistant Professors	特任講師 Contract Assistant Professors	助教 Research Associates	特任助教 Contract Research Associates	病院特任助教 Research Associates(Hospital-Limited)	助手 Research Assistant	教務職員 Education Assistant	その他の教育職員 Other Academic Staff	医員 Clinical Fellow	医員(研修医) Resident	小 計 Total	看護師・助産師 Nursing Staff	薬剤師 Pharmacist	臨床検査技師 Medical Technologist	診療放射線技師 Radiological Technologist	理学療法士 Physical Therapist	作業療法士 Occupational Therapist	視能訓練士 Orthoptist	言語聴覚士 Speech Therapist	臨床工学技士 Clinical Engineering Technologist	歯科衛生士・技士 Dental Hygienist/ Dental Technician	医療ソーシャルワーカー Medical Social Worker		管理栄養士 Registered Dietitian	その他の技術系職員 Other Technical Staff	小 計 Total	
医 学 部 Faculty of Medicine	52 (0)	8 (0)	32 (0)	1 (0)	18 (0)	1 (0)	75 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	198 (6)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	92 (81)	292 (89)
医学部附属病院 University Hospital	3 (0)	0 (0)	5 (0)	0 (0)	28 (0)	0 (0)	68 (0)	0 (0)	52 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	191 (191)	24 (24)	371 (215)	754 (10)	39 (0)	52 (4)	37 (0)	14 (0)	9 (0)	6 (0)	4 (0)	27 (0)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (2)	955 (16)	101 (93)	1427 (324)
医学・病院事務部 Dept. of Medicine and Hospital Administration	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (0)	9 (0)	4 (0)	22 (0)	186 (27)	208 (27)
合 計 Total	55 (0)	8 (0)	37 (0)	1 (0)	46 (0)	1 (0)	143 (0)	4 (0)	52 (0)	0 (0)	1 (0)	6 (6)	191 (191)	24 (24)	569 (221)	754 (10)	39 (0)	54 (6)	37 (0)	14 (0)	9 (0)	6 (0)	4 (0)	27 (0)	5 (0)	9 (0)	9 (0)	12 (2)	979 (18)	379 (201)	1927 (440)

備考 () 内は非常勤職員を内数で示す。 Note: () indicates the number of Part-time staffs.

外部資金等 *External Funds etc.*

科学研究費助成事業採択一覧 (令和6年度分) (金額 単位: 千円)

Grant-in-Aid for Scientific Research (in 2024) (In thousands of yen)

区 分 Classification	件 数 Number	金 額 Amount
基 盤 研 究 (B) Grant-in-Aid for Scientific Research (B)	7	24,310 (うち間接経費 5,610) (5,610 is indirect cost inside)
基 盤 研 究 (C) Grant-in-Aid for Scientific Research (C)	118	153,751 (うち間接経費 35,481) (35,481 is indirect cost inside)
研 究 活 動 ス タ ー ト 支 援 Grant-in-Aid for Research Activity Start-up	2	2,730 (うち間接経費 630) (630 is indirect cost inside)
若 手 研 究 者 Grant-in-Aid for Young Scientists	39	54,210 (うち間接経費 12,510) (12,510 is indirect cost inside)
奨 励 研 究 者 Grant-in-Aid for Encouragement of Scientists	10	4,590 (うち間接経費 0) (0 is indirect cost inside)
合 計 Total	176	239,591 (うち間接経費 54,231) (54,231 is indirect cost inside)

外部資金 (令和5年度分) (金額 単位: 千円)

Non-governmental Funds (in 2023) (In thousands of yen)

区 分 Classification	金 額 Amount
寄 附 金 Scholarship Endowment	487,386
受 託 研 究 (治 験) Entrusted Research (Drug Testing)	213,995
受 託 研 究 (そ の 他) Entrusted Research (Others)	743,281
受 託 事 業 Trust business	251,889
民 間 機 関 等 と の 共 同 研 究 Collaboration with Private Institutions	19,757
合 計 Total	1,716,308

医学部

Faculty of Medicine

本学部には、医学科と看護学科、先進医療科学科があり、医学、看護学、先進医療科学に関する最新の学術を教育・研究し、高度の医学、看護学及び先進医療科学の知識並びに技術と技能、そしてこれらを支える高い倫理観と豊かな教養・人間性を備えた医師或いは看護師・保健師、医療従事者等、更には医学、看護学研究者、大学・企業研究者等を養成し、これらの学問の進歩、国民の健康の維持増進、医療・保健を中心に地域や国際社会の福祉に寄与する。

また、医学科、看護学科ともにカリキュラム改革に努めている。医学科においては、医学の急速な進歩と変化する社会ニーズに対応するため、また医学教育の国際基準を満たすため、従来の学問体系別医学教育を、教養・基礎・臨床が連携したシームレスの統合型教育カリキュラムに転換し、臨床実習をより充実させるために診療参加型実習、地域基盤型教育を推進するなど、抜本的改革を行ってきた。看護学科においては、基礎科目、専門基礎科目、専門科目の有機的統合を図るとともに、看護師教育と保健師教育との統合カリキュラムを推進し、臨床で役立つ看護教育を目指して、様々な改善を重ねている。先進医療科学科では、先進領域融合科目群を主軸として、国際力強化科目群、未来創造キャリア・デザイン科目群、医療マネジメント科目群を配置したカリキュラムを構成し、医学・医療の基盤を支え、自然科学と社会科学の融合による「総合知」を創造し、イノベーション創出に発展させることのできる融合人材の育成を目指す。

The Faculty of Medicine consists of three departments: Department of Medicine, Department of Nursing, and Department of Advanced Medical Sciences. We conduct cutting edge academic research about medicine, nursing, and medical science. Our goal is to educate medical personnel (doctors, nurses, public nurses, clinical laboratory technicians, and clinical engineers) and researchers with a high level of knowledge, skill and ethical awareness. We aim to advance national healthcare and societal welfare both domestically and internationally.

In the departments of medicine and nursing, we have improved our academic curricula to keep pace with the dynamic and rapid improvement of modern medicine, the medical needs of society, and the international standards for medical education. The Department of Medicine has shifted from a discipline-based method organized by medical departments, into the seamless integrated education of liberal arts, basic medicine, and clinical medicine. We also promote problem-based and community-based learning for a more effective clinical clerkship. The Department of Nursing has also improved its curriculum, changing to an integrated education of liberal arts, basic nursing, and clinical nursing. Additionally, diverse trials are practiced to promote an integrated curriculum with nurse education and public health nurse education, and to foster high level clinical nursing staff. The Department of Advanced Medical Sciences has a curriculum consisting of four groups of subjects: integrated advanced medical science, English and international studies, creative future career design, and medical management. Our goal is to educate students with “comprehensive knowledge” of natural and social sciences in order to stimulate innovation.

教育目的

患者の立場を理解した全人的医療ができるよう、豊かな教養と人間性、高度の学識、生涯学習能力、国際的視野を備えた人材を育成することを目的として実践的な医学教育を行う。

Medical Education

The goal of the medical department is to educate students to become doctors who can consider health problems from the patients' standpoint, have a strong sense of culture and humanity, a high level of academic knowledge, a desire to continue lifelong learning, a broad international outlook and the ability to apply a holistic approach to medicine.

研究目的

社会の医学・医療に対する多様な要望に応えるため、生命現象の基礎的研究、及び健康の維持・増進、疾病の治療、克服に寄与する独創的、先導的研究を学内の他領域との連携で推進する。さらに、予防医学の重要性に鑑み、保健・衛生分野の研究を促進する。もって、これらの成果を地域及び国際社会に還元し、保健・医療・福祉の向上に貢献する。

Medical Research

This department is engaged in basic life science research. It promotes the creative research and sets the pace for research in health maintenance and well-being, as well as treating and overcoming diseases. It responds to the various needs and demands of society for medicine and medical science. Taking into consideration the importance of preventive medicine, we facilitate health and hygiene research and aim to improve healthcare and welfare, both locally and globally.

医学部 看護学科

教育目的

人々が心身共に健康な生活を営めるよう、適切な看護を行うことができる専門的知識と技術の修得を促し、看護学の発展と保健・医療・福祉の向上、ひいては国際社会への貢献ができるよう、豊かな人間性を備えた人材を育成する。

Nursing Education

The goal of the nursing department is for students to acquire professional knowledge and techniques of nursing practice, so that they may provide patients with a healthy physical and mental life. In addition, we educate our students to be kind and caring nurses so that they may contribute to the progress of nursing and help to improve healthcare and welfare, both locally and throughout the world.

研究目的

多様で複雑な国民のヘルスニーズに応え、人々が心身共に健康な生活を営めるよう、適切な看護を行うために、その基盤となる看護知識・技術や理論の検証と開発を推進する。

また、実践科学としての立場から、人々とその生活に視点を当てた研究を促進し、専門的な看護実践に資することをねらいとする。

もって、看護学の発展と地域住民の保健・医療・福祉の向上、ひいては国際社会へ貢献する。

Nursing Research

In order to respond to people's various and complicated health problems, both physical and mental, we conduct research on effective nursing theories and techniques.

Moreover, we promote research based on practical science that is focused on people and their lifestyles, and which concentrates on the contributions of professional nursing practice.

In this way, we contribute to the development of the science of nursing, the improvement of health, medical care, and welfare, both locally and internationally.

医学部 先進医療科学科

教育目的

領域・業種の垣根を超えた情報交換と交流の橋渡しができる能力を有し、大学・企業研究者、医療従事者、起業家、医療事業マネジメントを行える人材となり、進化した医工連携、深化した医学生命科学連携の将来の担い手として活躍できる人材を育成する。

Advanced Medical Science Education

Our goal is for students to communicate with medical and non-medical personnel to develop medical business management cooperation with university/corporate researchers, medical professionals, and entrepreneurs. In addition, we educate our students to play an active role as future leaders of medical-engineering and medical-life science collaboration.

研究目的

医学・医療の基盤を支え、自然科学と社会科学の融合による「総合知」を創造し、イノベーション創出に発展させるため、人の生命現象、健康と疾病及び臨床検査に関する研究、健康と疾病及び医工学、医療機器研究開発に関する研究を促進し、分野横断的に橋渡しを行い「未来の医療」を創造する。もって、これらの成果を地域及び国際社会に還元し、保健・医療・福祉の向上に貢献する。

Advanced Medical Science Research

In order to stimulate innovation, we conduct integrated research on medical science, natural science, and social science. Moreover, we promote research based on human life, the relationship between health/disease and laboratory testing, the relationship between health/disease and clinical engineering, and the development of medical equipment. Such interdisciplinary research will help to define the future of medical care. In this way, we work toward improving public health, medical care, and welfare, both domestically and internationally.

基礎医学系講座

Department of Basic Medicine

■ 解剖学講座 Department of Anatomy

- 1) ピロリ菌感染による胃癌発生メカニズムの解明
強い発癌活性を示すことが知られている CagA 毒素をもつピロリ菌感染による胃癌発生機序の解明を目指している。
- 2) 脂肪組織の解剖と機能・外的内的環境変化への適応獲得機構の解明
- 3) 生体の構造と機能に関する臨床解剖学的・分子免疫組織学的研究
 1. リンパ管および微小循環系の構造・機能と発生・新生に関する機能形態学的・分子組織化学的解析・臨床解剖学的解析
 2. 腹膜播腫のリンパ行性転移機構に関する免疫組織学的解析
 3. 髄液循環に関する実験的解析
 4. 硬膜外リンパ系を介する生理的髄液漏出の機序解明
 5. 関節・神経-骨格筋系を中心とした臨床解剖学的・生体力学的研究

1) *Helicobacter pylori* and molecular mechanisms of gastric carcinogenesis

Infection of *Helicobacter pylori* harboring a virulence factor CagA are associated with a significantly increased risk of cancer. We are investigating molecular mechanisms underlying CagA-mediated gastric carcinogenesis.

2) Anatomy and physiology of the fat tissue and Analysis of the process for acclimation to environmental shift

3) Clinical morphology and molecular immunohisto-chemical studies on fine structure and function of living human body

1. Functional morphological / molecular histochemical analysis of organization and dynamics of lymphatic system and microcirculatory system
2. Immunohistological study of the formati mechanism of peritoneal metastasis through peritoneal lymphatic vessels
3. Experimental analysis of cerebrospinal fluid circulation
4. Mechanism elucidation of cerebrospinal fluid leak via epidural lymphatic system in physiological condition
5. Clinico-anatomical studies of the synovial joints and nerve-musculoskeletal system in functional anatomy and biomechanics

■ 神経生理学講座 Department of Neurophysiology



Website

『生理活性物質の新規生理機能の解明』

当講座では、「生理活性物質の新規生理機能の解明」をメインテーマに、神経ペプチドならびにその他の生理活性物質に着目して、その新規生理機能を明らかにすることを目標としています。具体的には、目的の生理活性物質に関し、遺伝子改変技術をもとにモデル動物を作成し、行動生理学的手法やマウス・ラットへの脳室内薬物微量投与技術、分子生物学的手法を用いて解析し、その生理活性物質が関与する新規生理機能の一連の分子メカニズムを追究しています。

現在、種々の摂食関連神経ペプチドに焦点を当て、CRISPR-Cas9 システムを用いて新たに遺伝子欠損マウスや遺伝子改変ゼブラフィッシュを作製し、多角的な生理機能解析を行っています。これらの解析により各々のペプチドの新たな中枢性生理作用を発見しており、それらの詳細な分子メカニズムの解明に取り組んでおります。そして、得られた知見をもとに、その生理機能が関与するヒトの病態との関連性から、その関連疾患の診断や治療戦略、創薬へと繋がる研究を目指したいと考えています。

Understanding the Novel Physiological Role of Some Neuropeptides.

Our primary research interest is to gain new insights into the novel roles of some neuropeptides, such as Neuromedin U (NMU) or Neuromedin S (NMS), by using genetically modified mice as “a loss of function” model and administering these substrates as “a gain of function model”.

Regarding a new function of those neuropeptides, we have newly established genes deficient mice or zebrafish by CRIPR-Cas9 system, and found a completely new function of each peptide. Now, we are focusing to examine the detailed mechanisms of these functions on molecular, cellular or behavioral aspects. Based on our data, we will investigate the role of those peptides' system in the etiology of human conditions related to the newly identified functions.

Thus, we will determine the etiological role of these neuropeptides and their potential use for the treatment of related disorders.

病態生理学講座 Department of Pathophysiology

Website



生体の病態生理学的機能解析とその分子メカニズムの解明

循環器疾患と細胞内情報伝達機構に関する Translational Research を主な柱として、電気生理学的、分子生物学および生化学的手法を取り入れた生体の臓器、細胞、及び分子機能に関する病態生理学的研究を多面的に進めている。また循環器領域では、イオンチャネル病、心筋虚血、不整脈、糖尿病心筋症などの病態に伴う心筋の電気的・機械的性質の異常に関する基礎的研究を行っている。更に、運動生理学、自律神経機能、血圧調節の分子機構、興奮性細胞の細胞内電解質ホメオスタシス機構の研究等を含めて以下の研究領域に携わっている。

- 1) 分子電気生理学的手法を用いたイオンチャネル機能の解明
- 2) 細胞内情報伝達系によるイオンチャネルの発現修飾と病態に伴う変化
- 3) 細胞内シグナル分子の発現制御に関わる転写因子研究
- 4) microRNA の心臓機能調節に関わる研究

Molecular pathophysiological approach to explore human cardiovascular diseases

Using electrophysiological techniques combined with molecular biological and biochemical approaches, we are studying pathophysiology of cardiovascular diseases, including studies on ion channelopathy, myocardial ischemia, arrhythmia, and diabetic cardiomyopathy.

- 1) Electrophysiological analyses of ionic channels including Na⁺, K⁺ and Ca²⁺ channels.
- 2) Regulation of ionic channels by intracellular signal transduction pathways and its modification in pathophysiological states.
- 3) Analyses of metabolism, expression and transcription factors for cellular signaling molecules.
- 4) Analyses of microRNA in regulation of cardiac function.

細胞生物学講座 Department of Cell Biology

Website



講座の概要

我々は、遺伝子改変技術を駆使してゼブラフィッシュ、マウスおよび細胞株の遺伝子改変疾患モデルを作製・解析することにより、様々な希少難治性疾患の分子メカニズムの全容解明を目指している。大分県で発見された新たな遺伝子変異に関しても、臨床講座との共同研究により新規に遺伝子改変疾患モデルを作製して遺伝子と病態との関連性を検証している。独自の遺伝子改変疾患モデルと先進的なイメージングおよび生化学的手法を駆使して病態メカニズムを明らかにし、未だ有効な治療法が確立していない希少難治性疾患の新たな診断・治療法の開発につながる研究を目指す。

Outline of Department

We aim to elucidate the molecular mechanisms of various rare diseases by creating and analyzing genetically modified disease models of zebrafish, mice, and cell lines using genome editing technology. We are also investigating the relationship between genes and pathological conditions by creating new genetically engineered disease models for new genetic mutations discovered in Oita Prefecture in collaboration with clinical departments. We aim to elucidate the pathogenetic mechanisms of diseases by using advanced imaging and biochemical approaches. Our goal is to lead to the development of new diagnostic and therapeutic strategies for rare and intractable diseases for which effective treatments have not yet been established.

マトリックス医学講座 Department of Matrix Medicine

Website



マトリックス生物学及び医学

動物組織は種々の細胞と細胞外マトリックスより成り立っている。これら両者の量的、質的な組み合わせにより、種々の組織が精巧に作り出されている。その中で私たちは特に細胞外マトリックスに注目し研究を行っている。その目的は1) 細胞外マトリックスに存在する分子の機能とその遺伝子調節を解析すること、2) 細胞外マトリックス分子の増加によって引き起こされる臓器線維症の機序を分子レベルで解明し、治療法に結びつけることである。特に細胞外マトリックスに最も豊富に存在するコラーゲン分子を中心に研究を行っている。

- 1) コラーゲン遺伝子の発現および転写調節機構の解析
- 2) コラーゲン分子およびそれに由来するペプチドの機能の解析
- 3) 種々の液性因子に対するコラーゲン遺伝子の応答メカニズムの解析
- 4) 臓器線維症治療法の開発

Matrix Biology and Medicine: Analysis of the normal and pathological condition of extracellular matrix

Animal tissues consist of extracellular matrix as well as different cells. These components are well organized in many different ways. The goal of our research is 1) to understand the function of molecules and the regulation of their genes in extracellular matrix, and 2) to elucidate molecular mechanism of the fibrosis that is a pathological condition characterized by excessive deposition of the components of extracellular matrix, and to challenge to develop the therapy of the disease using animal models. Especially, we focus on collagen molecules that are most abundant proteins in the animal body.

- 1) To analyze the expression and transcriptional regulation of collagen gene.
- 2) To analyze the function of collagen molecules and its derived peptides.
- 3) To elucidate how collagen molecules are modulated by growth hormones and cytokines in matrix remodeling.
- 4) To develop the therapy of fibrosis using animal models.

医学生物学講座 Department of Biomedicine



Website

講座の概要

1. 生命科学の基礎

医学・医療を学ぶための基本となる生物の誕生と進化、生物の特徴としての細胞の成り立ちや遺伝、免疫、代謝、そしてガンなどの疾患につながる基礎的な仕組みを学ぶ。また最新の科学技術についてその概要に触れる。

2. 寄生生物学および系統分類学

原始的な六脚類を中心とした動物群の進化、生活史および形態、発生などにもとづいた系統分類学的研究を行う。さらに生物学教育・実験に用いる新しい生物教材の開発研究も行っている。

現在の主な研究内容

- 1) 原始的六脚類の形態学および発生学的研究
 - 2) 生物教材の開発研究
- 将来はモデル生物を用いた疾患研究も行う予定である。

Outline of Department

1. Basic Life Science

To learn about medical science and health care, we work at basic biology including the origin of life, evolution, cellular compartments, genome, immunology, metabolism, and cancer. We also study an introduction to the most advanced science and technology.

2. Parasite Biology and Phylogenetic Systematics

Primitive hexapods and the related animals are studied from the viewpoints of phylogenetic systematics based on their evolution, ecology, morphological and embryological characteristics. Moreover, we work at developing new model material used in biology education and practical experiments.

Current Research Projects

- 1) Morphology and embryology of primitive hexapods
- 2) Development of model material used for education of biology

Future Research Project

Disease research using biological model systems

医化学講座 Department of Biomedical Chemistry

講座の概要

以下の3つを研究テーマとしている。

1. 生理活性化合物の化学修飾による高機能化

酵素が行う化学修飾を利用し、生理機能物質の持つ抗アレルギー作用などの生理活性を向上させた、新規な機能性物質の創製。

2. 生体触媒による有用物質の生産

培養細胞などの生体触媒を利用した、有用物質の原料となるキラルシントンの合成。

3. 植物培養細胞による環境浄化

植物培養細胞が行う変換反応を利用した、環境汚染物質の浄化。

Outline of Department

1. Production of useful materials by enzymes
Effects of chemical modification of bioactive compounds by enzymes on their biological activity are investigated.

2. Production of fine chemicals by biocatalysts
Production of chiral building blocks for organic synthesis is investigated using cell cultures as biocatalysts.

3. Phytoremediation by plant cell cultures
Biotransformation of environmentally toxic compounds by plant cell cultures is investigated from the viewpoint of pollution control.

生物物理学講座 Department of Biophysics

講座の概要

1. ベイズ統計を用いた予後予測手法の開発

様々な病気について、検査結果から悪性度や今後の進行を、ベイズ統計を用いて確率分布として導き出し、各患者の実情と照らし合わせて治療指針を検討できるシステムを開発する。さらに、ベイジアンネットワークを用いて各種臨床検査データ間の因果関係を明らかにし、項目ごとの重要度を明確にする方法を開発する。

2. 巨大分子に対するシミュレーション手法の開発、およびDNA分子への応用の研究。

巨大分子のMCシミュレーションでは、協働運動モードのサンプリングを行うことにより、状態探索の効率化が期待される。この目的のため、自己学習型のMC法を開発し、DNAに応用する

3. 医学系物理学実習における新しい実験課題の開発

医学教育での物理学実習において医学と関連の深い新しい実験課題の開発を行う。

Outline of Department

1. Development of a prognosis method using Bayesian statistics

We are developing a system that can derive probability distributions of malignancy and future progression of various diseases using Bayesian statistics based on test results, which leads to treatment guidelines considering the conditions of each patient. Furthermore, we are developing a method to clarify the causal relationship between various clinical test data using Bayesian networks, to clarify the data that should be used for analysis.

2. Development of a new simulation technique for giant molecules and its application to DNA

To sample collective motions is expected to make exploration in a molecular state space more efficient in MC simulations. For this purpose, we develop a self-learning MC algorithm, and apply it to a study for DNA morphology.

3. Development of new experimental instruments for physics practice

For the physics experiment in the medical education, new experimental instruments closely related to the medicine is developed.

分子病理学講座 Department of Molecular Pathology



Website

悪性腫瘍の発症と進展に関わる分子機構の解明

症例研究を基盤とし、悪性腫瘍の発症と進展の分子機構を解明し、新しい診断法や治療法の開発につながる病因因子を特定することを研究目標とする。

- 1) 臓器癌の遺伝子異常の解明と責任遺伝子の同定
マイクロアレイを用いた網羅的ゲノム解析によって臓器癌組織を直接解析して、病気の責任遺伝子の同定を目指している
- 2) 病因因子として同定された遺伝子の機能解析
網羅的遺伝子解析によって同定された遺伝子の機能解析を行っている
- 3) 感染症と発癌の関連性の分子病理学的解析
Helicobacter pylori 感染症による胃癌発癌機構の分子病理学的解析を行っている

Studies on molecular pathogenesis of human carcinomas

- 1) Identification of genes responsible for human carcinomas by genome-wide gene analysis
- 2) Analyses of molecular functions of genes identified
- 3) Carcinogenesis based on infectious diseases

微生物学講座 Department of Microbiology



Website

ウイルス感染症における宿主応答とこれに基づく治療・予防戦略の研究

- 1) 狂犬病感染に関する総合的研究
日本国内で数少ない狂犬病研究施設として、狂犬病の感染と発症に関わるウイルス側と宿主側応答の解明を目指す。特に中枢神経系における病原性発現機構の解析、さらにこれにもとづく生物製剤、特に有効なワクチン戦略の評価やヒト型抗体製剤の開発を目指す。
- 2) 新型コロナウイルス感染症に関する診断と研究
- 3) 新興感染症の分子疫学的研究
狂犬病ウイルス、新型コロナウイルス、デングウイルス、SFTSウイルスなどを対象とした世界規模でのウイルス感染の分子疫学的研究
- 4) 成人 T 細胞性白血病ウイルス (HTLV-1) の病原性の解析、特に NF- κ B を介した発癌機構解明とその治療戦略

Host-parasite relationship in microbial infection and development of therapeutic- and preventive-strategy

- 1) Systematic research of rabies infection as the core institute of Japan
Emphases are placed on the interactions between rabies virus and the host, especially neuropathogenesis, immunity, prevention and therapeutic strategy. Effective vaccine and human therapeutic antibodies are also developing.
- 2) Diagnosis of SARS-CoV-2 and serological study of COVID-19.
- 3) Globally molecular epidemiology of viral infection (rabies, SARS-CoV-2, dengue infections, SFTSV)
- 4) Pathogenesis of ATL through HTLV-1 infection, NF- κ B activation by the oncoprotein Tax and its molecular targeting therapy.

感染予防医学講座 Department of Infectious Disease Control



Website

感染症および炎症性疾患の分子免疫学

当研究室では、感染防御に働く免疫システムの分子基盤とその破綻による炎症・アレルギー疾患の病態を分子レベルで解明し、その成果を病気の予防や治療に結びつけることを目標にしています。具体的には、免疫機能に重要なシグナル伝達分子、細胞走化性因子、セリンプロテアーゼインヒビターなどの遺伝子改変マウスを用いて、感染時の宿主免疫応答や自己免疫疾患・炎症性疾患などの病的な免疫応答を分子レベルから個体レベルまでにわたり幅広く研究し理解することを目指します。

また、感染症の病原体、媒介動物および伝播に関する研究も分子レベルから海外学術調査まで様々な視点から進めています。

- 1) シグナル伝達制御、細胞遊走、上皮バリア機能の破綻と炎症性疾患の分子免疫学的研究
炎症性腸疾患・多発性硬化症・乾癬・腫瘍免疫など
- 2) 病原体と宿主免疫応答の統合的研究
ウイルス感染：ジカ熱・チクングニア熱など
細菌感染：シトロバクテリア症など
寄生虫感染：リーシュマニア症、トキソプラズマ症、アニサキス症

Molecular Immunology of Infectious Diseases and Inflammatory Disorders

Our research goal is to understand the molecular mechanisms underlying protective immune responses against infection and inflammatory disorders caused by dysregulated immune responses.

In particular, we focus on the roles of cell signaling molecules in immune cells such as Toll-like receptor signaling, chemokines that regulate the migration of immune cells and serine protease inhibitor that protects epithelial cells against damage caused by excessive inflammatory responses. Using some genetically engineered mouse models, we study on the immune responses against pathogens during the course of infection as well as against self-antigens in autoimmune diseases. We also study on disease pathogens and their vectors at the molecular level as well as in field studies in Southeast Asia and Northeastern India.

- 1) Molecular immunology of inflammatory diseases
Inflammatory Bowel Disease, Multiple Sclerosis, Psoriasis, Tumor Immunity, etc.
- 2) Integrated studies on disease pathogens, vectors and host immune responses.
- Zika and Chikungunya fever, etc.
- Citrobacter infection, etc.
- Leishmaniasis, Toxoplasmosis, Anisakidosis, etc.

薬理学講座 Department of Pharmacology

講座の概要

薬理学講座では、低分子量 G 蛋白質 Rho ファミリーに関わる細胞骨格や細胞内小胞輸送の制御機構を解明し、細胞、器官、個体恒常性維持の分子基盤の理解を目指している。またその研究を通じ、Rho ファミリーの情報伝達経路と密接に関わる疾患の分子基盤の理解、さらには新たな薬物ターゲットの同定を目指す。

主な研究内容

・細胞骨格制御蛋白質の生理的・病態生理的役割の解析

Outline of Department

In Pharmacology Department, we are investigating the molecular mechanisms of homeostasis in cells, tissues, and body by dissecting the processes of cytoskeleton regulation and vesicle transport. Based on these studies, our goal is to understand the molecular mechanisms of diseases, and to identify the novel drug targets.

The main contents of research

・Dissection of the physiological and pathophysiological roles of cytoskeleton regulatory proteins

公衆衛生・疫学講座 Department of Public Health and Epidemiology



Website

講座の概要

公衆衛生・疫学講座は、コホート研究などの疫学的なアプローチに基づき、個人の食生活習慣、あるいは社会環境の観点から生活習慣病の発症にかかる規定因子を明らかにすることを目指す。さらに、地域住民や専門職との連携・組織化を図り、生活習慣病予防と健康寿命の延伸にかかる科学的なエビデンスを創出する。当講座では、とりわけ循環器疾患の疫学に焦点を置き、新たな危険因子や健康の社会的決定要因を見出し、地域の健康増進に寄与することを講座の理念とする。

主な研究内容

- 1) 循環器疾患、ならびに生活習慣病の疫学
- 2) 地域で暮らす高齢者の健康に関する疫学
- 3) 産業保健分野に関する実践と研究
- 4) 公衆衛生活動の実践と評価に関する研究

Outline of Department

Our aim is to clarify the determinants of health related to non-communicable disease (NCD) in accordance with the epidemiological method such as a cohort study. We need to cooperate with people in communities and health professionals and create the scientific evidence for prevention of NCD and prolonged life. Our department is seeking novel risk factors and social determinants of health in the field of cardiovascular disease epidemiology and contributes to public health in communities.

The main contents of research

- 1) Epidemiology on cardiovascular disease and NCD.
- 2) Epidemiology focused on health in elderly living in communities.
- 3) Occupational health and its practice.
- 4) Practice of public health activities and its evaluation.

環境・予防医学講座 Department of Environmental and Preventive Medicine



Website

講座の概要

ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）は消化性潰瘍や、胃癌の原因と考えられているが、感染者すべてがこれらの疾患に罹患するわけではない。当講座ではこれらの謎を解明するため、ピロリ菌の病原因子に注目、すでに胃癌や胃十二指腸疾患に関与する2つの新しいピロリ菌の病原因子を発見、Outer Inflammatory Protein (OipA) および Duodenal Ulcer Promoting (DupA) と命名した実績がある。我々は、ゲノム解析を駆使した新規ピロリ菌病原因子・抗菌薬耐性遺伝子の探求、病原因子と疾患パターンの地域性、また、胃内に存在するピロリ菌以外の細菌叢についても研究を進めている。加えて、ピロリ菌は、世界各国において遺伝子型が異なり、ピロリ菌の遺伝子型を解析・分類することによって、諸民族がどのような経路をたどって移動してきたかを推測する文化人類学と融合した新たな学術領域研究にも取り組んでいる。さらに、当講座では、アジア、中米、アフリカ諸国との国際共同研究を積極的に推進し、多くの外国人留学生を受け入れている。最終目標であるピロリ菌感染症関連死の撲滅に向けて、これら国際学術ネットワークを活かした研究・教育活動を進めている。

Outline of Department

Although *Helicobacter pylori* (*H. pylori*) infection is etiologically involved in peptic ulcer and gastric cancer, only a fraction of those infected develop clinical disease. While this phenomenon remains unexplained, we focus on bacterial virulence factors. Our group discovered two novel virulence factors of *H. pylori* and designated outer inflammatory protein (OipA) and duodenal ulcer promoting (DupA). Currently, our group is encouraging the research on novel virulence factors and antimicrobial resistance of *H. pylori* using genome sequencing techniques, and also gastric microbiota that will cause gastroduodenal diseases. *H. pylori* strains from different geographic areas exhibit clear phylogeographic differentiation; therefore, the analyses of *H. pylori* genotypes can serve as markers for the migration of human populations as innovative interdisciplinary research. In our department, we perform international collaborative studies with Asian, Central American, and African countries to promote these studies, and many international students are accepted. Overall, our group performs research and education programs aim to eliminate *H. pylori*-related death in the world.

法医学講座 Department of Forensic Medicine

Website



講座の概要

法医学領域において、常に必要とされる技術は正確な死因を追求することである。元来、遺体の解剖を主体とした死後の診断技術が進歩、開発されてきた。一方、臨床医学の現場では、CTやエコー、種々の血液マーカーの開発など、革新的な技術の進歩、発展が認められている。そこで、これら臨床医学での技術を遺体の死因診断にも応用することが求められている。

一方、遺体には種々の死後変化が存在し、これら死後変化は臨床医学では認められない新たな所見となる。また、環境や死因、時間経過などによって、死後変化の種類や程度が異なるため、正確な死因の診断に大きな影響を与えている。

そこで、これら死後変化が臨床医学で使われている技術に与える影響を学び、最終的には死因の特定が実施できる技術を習得する。

Outline of Department

In forensic medicine, the ability to pursue the exact cause of death is a skill that is always required. Nowadays, diagnostic techniques have advanced and have been developed based mainly on cadaver dissection. However, clinical medicine has seen the progress and development of innovative technologies, including the development of computed tomography (CT), ultrasound, and the identification of a wide range of blood markers. It is now time for these clinical techniques to be applied to the postmortem determination of the cause of death.

However, cadavers undergo a variety of postmortem changes, and these changes could mask some of the findings in clinical medicine. In addition, the types and degrees of postmortem changes vary depending on factors such as the environment, cause of death, and time elapsed, and these have a major effect on the accurate diagnosis of the cause of death.

In this workshop, participants will study the effects of post-mortem changes on the techniques used in clinical medicine and acquire the skills to determine the causes of death.

医療倫理学講座 Department of Medical Ethics

講座の概要

医学科、看護学科及び先進医療科学科学生を対象に、倫理学の基礎的教育を行い、その上で応用倫理である医療倫理学及び医療コミュニケーション学の教育を行う。また臨床における倫理的課題について自ら思考する能力の養成も教育の目標とする。大学附属病院を始め地域の医療従事者に対する臨床倫理や研究倫理の継続的な教育と実践の支援も当講座の使命である。研究活動では、医薬品と社会の望ましいあり方を検討し、医療倫理学と臨床薬理学の視点を統合するような学際領域の構築を志向する。

主な研究内容

- 1) 産業場面における労働安全衛生と医薬品使用の関係を明らかにし、疾患を持ちながら就労を継続する労働者の支援のあり方を検討する。
- 2) 臨床研究における被験者保護のあり方や、医療や医薬品開発における市民、患者参画のあり方を検討する。

Outline of Department

The department provides the systematic educational programs consisting of basic and medical ethics for the students of medical, nursing, and advanced medical science school students, and also medical communication for the medical's. It also sets the education of sorting out ethical concerns and making ethical decision by themselves as its goal. Contributing to the education program of clinical and research ethics for the medical professionals is also our mission.

The department has been focusing on exploring the more desirable relationship between pharmaceuticals and society as its research activity, and aims to establish an interdisciplinary field that integrates the perspectives of medical ethics and clinical pharmacology.

Key Research Areas

- 1) We try to clarify the relationship between occupational safety and the use of pharmaceuticals in industrial settings, and contribute to protect the health of workers with disease based on the research findings.
- 2) We elucidate how to protect human subjects in clinical trials, and promote citizen and patient's participation and involvement in drug development and improving future healthcare service.

臨床社会心理学講座 Department of Social and Clinical Psychology

講座の概要

当講座では、患者中心の全人的医療の実現を目指して、以下のような研究教育を行っている。いずれも医学、医療、ケアと接点を有する、心理学の応用分野である。教育においては、心理学の基礎的な内容とともに、医学、医療、ケアに関連する問題にウェイトを置いて授業を進めている。こうした授業を通して、人間のこころや行動の理解、病者・患者の理解、対人コミュニケーションのスキル、さらに心理学や行動科学の視点や方法論などが学べるよう教授している。

主な研究内容

- 1) 対人援助職のバーンアウト予防・回復とメンタルヘルス
- 2) 職業性ストレスとメンタルヘルス
- 3) がん患者の不安・ストレスと心理的援助（サイコオンコロジー）
- 4) 対人コミュニケーション

Outline of Department

In order to realize holistic medicine based on humanity, we research the following psychological themes, and teach psychological subjects for medicine and care. These themes of research and education are applied fields of psychology, which are related to medical science.

Especially in education, we teach basic contents of psychology, and problems relevant to medical treatment. Through such classes, students can learn human behavior and mentality, the understanding of being ill and being a patient, interpersonal communication skills, and moreover a point of view and methodology of psychology.

Major Research Projects

- 1) Prevention of burnout and mental health of human service professionals.
- 2) Stress in the workplace and mental health.
- 3) Cancer patient's stress and psychological supports.
- 4) Interpersonal communication.

医学英語教育学講座 Department of Medical English Education

講座の概要

医学は日々進歩しており、医療従事者は常に英文で書かれた最新の治療法や医療技術を習得することが求められている。また、医療現場においても、患者や医療スタッフと英語を用いてコミュニケーションを図る機会は拡充している。本講座では、以下の3つを研究テーマとし、国際的に活躍する医療人の育成およびその教育方法の研究・開発を行っている。

主な研究内容

- 1) 医学英語力評価
- 2) 医学英語教材開発
- 3) 医学専門英語の研究とコミュニケーションのための医学英語教育

Outline of Department

The field of medicine progresses day by day, and medical professionals should always learn the new methods or techniques of treatment of their generation through papers written in English. Moreover, more opportunities to communicate with medical staff and patients in English are opening up in the medical environment. We are conducting research into medical English education as follows in order to train international medical professionals.

Research Fields

- 1) Evaluating medical English proficiency.
- 2) Developing teaching materials for medical English.
- 3) Researching and teaching technical and communicative medical English.

臨床医学系講座

Department of Clinical Medicine

内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座

Department of Endocrinology, Metabolism, Rheumatology and Nephrology

Website



講座の概要

内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座は、内分泌糖尿病内科、膠原病内科、腎臓内科の3つのグループからなり、高血圧症、糖尿病、内分泌代謝疾患、膠原病、慢性腎臓病などの生活習慣病の診療とその病態生理や治療に関わる基礎研究を行っている。

内分泌糖尿病

- (1) 原発性アルドステロン症の診療ガイドラインの検証および心血管合併症、治療法による予後、QOLの検討
- (2) 高度肥満症における肥満外科手術による体組成、血圧、代謝異常、食行動、QOLの変化の検討
- (3) 肥満症にともなうサルコペニアの病態生理および体重減量にともなう筋肉の変化の検討

膠原病

- (1) Toll様受容体に起因する炎症に対する脂質メディエーターの抑制作用の解明
- (2) 全身性エリテマトーデス治療中における再燃リスク因子の同定
- (3) TAFRO症候群の疾患活動性を反映するバイオマーカーの同定

腎臓

- (1) 糖尿病性腎症におけるポドサイト障害：ミネラルコルチコイド受容体蛋白修飾の制御による新たな治療法の確立
- (2) 慢性腎臓病の病態における尿毒素とミネラルコルチコイド受容体活性の関連の検討
- (3) 肥満関連腎症におけるSGLT2阻害薬のポドサイト保護効果の検討
- (4) 生活習慣病に関連した腎症における尿中ポドサイト mRNA 排泄量の有用性の検討

Outline of Department

Our department consists of three clinical groups, (1) Endocrinology, Diabetology and Metabolism, (2) Rheumatology, and (3) Nephrology. We try to offer medical care to patients with life style-related diseases, such as hypertension, diabetes, endocrine, collagen, and chronic kidney disease. We are also doing basic medical research to clarify pathogenesis and develop new treatment of the common diseases.

Endocrinology, Diabetology and Metabolism

- (1) Validation of primary aldosteronism clinical practice guideline and cardiovascular complications, treatment-specific prognosis and quality of life of primary aldosteronism patients
- (2) Investigation of body composition, blood pressure, metabolism, feeding behavior and QOL by bariatric surgery in morbidly obese patients
- (3) Pathophysiology of obesity-related sarcopenia and investigation of muscle changes by body weight reduction

Rheumatology

- (1) Investigation of inhibitory effects of lipid mediators on Toll-like receptors-induced inflammation
- (2) Identification of risk factors for disease flare in systemic lupus erythematosus patients.
- (3) Identification of biomarkers reflecting disease activity of TAFRO syndrome

Nephrology

- (1) Podocyte injuries in diabetic nephropathy: Establishment of novel therapy by modulation of post-translational modification of mineralocorticoid receptor
- (2) Investigation of relationship between uremic toxins and mineralocorticoid receptor activity in the pathogenesis of chronic kidney disease
- (3) Protective Effect of SGLT2 Inhibitors on podocytes in Obesity-Related Nephropathy
- (4) Urinary podocyte mRNA excretion in lifestyle-related nephropathy

呼吸器・感染症内科学講座**Department of Respiratory Medicine and Infectious Diseases****講座の概要**

呼吸器・感染症内科学講座においては呼吸器，感染症の臨床研究及び基礎研究を行い，臨床に還元できるように以下のような研究課題に取り組んでいる。

研究内容

- 1) 非結核性抗酸菌の病原性と伝播性に関する研究
- 2) 高齢者肺炎の発症機序に関する研究
- 3) 緑膿菌ワクチンの研究開発
- 4) 気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患の病態と抗炎症薬の効果に関する研究
- 5) 病原性微生物の薬剤耐性機序の解明

Outline of Department

We carry out the clinical and basic research in the fields of respiratory medicine and infectious diseases, and our investigators make the studies about subjects as follows to contribute to clinical practices.

Research Fields

- 1) Pathophysiology and transmission of non-tuberculosis mycobacterium
- 2) Pathogenesis of pneumonia among older people
- 3) Development of vaccine for *Pseudomonas aeruginosa* infection
- 4) Pathophysiology of bronchial asthma and chronic obstructive pulmonary disease and the effect of anti-inflammatory drugs for bronchial asthma and chronic obstructive pulmonary disease
- 5) Drug-resistant mechanism of the microbiological pathogen.

神経内科学講座 Department of Neurology**講座の概要**

神経内科では，脳梗塞，てんかん，脳炎，髄膜炎などの急性期疾患から，筋萎縮性側索硬化症，脊髄小脳変性症，パーキンソン病，アルツハイマー病などの慢性疾患まで，様々な特徴をもった疾患を対象としています。高齢化社会に伴い問題となっている認知症においても，その適切な診断と治療に際しては神経診察が欠かせません。さらに，頭部 MRI，脳血流 SPECT，PET 等の画像検査も鑑別診断に活用しています。

主な研究内容

- 1) アルツハイマー病の根本的治療法の開発を目指した最先端基礎研究
- 2) USUKI STUDY（認知症リスク因子の探索的研究）
- 3) アルツハイマー病の超早期診断を目指したアミロイドイメージングを用いた臨床研究（Preclinical AD）
- 4) 家族性アルツハイマー病を対象とした治験：DIAN-J 研究
- 5) 脳血管障害の臨床病理学的研究
- 6) 神経筋疾患の病態解明と治療法の開発
- 7) 認知機能低下をきたす神経変性疾患の病態解明と早期診断法の開発

Outline of Department

Our Department performs the diagnosis and treatment of acute neurological disorders, such as ischemic stroke, epilepsy, encephalitis, and meningitis, and chronic neurological disorders, such as motor neuron disease, spinocerebellar degeneration, Parkinson's disease, and Alzheimer's Disease.

The neurological examination is most important for the diagnosis and treatment of neurological disorders, including dementia. Furthermore, we use also the neuroimaging, such as MRI, brain perfusion SPECT, and PET.

Research Fields

- 1) Development of the disease modifying therapy of Alzheimer's Disease.
- 2) USUKI STUDY (Development of the risk factors for Alzheimer disease)
- 3) Clinical trials of the early diagnostic methods of Alzheimer disease using amyloid imaging (Preclinical AD)
- 4) Dominantly Inherited Alzheimer Network Japan branch(DIAN-J)
- 5) Clinicopathological study of ischemic stroke
- 6) Development of the pathology and therapy of neuromuscular diseases
- 7) Development of the pathology and early diagnostic methods of the neurodegenerative disorders causing the cognitive decline

Website



腫瘍・血液内科学講座 Department of Medical Oncology and Hematology



Website

講座の概要

本講座は、固形がんおよび各種貧血、血液悪性疾患の診断と治療を行う部門である。我々の目標は、患者にとって最良の医療を提供すること、新しい有効な治療法を開発すること、さらに若い優秀な医師を育てこれを世に送り出すことである。

以下は腫瘍・血液内科学講座の教育の指導内容と主な研究内容である。

専門医育成のための指導内容

- 1) 薬物療法（抗がん剤、分子標的薬剤・免疫療法を含む）の習得
- 2) 同種造血細胞移植療法の習得
- 3) 各治療選択法の習得
- 4) 支持療法の習得
- 5) 薬理の理解
- 6) がん臨床研究の方法論の理解と実際
- 7) 基礎的研究の計画、実施
- 8) CarT 療法の習得
- 9) ゲノム医療の習得

主な研究内容

- 1) 消化器がん、原発不明がん、希少がんに対する効果的化学療法の開発
- 2) 造血幹細胞移植患者における移植後の種々の感染症の早期診断と治療に関する臨床研究
- 3) 遺伝子異常に基づいた新薬開発と個別化医療に関する研究

Outline of Department

This Department performs the diagnosis and treatment of solid cancers, anemia, hematologic malignancies. The goals of this Department are to provide the best medical care for patients, develop new effective treatment methods, and nurture and produce the next generation of highly capable physicians.

The teaching contents and primary areas of research in the Department of Medical Oncology and Hematology are listed below.

Teaching contents for nurturing specialists

- 1) Drug therapy (anticancer agents, including molecular targeted drugs, and immune checkpoint inhibitor)
- 2) Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation
- 3) Methods for selecting treatment
- 4) Supportive therapy
- 5) Pharmacology
- 6) Methodology and implementation of clinical cancer research
- 7) Planning and implementation of basic research
- 8) CarT therapy
- 9) Genomic medicine

Primary areas of research

- 1) Development of effective chemotherapy for digestive cancers, cancers of unknown primary origin, and rare cancers
- 2) Clinical research on early diagnosis and treatment of various post-transplant infections that occur in patients undergoing hematopoietic stem cell transplantation
- 3) Research on development of new drugs based on genetic abnormalities and personalized medicine

循環器内科・臨床検査診断学講座

Department of Cardiology and Clinical Examination



Website

講座の概要

本講座は虚血性心疾患、高血圧症、心不全、弁膜疾患、心筋症、不整脈ならびに先天性心疾患など心血管系疾患全般を対象とした診療と研究を行っている。以下、当講座の研究内容である。

主な研究内容

- 1) 術後心房細動の発症機序の解明と予防方法の探索
- 2) SGLT2 阻害薬の心外膜脂肪パラクラインセクレトームプロファイルへの影響
- 3) 心房細動における心房リンパ管の役割
- 4) 心外膜脂肪による心房細動発症への関与と機序
- 5) 血糖変動による心疾患発症への関与と機序の解明
- 6) ブルガダ症候群と漏斗胸の関連
- 7) 救急搬送患者における心電図伝送システムの構築と効果
- 8) 持続性心房細動アブレーション後の再発予測における圧受容体反射の有用性検証

Outline of Department

We treat cardiovascular disease with the diagnosis that intended for ischemic heart disease, hypertension, heart failure, valvular diseases, cardiomyopathy, arrhythmia, and congenital heart diseases. The researches in this department are shown below.

Primary areas of research

- 1) Exploration of mechanism and prevention of post-operative atrial fibrillation
- 2) The effect of sodium glucose co-transporter 2 (SGLT2) inhibitor on paracrine secretome profile of epicardial adipose tissue
- 3) The role of atrial lymphatic system in the pathogenesis of atrial fibrillation
- 4) The crosstalk between epicardial adipose tissue and atrial fibrillation substrate
- 5) Exploration of mechanism of glucose fluctuation-mediated cardiac disease
- 6) Possible role of narrow anteroposterior thorax in patients with Brugada syndrome
- 7) Establishment of mobile cloud electrocardiography system in emergency case in Oita prefecture
- 8) Validation of efficacy of baroreflex sensitivity in predicting the recurrence after catheter ablation for non-paroxysmal atrial fibrillation

消化器内科学講座 Department of Gastroenterology

Website



講座の概要

本講座は、消化器内科学、消化器内視鏡学からなる。

主な研究内容

- 1) アジアにおけるピロリ菌感染と胃癌との関連
- 2) 除菌後胃癌発生メカニズムの解明
- 3) ヘリコバクター抗体測定キットの交差反応性評価
- 4) 自己免疫性胃炎における胃発癌のリスク検討
- 5) ALD および MASLD ゼブラフィッシュモデルにおける肝細胞外 ATP/adenosine 動態の解明
- 6) 切除不能肝細胞癌患者に対する免疫チェックポイント阻害薬を用いた全身化学療法の後向きおよび前向き観察研究
- 7) ゲノム編集を用いた肝疾患モデルの作成と治療法探索
- 8) HBV による直接的肝細胞障害メカニズムの解明
- 9) ヒト肝上皮内癌細胞由来オルガノイドを用いた新規バイオマーカーと診断法の確立
- 10) 肝臓早期診断に関する大規模臨床研究（スコアリングシステムによるリスク診断と術前細胞学的診断）
- 11) 抗プロテアーゼ分子 SLPI の IBD 新規治療薬およびバイオマーカーへの応用
- 12) 5-ASA 不耐の発症メカニズムの解明

現在、ピロリ菌感染症は胃・十二指腸潰瘍の成因としてだけではなく、胃癌・胃 MALToma・特発性血小板減少性紫斑病と関連しているとされ、さらには動脈硬化など全身疾患への関連が強く示唆されている。また、他の *Helicobacter* 属に関する基礎的な研究からピロリ菌除菌法等の臨床的な研究、更には潰瘍性大腸炎に対する新たな治療法、カプセル内視鏡を用いた研究など幅広く基礎、臨床研究を国際的にやっている。

Outline of Department

The Department of Gastroenterology consists of the Division of Gastroenterology, and Gastroenterological Endoscopy.

Research Fields

- 1) Association of *H. pylori* infection and gastric cancer in Asia.
- 2) Elucidation of the mechanism of gastric carcinogenesis after *H. pylori* eradication therapy
- 3) Carcinogenesis in autoimmune gastritis
- 4) Cross-reactivity evaluation of *Helicobacter* antibody measurement kit
- 5) Hepatic extracellular ATP/adenosine dynamics in zebrafish models of alcoholic and metabolic steatotic liver disease
- 6) Retrospective and prospective observational study of systemic chemotherapy using immune checkpoint inhibitors in patients with unresectable hepatocellular carcinoma
- 7) Generation of liver disease model and exploration of therapeutic approach using CRISPR/Cas9 technology
- 8) Elucidation of the mechanism of direct cytopathic effect of HBV
- 9) Establishment of new biomarkers and diagnostic methods using organoids derived from human pancreatic carcinoma in situ epithelial cells.
- 10) Large-scale clinical study on early diagnosis of pancreatic cancer (risk diagnosis using scoring system and preoperative cytological diagnosis)
- 11) Application of SLPI, an anti-protease molecule, for novel therapy and biomarker of inflammatory bowel disease.
- 12) Elucidation of the pathogenesis of 5-ASA intolerance.

H. pylori is not only associated with peptic ulcer but also gastric carcinoma, gastric MALToma and thrombocytopenic purpura and may be associated with some general diseases such as atherosclerosis. Our research covers from clinical to basic areas of *Helicobacter* species, inflammatory bowel diseases, and endoscopic studies etc.

総合診療・総合内科学講座 Department of General Medicine

Website



講座の概要

総合診療・総合内科学講座は、全人的な医療の提供とそれを実践できる人材養成を理念とし、地域における医療と福祉の向上に向けた臨床研究を行っている。

主な研究内容

- 1) 高齢者特有の病態（認知症、骨粗鬆症など）に関する臨床的研究
- 2) 認知症介護者の精神的・身体的負担に関する研究
- 3) 複数疾患を有する患者の評価と治療法の開発
- 4) 慢性呼吸器疾患の治療・ケアに関する臨床的研究
- 5) 地域包括ケアに関する研究
- 6) 総合診療教育に関する研究

Outline of Department

The mission of the Department is to provide human-centered medical care and to develop human resources contributing to improving the health and welfare of residents. The Department conducts community-based medical research that improves health care provision to treat patients and community.

Research Fields

- 1) Physical conditions specific to the elderly people
- 2) Mental and physical burden of dementia caregivers
- 3) Methods of evaluation and treatment of patients with multiple illness
- 4) Treatment and care of patients with chronic respiratory diseases
- 5) Integrated community care system
- 6) Educational program of general medicine

精神神経医学講座 Department of Neuropsychiatry



Website

講座の概要

残念ながら精神疾患や精神医療に対する偏見はいまだ根深いものがあり、精神疾患の早期介入における大きな支障となっている。精神疾患の病因を解明し、その治療法を確立することは、患者への直接的な利益となるのみならず、このような偏見を払しょくするために重要と考えられる。このような観点から、当講座においては精神疾患を心理学的・社会的・生物学的な視点から総合的に検討しつつ、脳科学としての精神医学と心の臨床科としての精神科をうまく融合させる方向で研究を行っている。

主な研究内容

- 1) 精神疾患を生活習慣の視点から捉え直す研究
- 2) リチウム療法に関する研究
- 3) 気分障害に関する研究
- 4) 不安障害に関する研究
- 5) 自殺対策に関する研究
- 6) 難治性精神疾患に関する研究

Outline of Department

Regrettably, prejudice against psychiatric illnesses and treatment still makes obstacles for reaching early intervention. It is very important to clarify etiology and to establish treatment, and thereby psychiatric patients can receive direct benefits while prejudice can be eliminated. From such point of view, we comprehensively investigate psychiatric illnesses from the psycho-social-biological viewpoint while well harmonizing neuroscience and mental health..

Research Fields

- 1) Psychiatric illnesses as lifestyle-related illnesses
- 2) Lithium therapy
- 3) Mood Disorders
- 4) Anxiety Disorders
- 5) Suicide prevention
- 6) Treatment-resistant psychiatric illnesses

小児科学講座 Department of Pediatrics



Website

講座の概要

小児科学講座は、小児期の幅広い専門領域（神経疾患、血液・腫瘍性疾患、内分泌疾患・先天代謝異常症、自己免疫・炎症性疾患、感染症、循環器疾患、腎臓疾患、未熟児・新生児疾患など）に関する臨床研究を進めている。また大分県や大分市の健診事業と協働した疫学研究を推進している。また本学医学部基礎系講座と連携し、希少遺伝性疾患の分子病態解明を目指した研究を展開し、さらに遺伝性難病に関する共同研究を進めている。

Outline of Department

Department of Pediatrics conducts clinical and basic research on a wide range of specialized fields; Neurology, Hematology/Oncology, Endocrinology, Inborn errors of metabolism, Autoimmune/Inflammatory diseases, Infectious diseases, Cardiology, Nephrology, and Neonatology for infants, children, and adolescents. We also promote epidemiological research in collaboration with health promotion and education projects for children in Oita Prefecture or Oita City. In collaboration with the basic departments of the Faculty of Medicine in Oita University, we conduct advanced research focusing on the molecular mechanisms and pathology of rare hereditary diseases. We also promote joint research on hereditary diseases.

放射線医学講座 Department of Radiology



Website

講座の概要

当講座は各種疾患における超音波、CT、MRI、血管造影、核医学検査（FDG/PET-CTを含む）などの画像解析、低侵襲治療の主をなす Interventional radiology (IVR) の臨床研究、および高エネルギーX線や電子線などを用いた放射線治療の治療効果や合併症に関与する因子の研究を行っている。

主な研究内容

- 1) 大動脈瘤の血管内治療後のエンドリークに関する画像解析
- 2) 大動脈瘤に対する新たな血管内治療の開発
- 3) 腎細胞癌に対する凍結療法の有効性と安全性に関する研究
- 4) 肺感染症のCT画像解析
- 5) 種々の腹部疾患のCT/MRI解析
- 6) 人工知能を用いた脳腫瘍の画像解析
- 7) 各腫瘍に対する放射線治療の予後に関与する因子の検討

Outline of Department

Our department is engaged in imaging analysis of various diseases using ultrasound, CT, MRI, angiography, and nuclear medicine (including FDG/PET-CT), clinical research on interventional radiology (IVR). We are also conducting research on factors involved in the efficacy and complications of radiation therapy.

Main research topics are as follows:

- 1) Image analysis of endoleak after endovascular treatment of aortic aneurysms
- 2) Development of new endovascular treatment for aortic aneurysms
- 3) Efficacy and safety of cryoablation for renal cell carcinoma
- 4) CT imaging analysis of lung infection
- 5) CT/MRI analysis of various abdominal diseases
- 6) Image analysis for brain tumors using artificial intelligence
- 7) Factors involved in the prognosis of radiotherapy for various tumors

臨床薬理学講座 Department of Clinical Pharmacology and Therapeutics (CPT)

Website



講座の概要

本講座は、医学部の前身である大分医科大学が開学する際に、国立大学初の臨床薬理講座として臨床系講座に設置された伝統ある講座である。英文での名称は、Department of Clinical Pharmacology and Therapeutics (CPT) であり、研究、教育、診療には、clinical pharmacology (臨床薬理学) と therapeutics (治療学) が含まれている。臨床薬理学は、一言でいえば、ヒトを対象として薬の働きを研究する学問であり、薬効やその発現メカニズム、また薬物動態や薬力学への理解を研究領域としている。治療学には、実験的な experimental therapeutics (実験的治療学) と、より応用的な applied therapeutics (応用的治療学) が含まれている。実験的治療学には、例えば治験を含む臨床試験や先進医療などがあり、応用的治療学には実臨床 (診療) において実際に選択される治療の最適化、つまり集団や個別レベルで最適な治療を提供するという使命がある。本学附属病院には人を対象とした研究のための専用ユニット (CTU: クリニカルトライアルユニット) があり、医薬品開発に関わる様々な臨床試験が行われている。特に新規医薬品の第 I 相試験や患者さんを対象とした Proof-of-Concept 試験 (仮説検証型試験) などの早期探索的臨床試験の実施が可能である。これらの研究を通して、より良い医薬品の研究開発と高精度医療 (Precision Medicine) の実現を目指している。

Outline of Department

This department was established as the very first department of clinical pharmacology and therapeutics (CPT) in Japan's national university system. As its name indicates, the department focuses on "clinical pharmacology" and "therapeutics". Clinical pharmacology is a classical discipline of understanding drug effect and its mechanism, pharmacokinetics and/or pharmacodynamics in humans. Therapeutics includes experimental therapeutics and applied therapeutics in medical practice. To meet the objectives of experimental and applied therapeutics, the department executes clinical trials and then optimizes drug therapies at the population and the individual levels. Various clinical studies are being conducted in Clinical Trial Unit (CTU), a unique facility set up for controlled human studies including early and exploratory clinical trials such as phase I trials and proof-of-concept studies for new chemical entities. Through these research activities, the department aims to advance clinical research and development for better drugs and promote precision medicine.

消化器・小児外科学講座 Department of Gastroenterological and Pediatric Surgery

Website



講座の概要

消化器外科・小児外科では、腫瘍学・侵襲学・免疫学・病理学・生理学・分子生物学など各分野に focus を当て、実際の手術組織・培養細胞・動物モデルを用いて基礎研究を展開している。消化管・小児外科グループと肝胆膵・肥満グループの2つの柱で研究をすすめている。

【各グループの具体的研究テーマ】

- 1) 腹腔鏡下手術の生体および癌の発育・進展に及ぼす影響
- 2) 消化器癌に対する腹腔鏡下手術の根治性に関するEBMの確立
- 3) 光バイオプシー技術を用いた術中神経リアルタイム診断法の開発
- 4) 蛍光蛋白質導入レオウイルスを用いた診断治療一体型ナビゲーション手術の開発
- 5) 人工知能支援下腹腔鏡手術の術中ランドマーク教示システムの開発
- 6) 薬剤耐性ヘリコバクターピロリ菌に対する実用可能な新規光線療法の開発
- 7) 腸内細菌叢解析に基づいた大腸癌術後合併症のリスク因子解析と予防法開発
- 8) 肝胆膵領域における α リポ酸誘導体の効果に関する基礎研究
- 9) 肝胆膵悪性腫瘍の分子生物学的解析と新しい治療法の開発
- 10) 肥満外科手術に関する基礎研究

Outline of Department

The basic research for gastric and intestinal cancers includes clinicopathologic analysis of resected specimens, and the influence of surgical stress on intra-abdominal host immunity, especially the effect of laparoscopic manipulation on the growth of cancer cells. We carry out robotic surgery for cancer or NOTES (Natural Orifice Translumenal Endoscopic Surgery) as minimally invasive treatments. In the field of hepato-biliary-pancreatic research, experimental studies for multidisciplinary therapy of liver cancer, analysis of hepatic microcirculation, molecular biological studies of pancreatic cancer, and animal experiments on gastric mucosal injury associated with portal hypertension are practiced. In addition, clinical and basic researches of bariatric surgery are developed.

- 1) Effects of laparoscopic surgery for host and oncological behavior.
- 2) Establishment of EBM for oncological outcome of laparoscopic surgery in digestive malignancies.
- 3) Development of intraoperative nerve real-time diagnostic method using optical biopsy technology
- 4) Development of diagnostic and therapeutic integrated navigation surgery using fluorescent protein-introduced reovirus
- 5) Indication of landmarks to reduce morbidities in laparoscopic surgery by artificial intelligence
- 6) Development of a new practical phototherapy for drug-resistant *Helicobacter pylori*
- 7) Risk factor analysis and preventive method development for postoperative complications of colorectal cancer based on gut microbiota analysis.
- 8) The basic research on the effects of α lipoic acid derivative in hepato-biliary-pancreatic region.
- 9) A molecular analyses and the development of new treatment for hepato-biliary malignancies.
- 10) A basic and clinical researches of bariatric surgeries.

呼吸器・乳腺外科学講座 Department of Thoracic and Breast Surgery



Website

講座の概要

呼吸器，縦隔，胸壁および乳腺疾患に関する臨床研究と，悪性腫瘍についてのトランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）を推進している。肺癌，中皮腫，乳癌などの悪性腫瘍について，癌発生と進展に関する遺伝子学的解析，標的分子解析を中心に，新たな癌治療法の確立を推進している。

A) 臨床研究

- 1) 鏡視下手術およびロボット手術に関する研究
- 2) エビデンス構築のための臨床試験の企画と推進
- 3) 肺癌および胸膜中皮腫に対する集学的治療の確立

B) トランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）

- 1) 発癌に関与する標的分子の解析と分子標的治療に関する研究
- 2) 分子標的治療の耐性機序の解明
- 3) 微小癌の発生要因と予後規定因子に関する研究
- 4) 癌の heterogeneity の解析
- 5) 癌の免疫チェックポイント機構に関する研究

Outline of Department

The main subjects of our research are malignant thoracic tumors occurred in lung, mediastinum, chest wall and breast, which are developed as clinical research and translational research, including genetic and epigenetic analyses. Our purpose is establishment of new strategy for cancer treatment.

A) Clinical Research

- 1) New technique for video-assisted thoracic surgery and robotic-assisted surgery
- 2) Establishment of new evidence for cancer therapy by clinical trials
- 3) Establishment of trimodality therapy for lung cancer and malignant pleural mesothelioma

B) Translational Research

- 1) Molecular targeted therapy
- 2) Mechanisms of acquired resistance during molecular targeted therapy
- 3) Oncogenesis and prognostic factors in small-sized cancer
- 4) Cancer heterogeneity
- 5) Analysis of immune checkpoint mechanism

心臓血管外科学講座 Department of Cardiovascular Surgery



Website

講座の概要

本講座は心臓，大血管，末梢血管疾患に対する手術を中心とした治療を実践し，その発展に寄与するべく臨床・基礎両面からの研究を行っている。弁膜症，虚血性心疾患，大動脈疾患で県内外からの豊富な症例に低侵襲化を目指す最先端技術の開発・実践し，また多くの緊急患者の受け入れで救急医療面でも地域医療を支えながら，学生，研修医の救急手技の教育も行っている。具体的には狭心症の人工心肺を用いないバイパス手術，開胸を行わず大動脈瘤を治すステントグラフト治療，人工弁を用いない弁形成術，外科的不整脈治療などを他施設より高い頻度で行っている。研究においても長期使用に耐えうる補助人工心臓の開発（すでに短期使用機は市販化），生体内組織合成によって生成したコラーゲンチューブ・シートを代替臓器として使用する研究など結果をすぐに臨床に還元できるテーマに取り組んでいる。海外研究施設との共同研究も多い。

Outline of Department

Department of Cardiovascular Surgery undertakes surgical therapy for cardiovascular disease in aspects of both clinical work and basic research. For many patients coming from in- and outside of this prefecture we carry out newly developed less invasive technology such as off-pump coronary artery bypass grafting for ischemic heart disease, stentgrafting for aortic aneurysm and valve-plasty for valvular disease. We develop a new artificial heart for long use (one for short use has been already on commercial base). We have a great interest in treatment of aortic aneurysms, seeking a new less invasive therapy for elderly patients. Moreover we're seeking new valve reconstruction method using biosheet created under the skin.

総合外科・地域連携学講座 Comprehensive surgery for Community Medicine

Website



講座の概要

近年、地域医療ビジョンの設定、病院の機能分化、地域包括ケアシステムの構築、外科医の集約化が進められており、外科医に対する社会のニーズが変化している。本講座は、地域医療に従事する「総合外科医」の育成とともに、地域外科医療の安定化と質の向上を目的とした「地域連携学」という新しい学問分野を確立することを使命としている。

- 1) 外科 common disease および common malignancies に対する診断と治療に関する研究と教育
- 2) 高齢者の外科的疾患に対する集学的治療の確立と安全性に関する研究
- 3) 一般的な外傷に対する外科治療の研究と教育
- 4) 外科系診療に共通する横断的外科総論の知識と技術の教育
- 5) 地域包括ケアや多職種連携における外科医の役割に関する研究と教育
- 6) 地域外科医療における社会的課題とその対策に関する研究

Outline of Department

In recent years, society's need for surgeons has been changing in accordance with the advancement of society, which includes the establishment of a vision for regional medical care, the functional differentiation of hospitals, the construction of integrated community care systems, and the concentration of surgeons. The mission of this department is to establish a new discipline called "inter-regional collaboration on science" with the aim of stabilizing and improving the quality of local surgical care as well as developing "general surgeons" who engage in local medical care.

- 1) Study and education on the diagnosis and treatment of common surgical diseases and common malignancies.
- 2) The establishment of multidisciplinary treatment and the study on the safety for surgical diseases of the elderly.
- 3) Study and education on the surgical treatment of common injuries.
- 4) Education on the knowledge and techniques of crosssectional general surgery that are commonly applied in surgical treatment.
- 5) Study and education on the roles of surgeons in integrated community care and inter-professional collaboration.
- 6) Study on the social issues and countermeasures in local surgical care.

脳神経外科学講座 Department of Neurosurgery

Website



講座の概要

1. 脳虚血・脳腫瘍の分子生物学と遺伝子治療
2. 神経外傷の病態解明と新しい治療法の開発
3. 神経機能再建（科学技術振興機構 JST 育成研究助成採択事業）
4. 生体磁気工学的脳機能イメージング法の開発
5. 非侵襲的熱ショックタンパク誘導による中枢神経保護
6. 分子脳神経外科学の基礎研究
7. 痛み・てんかん・パーキンソン病・意識障害の外科治療

Outline of Department

1. Molecular biology and gene therapy of cerebral ischemia and brain tumors
2. Pathophysiology and treatment of neurotrauma
3. Neuronal reconstruction (Japan Science and Technology Agency: JST grant)
4. Human brain mapping with bio-magnetic technology
5. Neuroprotection with non-invasive heat shock protein induction
6. Basic studies of molecular neurosurgery
7. Functional neurosurgery (central pain, epilepsy, Parkinson's disease and consciousness disturbance)

整形外科科学講座 Department of Orthopaedic Surgery

Website



講座の概要

- 1) 変形性関節症・関節リウマチ・脊椎疾患・骨腫瘍における骨・関節破壊の病態解明
- 2) 運動器疾患の biomechanics の解析
- 3) コンピューターシミュレーションや有限要素法による運動器の解析
- 4) 骨軟部腫瘍の病理組織学的・分子生物学的研究
- 5) 骨軟部腫瘍に対する標準治療の開発
- 6) 厚生労働省 特発性大腿骨頭壊死症研究班の活動
- 7) アジア人向け人工膝関節の開発
- 8) 脊椎手術や骨折等における骨癒合促進因子の検討
- 9) 骨折治癒に対する各種薬剤の影響
- 10) 同種骨移植の病理組織像と強度に関する研究

Outline of Department

- 1) Study of the mechanism for pathological bone resorption in rheumatic disease (osteoarthritis, rheumatoid arthritis, spondylitis) and bone tumor.
- 2) Analysis and clinical application of biomechanics in locomotor disease.
- 3) Computer simulation study and finite element analysis of locomotive organ.
- 4) Pathological and molecular biological studies of bone and soft tissue tumor.
- 5) Establishment of new standard therapy for bone and soft tissue tumor.
- 6) Activity in the research committee on the idiopathic osteonecrosis of the femoral head.
- 7) Development of total knee arthroplasty implant for Asian Patients.
- 8) Exploration of the enhancing factor of bone union in spinal fusion and fracture healing.
- 9) Effect of medicines (bisphosphonate, COX-2 inhibitor) on bone remodeling in fracture healing.
- 10) Study of mechanical strength and incorporation process in allo-bone transplantation.

皮膚科学講座 Department of Dermatology



Website

講座の概要

1. アトピー性皮膚炎の病態と治療について研究している。
 - 1) アレルギー性炎症と皮膚バリア機能異常との相互関係
 - 2) アトピー性皮膚炎の病態におけるリポセンサー異常の関与
 - 3) アトピー性皮膚炎の病態におけるフィラグリン異常の役割
 - 4) アトピー性皮膚炎の病態における角層 pH 異常の役割
2. 同種異系間での皮膚、脂肪、筋膜からなる複合組織移植後の免疫拒絶反応に及ぼす因子やラットを用いた顔面神経麻痺モデルの作成について研究を行っている。
3. 疾患 iPS 細胞を用いた難治性皮膚疾患の病態解析を行い、新規治療方法の確立を目指している。

Outline of Department

1. Pathogenesis of atopic dermatitis is investigated to develop novel therapeutic strategies accounting for both allergic inflammation and barrier dysfunction.
 - 1) Interaction between allergic inflammation and barrier dysfunction.
 - 2) Involvement of abnormality of liposensors on the pathogenesis of atopic dermatitis.
 - 3) Role of filaggrin deficiency on the pathogenesis of atopic dermatitis.
 - 4) Involvement of abnormality of stratum corneum pH on the pathogenesis of atopic dermatitis.
2. Rejection mechanisms after composite skin grafts using skin and animal model of facial palsy using rats are investigated.
3. Establishment of the novel therapy for intractable cutaneous diseases by analysis of their pathogenesis with using the iPS cells.

腎泌尿器外科学講座 Department of Urology



Website

講座の概要

基礎研究では、主に尿路性器悪性腫瘍および下部尿路機能の病態解明に関する研究を行っている。臨床研究では内視鏡手術を中心として低侵襲治療の開発を行っている。

- 1) 腎癌のゲノム異常
- 2) 前立腺癌の去勢抵抗性獲得機序
- 3) 外尿道括約筋再生療法の開発
- 4) 加齢に伴う膀胱機能異常の病態解明
- 5) 泌尿器科疾患に対する新規内視鏡手術の開発

Outline of Department

- Basic research is conducted on the pathophysiology of genitourinary cancer and lower urinary tract function. The main theme of clinical research is development of minimally invasive treatment, especially regarding endoscopic and laparoscopic surgeries.
- 1) Genomic aberration of renal cell carcinoma.
 - 2) Mechanism of castration resistance in prostate cancer.
 - 3) Development of regenerative therapy of external urethral sphincter.
 - 4) To clarify the pathophysiology of urinary bladder dysfunction in the elderly.
 - 5) Development of new endoscopic surgeries for urinary diseases.

眼科学講座 Department of Ophthalmology



Website

講座の概要

網膜硝子体疾患、ぶどう膜炎、硝子体網膜リンパ腫、緑内障の基礎的・臨床研究を主な研究テーマとしている。現在、ヒト眼内液を用いたプロテオーム、トランスクリプトームなどによる統合 OMICS 解析によりえられたデータから研究を進めている。研究対象は以下の通りである。

- 1) 糖尿病網膜症や加齢黄斑変性を代表とする難治性網膜硝子体疾患
- 2) 糖尿病網膜症やぶどう膜炎による黄斑浮腫
- 3) 硝子体網膜リンパ腫
- 4) 眼感染症網羅的 PCR 検査法の開発
- 5) 緑内障の病態解明、及び病態に基づいた治療法の開発

Outline of Department

The main subjects of our research are basic and clinical research on vitreoretinal diseases, uveitis, vitreoretinal lymphoma, and glaucoma. Currently, we are conducting research based on data obtained from integrated OMICS analysis, including proteome and transcriptome using human intraocular fluid. Research themes are as follows :

- 1) Refractory vitreoretinal diseases, such as diabetic retinopathy and age-related macular degeneration.
- 2) Macular edema due to diabetic retinopathy and uveitis.
- 3) Vitreoretinal lymphoma.
- 4) Multiplex strip PCR test for ocular infectious diseases.
- 5) Glaucoma, and development of treatments based on the pathogenesis.

耳鼻咽喉科学講座 Department of Otolaryngology & Head and Neck Surgery



Website

講座の概要

当教室では鼻・中耳を含む上気道粘膜における免疫機構の解明に向けた研究を組織学的、免疫学的、分子生物学的手法を用いて行っている。

- 1) 実験中耳炎モデルを用いた中耳粘膜免疫機構の解析
- 2) 経鼻免疫による中耳炎ワクチン開発のための基礎実験
- 3) インフルエンザウイルスに対する不活化経鼻ワクチンの開発
- 4) ANCA 関連血管炎性中耳炎の基礎的・臨床的研究

Outline of Department

We perform research to clarify the immunological mechanism of the upper respiratory tract, including the nose, and the middle ear. Histology, immunology, and molecular biology techniques are applied in our investigations described below.

- 1) Analysis of the middle ear mucosal immune system by employing experimental otitis media models
- 2) Studies to develop intranasal vaccine for the prevention of otitis media
- 3) Experimental research to develop inactivated intranasal influenza vaccine
- 4) Experimental and clinical studies on the Otitis media with ANCA associated vasculitis (OMAAV)

産科婦人科学講座 Department of Obstetrics and Gynecology



Website

講座の概要

婦人科腫瘍・内分泌学に関する基礎的・臨床的研究。

- 1) 腹腔鏡手術における AI 技術を利用した安全性向上の研究
- 2) 子宮内膜症の病態に関する研究
- 3) 排卵・受精・着床・陣痛発来メカニズムに関する研究
- 4) Assisted reproductive technology による不妊治療に関する研究
- 5) 妊娠高血圧症候群の病態に関する研究

Outline of Department

Experimental and clinical research of gynecologic oncology, reproductive endocrinology and perinatology.

- 1) Research on improving safety in laparoscopic surgery using AI technology.
- 2) Research of pathogenesis of endometriosis.
- 3) Mechanism of ovulation, fertilization, implantation, and parturition in humans.
- 4) Treatment of infertile patients with assisted reproductive technology.
- 5) Research of pathogenesis for pregnancy-induced hypertension.

麻酔科学講座 Department of Anesthesiology and Intensive Care Medicine



Website

講座の概要

麻酔科学講座では周術期から集中治療に至るまで、手術侵襲や全身炎症の病態解明をテーマとして幅広い臨床研究、基礎研究を行っている。

主な研究内容

- 1) 手術侵襲・敗血症・多発外傷による全身性炎症の分子生物学的研究
- 2) 電子スピン共鳴装置を用いた酸化ストレスのリアルタイム・モニタリング法の確立、治療への応用（敗血症、胎児仮死、多発外傷など）
- 3) 敗血症後認知機能障害に対する概日リズムの効果
- 4) 術中呼吸揮発性代謝物のリアルタイム測定による臓器障害の早期検出
- 5) 末梢静脈、末梢動脈に関する臨床的・解剖学的研究
- 6) 各種神経ブロックにおける局所解剖学的研究および臨床研究

Outline of Department

We conduct a broad range of clinical and basic science research. The mission of our research is to understand the mechanisms of surgical stress and systemic inflammation in anesthesia and critical care.

Research Projects

- 1) Molecular biology of systemic inflammation in surgical stress, sepsis and multiple trauma
- 2) The real-time monitoring method using electron spin resonance spectroscopy to evaluate oxidative stress levels in various diseases such as sepsis, fetal distress and multiple trauma
- 3) The role of the circadian entrainment in post-sepsis cognitive impairment
- 4) Early detection of organ injury by real-time measurement of intraoperative breath volatile metabolites
- 5) Clinical and anatomical research on peripheral veins and arteries
- 6) Topographical and clinical studies on various nerve blocks

救急医学講座 Department of Emergency Medicine



Website

講座の概要

救急医療，特に救命救急医療・集中治療を要する重症病態の病態解明と診断・治療に関して，幅広く研究と教育を行っている。

- 1) 内因性救急患者に対する救急医療・集中治療
(心停止，ショック，脳卒中，急性冠症候群，敗血症など)
- 2) 外因性救急患者に対する救急医療・集中治療
(多発外傷，広範囲熱傷，中毒など)
- 3) 敗血症性ショック，敗血症性多臓器不全の病態解明と治療法の確立
- 4) 各種臓器不全に対する人工補助療法
- 5) 災害医療・災害医学
- 6) ICT (Information and Communication Technology) を用いた，より迅速・適切な救急医療の確立

Outline of Department

Clinical/basic research and education in this department is aiming at elucidating pathophysiology of critical conditions and establishing useful diagnostics and therapeutics.

- 1) Critical care for intrinsic critical conditions, such as cardiac arrest, shock, stroke, acute coronary syndrome, and sepsis, etc.
- 2) Critical care for extrinsic critical conditions, such as multiple trauma, extensive burn, and intoxication, etc.
- 3) Clinical/basic research on pathophysiology of septic shock and septic multiple organ dysfunction
- 4) Clinical/basic research on artificial organ support
- 5) Disaster medicine
- 6) Establishment of quick and appropriate emergency medical system utilizing ICT

歯科口腔外科学講座 Department of Oral and Maxillofacial Surgery



Website

講座の概要

- 1) 口腔がん：口腔扁平上皮癌の浸潤・転移機序を，がん細胞と細胞外マトリックスの相互作用，細胞接着因子と増殖因子の関わりについての研究
- 2) 口唇・口蓋裂：顎発育に影響の少ない口蓋形成術改良の研究
- 3) 口腔前癌病変：口腔白板症および口腔扁平苔癬のがん化に関わる遺伝子群に関する研究
- 4) 顎骨再建：3次元画像による下顎骨再建の精度評価に関する研究
- 5) 顎変形症：外科矯正術後の長期的咬合安定性に関する研究

Outline of Department

- 1) Oral cancer: Our aim of oral cancer research is to understand the involvement of cancer cell-extracellular matrix (ECM) interaction in the invasion and metastasis of oral squamous carcinoma cells..

We search adhesion molecules and growth factors affecting and modulating the cell-ECM interaction.

- 2) Cleft lip and palate: Development of modified palatoplasty with minimal adverse effect on the growth of maxillary bone
- 3) Precancerous lesions: Genomic background of malignant transformation of oral leukoplakia and oral lichen planus
- 4) Mandibular reconstruction: Evaluation of the shape and position of reconstructed mandibles by 3-dimensional images
- 5) Maxillo-facial deformity: Long-term stabilization of the occlusion following the orthognathic surgery

診断病理学講座 Department of Diagnostic Pathology



Website

診断病理学的手法を用いた臨床病理学的研究

日常の病理診断業務で経験した興味ある疾患の臨床病理学的研究および病理診断に役立つ新しい方法・技術の開発を行っている。また，皮膚・唾液腺・乳腺腫瘍では，遺伝子異常と腫瘍発生・進展に関する研究も行っている。更に，迅速かつ正確な病理診断が求められる医療の中で，臨床の要求に対応できる病理医の育成も医育機関の重要な使命と考え，「病院病理医（病理専門医）の育成」を教室の目標に掲げている。

- 1) 種々の疾患の臨床病理学的研究
- 2) 新しい診断技術の開発
- 3) 皮膚腫瘍，唾液腺腫瘍，乳腺腫瘍における遺伝子異常の解析
- 4) 診断病理医の育成

Clinicopathological study by means of morphology, immunohistochemistry and genetic analysis

We perform a clinicopathological investigation of various diseases, and develop new ancillary techniques for a pathological diagnosis. In tumors of the skin, salivary gland and breast, we study a correlation between genetic abnormalities and tumorigenesis. We also aim to create professionals in diagnostic pathology.

- 1) Clinicopathologic study of various diseases
- 2) Development of new techniques for diagnostic pathology
- 3) Genetic analyses of tumors of the skin, salivary gland and breast
- 4) Bringing up pathologists

医療情報学講座 Department of Medical Informatics

講座の概要

医療情報学は、医学・医療のあらゆる場面で活用されている ICT を総合的にマネジメントする学問領域です。電子カルテの設計・運営だけではなく、下記に示すような多岐にわたる項目について、最新の知見を元に実践・研究をしています。

- 1) 病院情報管理システム（電子カルテシステム、ネットワーク）
- 2) 情報セキュリティ・個人情報保護
- 3) 医療情報連携ネットワーク（EHR, PHR, コミュニケーションアプリ）
- 4) データバックアップシステム・ビッグデータ二次利用
- 5) テレビ会議システム（遠隔医療）
- 6) 画像データ処理（fMRI, MRS, VBM など）

Outline of Department

Medical informatics manages and utilizes Information communication Technology (ICT) for medical science and treatment. Not only design and management of electronic health record, we practice and research about various items as follows, using the latest knowledge.

- 1) Hospital information management system (Electronic health record, network)
- 2) Information security・privacy protection
- 3) Medical information network (EHR, PHR, communication Apps)
- 4) Data backup system・secondary use of big data
- 5) Teleconference (telemedicine)
- 6) Image data processing (fMRI, MRS, VBM)

薬剤学講座 Department of Pharmacy

講座の概要

本講座では、日常の薬剤師業務より派生した Clinical question をもとに様々な医療薬学研究を基礎・臨床の両面から展開し、医療現場へフィードバックしている。特異的内因性基質を用いた肝代謝型薬剤の適正使用に関する研究や、生理活性ペプチドを指標とした薬効解析・病態評価、抗感染症薬や抗悪性腫瘍薬の薬物動態学的 / 薬力学的解析を中心に、個別化医療を目指した新規のエビデンス構築のための研究に積極的に取り組んでいる。

Outline of Department

Website



Our researches are developed from both basic and clinical perspectives based on clinical questions generated during daily pharmacist duties, and achievements are feedbacked to the clinical field. We approach the establishment of novel evidence proactively to effectuate personalized medicine with a focus on research such as the proper use of hepatic metabolic drugs using specific endogenous substrates, pathological and drug efficacy analysis using bioactive peptides as indicators, pharmacokinetics/pharmacodynamics analysis of antimicrobial and anticancer agents.

臨床統計・データマネジメント学講座 Department of Biostatistics

講座の概要

本講座では統計学理論と応用の教育と研究および研究支援としてデータセンター部門の業務を行っている。研究テーマとして次の3つのテーマを行っている。

- 1) 病原微生物の感染システムに関する研究
- 2) 質的変量の連関とパス解析に関する研究
- 3) スペクトル拡散通信の信号処理に関する研究

Outline of Department

The business of a data central section is done as an education, a research of the statistics theory and the application, and research support in this course. The following three themes are done as topics of research.

- 1) Analysis of the infection System of Human T-Cell Virus Type I (HTLV-I)
- 2) Analysis of Association and Path Analysis of Categorical Variables.
- 3) Study on Spread Spectrum Communication Systems

医療安全管理医学講座 Department of Medical Safety Management

講座の概要

現代医療の高度化や多職種による医療の提供は、単純なエラーを引き起こしやすい状況を作り出している。こうしたエラーは時として患者に重大な影響を及ぼす危険性があり、その防止は重要である。本講座ではこうしたエラーの成因を、より科学的に検証し、その防止策を立案していくことを目的に設置された。また、医療の質向上には、院内感染対策も重要な課題である。院内における耐性菌の検出状況や耐性機序の解明、さらに抗菌薬の使用状況を解析することで、院内感染症の発生率を低下させるための研究を行っている。このような医療安全と感染制御を両輪として、より質の高い医療の提供のための教育や研究を、附属病院医療安全管理部や感染制御部と連携して行っている。

Outline of Department

The advancement of modern medicine and provision of interprofessional health care are creating situations that are prone to simple errors. It is crucial to prevent such errors since those errors could potentially have serious effects on patients in some cases. This department has been established with the goals of verifying the causes of such errors more scientifically and formulating preventive measures. In addition, measures against nosocomial infections are vital to improve the quality of medical care. Studies are conducted in this department to reduce the incidence of nosocomial infections through clarifying the detection status of drug-resistant bacteria and unraveling resistance mechanisms, as well as through analyzing the usage of antibacterial drugs in hospitals. Working together with Oita University Hospital's Medical Safety Management Center and the Hospital Infection Control Center, this department conducts research and provides education that focuses on both medical safety and infection control mentioned above in order to provide medical care of higher quality.

寄附講座

Courses on Contribution

人工関節学講座 Department of Endoprosthetic Surgery

講座の概要

高齢者の大きな問題点の一つは、歩行能力（移動能力）の低下である。起立や歩行ができなくなることで、日常生活が不自由になるだけでなく、呼吸や循環などの内臓機能も低下する。このような点から、下肢の荷重関節（股関節や膝関節）の障害された機能を回復させることは重要である。この目的で用いられる人工関節置換術は、20世紀の後半に開発された技術であるが、昨今大きな進化を遂げている。人工関節学講座では、日本人の生活様式に適応した新規人工関節と手術機械の開発、術前手術計画の支援ツールの開発、手術手技を学ぶためのセミナーやラーニングコースの実施、人工関節置換術を中心とした診療と臨床研究を行う。

Outline of Department

One of the major problems among the elderly is impaired walking ability. Patients who cannot stand up or walk by themselves will not only suffer from difficulties in daily life, but also from a high risk of cardiac diseases or respiratory diseases. It is important to restore functions of lower extremities to prevent these situations. Joint replacement surgery to recover joint function was developed in the late 20th century. With the improvement of metal and machining technique, joint prosthesis has made tremendous progress recently. The Department of Endoprosthetic Surgery will focus on the following activities:

- 1) Development of new joint prosthesis and surgical instruments adapted for the Japanese life style
- 2) Development of computer assisted tools for preoperative planning of TKA
- 3) Instructional courses and seminars of TKA for doctors and co-medicals
- 4) Clinical practice and research of joint replacement surgery

内視鏡下心臓外科学講座 Department of endoscopic cardiovascular surgery

講座の概要

本学では低侵襲心臓手術による弁膜症手術を2013年から導入している。近年では方法論も確立し、安定した成績が得られている。これまでは直視と内視鏡像との併用であったが本講座は更に完全内視鏡下での心臓手術の安全な導入を行う目的で開設された。また完全内視鏡下手術に必要な新たな器具の開発も同時に行っていく。

Outline of Department

Since 2013, we have introduced valvular surgery by minimally invasive heart surgery. In recent years, the methodology has been fully established and stable results have been obtained. Until now, it was a combination of direct vision and endoscopic images, but this chair was established for the purpose of safely introducing total endoscopic cardiac surgery which is much less invasive. Besides, we will develop new instruments necessary for total endoscopic surgery.

ヘルスケア AI・データサイエンス学講座 Department of Healthcare AI Data Science

講座の概要

Society 5.0 が目指す社会の実現には、フィジカルから得られた膨大なデータをサイバー空間で AI 解析を行い、その解析データは様々な形で活用して行くことが基本となる。本講座においては、電子カルテ情報・手術動画情報・医療画像情報のビッグデータを適切に取り扱い高度な AI 解析を行うことにより医療に幅広く反映させるデータサイエンティストの育成を目指す。

- 1) プログラミングを含むコンピューターサイエンス
- 2) 統計概論、統計分析、機械学習
- 3) 医療ビッグデータと AI 解析
- 4) 医療画像および手術動画データ解析

Outline of Department

Performing AI analysis in cyberspace with huge amounts of data obtained from physical space and utilizing the analysis data in various ways are important for the realization of the society that Society 5.0 aims for. In this course, we aim to develop data scientists who handle big data of electronic medical records, surgical videos, and medical images appropriately and perform advanced AI analysis to widely feedback it in medical care.

- 1) Computer science including programming
- 2) Introduction to statistics, statistical analysis, machine learning
- 3) Medical big data and AI analysis
- 4) Medical image and surgical video data analysis

先端がん毛髪医療開発講座 [アデランス]

Department of advanced medical research and development for cancer and hair [Aderans]

講座の概要

先端がん毛髪医療開発講座[アデランス]では、がん患者の疾病・治療関連ルックス変化に注目して、抗がん剤誘発脱毛に対する抗酸化物質を中心とした新規治療開発や、抗がん剤・放射線・手術などががん治療によって生じる皮膚障害に対する治療開発など、がん患者 QOL 向上を目的として、基礎研究および臨床研究を行っている。

主な研究内容

- 1) 抗がん剤誘発脱毛における研究開発
 - ① 抗がん剤脱毛の病態を解明する基礎研究
 - ② αリポ酸誘導体を用いた脱毛治療に関する基礎・臨床研究
 - ③ 皮膚冷却の脱毛予防効果に関する基礎研究および新規頭皮冷却装置の開発
- 2) がん治療誘発皮膚障害における研究開発
 - ① αリポ酸誘導体を用いた皮膚障害治療に関する基礎・臨床研究
 - ② 化粧品療法の効果を検討する臨床研究

Outline of Department

Department of advanced medical research and development for cancer and hair [Aderans] focuses on disease- and treatment-related changes in the looks of cancer patients, and conducts basic and clinical research to improve the quality of life of cancer patients, including the development of new treatments for chemotherapy-induced alopecia, mainly with the use of antioxidants, and for skin disorders caused by cancer treatments such as chemotherapy, radiation, and surgery.

Research Fields

- 1) Research and Development on chemotherapy-induced alopecia
 - ① Basic research to elucidate the pathogenesis of chemotherapy-induced alopecia
 - ② Basic and clinical research on the treatment of alopecia using alpha lipoic acid derivatives
 - ③ Basic research on the preventive effect of skin cooling on alopecia and development of a new scalp cooling device
- 2) Research and development on cancer therapy-induced skin disorders
 - ① Basic and clinical research on the treatment of skin disorders using alpha lipoic acid derivatives
 - ② Clinical research on the effects of cosmetic therapy

高度医療人育成講座 Department of Advanced Medical Personnel nurturing

講座の概要

本講座は、地域医療に貢献しつつ、ロボット支援手術や AI を用いた診療等の高度で最新の医療技術を身に付けた医師を育成することで、地域医療の活性化を図ることを目的として設置された。具体的には以下活動を行う。

- 1) ロボット支援手術などの先進的医療を担う人材育成
- 2) AI を用いた手術支援、画像診断、医療コミュニケーションの実現のための人材育成
- 3) 医学生、研修医、専攻医への先進的医療の教育

Outline of Department

This course was established with the aim of revitalizing community medicine by training doctors in advanced and up-to-date medical technologies, such as robot-assisted surgery and AI-based medical treatment. Specifically, the following activities will be carried out.

- 1) Training of personnel for advanced medical treatment such as robot-assisted surgery.
- 2) Human resource development for the realisation of AI-based surgical support, image diagnosis and medical communication.
- 3) Education of medical students, residents and specialists in advanced medical care.

運動器疾患治療学講座 Department of Musculoskeletal Disease Therapy

講座の概要

本学には整形外科が既に培ってきた基礎的及び臨床的業績に加えて、症例の増加や要求される機能の高度化や多様性に対応するため、本講座は研究・教育・診療機能の充実を図る。運動器疾患に関する医療材料の開発と改良、外来での治療において今後更に期待される保存療法の開発と改良、及び術中と術後に使用される周辺機器の開発と改良を行う。これらの研究は、運動器疾患に関する治療に対して、更に効率的で有効な治療の実践を行うことが可能となり、運動器疾患に悩む患者さんの生活様式に適応し、QOL の向上に大きく寄与することが期待できる。

Outline of Department

In addition to the basic and clinical achievements that orthopedics has already developed in the University, this department will enhance its research, education, and treatment functions in order to respond to the increase in the number of cases and the sophistication and diversity of functions demanded. We will develop and improve medical materials related to musculoskeletal diseases, develop and improve conservative therapies that are expected to be further developed in the future for outpatient treatment, and develop and improve peripheral devices used intraoperatively and postoperatively. These studies will enable more efficient and effective treatment practices for musculoskeletal diseases, adapt to the lifestyles of patients suffering from musculoskeletal diseases, and contribute significantly to improving their quality of life.

看護学科 School of Nursing

基盤看護学講座

Fundamental Nursing Sciences

健康科学 Health Sciences

公衆衛生看護を实践する上で必要不可欠な知識として、保健医療福祉行政と医療統計学を学び、保健活動に応用できることを目的としている。先進国においては、細菌感染症が主な死因となっていた時代から、様々な危険因子の集積によって罹患する慢性疾患の時代へと、疾病構造は変化してきた。このような現代社会においては、健康や病気には、生活習慣のみならず、様々な社会的要因が関係してくる。「社会・環境医学的背景からの疾病」といったテーマを中心に、研究に取り組んでいる。

The purpose of this course is to learn health care and welfare administration and medical statistics as essential knowledge for practicing public health nursing, and to apply it to health activities. In developed countries, the disease structure has changed from the age when bacterial infections were the main cause of death to the age of chronic diseases caused by accumulation of various risk factors. In such a modern society, health and illness are related not only to lifestyle habits but also to various social factors. We are working on research focusing on the theme of "disease from social and environmental medical background"

基礎看護学 Fundamental Nursing

看護は、人間の健康ケアであり、生命の理解と看護の实践は、相互に関連する。基礎看護学領域では、看護理論、アートでありサイエンスである看護ケアの開発や根拠の証明、看護実践の基礎としての人間関係、看護ケアと看護サービスの管理など、看護学の基礎や基礎看護学を教育や管理等の広範囲で捉え、教育および研究に取り組んでいる。

- 1) 看護ケアの開発やエビデンスに関する研究
- 2) 看護師の臨床判断に関する研究
- 3) 看護ケア教育方法や評価に関する研究
- 4) 看護師・看護管理者のキャリア開発に関する研究

Nursing is health care for human being. The understanding of life and the practice of nursing are interrelated.

Fundamental nursing has a role in education and research of nursing theories, arts and science of nursing care, human relations as a basis of nursing practice, nursing care and service management.

Among our research programs are:

- 1) Development of the Nursing Care Practice and disclose evidence of Nursing Care
- 2) Clinical Judgment in Nursing Practice
- 3) Research into training methods concerning the development of practical skills in Nursing Care, and effective training methods regarding the development of practical nursing skills and evaluation
- 4) Career-development in Nurses and Nurse Manager



Website

精神看護学 Psychiatric Mental Health Nursing

精神看護学では、健康な人々には、ストレスに対する対処法を身につけて精神の健康を守ることを、心を病んだ人々には社会復帰する過程において環境に適応し、日常生活が自立して行えるよう援助出来ることを目的に教育、研究を行っている。実習では、異なる精神の健康レベルや療養の場での看護として、大分大学附属病院と地域で実習を行い、人々が生活をしていく中で精神の健康障害を予防し、回復・保持・増進する看護について学んでいる。

Psychiatric Mental Health Nursing focuses on the specialized care required to assist people with mental health disorders. Students will begin to understand the world of individuals suffering from psychiatric disorders; studying life spanning treatments and nursing practices.



Website

地域看護学 Community Health Nursing

地域看護学では、地域住民全体を対象とする公衆衛生看護活動を中心に、働く人々を対象とする産業看護活動、児童・生徒を対象とした学校保健活動、多様な分野における在宅看護活動の4活動領域を扱い、基礎となる理論や活動方法について教育・研究を行っている。特に地域を基盤にした看護活動の方法やその構造、ヘルスプロモーションにおける看護の機能や役割についての研究に力を入れている。

Community health nursing includes such fields as public health nursing, occupational health nursing, school nursing, and visiting nursing. We study basic theories and methodology. Emphasis is placed on research on the methodology and the structure of community-oriented nursing activities, and the function and responsibilities of nursing for health promotion.

実践看護学講座

Practical Nursing Sciences

母性看護学 Maternal Nursing

母性看護学は、母子とその家族がライフサイクルを通して、より健康な生活を営むために求められるケアの質の保障・向上に向けた研究を行っている。

中でも、

- 1) ハイリスク妊婦の看護
- 2) 母子とその家族を中心とした周産期ケア・政策
- 3) 助産院における看護

に取り組み、母性看護の対象理解に努め、女性とその家族が主体的に意思決定するための援助方法や教育手法を探究している。

Website



Maternity care for every woman and newborn

The Maternity Nursing Course explores how to assure and improve the quality of care required for supporting mothers, their children and related people so that they live much healthier throughout their life cycle. Especially, our course focuses on the following themes:

- 1) Nursing for high-risk pregnant women
- 2) Woman-centred care, family-centred care, and maternity policy and system
- 3) Nursing of Maternity Home

By undertaking these research studies, we could demonstrate the way of understanding the target of maternity nursing more deeply, encouraging autonomous decision-making and developing educational support skills.

小児看護学 Pediatric Nursing

慢性疾患を有する子どもの母親の養育体験に関する研究

脳性麻痺、脳炎、ダウン症などの障害を有する児を育てることは正常児を育てる場合とは、以下のような違う状況が存在する。

- 1) 児に慢性疾患を抱えていることを親が受容する過程が存在する。
- 2) 慢性疾患を有する子どもを養育することの漠然とした不安感を親は有する。
- 3) 養育をすることによる親としての自信の獲得過程を有する。母親の養育体験を詳細に明らかにし、さらに彼女らを援助するための適切な看護介入の時期と方法を調査する。

A survey of mother's experience to take care their children with chronic disease

Taking care of children with disability, such as cerebral palsy, encephalitis, and Down's syndrome, differs from those of normal children in the following points.

- 1) There is a process of acceptance of the fact their children have chronic disease
- 2) They have vague anxiety to take care a child with chronic disease
- 3) There is also a process to gain confidence in their ability on taking care their children with chronic disease

We are studying a proper nursing intervention to support the mothers at the right time after surveying their experience in detail.

成人看護学 Adult Nursing

成人看護学は、成熟期にある人とその家族において、生活習慣病や悪性腫瘍・慢性疾患をかかえたり、クリティカルな状態でケアを必要とする場合や人生の終末期における健康の維持・増進・回復、そして生活の質の向上を追究している。さらに医療の進歩や社会情勢の変化にともなう、臨床看護の質向上に関する研究を進めている。

- 1) 慢性疾患患者のセルフケアと継続看護に関する研究
- 2) 周手術期や集中治療をうける高齢患者への早期回復に向けたケアおよび救急搬送された患者・家族への支援に関する研究
- 3) がん患者の緩和ケアとアドバンス・ケア・プランニング（ACP）に関する研究
- 4) 頭痛

Website



Development of effective nursing care delivery methods for adults and their families.

Emphasis is placed on maintaining, restoring and promoting health both for adults harboring life-style related disease, chronic illness, critical disease or terminal phase and for their families. Our faculty is currently engaged in research in the following areas:

- 1) Self-care agency and continuing health care needs in patients with chronic illness
- 2) Nursing care of emergency, ICU perioperative for elderly patients & family
- 3) Cancer patient's palliative care and advance care planning (ACP)
- 4) Primary headache

老年看護学 Gerontological Nursing

老年看護学では、高齢者が健康を維持し、その人らしくよりよく生活するための看護アプローチ方法の追究・検証・開発をめざし、教育・研究活動をすすめている。教育については、学生が高齢者・家族の個別的な看護を実践するための基本となる知識と技術の修得と自己の老年観の洞察に力点を置いている。研究に関しては、大学院生と共に老年看護の現象を客観的に分析し、看護の効果を実証する方法論を探究している。

主な研究テーマは、

- 1) 一般病院における非がん後期高齢者の緩和ケアプログラムの開発
- 2) 認知症専門外来における看護実践モデルの開発
- 3) 高齢者糖尿病患者の体組成の解析
- 4) 経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）選択時の ACP 実践に必要な構成要素の同定
- 5) オーラルフレイル予防プログラムの開発

などである。

We are engaged in education and research to support health and promote quality of life for the older adults. Classes are offered for the students to develop their own concept for the aging and to study the fundamental knowledge and skills needed to take care of the older adults. We investigate to analyze the phenomena of gerontological nursing objectively and develop methods to prove the effect of nursing with the students of the Master's degree of Nursing.

The main fields of research now in progress are as follows;

- 1) Development of palliative care program for non-cancer older adults over 75 years in general hospitals
- 2) Development of nursing practice model in memory clinic
- 3) Investigation of body composition in older adults with diabetes
- 4) Identification of components necessary for ACP practice at the time of TAVI selection.
- 5) Development of the oral-frailty prevention program for the older adults.

先進医療科学科

Department of
Advanced Medical Sciences

生命健康科学コース The Course of Life and Health Sciences



Website

本コースでは、多領域にわたる幅広い知識と視野を持ち、未来の医学・医療の基盤を支えるイノベーションを創造できる融合人材、生命科学・医療科学の研究者の育成を目指している。そのため、バイオロジーを基礎とした、細胞内の生命現象に精通し人間の健康や疾病を深く理解するための医学的素養を修得できる教育カリキュラムを実施する。がんゲノム医療、再生医療、人工臓器など生命医科学の先進領域と臨床検査・診断の先端的な専門知識と技能を修得させ、疾病のメカニズムの探求ができ、身体機能の向上や健康増進に寄与できる能力を涵養する。さらに、AI や情報処理、医工学、医療マネジメントに関する融合領域の教育も行う。

研究面においては、染色体転座・融合遺伝子による発がんメカニズム、平滑筋細胞に着目した血管リモデリングの分子機構、糖尿病における心疾患発生のメカニズム、運動準備・空間注意における脳機能、など生命科学の幅広い領域にわたり先端的な研究を行っている。

This course aims to develop researchers of life and medical sciences who possess broad knowledge and perspectives across multiple fields and can bring innovations in future medicine and medical care. For this purpose, a biology-based curriculum that provides expertise in intracellular molecular phenomena and a deep understanding of human health and disease is provided. In order to cultivate the ability to explore disease mechanisms and contribute to the improvement of human health, the curriculum includes advanced fields of biomedical sciences such as cancer genome medicine, regenerative medicine, artificial organs, and clinical testing and diagnosis. The curriculum also provides education in interdisciplinary areas related to AI, information technology, medical engineering, and medical management.

In terms of research, the course conducts cutting-edge research in a wide range of life science fields, including the mechanism of carcinogenesis by chromosomal translocation and fusion genes, the molecular mechanism of vascular remodeling focusing on smooth muscle cells, the mechanism of cardiac disease development in diabetes, and brain functions during motor preparation and spatial attention.

臨床医工学コース The Course of Clinical Engineering



Website

臨床医工学コースでは、健康と疾病及び医学、理工学、医療機器研究開発に関する広範な知識と技能を身につけ、それらを統合し、医学・医工学の発展及び健康寿命の延伸に活用する人材の育成を目指す。1, 2年時は、医学科と同等レベルの医学教育を受けることで医学的な素養を身につけるとともに2, 3, 4年時の専門分野では、医用機器学・人工臓器学などの医工学の先進領域に関する知識と最先端の生体機能代行装置の操作技術を修得する。さらに、人工知能 (AI) や情報工学、ゲノム医療、医療マネジメント、知財管理等に関する融合領域の教育を受けることで、次世代の医用機器および人工臓器の研究・開発の第一線で活躍できる研究者・技術者の育成を目指す。

2年後期より4年の卒業研究につながるまで、将来の科学研究を担う融合人材を目指し、協調的学習環境の中で研究チームの一員として問題解決能力を高め、学修・研究意欲向上につなげるため研究室配属を行う。これにより研究の重要性、研究倫理、探究心を学ぶ。

必要な履修単位修得により臨床工学技士国家試験受験資格を得ることができる。

The Course of Clinical Engineering aims to develop human resources who will contribute to the development of medical science and engineering by acquiring a wide range of knowledge and skills related to health and disease, clinical engineering, and the research and development of medical devices. In this course, students can acquire a medical background at the same level as that of the school of medicine.

In addition, students can gain knowledge in advanced areas of clinical engineering such as medical instrumentation and artificial organs, as well as operating techniques of medical devices.

Furthermore, this course aims to train researchers and engineers who can play a crucial role in the research and development of next-generation medical devices and artificial organs.

From the second grade, students are assigned to the laboratory in order to improve their problem-solving skills as a member of a research team and to enhance their motivation for research, with the aim of becoming fusion human resources who will be responsible for future scientific research. Through this process, students learn the importance of research, research ethics, and an inquisitive mind.

附属センター *Included Center*

地域医療学センター *Community Medicine Center*



Website

地域医療学センターは、教育、研究および医療提供を通して、地域医療を推進するために設置された。医学生や研修医を対象とする医学教育は、地域の自治体、診療所や病院と提携して行なう。また、当センターでは地域社会の疾病構造を明らかにし、地域に特有な病気の原因を明らかにするための研究を行なう。その知見をもとに疾患を治療するのではなく、患者およびコミュニティを治療する視点で健康問題対策を講じることが出来る医師を育成する。なお、当センターは内科分野、外科分野からなり、主な特徴は以下のとおりである。

【内科分野】

1. 患者の苦痛を緩和するのみならず、患者と家族、そして地域社会全体における健康の増進に寄与できる、有能で思いやりのある内科医の育成
2. 総合診療専門医、内科専門医を目指す医学生や研修医を対象とする医学教育プログラムの実践
3. 臓器別専門医を目指す医学生や研修医に対するプライマリーケアの実践経験の提供
4. 地域の基幹病院や診療所で地域医療に従事する医師に対する専門医取得、キャリアパス形成等の様々な支援
5. 地域固有の健康問題や疾病構造などの地域と関連した臨床研究、ならびに地域医療教育を評価・発展させる方法についての研究の推進

【外科分野】

外科分野における地域医療の活性化と人材育成を目標としている。その主な業務は、

1. 外科系の地域医療の現状と問題点の把握
2. 地域基幹病院や研修病院に従事する外科系医師の確保とそのネットワークの再構築
3. 医学生及び臨床研修医の診療所実習教育などを通じ、将来の地域医療に従事する外科系医師の育成
4. 地域医療に従事している外科系医療人のキャリアパス形成などの支援・推進
5. 外科系の地域医療学の学問構築

The mission of the Community Medicine Center is to provide education, research, and medical service for promoting community-based medicine. The Center has many collaborative partnerships which include many community organizations, clinics and hospitals which conduct educational activities.

The Center conducts community-based research that produces new knowledge about the origins of disease, and uses this insight to pursue improved health care provision to treat patients and community, not just isolated illness. The Center consists of Division of Internal Medicine and Surgical Division. The features of each Division are listed below.

Division of Internal Medicine

1. The center aims to train competent and compassionate physicians who promote health and relieve suffering in concert with patients, their families, and their communities.
2. The academic program prepares medical students and residents for careers in Primary Care Medicine.
3. The center provides exposure to the primary care practices for individuals planning careers in other specialties.
4. The center provides service to the doctors working in rural hospitals and clinics by providing educational opportunities for individuals pursuing careers in the patient-care professions.
5. The center conducts community-based research on rural health and epidemiology, and applied research that enhances our teaching programs.

Division of Surgery

Our goal is to encourage the activity level of rural medicine and train capable people in Division of Surgery.

Our major works are...

1. To understand the current situation and problems of rural medicine in surgical field.
2. To secure the number of surgeons and surgical-related doctors who are working for main local hospitals and trainee-accepting hospitals, as well as to rebuild its network system.
3. To train surgeons and surgical-related doctors who will work for rural medicine in the future through practical education at a clinic where medical students and clinical trainee can receive it.
4. To encourage and support surgical medical staffs who are working for rural medicine to advance their career.
5. To build education system of a surgical-related rural medicine science.

医学教育センター Medical Education Center



Website

本センターは、学生および教員がより良い教育環境で学習・教育が行えることを目的として、本学医学教育システムを統括的に管理するために設置された。

- (1) 教育課程に関する事項
- (2) 全国統一共用試験（OSCE・CBT）運営
- (3) 臨床実習の改善
- (4) 授業評価
- (5) 入学者選抜の評価・改善
- (6) FD の開催運営
- (7) 卒後臨床研修教育システムへの関与等

主に上記業務を行い、医学教育センターとして本学医学教育カリキュラムの改善を実施し、幅広い医学知識と技能を有し、国民・地域および国際的に期待される医療人を養成することを目標としている。

The center was founded to administrate and to improve the medical education system in the faculty. The major projects are as follows:

1. Planning, management, and evaluation of the curriculum.
2. Management of the national preclinical practice licensing examination system, which assesses medical students' knowledge, skills and understanding of basic medical and clinical science essential for provision of clinical practice under supervision.
3. Planning, management, and evaluation of the medical clinical practice training system.
4. Management of the evaluating system for the medical education.
5. Evaluation and improvement of the university entrance examination system.
6. Management of faculty and staff development programs.
7. Collaborations in the development of the postgraduate medical training programs in the University Hospital.

The center's final goal is developing medical experts with a variety of expertise and abilities, who can make constructive contributions to both regional, national and world healthcare systems.

先端分子イメージングセンター Advanced Molecular Imaging Center



Website

先端分子イメージングセンターは、PETを用いた診療及び研究を行う医学部附属センターとして開設された。PET診療は、「がん」や「アルツハイマー」の診断法として近年普及している。大分大学医学部附属病院では、 ^{18}F -FDGおよび ^{11}C -メチオニンを用いたがんのPET診療を実施している。この診療は、がん診療連携拠点病院として、地域における高度医療の提供に貢献するものである。また、FDGは糖代謝を利用した診断であるが、この特性を生かした基礎研究も展開することにより、さらに高度な診断技術の開発を目指す。FDG以外のPETを用いた「臨床研究」も展開していく予定である。本附属病院の特色として、臨床試験のためのセンター（総合臨床研究センター）を有している。これを利用することで新規薬剤の開発のための「治験」が実施可能である。PETを用いた治験は、近年その有効性が注目されており、本センターでの研究成果が社会に大きく貢献するものと期待している。

"Advanced Molecular Imaging Center (AMIC)" is established as a center to do the research and diagnosis of PET. PET diagnosis is developing recently, because it is effective for a diagnosis for cancer and Alzheimer's disease. FDGPET diagnosis has been going in Oita University Hospital. This will make a large contribution to toward the people in Oita area. We plan to do fundamental researches for FDGPET to improve this diagnosis. Also, the clinical study is one of the main researches in this center. We prepare to use some other PET drugs for clinical study in cooperation with "General Clinical Research Center" in our Hospital. The results by using PET technologies in our center will be expected for the developing the new drug.

遺伝子検査ラボ Diagnostic Laboratory for Pathogen Genomes (DLPGs)

大分大学医学部遺伝子検査ラボは 2020 年 11 月に設置され、主に感染症の原因微生物確定を目的として、リアルタイム PCR 法、次世代シーケンシング (NGS) などの最新の遺伝子解析技術を活用して（保険診療以外の研究ベースでの）病原体のゲノム検出や全ゲノム解析の受託検査を行っています。得られた結果は臨床診断や治療に活用するのみならず、臨床研究への拡大も目指しています。現在大分県からの SARS-CoV-2 の全ゲノム解析の委託を受け、遺伝子ラボは社会に大きく貢献しています。また、先進医療の遺伝子検査支援についても行っています。

DLPGs of the Oita University Faculty of Medicine was established in November 2020 with the purpose of confirming the causative microorganisms of infectious diseases. It utilizes the most advanced genetic analysis techniques such as real-time PCR and next-generation sequencing (NGS) for pathogen detection and whole genome analysis, primarily on a research basis outside of insurance coverage. The obtained results are not only used for clinical diagnosis and treatment but also aim to expand into clinical research. Currently, the laboratory is entrusted by Oita Prefecture with the whole genome sequencing of SARS-CoV-2 and making a significant contribution to society. Additionally, the laboratory provides support for genetic testing in advanced medical treatment.

臨床医工学センター Clinical Engineering Research Center



Website

大分県や宮崎県の医療機器産業を活性化することを目的とした『東九州メディカルバレー構想』を推進する大学の拠点として創設されたセンターで、医療機器開発拠点形成、高度人材育成の拠点形成などの事業に加え、医療機器に関する知財戦略相談やデザイン思考教育を行なっている。この活動は、当初、大分県内を中心とする企業関係者を支援する取り組みとして始められたが、現在では九州各県や西日本地区へと広がってきている。将来的には、西日本地区の医療機器開発の拠点となることを目標にしている。当センターでは、医療機器開発に際し、本学の医療従事者や研究者と他大学の研究者や参画企業の開発担当者とが一緒に研究開発をできる体制を整備してきた。さらに、開発された医療機器が、海外へ展開する際の支援業務も行っている。これまでにタイを中心とした東南アジア諸国で日本式の医療機器を取り扱う人材の育成事業などを展開してきた。当センターでは、医療機器の開発や事業展開に関して幅広い支援業務を行なっている。

Research Center for Clinical Engineering, Oita University is responsible for the promotion of the initiative of 'Medical Valley in Eastern Kyushu' that is the policy to promote the industries related to medical devices in Oita and Miyazaki prefectures.

We provide various services from academic point of view, such as encouraging collaborations between industries and clinics, offering higher education of medical engineering for engineers belonging to industries, and facilitating overseas expansion of companies from Eastern Kyushu area. Our supports are now widely open for academic researchers, engineers in industries, and business planners in whole Kyushu area.

スキルスラボセンター Clinical Skills Lab. Center



Website

スキルスラボセンターは、患者に安全で高度な医療を提供するために、シミュレーターなどの教育機器を用い、医療関係者が必要な技能を効率よく修得するために開設された。本センターでは高度患者シミュレーター、消化器・呼吸器内視鏡シミュレーター、内視鏡手術シミュレーター、血管内治療シミュレーターなどの高度シミュレーターから、心肺蘇生、静脈血採血などの基本医療手技教育機材まで多くの機材を保有し、本学医学科・看護学科学生、研修医、職員だけでなく、近隣の医療関係者や市民などにも開放し、医療レベル向上を目指している。

Clinical Skills Lab. Center was established for the purpose of providing medical skill education programs without subjecting patients to potential risks. The center has advanced educational resources such as a high-performance patient simulator, endoscopy simulator, endoscopic surgical simulator, simulator for interventional radiology and many other teaching devices for basic medical skills. The center is open for use by medical students, residents, fellows, and university staff. The center also provides a program for medical professionals outside the university and citizens to contribute to the improvement of medical services in the Oita area.

基礎医学画像センター Imaging Center for Basic Medicine



Website

本センターは、大分大学医学部における死亡時画像診断による死因究明、解剖学教育の支援及びその他CT装置等を利用した研究等を推進し、医学・医療の発展・向上に貢献することを目的として2010年に設置された。業務内容として、(1)死亡時画像診断による死因究明に関する事項(2)その他CT装置等を利用した研究に関する事項等を行っている。有する機器としては、16列多列検出器型CT(MDCT)装置とC-arm型X線透視装置である。

This center was founded at 2010 to contribute to the modern medicine and society by clarifying the causes of death by use of postmortem imaging, supporting the education of anatomy to medical students, and promoting the research of basic medicine using MDCT (Multi-detector X-ray Computed Tomography) and C-arm Fluoroscopy. This center is open to any basic medical research, especially is closely associated with Forensic Medicine.

バイオラボセンター Bio-Laboratory Center (BLC)

バイオラボセンターは、大分大学医学部に設置された生命科学系研究のための共同利用実験室であり、実験の種類に応じて5種類(分子生物学・生化学、細胞生物学、生理学、微生物学、病理学)のラボが用意されている。実験室には各種共通機器が設置されており、利用者をハード面から支援するだけでなく、機器の操作法の指導や生命科学研究の技術指導などのソフト面からの支援も行なっている。利用は登録制で、学部学生、大学院生、研修医および教職員のみならず、他学部や学外の研究者も利用可能となっている。

The Bio-laboratory Center is a collaborative laboratory for life science research at the Faculty of Medicine, Oita University, and provides five types of laboratories i.e. molecular biology and biochemistry, cell biology, physiology, microbiology and pathology, respectively, depending on the type of experiment. The laboratories have various types of common equipment, which not only support users from the hardware side, but also from the software side, such as instruction on how to operate the equipments and technical guidance on life science research. The laboratory is available for use on a registration, not only to undergraduate students, postgraduate students, resident doctors, faculty members and staff, but also to researchers from other faculties and outside the university.

医学部医学科学学生数

() 内は女性

令和6年4月1日現在

Undergraduate Students (School of Medicine)

(as of April 1, 2024)

区分 Classification	定員 Admission Quota	現員 Present number	出身地域別内訳 Home Region															
			北海道・東北 Hokkaido/Tohoku	関東 地方 Kanto	中部 地方 Chubu	近畿 地方 Kinki	中国 地方 Chugoku	四国 地方 Shikoku	その他 Others	九州地方 Kyushu								
										福岡 Fukuoka	佐賀 Saga	長崎 Nagasaki	熊本 Kumamoto	大分 Oita	宮崎 Miyazaki	鹿児島 Kagoshima	沖縄 Okinawa	Total 計
1 学年 1st yr.	100	(46) 102	(0) 0	(2) 9	(3) 7	(4) 8	(3) 5	(0) 1	(0) 0	(9) 21	(1) 1	(0) 3	(0) 0	(22) 44	(1) 1	(1) 2	(0) 0	(34) 72
2 学年 2nd yr.	100 *10	(44) 118	(0) 0	(6) 16	(6) 10	(5) 10	(4) 5	(0) 1	(0) 0	(7) 15	(1) 2	(0) 4	(1) 3	(13) 50	(1) 2	(0) 0	(0) 0	(23) 76
3 学年 3rd yr.	100 *10	(48) 103	(0) 1	(8) 15	(3) 8	(5) 10	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(8) 18	(0) 0	(0) 1	(1) 2	(20) 43	(2) 3	(1) 1	(0) 0	(32) 68
4 学年 4th yr.	100 *10	(40) 110	(0) 1	(2) 9	(3) 4	(4) 10	(1) 3	(0) 1	(0) 0	(7) 11	(0) 1	(1) 3	(2) 3	(17) 60	(3) 4	(0) 0	(0) 0	(30) 82
5 学年 5th yr.	100 *10	(43) 106	(0) 0	(4) 11	(3) 5	(7) 14	(2) 4	(0) 0	(0) 0	(6) 14	(1) 4	(2) 4	(2) 5	(14) 38	(1) 3	(0) 2	(1) 2	(27) 72
6 学年 6th yr.	100 *10	(39) 105	(0) 0	(5) 11	(3) 6	(2) 8	(2) 8	(1) 2	(0) 0	(7) 16	(0) 3	(1) 3	(1) 3	(16) 42	(1) 1	(0) 2	(0) 0	(26) 70
合 計 Total	650	(260) 644	(0) 2	(27) 71	(21) 40	(27) 60	(12) 26	(1) 5	(0) 0	(44) 95	(3) 11	(4) 18	(7) 16	(102) 277	(9) 14	(2) 7	(1) 2	(172) 440

備考 () 内は女子を内数で示す。 Note: () indicates the number of female students.

* は 2 年次編入学定員を示す。 * indicates the quota for the 2nd year transfer students.

医学部看護学科学学生数

() 内は男性

令和6年4月1日現在

Undergraduate Students (School of Nursing)

(as of April 1, 2024)

区分 Classification	定員 Admission Quota	現員 Present number	出身地域別内訳 Home Region															
			北海道・東北 Hokkaido/Tohoku	関東 地方 Kanto	中部 地方 Chubu	近畿 地方 Kinki	中国 地方 Chugoku	四国 地方 Shikoku	その他 Others	九州地方 Kyushu								
										福岡 Fukuoka	佐賀 Saga	長崎 Nagasaki	熊本 Kumamoto	大分 Oita	宮崎 Miyazaki	鹿児島 Kagoshima	沖縄 Okinawa	Total 計
1 学年 1st yr.	60	(5) 62	(0) 0	(0) 0	(0) 2	(1) 2	(0) 4	(0) 0	(0) 0	(1) 12	(0) 4	(0) 5	(0) 3	(3) 24	(0) 5	(0) 1	(0) 0	(4) 54
2 学年 2nd yr.	60	(7) 60	(0) 0	(0) 1	(0) 1	(0) 2	(1) 3	(0) 1	(0) 0	(2) 12	(0) 3	(1) 3	(0) 2	(1) 25	(1) 5	(1) 2	(0) 0	(6) 52
3 学年 3rd yr.	60 *6	(8) 70	(1) 1	(0) 0	(1) 2	(1) 4	(0) 3	(0) 0	(0) 0	(1) 10	(1) 8	(1) 3	(0) 4	(2) 28	(0) 3	(0) 3	(0) 1	(5) 60
4 学年 4th yr.	60 *6	(8) 63	(0) 1	(0) 0	(0) 2	(0) 3	(0) 3	(0) 0	(0) 0	(0) 8	(1) 2	(4) 6	(0) 4	(2) 29	(1) 4	(0) 1	(0) 0	(8) 54
合 計 Total	252	(28) 255	(1) 2	(0) 1	(1) 7	(2) 11	(1) 13	(0) 1	(0) 0	(4) 42	(2) 17	(6) 17	(0) 13	(8) 106	(2) 17	(1) 7	(0) 1	(23) 220

備考 () 内は男子を内数で示す。 Note: () indicates the number of male students.

* は 3 年次編入学定員を示す。 * indicates the quota for the 3rd year transfer students.

医学部先進医療科学科学学生数

() 内は男性

令和6年4月1日現在

Undergraduate Students (Department of Advanced Medical Sciences)

(as of April 1, 2024)

区分 Classification	定員 Admission Quota	現員 Present number	出身地域別内訳 Home Region															
			北海道・東北 Hokkaido/Tohoku	関東 地方 Kanto	中部 地方 Chubu	近畿 地方 Kinki	中国 地方 Chugoku	四国 地方 Shikoku	その他 Others	九州地方 Kyushu								
										福岡 Fukuoka	佐賀 Saga	長崎 Nagasaki	熊本 Kumamoto	大分 Oita	宮崎 Miyazaki	鹿児島 Kagoshima	沖縄 Okinawa	Total 計
1 学年 1st yr.	35	(9) 37	(0) 1	(1) 1	(2) 4	(0) 4	(2) 5	(0) 1	(0) 0	(1) 7	(0) 0	(1) 2	(0) 0	(0) 4	(2) 6	(0) 2	(0) 0	(4) 21
2 学年 2nd yr.	35	(13) 34	(0) 0	(1) 2	(0) 2	(2) 2	(0) 2	(1) 2	(0) 0	(0) 5	(0) 1	(0) 0	(1) 2	(8) 12	(0) 2	(0) 1	(0) 1	(9) 24
3 学年 3rd yr.	35	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0
4 学年 4th yr.	35	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0
合 計 Total	140	(22) 71	(0) 1	(2) 3	(2) 6	(2) 6	(2) 7	(1) 3	(0) 0	(1) 12	(0) 1	(1) 2	(1) 2	(8) 16	(2) 8	(0) 3	(0) 1	(13) 45

備考 () 内は男子を内数で示す。 Note: () indicates the number of male students.

医学部医学科入学志願者数，入学者数

令和6年4月1日現在

Number of Applicants (School of Medicine)

(as of April 1, 2024)

区 分 Classification	入学定員 Admission Quota	入学志願者数 Applicants			入学者数 Enrolled		
		男 Male	女 Female	計 Total	男 Male	女 Female	計 Total
令和2年度 2020	100 (10)	255 (121)	196 (88)	451 (209)	61 (2)	39 (3)	100 (5)
令和3年度 2021	100 (10)	187 (145)	135 (99)	322 (244)	61 (7)	39 (3)	100 (10)
令和4年度 2022	100 (10)	201 (147)	177 (113)	378 (260)	54 (3)	46 0	100 (3)
令和5年度 2023	100 (10)	315 (141)	244 (116)	559 (257)	61 (5)	39 (3)	100 (8)
令和6年度 2024	100 (10)	285 (119)	252 (99)	537 (218)	55 (3)	46 (4)	101 (7)

備考 () 内は2年次編入学定員を外数で示す。 Note: () indicates the quota for transfer the 2nd year students. Not included in the total.

医学部看護学科入学志願者数，入学者数

令和6年4月1日現在

Number of Applicants (School of Nursing)

(as of April 1, 2024)

区 分 Classification	入学定員 Admission Quota	入学志願者数 Applicants			入学者数 Enrolled		
		男 Male	女 Female	計 Total	男 Male	女 Female	計 Total
令和2年度 2020	60 (6)	25 (1)	268 (13)	293 (14)	5 (0)	55 (5)	60 (5)
令和3年度 2021	60 (6)	36 (4)	237 (22)	273 (26)	9 (0)	55 (5)	64 (5)
令和4年度 2022	60 (6)	32 (2)	234 (26)	266 (28)	7 (1)	53 (4)	60 (5)
令和5年度 2023	60 (6)	30 (0)	234 (20)	264 (20)	7 (0)	53 (4)	60 (4)
令和6年度 2024	60 (6)	23 (3)	204 (24)	227 (27)	5 (0)	57 (5)	62 (5)

備考 () 内は3年次編入学定員を外数で示す。 Note: () indicates the quota for the 3rd year transfer students. Not included in the total.

医学部先進医療科学科入学志願者数，入学者数

令和6年4月1日現在

Number of Applicants (Department of Advanced Medical Sciences)

(as of April 1, 2024)

区 分 Classification	入学定員 Admission Quota	入学志願者数 Applicants			入学者数 Enrolled		
		男 Male	女 Female	計 Total	男 Male	女 Female	計 Total
令和5年度 2023	35	82	139	221	13	22	35
令和6年度 2024	35	57	127	184	9	28	37

日本学生支援機構奨学生数

令和6年4月1日現在

Japan Student Services Organization

(as of April 1, 2024)

区 分 Classification	医学科 School of Medicine							看護学科 School of Nursing					先進医療科学科 Department of Advanced Medical Sciences
	1学年 1st yr.	2学年 2nd yr.	3学年 3rd yr.	4学年 4th yr.	5学年 5th yr.	6学年 6th yr.	計 Total	1学年 1st yr.	2学年 2nd yr.	3学年 3rd yr.	4学年 4th yr.	計 Total	1学年 1st yr.
第 一 種 Cat.1	8	10	13	12	6	12	61	10	23	19	18	70	6
第 二 種 Cat.2	11	8	16	25	9	15	84	13	14	12	14	53	6
給 付 Benefits	4	2	5	7	2	5	25	4	7	10	10	31	4
計 Total	23	20	34	44	17	32	170	27	44	41	42	154	16

医師国家試験合格状況

National Medical Qualifying Exam Results

区 分 Classification	第112回 (平成30年) 2018	第113回 (平成31年) 2019	第114回 (令和2年) 2020	第115回 (令和3年) 2021	第116回 (令和4年) 2022	第117回 (令和5年) 2023	第118回 (令和6年) 2024
受 験 者 数 Applicants	129	122	126	130	121	121	113
合 格 者 数 Passed	117	103	113	119	113	108	107
合 格 率 (%)	90.7	84.4	89.7	91.5	93.4	89.3	94.7

看護師・保健師国家試験合格状況

National Registered Nurse and Public Health Nurse Qualifying Exam Results

区 分 Classification	看 護 師 Registered Nurses					保 健 師 Public Health Nurses				
	第109回 (令和2年) 2020	第110回 (令和3年) 2021	第111回 (令和4年) 2022	第112回 (令和5年) 2023	第113回 (令和6年) 2024	第106回 (令和2年) 2020	第107回 (令和3年) 2021	第108回 (令和4年) 2022	第109回 (令和5年) 2023	第110回 (令和6年) 2024
受 験 者 数 Applicants	61	67	62	56	58	77	78	69	66	67
合 格 者 数 Passed	60	66	62	56	57	66	71	62	65	67
合 格 率 (%)	98.4	98.5	100.0	100.0	98.3	85.7	91.0	89.9	98.5	100.0

卒業生の進路状況

Graduate Employment Statistics

医学科 School of Medicine

区 分 Classification	令和 元年度 2019	令和 2年度 2020	令和 3年度 2021	令和 4年度 2022	令和 5年度 2023
研 修 医 生 Hospital Residents	本 学 Graduate School	22	25	26	20
	他 大 学 Other Graduate School	13	18	13	9
	県 内 Oita Prefecture	29	25	27	30
	県 外 Other Prefectures	37	44	41	45
	県 内 Oita Prefecture	51	50	53	50
	県 外 Other Prefectures	50	62	54	54
そ の 他 Others	7	8	3	9	3
合 計 Total (県内就職率)	108 (47.2%)	120 (41.7%)	110 (48.2%)	113 (44.2%)	103 (35.0%)

看護学科 School of Nursing

区 分 Classification	令和 元年度 2019	令和 2年度 2020	令和 3年度 2021	令和 4年度 2022	令和 5年度 2023
進 学 Graduates	本学大学院 Graduate School	0	1	0	1
	他 大 学 等 Other Graduate Schools	9	4	3	2
	小 計 Total	9	5	3	5
就 職 Employment	県 内 Oita Prefecture	33 (27)	40 (31)	40 (23)	33 (24)
	県 外 Other Prefectures	21	24	22	24
	小 計 Total	54	64	62	57
そ の 他 Others	2	2	0	1	1
合計 Total (県内就職率)	65 (61.1%)	71 (56.3%)	65 (61.5%)	61 (54.1%)	63 (46.0%)

備考 () は本学附属病院で内数。

Note : The number in parentheses indicates those employed at O. M. U. Hospital.

医学系研究科

Graduate School of Medicine

医学系研究科には、博士課程と修士課程が設置されている。博士課程は、医学専攻から成り、自立した研究者・医学教育者及び診療能力の高い臨床医の育成を目的としている。修士課程は、看護学専攻から成り、医学に関する幅広い知識と視野を備えた看護実践専門家、看護教育者等の育成を目的としている。

Graduate School of Medicine is composed of Master's Program and Doctoral Program. The Doctoral Program has one professional course. The main purpose of the Doctoral Program is to foster a medical research professional or a clinician of high quality. The Master's Program has one nursing science course. The purpose of the Nursing Course is to foster a highly professional nursing staff and nursing educational professional, who possess broad professional knowledge and viewpoints on medicine.

博士課程

Doctoral Program

医学専攻

Department of Philosophy in Medical Science

教育目的 Educational Purpose

医学研究者・教育者及び診療能力の高い臨床医育成を主眼とし、それぞれの専攻分野について自立した研究者として活動を行うに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養う。さらに、生命科学や医療・福祉などの広領域において、関連する他の研究科との連携を強化する。

博士課程は基礎研究領域、臨床研究領域及びがん研究領域から構成され、それぞれ基礎医学的、臨床医学的及び腫瘍医学的側面から研究を実施する。

Our main purpose is to produce quality medical researchers, teachers and clinician. We promote the acquisition of broad academic knowledge as a foundation on which our students can build research skills. The development of advanced research skills in relevant medical specialties will result in an ability to carry out self-driven, independent research.

Co-operation with associated departments in the fields of life sciences, medical treatment and welfare will be further strength-ened. In this course, there are three research areas, Fundamental research, Clinical research and Cancer research, in which we perform research from the view points of basic, clinical and tumor medicine respectively.

基礎研究領域 Fundamental Research

基礎研究領域に関する授業科目は次のとおりである。

※ストレスと健康の心理行動科学

本科目では、現代社会の多様なストレスと健康の問題を心理学的、社会学的、公衆衛生学的な観点から多角的に学習し、その理解を深めるとともに、ストレスと健康問題にアプローチするために心理学的、行動科学的視点や研究法を身につけることを目指している。

組織病理学

生検・手術検体の処理、組織標本の作成、病理組織診断の習得、剖検例のまとめとCPC発表を行う。

がんのゲノム医学

癌化のメカニズムの核心であるゲノム異常を網羅的に解析して、各臓器癌の発症、進展の分子機構を明らかにする。

※イオンチャネルの病態生理学

イオンチャネルの分子機能と病態下での発現制御を解明して細胞内環境の維持と破綻に関わるイオンチャネルの役割を明らかにする。

The subject about Fundamental research is as Follows.

※Psychological and Behavioral Science of Stress and Health

In this course, we multilaterally discuss and study the problems of stress and health in modern society from the standpoint of psychology, sociology and public health.

We expect graduate students to learn psychosocial approaches to the problems of stress and health.

Histopathology

The aim of this course is to gain the knowledges and skills of diagnostic pathology as well as to discipline skills of presentation at clinicopathologic conference on autopsies cases.

Analysis of Genomic Aberrations in Cancer

Aim of this course is to study the molecular mechanisms of the onset and advancement of carcinomas by the genome wide analysis of cancer genome.

※Pathophysiology of Ionic Channels

Molecular function and pathophysiological regulation of ion channels would be targeted.

分子神経科学

神経科学分野の新規生理機能解析にあたり、最新の知見を取り入れ、分子レベルならびに神経回路に基づいた理解を目指す。

がんの分子生物学

分子および細胞レベルから、癌の発生メカニズムを理解する。

がんのリンパ学

癌のリンパ行性転移と腹膜播種性転移のメカニズムを学ぶ。

※分子形態学

細胞間コミュニケーションを担うギャップ結合 (GJ) に対する単クローン性抗体を用いたGJ形成過程を解析する。

組織形態機能学

免疫電子顕微鏡を用い臓器に発現するタンパク質を in Situ で統計学的に定量評価する。

分子細胞生物学

遺伝子改変動物および細胞培養系を用いた疾患モデルの構築とその解析方法について学ぶ。

マトリックス生物学

細胞外マトリックスに存在する分子の発現や機能について学習する。

遺伝子工学

粘膜感染病原細菌と宿主の相互作用による感染現象を、最新の研究動向を交えて学習する。さらに、分子・細胞レベル、および実験動物を用いた臓器・個体レベルでの多角的な解析方法を修得することで、病原細菌感染機構の解明を目指す。

分子薬理学

薬物の新規標的分子を探索に必要な方法や知識を紹介する。

人間生命医科学発展

医学に直結した生命科学を理解し実践するため、動物の観察や実験、正常と疾患の細胞・組織の観察、DNA抽出などを含む分子生物学的手法を学ぶ。

分子細胞免疫学

免疫学の分子基盤について分子レベルおよび細胞レベルでの理解を目指して最新のトピックスも交えて学習する。

※節足動物媒介性感染症学

吸血性昆虫やダニが媒介する感染症の伝播の多様な仕組みや環境要因変化、特に温暖化の影響を学ぶ。

微生物感染免疫学

ウイルスによる感染病態の解明、なかでも狂犬病ウイルスの病原性発現機構と宿主の免疫応答の関わり、さらにこれらを基盤とした診断・治療・予防法について講義・演習・実習、論文作成により学習・習得する。

分子標的製剤学

感染症や悪性新生物に対する分子標的治療薬の作用機序の理解と、それらの開発・応用について、講義・演習・実習により習得する。

Molecular Neuroscience

This class aims to understand the molecular mechanisms and neuronal pathways for investigating the novel physiological functions of biological substances in the central nervous systems.

Molecular Biology of Cancer

The aim of the course is to understand the molecular and cellular mechanisms underlying cancer formation.

Lymphology of Cancer

The aim of the course is to understand the mechanism of lymphatic metastasis and peritoneal dissemination of cancer.

※The Molecular Morphology

The analysis of gap junction formation bearing intercellular communication using an HAM8 monoclonal antibody.

Tissue morphofunctional studies

We established the statistical analysis of the in Situ expression of the bio-proteins in the organs using the immune-electromicrography.

Molecular Cell Biology

The course aims to learn the molecular analysis of human diseases using in vivo and in vitro disease models.

Matrix Biology

The aim of this course is to introduce the function of molecules and gene expression in extracellular matrix.

Gene Technology

We learn about the infectious phenomenon caused by the interaction between mucosal pathogenic bacteria and the host, along with the latest research trends. Furthermore, we aim to elucidate the mechanism of pathogenic bacterial infection by learning various analysis methods at the molecular/cellular level and the organ/individual level using experimental animals.

Molecular Pharmacology

Introduce the methods and knowledge needed to explore new target molecules for drugs.

Advanced medical life science

The aims of this course are: 1) to study animal anatomy, 2) to practice animal experimentation, 3) to learn how to observe healthy /diseased cells and tissues under a microscope, 4) to learn methods in molecular biology such as DNA extraction.

Molecular and Cellular Immunology

To learn the molecular and cellular basis of protective immune responses against infection and inflammatory disorders caused by dysregulated immune responses.

※Arthropod-borne Infectious Diseases

To learn diversity of transmission modes of infectious diseases transmitted by blood-feeding insects and acari and environmental factors, in particular global warming, influencing the modes of transmission.

Microbiology, Infection and Immunity

This course focus on research for pathogenesis and virus-host relationship in rabies virus infection. On the basis of fundamental knowledge of virology, we expand to develop novel diagnostic technologies and therapeutic-/preventive-measures.

Molecular diagnosis and targeting therapeutics against virus-induced hematological malignancies

Studying the current status and practical R&D of molecular targeting drugs against infectious diseases and cancers.

※感染症疫学

感染症の発生と流行様式を血清疫学・分子疫学の面から学ぶ。

分子疫学

ゲノム解析，生命情報科学および分子生物学的手法を用い，ピロリ菌感染症による胃癌を含む胃十二指腸疾患の発生機序，および国際的に展開される疫学研究について学習する。

※睡眠公衆衛生

睡眠習慣に関する公衆衛生や疫学研究に関する演習を行って，公衆衛生・疫学に関する基礎知識と研究手法について学習する。

臨床疫学

臨床医学で遭遇する問題に対して疫学的手法を用いて，その構造解析や解決策について研究する。特に，地域集団を対象に，循環器疾患の疫学研究を展開する。臨床疫学の基礎から応用までを学び，疫学研究が遂行できる能力を身に着ける。

※産業中毒学

産業現場で利用されている種々化学物質の中毒を予防するため化学物質の曝露，吸収，分布，代謝，排泄の各プロセスでの化学物質の動態を習得し，実践的な中毒予防策を実践できるようにする。

遺体診断学の確立

死後変化が臨場医学で使われている技術に与える影響を学び，最終的には死因の特定が実施できる技術を習得する。

生物物理化学

生物由来の化合物の構造・機能・反応性について，物理化学的に考察する。

※微小循環学

正常，高血糖下および高血圧下における細動脈，毛細血管および細静脈の形態と機能を教授し，毛細血管の新生についても言及する。さらに，毛細リンパ管（リンパ管）の同定，分布および癌の伸展とその関連を討議する。

※ Epidemiology of Infectious Diseases

To study the mode of transmission of viruses through serological and molecular methods.

Molecular Epidemiology of Gastrointestinal Diseases

We learn the techniques on genome sequencing, bioinformatics and molecular biology on *Helicobacter pylori* infection and the mechanisms to develop gastrointestinal diseases including gastric cancer, and explore global epidemiological study on this infectious disease.

※ Public Health of Sleep

Sleep behavior are closely related to human health. Graduate students study the public health about sleep behavior in this program. They also study the method of epidemiological research.

Clinical Epidemiology

To study for the structural analysis and solutions using the epidemiological approach to the problem encountered in clinical medicine. In particular, we study on cardiovascular epidemiology in the population. Our purpose is to provide the epidemiological skills to carry out investigations in the population, learning of the all level from the basics to the advanced level.

※ Industrial Hygiene and Toxicology

Is used in the industry spot; learn the revelation of the chemical substance, absorption distribution, metabolism, the change of the chemical substance by each process of the excretion to prevent the poisoning of the chemical substance in various way, and can practice practical poisoning precaution.

The postmortem determination of the cause of death

Participants will study the effects of postmortem changes on the techniques used in clinical medicine and acquire the skills to determine the causes of death.

Biophysical Chemistry

Structures, functions, and reactivities of biomolecules are physicochemically discussed.

※ Microcirculation Science

The morphology and function of arterioles, blood capillaries and venules are studied. In addition, organization and distribution of the lymphatic system are also discussed.

臨床研究領域 Clinical Research

臨床研究領域に関する授業科目は次のとおりである。

内分泌代謝・免疫・腎臓病の分子病態医学

糖尿病，高血圧，腎疾患をはじめとする生活習慣病及び自己免疫疾患の発症メカニズムと治療に関する研究を，遺伝要因も含め臓器横断的に行う。

呼吸器内科学・感染症学の実践 EBM

基礎および臨床研究を通じて呼吸器疾患の診断法と治療法の高度な理論と実践，および併発する感染症の制御ができ，EBM が構築できることを目標とする。

神経病態科学・認知症医科学

神経疾患及び認知症の分子病態解析，診断・治療法の開発，予防について基礎・臨床の両側面から学習し，研究する。

The subject about Clinical research is as Follows.

Molecular Medicine of Endocrinology, Metabolism, Immunology and Nephrology

We investigate pathogenesis and pathophysiology of lifestyle-related diseases such as diabetes mellitus, hypertension, kidney diseases and autoimmune disease.

Evidence-Based Medicine for Clinical Practice including Diagnosis and Treatment in Respiratory Medicine and Infectious Diseases

The purpose of this category is to perform and establish the highly theoretical approach (evidence-based medicine) of diagnosis and therapy in respiratory medicine and infectious diseases through the basic and clinical research as well as to get the license of respiratory medicine and infectious diseases-related specialist.

Clinical Neuroscience & Dementia and Medical Sciences

We invite you to both basic and clinical medical sciences for neurological disorders or dementia such as molecular mechanisms underlying neuronal degeneration, and the development of biological markers or disease-modifying therapies.

※脳卒中病学

神経疾患としての脳卒中の理解に加え、循環器疾患、血液疾患、老年病としての観点から多角的に病態を理解し、診断・治療法の開発、予防について実験や診療を通じて学習し、研究する。

消化器感染症と発癌

消化器の持続感染と発癌との関連性を分子生物学的手法を用いて研究する。

消化器内視鏡学

消化器内視鏡学を通して上部・下部消化管疾患、胆道・膵臓疾患を研究する。

臨床心臓病学

心血管疾患の病態生理を理解し、発生機序から治療を考え、基礎的研究から治療への探索的研究を目指す。具体的には、虚血・再灌流障害の発生機序を研究し、合併する不整脈の発生機序の解明と治療の開発を目指す。

加齢心臓病学

加齢に伴う心血管系の変化を理解し、老化・加齢の観点から心臓血管病の病態生理を把握し臨床に応用する能力を身に付けることを目的とする。基礎的研究から治療への探索的研究を目指す。

外科循環制御学

心臓疾患・動脈疾患に対する外科的介入方法とその適応を学び、外科侵襲の身体に与える功罪を理解する。

循環補助治療学

重症心不全患者に対する循環補助療法を習得する。

脳循環代謝・神経外傷病態

脳虚血・神経外傷の病態解明と新しい治療法の開発。

機能性精神病の生物・心理・社会学

うつ病や双極性障害の病態生理や症状、経過、予後、治療を多角的に検討する。

※高齢者のメンタルヘルス

認知症をはじめとする高齢者の精神疾患の病態生理や症状、経過、予後、治療を総合的に検討する。

臨床遺伝学

小児期・周産期に関わる臨床遺伝学を学習する。

発生・発達小児科学

新生児、乳児期早期の General Movements 評価を実践する。早産児の自律神経機能と自発運動の発達変化の関連を検討する。

発達アレルギー学

小児アレルギー疾患の年齢による自然改善 (outgrow) を免疫学、栄養学、環境医学、遺伝学の観点から検討し、成人期への持ち越しを予防する方法について考察する。

眼科学・病態と治療

視覚障害を生ずる疾患の病態について、ヒト眼内液を用いたプロテオーム、トランスクリプトームなどによる最新の手法で解析し、新規検査法・治療法の開発を進めている。

※Strokology

Experimental and clinical studies regarding stroke pathomechanism, the development of methods for diagnosis, treatment and prevention of stroke.

Carcinogenesis and Infection in Digestive Diseases

Research of interaction between gastroenterological inflammation and carcinogenesis with molecularbiology.

Gastrointestinal endoscopy

Research of gastro-intestinal and biliary-pancreatic disease using endoscopy.

Clinical cardiology (From molecule to Bedside)

We aim to study the pathophysiology of cardiovascular diseases, and perform the translational researches from the viewpoint of the basic mechanisms of those diseases. In particular, we set targets on disclosing the pathophysiological mechanisms of the development of ischemia/reperfusion injury and accompanying heart failure as well as critical arrhythmias including atrial fibrillation and their treatments.

Aging and cardiovascular diseases

We aim to comprehend the aging-induced changes of cardiovascular system, and proceed the translational researches to understand the pathophysiology of cardiovascular diseases from the viewpoint of senescence.

Clinical diagnosis and therapy of cardiovascular surgery

We learn a surgical intervention method for heart problem/the artery disease and the adaptation and understand the merits and demerits to give the body of the surgery aggression.

Therapeutic mechanical circulatory assist

We learn the devices and methods of long term mechanical circulatory assist for severe heart failure and temporary cardiac and pulmonary assist.

Cerebral blood flow and metabolism and Neurotrauma

Pathophysiology and treatment of neurotrauma (ischemic and traumatic brain injury).

Bio-psycho-social Aspects of Functional Psychoses

We investigate functional psychoses such as depression and bipolar disorder from the viewpoints of pathophysiology, symptoms, course, prognosis and treatment.

※Mental health of older adults

We comprehensively investigate psychiatric disorders such as dementia in older adults from the viewpoints of pathophysiology, symptoms, course, prognosis and treatment.

Clinical Genetics

To learn medical application of molecular biology and genetics for the diagnosis, management and counseling for genetic diseases in the field of perinatal medicine and pediatrics.

Developmental Medicine and Child Neurology

Learn general movements assessment of neonate and early infantile period.

We investigate the relationship between autonomic nervous function and development in preterm infants.

Developmental Allergology

The preventive and therapeutic strategies for pediatric patients with allergies are discussed, focusing on the immunological, nutritional, environmental, and genetic factors that contribute to the age-dependent resolution of these conditions.

Ophthalmology pathophysiology and treatment

We aim to elucidate the pathogenesis of vision-threatening eye diseases with new methods, such as proteomics and transcriptomics using human intraocular fluid, in order to develop new examination and treatment methods.

視機能の科学

心理物理学的検査の理解と他覚的検査の実施， 研究。

気道粘膜免疫学

耳・鼻を中心とした上気道における粘膜免疫機構とそれを応用した中耳炎・副鼻腔炎のワクチン治療。

創傷診断治療学

創傷治癒に関する知識を得て， その診断， 治療に関する考え方を学び， 新しいアイデアを生む訓練をする。

皮膚疾患病態学

最新の研究を， 方法論の限界や質問を考えながらレビューし， 皮膚疾患の病態を病理組織レベル， 及び分子レベルで解説する。批判力を養い， 研究の歴史， 関連領域も含めて幅の広い学識を得ることも目標とする。

過大侵襲と酸化ストレス

生体に手術などの過大侵襲が加わると， 全身性炎症反応が誘導される。これに伴い活性化された好中球からは活性酸素種が過剰に放出され， いわゆる酸化ストレスが生じ， 全身性に血管内皮細胞が傷害される。酸化ストレスが制御できなければ， 結果として， 多臓器不全へと至り， 予後に大きく影響する。本コースでは敗血症， 胎児仮死， 多発外傷後の過大侵襲後の炎症反応だけでなく， 酸化ストレスの制御も重要な研究テーマとしている。

急性炎症と臓器障害

敗血症， 多発外傷などの高度侵襲時に， 本来は防御機構として生じる炎症反応が過剰となることにより， 自己組織が損傷され， 多臓器傷害が誘導される。本科目では炎症性メディエータと臓器傷害の関連を解明し， 新たな治療法を確立することを目的とする。

運動器画像診断学

運動器疾患における画像診断の読影法やポイントについて臨床症例より学習する。

運動器疾患治療学

主に外科的治療が必要な運動器疾患について外科的治療法の計画について臨床例を基に学習する。

外科臨床診断治療学

消化器外科疾患に対する術前診断， 術式選択， 摘出標本の観察・診断， および術後症例検討を行い， 科学的な臨床判断力を養い， 総合的な臨床能力を身につけることを目的とする。

外科分子腫瘍学

腫瘍の増殖・発育・進展および細胞内シグナリングのメカニズムを学習し， 各種癌細胞株や動物モデルを用いて， 遺伝子およびタンパクレベルの解析を行い， その解明を目的とする。

排尿機能病態学

下部尿路機能障害の病態生理学的特徴に基づいた診断と治療。

生殖・周産期病態学

卵胞発育・排卵・受精・着床・妊娠維持における生殖現象の生理ならびに妊孕性を妨げる病態について学ぶ。

Science of Visual Physiology

We evaluate the visual function by means of psychophysical and other objective examinations.

Mucosal immunology in the respiratory tract

Mucosal immune system of upper respiratory tract particular reference to the ear and nose, and mucosal vaccine development for otitis media and sinusitis.

Basic and Clinical Science of Wound Healing

We investigate the mechanisms and pathogenesis of wound healing and we learn how to make diagnosis and treat chronic ulcers. Through these processes, we train to make new ideas for investigations.

Molecular and Immune Pathology of the Skin

We discuss the latest research from a technical and a scientific point of view and review the pathogenesis of skin diseases based on histopathology and molecular biology. Through these processes, we learn the wide knowledge about the related diseases and the history of the research, and we train to get the critical ability.

Oxidative stress after systemic inflammatory insults

The goal of this course is to understand the mechanism of oxidative stress in systemic inflammation. We are especially interested in understanding the control of oxidative stress during and after sepsis, fetal distress and multiple trauma.

Acute inflammation and multiple organ injury

Septic shock, multiple trauma and surgical stress induce excessive inflammatory responses, which lead to multiple organ injury. The main goal of this course is to investigate the relationship between acute inflammatory mediators and multiple organ injury, and consequently develop new therapeutics.

Diagnostic Imaging of Orthopaedic Surgery

You study how to read the orthopaedic images and get the point of the diagnosis using the orthopaedic images from clinical case.

Clinical Therapy of Orthopaedic Surgery

You study how to plan the surgical orthopaedic procedure from clinical case.

Surgical science of clinical diagnosis and therapy

Regarding gastrointestinal diseases, we have a conference on such as a preoperative diagnosis, selection of operative procedure, observation and diagnosis of resected specimen, and aim at developing scientific and clinical judgment, acquiring comprehensive clinical skills.

Surgical science of molecular biology and oncology

From an intra-cellular signaling point of view, we learn the mechanisms for growth, invasion and progression of tumor, and study clinical applications to control of tumor.

Pathophysiology of Voiding Function

To learn the diagnosis and treatment for lower urinary tract dysfunction (LUTD) based on pathophysiological approaches.

Reproductive and perinatal pathophysiology

To learn concerning the physiology of reproductive phenomena such as follicular development, ovulation, fertilization, implantation, and maintenance of pregnancy, as well as pathological conditions that impede fertility.

総合画像診断学

CT, 血管造影, 核医学, 超音波診断学, 磁気共鳴診断学を包括した総合画像診断学を, 病理学, 解剖学, 遺伝子異常, 臨床像と対比させて教授する。

低侵襲治療学

非手術的に低侵襲治療を行なう放射線治療学と Interventional Radiology (IVR)を包括する。遺伝子多型の検索も含めた臨床腫瘍学, 血管内治療新技術の開発研究方法等も教授する。

救命救急医学

救命救急医療・集中治療を要する重症病態, 特に敗血症の病態解明と診断・治療の確立を目指す基礎研究/臨床研究を行う。また, 臓器不全に対する有効な人工補助療法の開発/確立, より有効な救急医療を実現するための機器開発/システム構築, に関する研究を行う。

※脳卒中・神経救急医学

脳卒中をはじめとした脳疾患および神経疾患の救急医療に関する最新の診断・治療を未来の展望も含め習得・研究する。

薬物治療解析学

適正な薬物治療の基礎となる薬効評価学, 臨床薬理遺伝学を習得する。

病態薬理遺伝制御学

薬物の体内動態を研究する方法を学び, 薬物治療モニタリングが実施可能となる。

※創薬育薬医療コミュニケーション

医療コミュニケーション能力と倫理感の優れた創薬育薬医療スタッフを育成し, 「臨床研究の論理と倫理」を身につけるための科目である。

※摂食・嚥下機能

前癌病変からの発癌, 癌の転移とその因子, 口腔粘膜癌における化学療法の治療効果予測, 顔面形態と咀嚼機能, 顎顔面先天異常発生に関与する遺伝子異常, 口唇・口蓋裂児の顎顔面発育, 口腔病変と病態生理。

※硬組織

顎骨の再建, 骨髄幹細胞の分化誘導と骨・軟骨の再生, 口腔インプラントの維持と機能。

医薬品適正使用

科学的根拠に基づいた総合的な薬物療法を実施できる能力を身に付けることを目標とする。

地域医療・総合診療医学

地域で生活する慢性疾患を有する患者が, 安定な病状を維持し, 健康に社会生活を送れる要因, 一方, 増悪により生活の質を低下させる因子を明らかにするために, 疾患の経過と社会的・精神的・免疫学的背景の関連について研究する。

Radiological Science of Diagnostic Imaging

To learn general radiological diagnosis, including CT, angiography, ultrasound, nuclear medicine and MRI with correlation of pathology, anatomy, gene abnormality, and clinical presentations.

Science of Less Invasive Therapy

1. To learn less invasive therapy such as radiation therapy and interventional radiology (IVR).
2. To learn clinical oncology including gene polymorphism and methodology of development research for intravascular treatment.

Emergency and Critical Care Medicine

Clinical/basic research, aiming at elucidating pathophysiology of critical conditions, such as sepsis, and establishing useful diagnostics and therapeutics. Development/improvement of artificial organ support or development of new device/system to achieve appropriate emergency medical care.

※ Stroke and Emergency Neurology

We learn and research the most up-to-date diagnosis and therapy about the emergency disorder of central nervous system, especially stroke.

Scientific basis of clinical pharmacology and pharmacotherapeutics

Analysis for Pharmacotherapeutics is studied the Clinical Drug Evaluation and Clinical Pharmacogenetics based on the rational drug therapeutics.

Clinical Pharmacology and Pharmacogenetics

We learn the method to study an internal change of the drug and can carry out drug therapy monitoring.

※ Pharmaceutical Medicine and Communication

Pharmaceutical medicine and communication is the subject to educate the staff working for drug development and fostering with high creativity and good communication skills, and with the mind of logic and ethics for clinical research.

※ Therapeutics for Oral-maxillofacial Diseases

Study the genes involved in the estimation of therapeutic effects of chemotherapy in metastatic cancer, cancer from precancerous lesions and its factors, oral mucous membrane cancer, craniofacial morphology and masticatory function, jaw-facial congenital malformations, diseases, development of cleft lip and cleft jaw, oral lesions and pathological physiology.

※ Basic Science of Hard Tissue Diseases

The aims of this course are to study reconstruction of the maxilla and mandible, regeneration of bone and cartilage by inducing differentiation of bone marrow stem cells, and bone augmentation for the dental implant treatment.

Proper use of drugs

The purpose of this category is to develop evidence-based applied pharmacotherapy.

Practice-Based Research on Community and General Medicine

Practice-based research: Analysis of social, psychological and immunological factors which induce acute exacerbation of chronic diseases in community rural areas.

がん研究領域 Cancer Research

がん研究領域に関する授業科目は次のとおりである。

がん分子標的薬開発

がんの臨床および基礎研究の両面の知識を持った人材を育成することが本コースのねらいである。

がんの診断病理学

がんの肉眼的、組織学的特徴を理解し、がんの病理診断に必要な免疫組織化学的手法および遺伝子診断法の習得を目的とする。

呼吸器外科腫瘍学

呼吸器領域の悪性腫瘍の発生と増殖メカニズムについて、分子レベルで理解し、トランスレーショナルリサーチと臨床試験から得られたエビデンスに基づいた治療体系を習得する。

内視鏡外科治療学

内視鏡外科の理論の理解と技術の開発、また生体侵襲や全身・局所への免疫性、腫瘍の発育浸潤に与える影響を、基礎的・臨床的観点から明らかにすることを目的とする。

がん放射線治療学

各種疾患に対する通常の外部照射法や、定位放射線治療、強度変調放射線治療、密封小線源治療などの適応・方法・効果・副作用を教授し、がん治療における放射線治療の意義を学ぶ。

がん薬物療法学

がん薬物療法の選択法、支持療法、効果判定法などを習得する。薬剤の薬理、がん臨床研究の方法論を理解し、標準的薬物療法の開発および新規抗がん剤や分子標的薬剤、がん免疫療法臨床開発の方法論を学ぶ。

※緩和医療学

がん性痛の機構を理解し科学的診断法、薬物療法、神経ブロック療法などの多角的治療法の理論的背景を理解し実施方法を身につけることを目的とする。

呼吸器腫瘍診断治療学

呼吸器腫瘍に対してエビデンスに基づいた標準的治療を適切に行う能力、エビデンスを構築するための基礎的・臨床的研究の意義を理解し、それを遂行する能力や臨床的問題への解決・判断能力を養う。同時にがん薬物療法専門医の取得を目指す。

消化器腫瘍診断治療学

消化器腫瘍の診断・治療法の最近の進歩および早期診断・最新治療の導入により、癌患者の QOL 向上の可能性について学ぶ。

腎尿路生殖器腫瘍診断治療学

腎尿路生殖器腫瘍の細胞・分子生物学的特徴に基づいた診断と治療。

婦人科腫瘍診断治療学

婦人科領域の腫瘍における病因・病態について学ぶ。

The subject about Cancer research is as follows.

Development of Targeted Cancer Therapies

The aim of this course is to develop the human resources with both knowledge of clinical and basic research for cancer.

Diagnostic pathology of cancer

The aim of this course is to gain the knowledges and skills of diagnostic pathology for the neoplastic diseases, including morphology, immunohistochemistry and genetic analysis.

Surgical Science and Thoracic Oncology

Graduate students will learn molecular mechanisms of oncogenesis and progression of thoracic malignant tumors. They will also learn therapeutic strategies for these malignant tumors, through basic findings and clinical evidences that were obtained from translational research and clinical trials.

Endoscopic Surgery

We discuss the significance of a new technical development of endoscopic surgery with minimal invasiveness, from the point of view that how they affect systemic and local immunities, and also growth, invasion and progression of tumor.

Radiation Oncology

1. To understand standard radiation therapy for external irradiation to a wide variety of diseases.
2. To understand the indication, method, treatment effect and adverse effect for standard external irradiation, stereotactic radiotherapy, intensity-modulated radiotherapy (IMRT), and brachytherapy.
3. To learn clinical significance of radiation therapy in the area of cancer treatment.

Medical Oncology

The aims of this course are: 1) learning indication of chemotherapy for cancer, 2) learning supportive care, 3) learning methodology of response evaluation, 4) understanding pharmacology of anticancer agents, 5) understanding methodology of clinical research for cancer, 6) establishment of standard chemotherapy, and 7) development of novel anti-cancer agents (including molecular target agents and immunotherapy).

※ Palliative Medicine

We understand the mechanism of the cancer-pain and understand the theoretical backgrounds of the multidirectional care, such as scientific diagnostic methods, drug therapy and the nerve blocks, and learn the technical skills.

Clinical Management for Respiratory Malignancies

The purpose of this category is to perform and establish the highly theoretical approach (evidence-based medicine) of diagnosis and therapy in respiratory malignancies through the clinical research as well as to get the license of anticancerous chemotherapy specialist.

Diagnosis and treatment for the tumor of digestive organs

Research of recent progress of diagnosis and treatment for gastroenterological cancer, and possibility of QOL improvement of patients with carcinoma.

Diagnosis and therapy for genitourinary tumors

A diagnosis and the treatment that were based on a characteristic of a cell / the molecular biology of the kidney urinary passage sex organs tumor.

Clinical diagnosis and treatment of gynecologic tumor

The aim of this course is to learn about the pathogenesis and pathophysiology of the gynecologic tumors.

乳腺腫瘍診断治療学

乳癌の発生と増殖メカニズムについて、分子レベルで理解し、トランスレーショナルリサーチと臨床試験から得られたエビデンスに基づいた治療体系を習得する。

中枢神経腫瘍診断治療学

中枢神経腫瘍を形態・脳機能・分子生物学的に総合診断する。

皮膚腫瘍診断治療学

皮膚腫瘍の病態を病理組織レベル、及び分子レベルで理解し、診断、治療法について学習する。

骨軟部腫瘍診断治療学

骨および軟部に発生する腫瘍（特に肉腫）について、発がんの分子機構を理解し、診断と治療を学習する。

頭頸部腫瘍診断治療学

頭頸部は多様な機能を持つ臓器が隣接し、この領域に発生した腫瘍による症状・所見はそれぞれ特徴がある。本講義では頭頸部の臓器に発生する腫瘍の制御と機能の維持に関する基礎的・臨床的な課題について学ぶ。

※小児血液・腫瘍学

本授業において小児期の血液悪性疾患、固形がんの発生と基礎的病態、治療の原則、長期フォローアップの概念を理解する。

地域・在宅医療学

がん医療に関する高い知識・技能を身につけ、地域病院において他診療科医師と協働して病院全体のがん医療の質を向上させ、地域におけるがん在宅医療を他職種とともに実施できる能力を身につけることを目的とする。

※臨床腫瘍治療学

臨床腫瘍学に関する深い知識を習得し、外科的治療、放射線治療、薬物治療、緩和ケア等に関する高い技能・態度を身につけ、安全ながん診療をチーム医療として提供できるため、専門診療科に属して実技演習を行う。

Diagnosis and therapy for disease of the breast

Graduate students will learn molecular mechanisms of oncogenesis and progression of breast cancers. They will also learn diagnostic and therapeutic strategies for breast cancer, through basic findings and clinical evidences that were obtained from translational research and clinical trials.

Clinical diagnosis and therapy for brain tumors

General diagnosis of brain tumors with morphological, functional and biological techniques.

Diagnosis and Management of the Skin Cancer

We understand the histopathological and molecular levels of cutaneous neoplasms and we learn how to make diagnosis and treat them.

Diagnosis and treatment of Bone-and Soft Tissue Tumor

About a bone and a tumor (a sarcoma in particular) breaking out in soft, We learn a diagnosis and treatment.

Diagnosis and Therapy for Head and Neck Tumors

In the head cervix, the internal organs with various functions are adjacent, and a symptom / the views by the tumor which broke out in this domain are characteristic each. We learn it from the internal organs of the head cervix about the control of a tumor breaking out and a clinical problem of the basics about the maintenance of function by this lecture.

※ Pediatric Hematology and Oncology

The aim of this course is to understand the development and basic pathogenesis of childhood hematologic malignancies, solid tumors, principles of treatment, and concepts of long-term follow-up.

Community and Homecare Medicine in Oncology

The aim of this course is to acquire the knowledge and skills on clinical oncology, to improve the quality of oncological medical care in community hospitals in cooperation with specialists in other departments, and to acquire the abilities to provide homecare medicine for patients with advanced cancer.

※Therapeutics of Clinical Oncology

The aim of this course is to acquire a deep knowledge and high skills of clinical oncology including surgical treatments, radiation therapy, drug therapies and palliative care and to acquire abilities to provide safety medical oncological care.

理学療法研究領域 *Physical Therapy Research Field*

理学療法基礎科学

本科目では、理学療法の臨床を支える基礎科学の最先端を学ぶ。廃用症候群やリンパの鬱滞による機能障害、脳虚血による神経機能の障害の病態に加え、ブレインマシンインターフェースや AI などの工学的技術による補完までカバーする。

神経・運動器連関理学療法学

本演習では、神経科学およびバイオメカニクスそれぞれの知識、技術だけでなく、これらの連関機構を明らかにできる臨床能力および研究能力を有する理学療法士および理学療法に関わる研究者を育成する。

Scientific Basis of Physical Therapy

The aim of this course is to introduce the cutting-edge research supporting clinical practice of physical therapy. Specifically, topics including disuse syndrome, lymph microcirculation, ischemia/reperfusion injury, and brain-machine-interface and artificial intelligence will be covered.

Nervous and Motor System-Related Physical Therapy

In this practice, we will not only lecture the individual knowledges and techniques in neuroscience and biomechanics, but also train the physical therapist and researchers who can clarify these brain-movement relationships.

全領域共通の選択必修 Compulsory elective**研究推進実践論**

- (実践セミナー) 実験の手法や手技、各分野に共通した基本的理論修得のために必要な最新の医学・医療知識を学ぶことにより、研究着手に際して必要な技術を習得する。
- (大学院セミナー) 教授・准教授による専門性を凝縮した講義で、個別の研究に幅を持たせ、診療に従事する際の視野を広げる。

これらを年間を通じた日程で行うが、社会人学生には都合に合わせて選択履修が可能な措置を講ずる。

- (地域医療実践) 社会人学生で、特に地域医療にかかわる者にあつては、指導教員と協議の上で地域医療実践計画書を作成し、上記セミナーでの講義と共に自らが携わる医療現場での症例経験を検討し、地域医療現場での業務の発表や報告書の提出をもって、講義の一部に換えて評価する場合もある。

医療英語

医療英語語彙を習得し、医学英語論文理解・作成のためのリーディングとライティング技能を錬成する。

医療英会話

医療英語語彙を習得し、学会でポスターおよび口頭発表を行うことができる英語のスピーキング・リスニング技能を錬成する。

生命倫理学

臨床倫理と研究倫理の歴史と概要を俯瞰する。その上で、個別の倫理的課題について主体的に学習する。

※医学統計

医学研究計画の型、データの整理、標本分布、推定と検定、回帰分析、実験計画法、数理感染症モデルを講義する。また、実際の医学研究での統計解析例も紹介する。

医療情報システム学

病院情報システム全般を理解すると共に、診療情報から研究用のデータベースを作成する際に必要な知識と技術を習得する。

※は担当教員不在のため、令和6年度は開講しません。

Practice & Progress on Research

In practice seminars, we learn the latest experimental methods which are basic and commonly used in each research field at the beginning of the course.

In research seminars, the professors and the associate professors will give lectures in their research fields. The graduate students will have chance of getting hints or inspiration in their own research.

In medical practice, the graduate students, who work in clinics, will report the cases in the clinical meetings or in the clinical journals instead of taking seminars.

Medical English

The purpose of the course is to improve students' English academic reading and writing skills through the study of medical research papers.

Medical English Conversation

The purpose of the course is to improve students' English speaking and listening skills for oral presentations at medical conferences.

Bioethics

This course will provide an overview of the history and current state of clinical and research ethics. Subsequently, students will be asked to think and discuss about various ethical problems.

※ Biostatistics

In this subject, the following contents are introduced: (i) common types of biomedical studies; (ii) descriptive statistical methods; (iii) sampling distributions; (iv) parameter estimation and tests of hypotheses; (v) regression analysis and experimental designs; and mathematical epidemic models. Examples of practical data analyses are also provided.

Medical Informatics

The purpose is to understand the integrated hospital information system of the university hospital, and to get the knowledge and the method to construct the research database from the electronic medical records.

修士課程 Master's Program

教育目的 Educational Purpose

医療全般にわたって広い視野と高い見識を持ち、優れた指導力を持った教育者、研究者及び国際社会に貢献できる人材を育成する。

Students are trained to be educators and researchers with a broad outlook, good sense of judgment and leadership abilities who will contribute to the international society.

看護学専攻 Department of Nursing Science

教育目標

社会や保健・医療・福祉の変化を見据え、看護の質向上を実現できる実践力を養い、看護実践・看護管理・看護教育の場でリーダーシップを発揮できる高度専門職業人の養成を目指す。

Educational Goals

The course aims to train students to become professionals who possess advanced skills to improve the quality of nursing care, and who can exercise leadership in nursing practice, nursing management, and nursing education.

【看護研究コース】

変動する社会の要請に応え得る質の高い看護活動（個人・集団への看護実践とその管理ならびに看護教育）を創造し、改革するための諸理論と方法を修得する。

【Nursing research course】

Students will acquire theories and methods to create and reform high-quality nursing care (nursing practice for both individuals and groups, management, and nursing education), which can meet the demands of a changing society.

【専門看護師コース(がん看護、クリティカルケア看護、老年看護)】

専門看護師としての高度実践能力を培う。各分野のコースを修了することにより専門看護師（がん看護、急性・重症患者看護、老人看護）の認定試験の受験資格を取得できる。

【Certified Nurse Specialist course (Cancer Nursing, Critical Care Nursing, Gerontological Nursing)】

Students will acquire specialized knowledge and advanced practical skills in each field of study, and will become qualified to take the certification examinations for Certified Nurse Specialist in Cancer Nursing, Certified Nurse Specialist in Critical Care Nursing, and Certified Nurse Specialist in Gerontological Nursing.

学生数等 Student Statistics

大学院医学系研究科学生数

令和6年4月1日現在

Graduate Students

(as of April 1, 2024)

区 分 Classification	修 士 課 程 Master's Program		
	医科学 Medical Science	看護学 Nursing	計 Total
入 学 定 員 Admission Quota		10	10
収 容 定 員 Capacity		20	20
1 学 年 1st yr.	(0) 0	(1) 3	(1) 3
2 学 年 2nd yr.	(0) 1	(9) 10	(9) 11
計 Total	(0) 1	(10) 13	(10) 14

区 分 Classification	博 士 課 程 Doctoral Program	
	医学専攻 Philosophy in Medical Science	
入 学 定 員 Admission Quota	30	
収 容 定 員 Capacity	120	
1 学 年 1st yr.	(6) 24	
2 学 年 2nd yr.	(14) 29	
3 学 年 3rd yr.	(8) 25	
4 学 年 4th yr.	(17) 56	
計 Total	(45) 134	

備考 () 内は女子を内数で示す。

Note : () indicates the number of female students included.

日本学生支援機構奨学生数

令和6年4月1日現在

Japan Student Services Organization

(as of April 1, 2024)

区 分 Classification	修士課程 School of Medicine (Master's Program)			博士課程 School of Medicine (Doctoral Program)				
	1 学年 1st yr.	2 学年 2nd yr.	計 Total	1 学年 1st yr.	2 学年 2nd yr.	3 学年 3rd yr.	4 学年 4th yr.	計 Total
第 一 種 Cat. 1	0	0	0	0	0	0	0	0
第 二 種 Cat. 2	0	0	0	0	0	0	0	0
計 Total	0	0	0	0	0	0	0	0

学位授与数（博士・修士）

Number of Degrees Conferred

区 分 Classification		～平成 26 年度 ～2014 *	平成 27 年度 2015	平成 28 年度 2016	平成 29 年度 2017	平成 30 年度 2018	令和 元年度 2019	令和 2 年度 2020	令和 3 年度 2021	令和 4 年度 2022	令和 5 年度 2023	計 Total
博士(医学) Doctor of Philosophy (Medicine)	課 程 修 了 者 Degrees Awarded	545	17	17	17	21	18	26	18	22	14	715
	論 文 提 出 者 Theses Accepted	332	7	3	7	5	6	4	9	9	9	391
修士(医学) Master's Degree (Medicine)	課 程 修 了 者 Degrees Awarded	93	3	12	7	7	4	4	5	1	1	137
修士(看護学) Master's Degree (Nursing)	課 程 修 了 者 Degrees Awarded	136	3	4	8	2	4	5	5	4	2	173

* 博士（医学）：昭和62年度～平成26年度、修士（医学）：平成16年度～平成26年度、修士（看護学）：平成11年度～平成26年度

* Doctor of Philosophy (Medicine) : 1987～2014, Master's Degree (Medicine) : 2004～2014, Master's Degree (Nursing) : 1999～2014

関連教育病院 Affiliated Teaching Hospital

大分大学医学部の関連教育病院である大分県立病院、大分赤十字病院、大分市医師会立アルメイダ病院では、学生が救急医療を含む多くの症例を経験することができます。

Medical students can experience treating a variety of medical cases, including emergency treatment, in Oita Prefectural Hospital, Oita Red Cross Hospital and Almeida Memorial Hospital the affiliated teaching hospital of the Faculty of Medicine at Oita University.

病 院 名 Hospitals	所 在 地 Address	電 話 番 号 Telephone NO.
大 分 県 立 病 院 Oita Prefectural Hospital	〒870-8511 大分市豊饒2丁目8-1 8-1, Bunyo 2-chome, Oita City, 870-8511 Japan	(097) 546-7111 (電話案内) (Information)
大 分 赤 十 字 病 院 Oita Red Cross Hospital	〒870-0033 大分市千代町3丁目2-37 2-37, 3-chome, Chiyo-machi Oita City, 870-0033 Japan	(097) 532-6181 (代表) (Representative)
大分市医師会立アルメイダ病院 Almeida Memorial Hospital	〒870-1195 大分市大字宮崎1509-2 1509-2 miyazaki Oita City, 870-1195 Japan	(097) 569-3121 (代表) (Representative)

国際交流の意義は、国際社会の発達に貢献するため、新たな文化の創造による社会の発展への寄与、日本社会の国際化、日本への関心の高まりに対する対応、人づくりなどに対する国際交流・協力である。

本学部においては、外国人留学生・研究者等の受け入れ、国際研究プロジェクトへの参加、海外の大学等との交流協定締結、国際協力事業への参加等の国際交流により国際社会への貢献を果たしている。このうち、外国人留学生・研究者等の受け入れ、海外の大学等との交流協定締結は次のとおりである。

International exchange plays a major role in the development of global consciousness and culture, and assists in the 'internationalization' of Japanese society. It also assists in the development of specialist human resources.

To this end, the school welcomes foreign students and researchers. It participates in, and co-operates with, international research projects and has exchange agreements with a number of overseas universities. Statistics on foreign students, research staff and universities are detailed below.

交流協定締結校

令和6年4月1日現在

Sister Universities

(as of April 1, 2024)

大学名等 Universities and Hospitals	国名 Country	協定締結日 Date of Conclusion of Exchange Agreement	
サントドミンゴ自治大学 Autonomous University of Santo Domingo	ドミニカ共和国 Dominican Republic	平成元年12月14日 Dec. 14. 1989	大学間協定
河北医科大学 Hebei Medical University	中華人民共和国 People's Republic of China	平成4年1月26日 Jan. 26. 1992	学部間協定
ルイス・エドワルド・アイバル病院 Dr. Luis E. Aybar Hospital	ドミニカ共和国 Dominican Republic	平成9年1月1日 Jan. 1. 1997	学部間協定
高麗大学校 Korea University	大韓民国 Republic of Korea	平成16年2月20日 Feb. 20. 2004	大学間協定
サン・ラザロ病院 San Lazaro Hospital	フィリピン共和国 Republic of the Philippines	平成18年9月25日 Sep. 25. 2006	大学間協定
セントルークス病院 St. Luke's Medical Center	フィリピン共和国 Republic of the Philippines	平成19年9月25日 Sep. 25. 2007	大学間協定
ハノイ医科大学 Hanoi Medical University	ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam	平成20年10月23日 Oct. 23. 2008	大学間協定
ホーチミン医科薬科大学 Ho Chi Minh City University of Medicine and Pharmacy	ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam	平成20年10月24日 Oct. 24. 2008	大学間協定
チョーライ病院 Chó Ray Hospital	ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam	平成20年10月24日 Oct. 24. 2008	大学間協定
108病院 108 Hospital	ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam	平成21年11月16日 Nov. 16. 2009	大学間協定
高雄医学大学 Kaohsiung Medical University	台湾 Taiwan	平成22年4月27日 Apr. 27. 2010	学部間協定
国立台湾大学 National Taiwan University	台湾 Taiwan	平成23年10月17日 Oct. 17. 2011	学部間協定
アイルランガ大学熱帯病研究所 Airlangga University Institute of Tropical Disease	インドネシア共和国 Republic of Indonesia	平成25年4月17日 Apr. 17. 2013	学部間協定
サントトマス大学 Santo Tomas University	フィリピン共和国 Republic of the Philippines	平成25年9月13日 Sep. 13. 2013	学部間協定
ラチャウィティ病院 Rajavithi Hospital	タイ王国 The Kingdom of Thailand	平成27年1月7日 Jan. 7. 2015	大学間協定
第3国家中央病院 The Third State Central Hospital	モンゴル Mongolia	平成27年5月6日 May 6. 2015	学部間協定
マヒドン大学 Mahidol University	タイ王国 The Kingdom of Thailand	平成27年8月24日 Aug. 24. 2015	大学間協定
I.M.セチェノフ名称モスクワ国立第一医科大学 I.M. Sechenov First Moscow State Medical University	ロシア連邦 Russian Federation	平成28年11月30日 Nov. 30. 2016	大学間協定
ピラゴフ名称ロシア国立研究医科大学 Pirogov Russian National Research Medical University (RNRMU)	ロシア連邦 Russian Federation	平成29年3月10日 Mar. 10. 2017	大学間協定

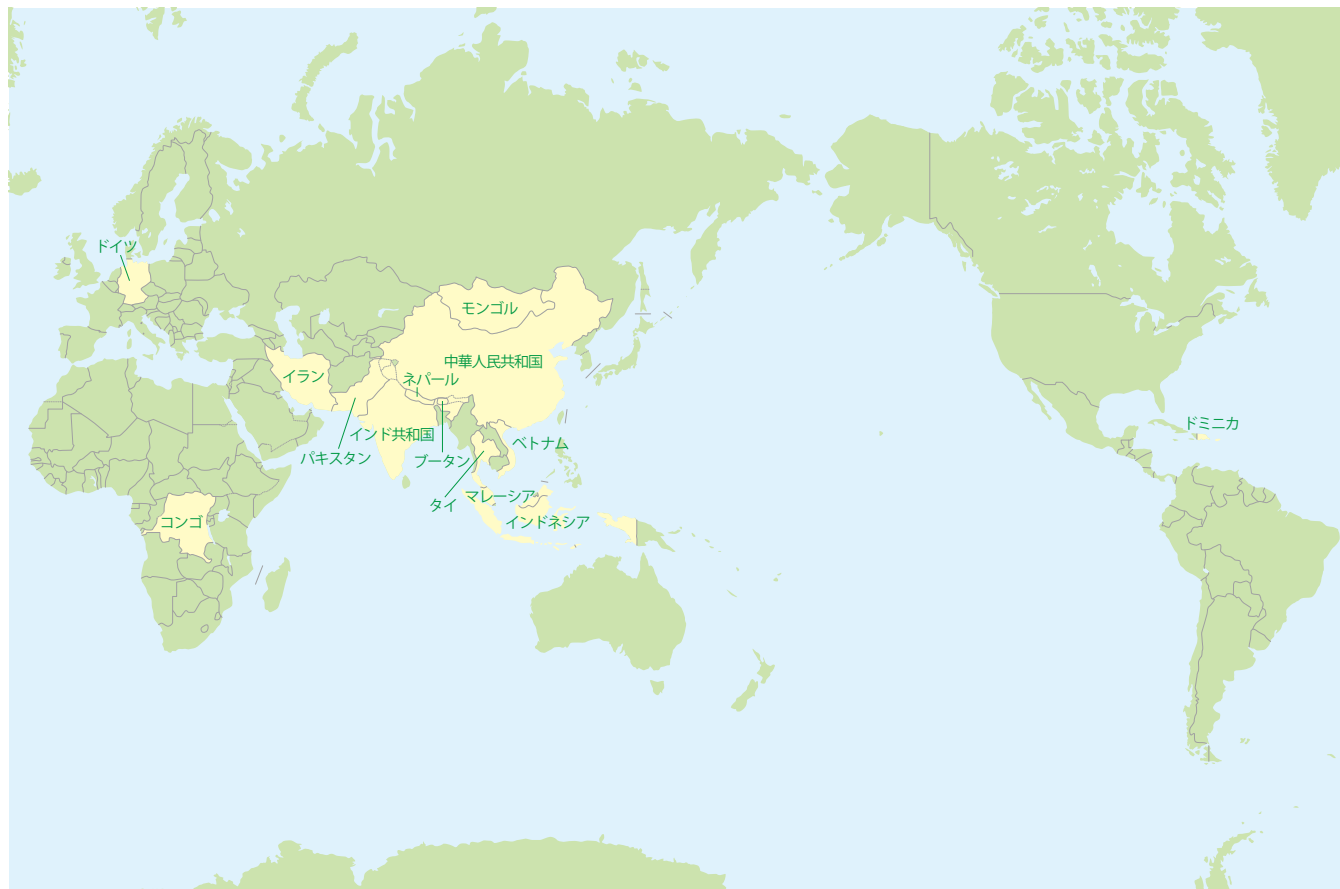
大学名等 Universities and Hospitals	国名 Country	協定締結日 Date of Conclusion of Exchange Agreement	
オムスク国立医科大学 Omsk F.M. Dostoevsky State University	ロシア連邦 Russian Federation	平成29年10月16日 Oct. 16. 2017	大学間協定
カトマンズ大学医学部 Kathmandu University School of Medical Sciences	ネパール連邦民主共和国 Federal Democratic Republic of Nepal	平成30年 2月 8日 Feb. 8. 2018	学部間協定
マレーシア国立サバ大学 University Malaysia Sabah	マレーシア Malaysia	平成30年 7月13日 Jul. 13. 2018	大学間協定
アルファイサル大学 Alfaisal University	サウジアラビア Kingdom of Saudi Arabia	平成30年 8月 4日 Aug. 4. 2018	大学間協定
バクマイ病院 Bach Mai Hospital	ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam	平成30年 9月29日 Sep. 29. 2018	大学間協定
セントポール病院 St.Paul's Hospital	ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam	平成30年11月 6日 Nov. 6. 2018	大学間協定
ケニア医学研究所 Kenya Medical Research Institute	ケニア Kenya	平成30年11月 8日 Nov. 8. 2018	大学間協定
アイルランガ大学 Airlangga University	インドネシア共和国 Republic of Indonesia	平成31年 2月26日 Feb. 26. 2019	大学間協定
クラコフ名称産科・婦人科・新生児科学センター National Medical Research Center for Obstetrics, Gynecology and Perinatology named after Academician V.I.Kulakov	ロシア連邦 Russian Federation	令和元年 6月 5日 Jun. 5. 2019	大学間協定
フエ医科薬科大学 Hue University of Medicine and Pharmacy	ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam	令和元年10月 8日 Oct. 8. 2019	大学間協定
タマサート大学 Thammasat University	タイ王国 The Kingdom of Thailand	令和元年11月11日 Nov. 11. 2019	大学間協定
カルメット病院 Calmette Hospital	カンボジア王国 Kingdom of Cambodia	令和元年11月29日 Nov. 29. 2019	大学間協定
ケサル・ギャルポ医科学大学 Khesar Gyalpo University of Medical Sciences of Bhutan	ブータン王国 Kingdom of Bhutan	令和元年12月26日 Dec. 26. 2019	大学間協定
ハインリッヒ ハイネ デュッセルドルフ大学 Heinrich Heine University Düsseldorf	ドイツ連邦共和国 Federal Republic of Germany	令和 2年 6月 4日 Jun. 4. 2020	大学間協定
セメイ医科大学 Semey Medical University	カザフスタン共和国 Republic of Kazakhstan	令和 3年 2月16日 Feb. 16. 2021	大学間協定
香港中文大学 The Chinese University of Hong Kong	中華人民共和国 People's Republic of China	令和 3年 9月30日 Sep. 30. 2021	学部間協定
ムブジマイ大学 Mbuji-Mayi University	コンゴ民主共和国 Democratic Republic of the Congo	令和 4年 3月29日 Mar. 29. 2022	大学間協定
マハーサーラーム大学 Mahasarakham University	タイ王国 The Kingdom of Thailand	令和 4年11月21日 Nov. 21. 2022	大学間協定
小児第2病院 Children's Hospital 2	ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam	令和 5年 6月 2日 Jun. 2. 2023	大学間協定
プリンス・オブ・ソンクラ大学 Prince of Songkla University	タイ王国 The Kingdom of Thailand	令和 5年 8月10日 Aug. 10. 2023	大学間協定
モンゴル国立医科大学 Mongolian National University of Medical Sciences	モンゴル Mongolia	令和 5年10月20日 Oct. 20. 2023	大学間協定
チュラロンコン大学 Chulalongkorn University	タイ王国 The Kingdom of Thailand	令和 5年11月14日 Nov. 14. 2023	大学間協定
プリンス・オブ・ソンクラ大学医学部 Prince of Songkla University Faculty of Medicine	タイ王国 The Kingdom of Thailand	令和 5年12月12日 Dec. 12. 2023	学部間協定
パジャジャラン大学医学部 Padjajaran University Faculty of Medicine	インドネシア共和国 Republic of Indonesia	令和 6年 1月29日 Jan. 29. 2024	学部間協定
ハサン・サディキン・バンドン総合病院 Hasan Sadikin General Hospital Bandung	インドネシア共和国 Republic of Indonesia	令和 6年 1月29日 Jan. 29. 2024	学部間協定

国別外国人留学生数及び外国人研究者等数

(令和5年度)

Number of Foreign Students, Foreign Researchers and Visitors by Countries

(in 2023)



	外国人留学生数 Foreign Students	外国人研究者等数 Foreign Researchers and Visitors	計 Total
中 華 人 民 共 和 国 People's Republic of China	4	4	8
ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam	1	4	5
タ イ 王 国 Kingdom of Thailand	1	1	2
ド ミ ニ カ 共 和 国 Dominican Republic	0	1	1
ネパール連邦民主共和国 Federal Democratic Republic of Nepal	0	1	1
ド イ ツ 連 邦 共 和 国 Federal Republic of Germany	0	1	1
イ ン ド ネ シ ア 共 和 国 Republic of Indonesia	9	2	11
モ ン ゴ ル Mongolia	2	0	2
コ ン ゴ 民 主 共 和 国 Democratic Republic of the Congo	2	0	2
ブ ー タ ン 王 国 Kingdom of Bhutan	2	0	2
マ レ ー シ ア Malaysia	1	0	1
イ ン ド 共 和 国 Republic of India	1	0	1
パキスタン・イスラム共和国 Islamic Republic of Pakistan	1	0	1
イラン・イスラム共和国 Islamic Republic of Iran	1	0	1
合 計 Total	25	14	39

大分大学医学部附属病院の理念・基本方針・患者さんの権利

理念

本院は、「患者本位の最良の医療」を基本理念とする。さらに、豊かな人間性と高い倫理観を備えた医療人を育成し、先端医療の開発と安心・安全な医療の提供をとおして、地域社会の福祉に貢献する。

idea

Our vision is to provide the best patient-centered medical care. We foster medical personnel with rich humanity and high ethical standards, and contribute to the well-being of the community by developing new medical technology and offering safe/secure medical care.

基本方針

- 本院は、
- 一 患者本位の医療を実践する。
 - 一 医療の質及び安全性の向上に努める。
 - 一 医学、医療の発展と地域医療の向上に寄与する。
 - 一 教育、研究、研修の充実を図る。
 - 一 病院の管理・運営の合理化を推進する。

Basic Policy

- We practice patient-centered medicine.
- We improve the safety and quality of medical care and treatment.
- We strive to conduct new medical research and to contribute to community medicine.
- We work to improve education, research and training.
- We promote more efficient hospital management and administration.

患者さんの権利

- 個人の尊厳が尊重され、良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気、検査、治療などについて、十分な説明を受け、理解した後、治療方法などを自らの意思で同意又は拒否を選択することができます。
- 自分の診療記録について、本院の規則に則って情報の提供を求めることができます。
- 診療における個人情報を守られ、プライバシーが最大限尊重されます。
- 教育実習及び研究の協力者となることを断ることができます。
- 医療行為の選択にあたっては、他の医療機関を選択することができます。
- 診断や治療方法について、他の医療者の意見（セカンドオピニオン）を求めることができます。
- 身体の不自由な方、外国人の方にも、できる限りの支援をいたします。

Patient's right

- The personal dignity is esteemed, and a good quality medical treatment can be received impartially.
- After an enough explanation is received about the sickness and the inspection and treatment, etc., and it understands, the method of treatment etc. can select agreement or the refusal by an own intention.
- The giving information of my diagnosis and treatment record can be requested in accordance with the rule of the our hospital.
- Individual information in the diagnosis and treatment is defended, and privacy is maximum esteemed.
- It can be refused to become the cooperator of the student teaching and the research.
- When the medical practice is selected, other medical institutions can be selected.
- Other medical treatment people's opinions (second opinion) of the diagnosis and the method of treatment can be requested.
- I will support it for making it to physically handicapped one and the foreigner.



こどもの患者さんの権利

おおいただいがくいがくぶふぞくびょういん
大分大学医学部附属病院

この病院で医療（身体と心の健康を守るためのお手伝い）を受けるすべての子どもたちが、
当たり前にもっていて、求めることができるもの（権利）をお知らせします。

- みなさんは、人として大切にされます。
- みなさんは、一番よいと考えられる医療を受けることができます。
- みなさんは、安心・安全な場所で医療を受けることができます。
- みなさんは、大切な人と一緒に医療を受けることができます。
- みなさんは、自分が受ける医療のことについて、わかりやすく教えてもらうことができます。
- みなさんは、自分の気持ちを伝えたり、方法を選んだりできます。
- みなさんは、差別や、身体と心を傷つけられることから守られます。
- みなさんは、ほかの人に知られたくない秘密は守られます。
- みなさんは、病院にいても遊んだり、勉強したりすることができます。
- みなさんは、将来にわたって、身体と心の健康を支えてもらうことができます。



Child Patient's Rights

- You will be treated with respect as an individual.
- You can receive the medical care that is considered to be the best for you.
- You can receive medical care in a safe and secure place.
- You can receive medical care together with your loved ones.
- You will receive a clear explanation of the treatment you will receive.
- You can express your feelings and choose your treatment.
- You will be protected from discrimination and from being physically and emotionally harmed.
- Secrets that you do not want other people to know will be protected.
- You can play and study while you are in the hospital.
- Your physical and mental health will be supported.

診療科

Clinical Departments

■ 呼吸器・感染症内科

Respiratory Medicine and Infectious Diseases

呼吸器疾患は腫瘍性疾患，感染性疾患，閉塞性肺疾患，アレルギー性肺疾患，間質性肺疾患，胸膜および縦隔疾患など比類ないほど多岐にわたっている。

肺腫瘍や慢性閉塞性肺疾患（COPD；肺の生活習慣病，タバコ病）は年々増加傾向にある疾患である。当科ではエビデンスに基づいた治療内容を導入し，適切な診断・治療法を提供する体制を整えている。

肺炎などの呼吸器感染症は，適切な検査法を用いて迅速に診断し，ガイドラインを基に的確な抗菌薬を選択し治療を行っている。新規抗菌薬による治療も行っている。

喘息は，吸入ステロイド剤を中心とした新たな治療法と患者教育の充実を図り，予防およびピークフローメーターによる自己管理・吸入療法の指導をしている。

びまん性肺疾患は，診断・治療が難しく，抗原の検索や組織学的な診断を踏まえた診療が必要な疾患である。特にサルコイドーシスや特発性間質性肺炎は，気管支鏡による気管支肺泡洗浄液の解析や，胸腔鏡下肺生検を施行し，専門的な確実な診断をつける大分県の中核的な医療機関として，多数の患者さんの診療にあたっている。

当科は内科学会，呼吸器学会，呼吸器内視鏡学会，感染症学会，臨床腫瘍学会，アレルギー学会認定施設であり，多くの呼吸器専門医，感染症専門医，アレルギー専門医が常在しており，これら疾患全般について幅広く診療を行い，的確な診断と治療および病態の把握を行っている。

We treat various diseases including lung cancer, respiratory infections, allergic lung disease, interstitial lung disease, and plural and mediastinal disease.

Lung cancer and pulmonary emphysema (COPD: chronic obstructive lung disease) are increasing year by year. The content of the treatment on evidence is introduced in this department, and we have the system of supplying an advanced diagnosis and treatment method.

Respiratory infectious diseases such as pneumonia are diagnosed with the appropriate inspection method quickly. We select an adequate antibiotic based on the guideline. We are studying the new antimicrobial agents for the common and/or severe respiratory infection.

For the asthma, we plan a new treatment mainly on inhalation steroid and substantiality of patient education. We teach the self-management and inhalation treatment using a peak flow meter to prevent the asthma.

The diagnosis and treatment of the diffuse lung diseases are difficult. These diseases should be examined and treated on the basis of an antigen and histological diagnosis. Especially, for the sarcoidosis and interstitial lung disease, we analyze bronchoalveolar lavage fluid and lung biopsy by a bronchoscopy and a thoracoscopy. A lot of patients with these diseases are examined and treated in this institution as the medical center of Oita Prefecture where a certain diagnosis is applied.

Our department is an authorization institution of The Japanese Society of Internal Medicine, The Japanese Respiratory Society, The Japanese Society for Respiratory Endoscopy, The Japanese Association for Infectious Diseases, The Japanese Society of Medical Oncology, and The Japanese Society of Allergology. Many regular staffs of specialists of respiratory disease, infectious disease and allergic disease are working in this department. We make an adequate diagnosis and treatment, and grasp the condition of a patient by widely treating these diseases whole.

■ 内分泌・糖尿病内科 Endocrinology, Diabetology and Metabolism

Website



内分泌・糖尿病内科では，肥満，糖尿病，高血圧症，代謝性疾患といった生活習慣病と内分泌疾患などの診療を担当している。我々は外来で内分泌検査を実施し，見逃されやすい内分泌疾患のスクリーニングを積極的に行い，治療可能な原発性アルドステロン症などの二次性高血圧を早期に発見して治療を行っている。日本および米国の原発性アルドステロン症診療ガイドライン作成にも関わり，高血圧診療では高い評価を得ている。また，肥満症治療においてもオリジナリティの高い行動療法を実践しており，この分野では日本をリードしている。高度肥満症の治療では，肥満外科と管理栄養士とのチーム医療により，よい成績をおさめている。また，大分大学—大分県医師会—大分県の三者の連携締結に基づいて，大学が関わる初めての取組み「大分県糖尿病性腎症重症化予防事業」の一環で，糖尿病性腎症重症化予防専門外来を設置し，地域医療機関への助言などを行うことで，県内の透析導入者数削減への取り組みも開始している。

Our expert physicians specialize in the prevention, diagnosis and treatment of life style-related diseases, such as obesity, diabetes, hypertension, metabolic and endocrine. We are extensively doing endocrine screening tests to search patients with curable secondary hypertension such as primary aldosteronism. We are involved in the development of primary aldosteronism clinical practice guideline in Japan as well as US. We also apply the unique behavioral therapy for the treatment of obesity. We garner immense praise from clinical practice of primary aldosteronism and obesity. Our medical team with metabolic surgeons and dieticians produces good results for treatment of morbid obesity. Based on the cooperation conclusion among Oita University, Oita Medical Association, and Oita Prefecture, we develop "Diabetic Nephropathy Aggravation Specialized Clinic" as a part of the Oita Prevention Service of Diabetic Nephropathy Aggravation to reduce patients with dialysis introduction. We would also try to give suggestions to several hospitals where board-certified diabetologist and board-certified nephrologist are lacking.

膠原病内科 Rheumatology



Website

我々膠原病内科では、全身性自己免疫疾患である関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、皮膚筋炎 / 多発性筋炎、混合性結合組織病、シェーグレン症候群、高安動脈炎、巨細胞性動脈炎、結節性多発動脈炎、ANCA 関連血管炎（顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症）、ベーチェット病、成人スチル病、リウマチ性多発筋痛症、脊椎関節炎、IgG4 関連疾患、自己炎症症候群などの診療を行っている。薬物療法としては従来のグルココルチコイドや抗リウマチ薬に加え、新規の免疫抑制剤や生物学的製剤などが次々と開発され、予後は大きく改善してきている。特に生物学的製剤は高い有効性を示し、関節リウマチ治療にパラダイムシフトを起こしただけでなく、近年は他の膠原病治療にも適応が拡大されつつある。膠原病は全身の多臓器に病変が及ぶことがあるため、各臓器専門の診療科と連携をとりながら、大分県の中核的医療施設として免疫難病の克服を目指した診療を行っている。

In the department of Rheumatology we treat rheumatic diseases (systemic autoimmune diseases, connective tissue diseases, collagen diseases), such as rheumatoid arthritis (RA), systemic lupus erythematosus (SLE), systemic sclerosis, dermatomyositis / polymyositis, mixed connective tissue disease, Sjögren's syndrome, Takayasu's arteritis, giant cell arteritis, polyarteritis nodosa, ANCA associated vasculitis (microscopic polyangiitis, granulomatosis with polyangiitis, eosinophilic granulomatosis with polyangiitis), Behçet's disease, adult Still's disease, and polymyalgia rheumatica, spondyloarthropathy, IgG4 related disease, autoinflammatory syndrome etc. Although glucocorticoids, DMARDs and immunosuppressants are the gold standard of the treatment, pharmacological management of rheumatic diseases has been rapidly progressed in recent years due to the development of various novel agents including biologic agents and small molecule inhibitors of intracellular signal transduction. Introduction of biologic agents caused a paradigm shift in the treatment of RA, and these new therapeutic approaches are being introduced in the treatment of other systemic autoimmune and/or inflammatory diseases. Because rheumatic diseases can affect multiple organs, we cooperate with other medical specialists in many cases to make every possible effort to treat patients, as the core hospital of Oita Prefecture.

腎臓内科 Nephrology



Website

腎臓内科は、初期から末期までの腎疾患の診療を行う。検尿異常や急性の腎機能障害の患者さんには、可能な限り腎生検を施行し確定診断を行うよう努める。治療はステロイド・免疫抑制薬など薬物療法が中心であるが、重症例には体外循環による治療（血漿交換、LDL アフェレーシス、など）も行う。

また、管理栄養士との連携により、慢性腎臓病の食事・生活指導を行う。腎不全で腎代替療法（血液透析・腹膜透析・腎移植）が必要な場合は、患者さんと相談の上、治療の選択を行う。腎代替療法においては腎泌尿器外科と連携して治療にあたっている。

また、我々は糖尿病内科と連携し糖尿病性腎臓病重症化予防外来を開始した。糖尿病性腎臓病は我が国において末期腎不全の原因の一位である。進行例では治療に難渋することが多い。最も大事な初期に糖尿病性腎臓病を腎臓内科医師、糖尿病内科医師、看護師、栄養士が包括的に管理し、末期腎不全への進行抑制を図りたいと考えている。

Nephrology Department provides medical care for various stages of kidney diseases. We perform kidney biopsy to make diagnosis with urinary abnormalities and/or kidney dysfunction, and we mainly treat with steroid and/or immunosuppressive drugs in patients with glomerulonephritis and interstitial nephritis. We also perform blood purification therapy including plasma exchange and LDL apheresis.

At the Chronic Kidney Disease Clinic, a team approach is used, and a doctor, nurse, dietician, and pharmacist cooperate in the medical treatment and education of patients. This group of specialists is involved in the entire flow of treatment from pre-dialysis disease through peritoneal dialysis, hemodialysis and renal transplantation. We are cooperating with the Department of Urology in renal replacement therapy.

We have started an outpatient clinic to prevent aggravation of diabetic kidney disease in collaboration with the Department of Diabetes and Endocrinology. Since treatment is often difficult in advanced cases, we would like to manage diabetic kidney disease from the early stage in collaboration with nephrologists, diabetic physicians, nurses, and nutritionists to control the progression to end-stage renal disease.

脳神経内科 Neurology

Website



脳神経内科は、脳、脊髄、末梢神経、自律神経や筋肉の病気を対象とする分野である。患者は、(1) 頭痛 (2) 意識障害 (3) けいれん (4) 運動麻痺 (5) 痛みと感覚障害 (神経痛やしびれなど) (6) 視力障害 (7) めまい (8) 耳鳴り、難聴 (9) 言語障害 (10) 嚥下障害 (11) 不随意運動 (12) 物忘れ、認知障害、知能障害などの症状を訴えて受診される。それには脳卒中・脳血管障害、脳炎・髄膜炎、HTLV-I 関連脊髄症 (HAM)、頭痛、めまい、てんかん、不随意運動 (振戦、眼瞼痙攣、痙攣斜頸、書痙など)、認知症 (アルツハイマー病、クロイツフェルト・ヤコブ病)、パーキンソン病、ハンチントン舞蹈病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、運動ニューロン疾患 (筋萎縮性側索硬化症 (ALS)、脊髄性筋萎縮症など)、末梢神経疾患 (ギラン・バレー症候群、糖尿病性ニューロパチー、中毒性ニューロパチーなど)、筋疾患 (重症筋無力症、筋ジストロフィー、多発筋炎、皮膚筋炎など)、膠原病、糖尿病、内分泌疾患や癌などの全身疾患に合併する神経疾患など、数多くの疾患が含まれる。これらの多くは熟練した神経内科専門医が行う系統的な診察および特殊診断によりはじめて診断される。当科は日本神経学会教育施設であり、神経内科領域全般にわたる疾患の診断と治療を行っているが、とくに脳卒中、認知症、パーキンソン病、筋萎縮や筋力低下を主徴とする神経筋疾患の診療については成因解明と治療法の開発を含め積極的に取り組んでいる。また、ALSをはじめ種々の神経難病に対する療養支援も関連機関と連携して実施している。

We treat with diseases of the brain, spinal cord, peripheral and autonomic nerves, and muscle. The patients complain of various neurologic symptoms including (1) headache, (2) unconsciousness, (3) convulsion, (4) motor paralysis, (5) pain and sensory disturbance, (6) visual disturbance, (7) vertigo/dizziness, (8) tinnitus and hearing loss, (9) speech disturbance, (10) dysphagia, (11) involuntary movement, (12) forgetfulness and dementia. We treat any kinds of neurological diseases including stroke, cerebrovascular diseases, encephalitis and meningitis, HTLV-I associated myelopathy (HAM), migraine, vertigo, epilepsy, involuntary movement (tremor, blepharospasm, spasmodic torticollis, and writer's cramp), dementia (Alzheimer's disease, Creutzfeldt-Jakob disease), Parkinson's disease, Huntington's chorea, spinocerebellar degeneration, multiple sclerosis, ALS, peripheral neuropathy (Guillain-Barre syndrome, diabetic neuropathy, and toxic neuropathy), myopathy (myasthenia gravis, muscular dystrophy, polymyositis, and dermatomyositis), and neurologic diseases associated with systemic diseases including collagen disease and cancer. Most of these diseases are diagnosed according to the systematic neurologic examination and specific tests by neurologic specialists. Our hospital has been approved to be the educational institution for neurology resident training by Japanese Society of Neurology. In addition to our medical service on a wide variety of neurologic diseases, we focus mainly on the pathogenesis and treatment of stroke, dementia, Parkinson's disease, and neuromuscular diseases. We also provide medical and social care services for patients with intractable neurologic diseases, cooperating with the patient association and co-medical staffs.

消化器内科 Gastroenterology



Website

消化器内科では、臓器別にみると上部消化管、下部消化管、肝疾患、胆膵疾患に大別される。最近、消化器疾患の診断面、治療面、病態生理解明において著しい進歩と展開がみられる。消化器癌の治療は、従来、開腹手術、開胸手術が主流だったが、近年、内視鏡的診断・治療が大いに進歩している。当院では、胃や大腸のポリープ・粘膜下腫瘍・早期癌に対し超音波内視鏡などを駆使して確定診断をおこなっている。また、治療としては、ポリーペクトミーや粘膜切除術（EMR）、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を積極的に施行している。食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切開術（Per-oral Endoscopic Myotomy: POEM）は先進医療として施行してきたが、2016年4月より、当院を含む適用基準を満たす施設において保険適用となった。

従来、診断治療が困難であった小腸病変に対しても、カプセル内視鏡やバルーン小腸内視鏡を用いた診断・治療を行っている。

胆膵疾患に対しては最先端の診断・治療を高い技術水準で提供している。特に早期発見が非常に困難な膵癌に関しても、リスク因子や画像所見から検査対象者を絞り込み、EUSを用いた詳細な画像診断を経て ERCP による術前診断により早期治療に至るメソッドを提供し、エビデンスとしても多数発信している。

また、肝細胞癌の診断面や内科的治療も著しく進歩してきており、さらに、肝炎に対する新規抗ウイルス療法による治療も行っている。

消化性潰瘍の治療は、*H. pylori* の発見により大きな変化を見せており、最近増加傾向にある炎症性腸疾患に対しても新治療が出現してきた。

当科では、臨床的また基礎的なデータをもとに、外科、放射線科などともタイアップし、専門的な検査、治療を行っている。尚、当院は日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化管学会指導施設および日本カプセル内視鏡学会指導施設として認定されている。

As for the department of gastroenterology, it is classified into upper and lower gastrointestinal diseases, hepatic diseases, biliary and pancreatic diseases. There are remarkable progress and development recently in a diagnosis side, a treatment side, pathologic physiology elucidation of digestive apparatus. As for the treatment of gastroenterological cancer, laparotomy and thoracotomy were the traditional mainstream, but in recent years, endoscopic treatment progresses remarkably. For the early cancer of a stomach, large intestine and esophagus, endoscopic submucosal dissection (ESD) or endoscopic mucosal resection is enforced positively. For the esophageal achalasia, new endoscopic therapy, Per-oral Endoscopic Myotomy: POEM is performed.

We provide cutting-edge diagnosis and treatment for pancreatobiliary diseases with a high technological level. In particular, for pancreatic cancer, which is extremely difficult to detect early stage, we actuary select patients to be examined based on risk factors/slight symptoms and provide a detailed image diagnosis using EUS. At last, preoperative diagnosis is optimally determined using ERCP. Many evidences have been published to the world.

In addition, diagnosis side and internal medical treatment of hepatocellular carcinoma progresses remarkably.

Treatment of peptic ulcer showed a big change by discovery of *H. pylori*, and there appeared a new treatment method of inflammatory bowel diseases in an increase tendency recently. In this department, we do technical inspection and treatment source of a clinical and fundamental data with cooperation of surgical and radiological department. In addition, hospital is authorized by a guidance institution of the Japanese Society of Gastroenterology and Japan Gastroenterological Endoscopy Society.

循環器内科 Cardiovascular Medicine

Website



循環器内科は、主に狭心症、心筋梗塞、不整脈、心臓弁膜症、心筋症、心不全などの心疾患の診断と治療を行っています。当院は日本循環器学会専門医研修施設に指定されており、慢性疾患に対する精査・治療から急性疾患に対する救急対応まで多岐にわたる専門的診療を行っています。検査としては、心エコー図検査、経食道心エコー図検査、ホルター心電図、心臓 CT 検査、薬物負荷心筋シンチグラフィ、冠動脈造影検査、心臓電気生理学的検査などを行なっています。必要に応じてカテーテルを用いた経皮的冠動脈形成術（PCI）や心房細動などの不整脈に対するカテーテル治療（カテーテルアブレーション）、心臓再同期療法、植込み型除細動器による治療を行ない、いずれも良好な成績をあげています。また最近心臓弁膜症に対するカテーテル治療が進歩し、当院でも大動脈弁狭窄症や僧帽弁閉鎖不全症に対し経カテーテル大動脈弁形成術や経皮的僧帽弁形成術を行っています。急性心筋梗塞や重症不整脈、急性心不全など緊急治療が必要な場合は 24 時間体制で対応しています。

高度な医療または特徴的な医療

- 1) 経皮的冠動脈形成術
- 2) カテーテルアブレーション
- 3) 心臓再同期療法
- 4) 大動脈弁狭窄症・カテーテル治療
- 5) 経皮的僧帽弁形成術

専門外来

- 1) 睡眠時無呼吸外来
- 2) デバイス外来

We are engaged in diagnosis and treatment of cardiovascular disease such as angina pectoris, myocardial infarction, arrhythmia, valvular heart diseases, cardiomyopathy, and heart failure. This department is authorized by the Japanese Circulation Society designated specialist training institution, and holds advanced diagnosis and treatments for chronic heart diseases and emergency medical care for acute cardiovascular events. The major diagnostic examinations are echocardiogram, transesophageal echocardiogram, Holter ECG, cardiac CT, pharmacologic stress myocardial perfusion scintigraphy, coronary angiography, examination for cardiac electrophysiology. If necessary, we perform percutaneous coronary intervention, catheter ablation, cardiac resynchronization therapy, and implantable cardioverter defibrillator, and satisfactory results were obtained. Recently, catheter treatment for valvular heart disease has progressed, and we also perform transcatheter aortic valve implantation and transcatheter mitral valve repair for severe aortic stenosis and drug-resistant severe mitral regurgitation.

We accept patients on weekends and at night for emergency treatment.

Advanced medical care

- 1) Percutaneous coronary intervention
- 2) Catheter ablation
- 3) Cardiac resynchronization therapy
- 4) Transcatheter aortic valve implantation
- 5) MitraClip

Specialty outpatient clinic

- 1) Outpatient care for sleep apnea syndrome
- 2) Periodic maintenance of heart assisting devices

血液内科 Hematology

Website



血液内科では、再生不良性貧血や溶血性貧血などの各種貧血、血液悪性疾患（白血病、リンパ腫、骨髄腫、骨髄異形成症候群）、出血性疾患（血小板減少症、凝固線溶異常症）などの診断、治療を幅広く行っている。白血病に関しては日本成人白血病研究グループ（JALSG）に所属して、最新の治療プロトコルを開発、実践している。当科は1990年から同種造血細胞移植療法を開始しており、非血縁者間骨髄移植（骨髄バンク）及び臍帯血移植の移植施設に認定されている。年間約20例の造血幹細胞移植を実施しており、良好な治療成績をあげている。2023年からは最新の免疫細胞治療である CarT 療法の認定施設となり、難治性の血液悪性腫瘍患者の治療にあたっている。研究面では造血幹細胞移植患者における移植後の種々の感染症の早期診断と治療に関する臨床研究に力を注いでいる。当院は血液内科医の育成機関として、日本血液学会の研修施設に認定されている。

In the Department of Hematology, the diagnosis and treatment of anemia (plastic anemia, hemolytic anemia), hematological malignancies (leukemia, lymphoma, myeloma, myelodysplastic syndrome), and hemorrhagic diseases (thrombocytopenia, coagulopathy) are widely conducted. Regarding leukemia, this Department belongs to the Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG), and is involved in the development and implementation of the latest treatment protocols. This Department has conducted allogeneic hematopoietic cell transplantation since 1990, and has been certified as a transplant facility for bone marrow transplantation from unrelated donors (Japan Marrow Donor Program) and cord blood transplantation (Japanese Cord Blood Bank). This Department conducts approximately 20 cases of hematopoietic stem cell transplantation annually, with favorable treatment outcomes. Starting from 2023, we have become a certified facility for the latest immunotherapy treatment, CarT therapy, and are providing treatment for patients with refractory hematologic malignancies. In terms of research, this Department has put its efforts into clinical research on early diagnosis and treatment of various post-transplant infections that occur in patients undergoing hematopoietic stem cell transplantation. Our hospital has been certified as a training facility for hematologists by the Japanese Society of Hematology.

腫瘍内科 Medical Oncology



Website

がん罹患数は近年増加の一途を辿っている。腫瘍内科では、消化器がん（食道がん、胃がん、大腸がん、胆管がん、膵臓がんなど）、原発不明がんに対する診断・治療（抗がん剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬など）を行っている。さらに、他科の協力を得て、化学療法、手術療法、放射線療法、緩和治療などを組み合わせた集学的治療を推し進めている。また、看護師、薬剤師、その他多職種からなるチーム医療の実現を目指し、様々な支援・研究活動を行っている。目標は患者にとって最良の医療を提供すること、新しい有効な治療法を開発することである。研究面では基礎研究および臨床現場で患者の協力を得ながら行う臨床研究の両方に力を注いでおり、特に、バイオマーカー研究を含む臨床試験を立案・主導し、多施設共同臨床試験を実施しており、これにより癌治療の安全性と有効性のさらなる改善を目指している。

The number of cancer patients has been increasing in recent years. The Department of Medical Oncology performs the diagnosis and treatment (including treatment using anticancer agents molecular-targeted drugs and immune checkpoint inhibitor) of gastrointestinal cancers (such as esophageal cancer, gastric cancer, colon cancer, bile duct cancer, and pancreatic cancer), and unknown primary cancers. This Department also promotes multidisciplinary treatment that combines such as treatments chemotherapy, surgery, radiotherapy, and palliative therapy with the cooperation of other departments, and conducts various support and research activities with the objective of realizing multidisciplinary care that involves various healthcare professionals including nurses and pharmacists. The goals of this Department are to provide the best medical care for patients and develop new effective treatment methods. In terms of research, this Department has put its efforts into both basic research and clinical research conducted in clinical settings with the cooperation of patients. The representative researches of this Department are clinical trials with biomarker research based on genetic abnormalities being conducted in cooperation with Japanese clinical trial groups with the aim of improving the safety and efficacy of treatment for cancer patients.

総合内科・総合診療科 General Medicine



Website

新専門医制度で新たな基本領域の専門医として「総合診療専門医」が加えられた。これは病気を対象とした高度に専門化かつ分業化された「高度先進医療型」専門医だけでなく、ひとりの患者の安心と健康を預かる「標準的かつ集約的医療型」専門医が必要という国民のニーズを反映したものである。

総合内科・総合診療科は大学病院の中にあって、①総合診療医として、患者が持つ「固有の心理的・身体的・社会的問題」を包括した医療を提供する、②総合内科医として、診断が困難な患者に対してより高度な診断・治療技術を提供する、③コンシェルジュのように患者に対して地域包括ケアと高度先進医療の間を適切に繋げられる情報を提供できるよう努めている。

In last decade, several new medical technologies were found. These technologies will make the nation be happy, but in contrast, people want doctors to treat not only their disease, but also as a whole person. So, a new board "General Medicine" was built for the reason above mentioned at the same time, like internal medicine and surgery.

We remind the three elements of "General Medicine". At first, bio-psycho-social model; second, the accuracy of diagnosis and treatment; third, behavior as a concierge for patients, to connect regional comprehensive care and advanced medical technology.

精神科 Psychiatry



Website

本邦において、自殺は深刻な問題のひとつである。自殺の背景にはさまざまな要因があるが、うつ病の占める割合が大きい。したがって、うつ病を予防し、早期発見・早期治療することは、うつ病自体を減らすことのみならず、自殺を減らすことにもつながる。このような視点から当科では、さまざまな自殺対策の取り組みを行っている。

また、うつ病と一言で言っても、その内容は典型的なうつ病から新型うつ病までさまざまである。とりわけ、躁の因子を有するうつ病（双極スペクトラム）の存在が問題になっている。双極スペクトラムを適切に診断しそのように治療しないとなかなか病状は改善せず回復に至らないため、診断の感度を高めるように努力している。これ以外にも、統合失調症、不安障害、認知症などあらゆる精神疾患に対して、積極的に診療に励んでいる。

In Japan, suicide is one of serious problems. Several risk factors for suicide have been indicated and depression seems to be one of the most important risk factors. Therefore, prevention and early intervention of depression is useful for reduction of not only depression itself but also suicide. From such viewpoint, various methods for suicide intervention are applied in our Department.

Also, depression is heterogeneous and varies from typical depression to "new type" depression. Particularly, it should be noted that there exist depressive patients with bipolarity. Such patients are called "bipolar spectrum" patients. For attaining their remission and recovery, it is necessary to diagnose and treat bipolar spectrum patients as such, and we try to polish our clinical technique. Besides, we correctly diagnose and positively treat any other psychiatric disorders such as schizophrenia, anxiety disorders, and dementia.

小児科 Pediatrics



Website

小児科では、幼児期から若年成人期まで子どもの身体発育および知的発達に関わる様々な疾患に対する専門医療を提供しています。小児科の専門診療は、神経学 / 発達医学、内分泌学、遺伝医学、血液腫瘍学、免疫学、感染症、心臓病学、腎臓学、新生児学、先天性代謝異常症、救急医学と多岐にわたります。専門診療を必要とするすべての子どもたちのために、入院診療、外来診療、救急診療体制を整備しており、各分野のエキスパートが協働した診療体制を常に提供しています。大分県下の小児医療の中核病院として高度診療を提供するとともに、小児領域の臨床研究、基礎研究を通じて先進的な診断法と治療法の開発に努めています。新しい研究を推進しながら高度専門診療の質の向上を図り、最高の小児医療を継続的に提供する、次世代育成型小児科学を実践します。

Our department has specialized in meeting the physical, and developmental needs of children from infancy through young adulthood. Clinical subspecialties include Neurology/Developmental Medicine, Endocrinology, Genetic Medicine, Hematology-Oncology, Immunology, infectious Diseases, Cardiology, Nephrology, Neonatology, Inborn Errors of Metabolism, and Critical Care Medicine for children. Through the collaboration of pediatric subspecialties, we provide inpatient, outpatient, diagnostic, and emergency services for all children when required. We deliver superior patient care, advance new discoveries and treatments through pediatric research and serve as the pediatric medical center in Oita Prefecture. Our academic mission is to improve the health of all children and adolescents and to develop "next-generation Pediatrics" by educating the pediatrician leaders of the future, advancing research, advocating for children, and providing the best pediatric clinical care.

呼吸器外科 Thoracic Surgery



Website

呼吸器外科は肺、縦隔、胸壁、横隔膜などに発生する疾患を対象に外科治療を中心とした診療を行っている。肺癌をはじめ、転移性肺腫瘍、縦隔悪性腫瘍（胸腺腫など）、悪性中皮腫などの悪性腫瘍性疾患について、診断から治療まで一貫した診療を、根拠（エビデンス）に基づいて行う（EBM: evidence-based medicine）。

手術に関しては胸腔鏡およびロボット支援を併用することによる低侵襲化を図り、進行性あるいは、難治性腫瘍に対しては化学療法、分子標的治療、放射線照射を組み合わせる集学的治療を推進し、より根治的な治療を目指す。そのため他科との連携を重視し、呼吸器内科、腫瘍内科、放射線科と定期的にカンサーボードを行い、協力して診療に臨んでいる。

また術前、術後の薬物療法については全国規模の臨床試験グループに所属し新たな治療を取り入れている。

その他、良性腫瘍、気胸、膿胸、血胸などの胸膜疾患、小児の先天性呼吸器疾患や腫瘍、また、外傷などの救急疾患にも対応している。

In the Department of Thoracic Surgery, we provide a surgical treatment for patient with disease occurred in lung, mediastinum, chest wall and diaphragm. For thoracic malignant tumors, we perform from diagnostic procedures to surgical treatments, based on clinical evidence (EBM: evidence-based medicine). For an early stage tumor, we introduce a minimally invasive video-assisted thoracic surgery (VATS) or robotic-assisted surgery (RATS). For an advanced or refractory disease, we establish trimodality therapy including chemotherapy or molecular-targeted therapy, radiotherapy, and surgery. To provide suitable treatment strategy in each case, we have regularly Cancer Board consisted with the Departments of Thoracic Surgery, Medical Oncology, Respiratory Medicine, and Radiology.

In addition, we provide surgical or conservative treatment for patients with benign tumor, pneumothorax, hemothorax, congenital disease, and emergency case such as trauma.

乳腺外科 Breast Surgery



Website

乳腺外科は、乳癌を主な治療対象として診断、手術、薬物療法を行っている。乳癌の手術では乳房温存療法が半数以上を占め、また、患者への負担を軽減できるセンチネルリンパ節生検はほとんどの乳癌手術で行っている。乳癌診療における薬物療法の役割は大きく、内分泌療法、化学療法、分子標的治療薬など、多くの選択肢から患者に最適なものを提供するオーダーメイド治療を行っている。術後の乳房変形など美容的問題を克服するため、形成外科と協力して乳房切除一同時再建も積極的に取り入れている。再発乳癌や進行乳癌に対して、放射線治療、緩和医療チームと連携を取りながら、予後改善を図り、かつ患者のQOLを保つような治療計画を策定している。

We mainly treat breast cancer and also benign breast disease. Regarding to breast cancer, we perform diagnostic procedures including radiography and biopsy, surgical treatment, and chemoradiotherapy. Breast preservation therapy accounts for half or more and sentinel lymph node biopsy is routinely performed. As the role of medical therapy in the breast cancer is important, we provide the most suitable treatment for a patient from many choices including hormone therapy, chemotherapy, and molecular targeted therapy, that mean personalized therapy. We adopt reconstructive mammoplasty with plastic surgeon positively at the time of mastectomy, to overcome a cosmetic problem after surgery. In case with recurrent or progress breast cancer, we devise a treatment plan with radiotherapist and best supportive care team, for improve prognosis and preserve the QOL of patient.

消化器外科 Gastroenterological Surgery



Website

消化器外科では、肝胆膵外科領域及び消化管外科領域の診療を行っている。

肝胆膵外科領域では、肝胆膵領域の悪性疾患を中心に、胆石症などの胆道良性疾患や脾疾患ならびに食道胃静脈瘤などが診療の対象である。悪性疾患では、肝癌、胆道癌、膵癌を主な対象疾患とし、悪性度の高い肝胆膵悪性疾患に対して外科切除を中心に病態に応じた治療法を選択し、成績向上を目指している。近年は肝胆膵高難度症例に対する腹腔鏡手術を積極的に導入し、良好な成績を収めている。

脾・門脈圧亢進症では、特発性血小板減少性紫斑病だけでなく、脾機能亢進症など脾腫症例に対しても腹腔鏡下脾臓摘出術を行っている。

消化管外科領域では、食道癌・胃癌・大腸癌など悪性腫瘍の治療と急性腹痛などの救急患者の治療を行っている。癌の治療では、進行度に応じ根治性を保ちつつ、できるだけ機能を温存し、術後の患者 quality of life (QOL) を向上させる最新の治療を行っている。低侵襲治療として、内視鏡治療や腹腔鏡手術を世界に先がけて行っており、ロボット手術も導入している。さらに近年では、病的肥満患者に対する外科治療を導入し、臨床・研究面において、わが国のリーダーとして牽引している。

In the division of Gastroenterological Surgery, there are two surgical fields, hepato-biliary pancreatic surgery and gastrointestinal surgery. In regards with hepato-biliary pancreatic surgery, we mainly treat malignant diseases of liver, biliary tract, pancreas, and also benign biliary diseases such as cholelithiasis, splenic diseases and esophagogastric varices. We have performed surgery and other treatments to improve outcomes of the malignant diseases. Hepatoma is treated by not only conventional hepatectomy but also laparoscopic hepatectomy according to the tumor size and location. In recent years, laparoscopic surgery has been positively introduced for patients with high difficulty of hepatobiliary-pancreatic disease and has achieved good results. Regarding splenic diseases and portal hypertension, laparoscopic splenectomy is routinely performed in patients with not only idiopathic thrombocytopenic purpura but also hypersplenism and splenomegaly.

In regards with Gastrointestinal surgery, we always perform the management for the patients with esophageal cancer, gastrointestinal malignant tumor, including gastric cancer and colorectal cancer, and with acute abdomen required emergent operation. For the treatment of gastrointestinal malignant tumor, the most up-to-date procedures with curability, which improve the patient's quality of life (QOL), are adopted according to the tumor stage. Minimally invasive treatments, such as endoscopic procedures and laparoscopic surgeries, are the first choice of treatment for malignant tumor. In addition, Robotic Surgery has been introduced.

Furthermore, in recent years, surgical treatment for morbidly obese patients has been introduced in Japan, and our department has become one of the top leader for clinical and research aspects.

小児外科 Pediatric Surgery



Website

小児外科は新生児期から思春期までの小児一般外科疾患を対象としている。

専門的な疾患（先天性食道閉鎖症・先天性腸閉鎖症・Hirschsprung病・鎖肛・胆道閉鎖症・先天性胆道拡張症・神経芽腫など）だけでなく、日常よく遭遇する疾患（臍ヘルニア・鼠径ヘルニア・陰嚢水腫・停留辜丸・包茎・急性虫垂炎・消化管異物・乳児痔瘻・肛門周囲膿瘍など）も治療を行っており、急患にも対応している。

手術では、疾患の根治性のみならず、小児の成長・発達を考慮した皮膚切開・縫合法や、より低侵襲な腹腔鏡手術（胃食道逆流症に対する腹腔鏡下Nissen噴門形成術・特発性血小板減少性紫斑病や遺伝性球状赤血球症に対する腹腔鏡下摘脾術など）を積極的に施行しており、患児や家族のニーズに対応している。最近では化学療法が必要な患児に対しての皮下埋め込み型中心静脈カテーテル留置も行っており、鼠径ヘルニアでは、クリニカル・パスを用いた2泊3日の入院治療を行っている。

また、重症新生児・未熟児や心身障害児ならびに悪性腫瘍患児では、NICUおよび小児科、産科と協力して術前・術後管理を行っており、治療成績の向上を図っている。

さらに本年度より小児便秘症に対する便秘専門外来を開設し、食事指導や薬物療法を含めたきめ細かいケアを行っている（第2・第4水曜日午後）。

Pediatric Surgery focuses on general pediatric surgical diseases from the neonatal period to adolescence.

We treat not only specialized diseases (congenital esophageal atresia, congenital intestinal atresia, Hirschsprung's disease, anal atresia, biliary atresia, congenital biliary dilatation, neuroblastoma, etc.) but also commonly encountered diseases (umbilical hernia, inguinal hernia, scrotal edema, cryptorchidism, foreskin, acute appendicitis, gastrointestinal foreign bodies, infantile hemorrhoids, perianal abscess, etc.), and we are able to respond to urgent patients.

We are actively performing laparoscopic surgeries such as laparoscopic Nissen fundoplication for gastroesophageal reflux disease and laparoscopic splenectomy for idiopathic thrombocytopenic purpura and hereditary spherocytosis to meet the needs of children and their families. Recently, we have been placing subcutaneously implanted central venous catheters in children who need chemotherapy, and inguinal hernia patients are treated in hospital for 3 days and 2 nights using the clinical pathway.

Furthermore, we provide preoperative and postoperative management of critically ill neonates, premature infants, children with mental or physical disabilities, and children with malignant tumors in cooperation with NICU, pediatrics, and obstetrics to improve treatment outcomes.

In addition, we have opened an outpatient clinic for pediatric constipation and provide detailed care including dietary guidance and medication (2nd and 4th Wednesday afternoons).

心臓血管外科 Cardiovascular Surgery

Website



冠動脈疾患、弁膜症、大動脈疾患など成人心血管領域中心に幅広く臨床治療を行っている。殊に大動脈瘤に対しては全国でも有数の症例数、治療成績を誇っており、最先端の治療法の開発に力を注いでいる。小切開で開心術を行う、人工心肺を用いずに拍動下で手術を行うなど低侵襲心臓手術にも積極的に取り組み、生命予後のみでなく患者さんのQOL向上を目指す医療を心がけている。臨床の忙しさにかまけることなく、ラボでは自己生体内で生成したバイオシートを用いた弁再建術法の研究、斜流ポンプを用いた新しい植え込み式人工心臓の開発、大動脈手術時の脊髄虚血予防法の開発など臨床に直接還元できる基礎研究に勤しんでいる。

Coronary, valvular and aortic surgeries for adults are most of our clinical work.

We are in the forefront in treatment of aortic aneurysm with a number of cases.

We handle minimally invasive cardiac surgery as well, such as "off pump bypass" (coronary artery bypass grafting without using cardiopulmonary bypass), aiming for a better QOL of patients. As for the lab work, valve reconstruction with biosheet generated under the skin, development of an implantable artificial heart and innovation of spinal protection during aortic surgery are our main research subjects.

脳神経外科 Neurosurgery

Website



脳血管性障害は動脈瘤、脳出血、脳梗塞、もやもや病等すべてを治療し、endovascular surgery の成績も良好である。脳腫瘍は全脳腫瘍を治療し、手術は navigation と monitoring system を駆使し、巨大、深部、頭蓋底部腫瘍も安全に摘出している。悪性グリオーマは術後に耐性遺伝子や薬物動態を考えた化学療法やPBSCT 併用大量化学療法、radiosurgery 併用の集学的治療などQOL 重視の治療を行っている。高度先進医療のひとつとして意識障害患者に対する磁気、電気刺激、機能的脳神経外科として痛みやてんかんの外科手術、小児奇形の治療、さらに急性重度頭部外傷患者らは麻酔科と共同で低体温療法を実施し、積極的に救急に取り組み救命している。

Cases of cerebrovascular disease, aneurysm, bleeding, infarction, and moyamoya disease are all treated. The results of endovascular surgery are good.

All brain tumors are treated in our department. tumors, such as giant, deep and skull base tumors, are removed safely with navigation and monitoring systems. Malignant gliomas are treated with multidisciplinary therapy, especially combined chemotherapy based on drug resistant genes and pharmacokinetics, high dose chemotherapy with PBSCT and radiosurgery in order to maintain a high QOL. Highly advanced medical treatment, magnetic or electric stimulation, is performed on patients with disturbance of consciousness.

Surgical operations for epilepsy neurosurgery for pain, infant and child neurosurgery, and hypothermia for severe head injury show positive results.

整形外科 Orthopaedic Surgery

Website



人が生き生きとした生活を送るためには、立つ、歩く、物を持つなど自分の体を自由に動かすことが必要である。整形外科では骨・関節・筋肉・腱・靱帯・神経など、体を動かす機能に関わる運動器の疾患や外傷を診療している。四肢の痛み、しびれ、関節痛、腰痛や外傷など日常生活や仕事、スポーツ活動などに支障をきたす運動器の障害が対象である。具体的には脊椎・脊髄疾患、脊柱変形、関節疾患、骨・軟部腫瘍、手の障害、骨折・脱臼、関節リウマチ、骨粗鬆症、及び先天性内反足や发育性股関節形成不全等の小児整形外科疾患を治療している。

疾病や外傷で運動器の機能を著しく傷害された場合には、手術を行うことによりその機能を回復させることが必要となる。骨・関節の biomechanics の研究を応用したより低侵襲手術でよく曲がる人工関節置換術、脊椎・脊髄疾患に対する顕微鏡を応用した脊椎手術なども行っている。

また整形外科では、手術治療のみでなく関節リウマチや骨粗鬆症に対する最新の薬物治療も行っている。さらに明らかにされていない疾患の病態解明や新しい治療法の開発にも取り組んでいる。

For keeping healthy life, it is very important to use one's arms and legs by oneself, (like standing, walking, and lifting). We make the examination, diagnosis and treatment for disease and trauma of the musculoskeletal system (bone, joints, muscle, tendon, ligament, and nerve) that is concerned with locomotor. The symptoms such as pain of limb, sensory innervation, joint pain, lowback pain, and trauma that cause disable for patients are involved. There are spine disease, scoliosis, joint disease, bone and soft tissue tumor, hand surgery, fracture and dislocation, rheumatoid arthritis, osteoporosis, and pediatric orthopedic disease such as congenital clubfoot and developmental hip dysplasia.

Surgery must be done for recovering from the remarkable disability by disease or trauma. Using the new knowledge of biomechanics, we achieve good ROM and minimal invasion for joint replacement surgery. We also use microscopy for spinal surgery. Not only surgical treatment, but also orthopaedic medicine is involved in our department. We are try to use new medicine for patients in rheumatoid arthritis and osteoporosis. We are also try to investigate the pathogenesis of the disease and to develop new treatment method.

形成外科 Plastic Surgery



Website

形成外科疾患全般にわたり、幅広い診療を行い、患者さんに整容的・機能的に満足してもらえよう、QOL を高めることを心がけている。対象疾患としては、腫瘍・外傷・瘢痕・先天異常・難治性皮膚潰瘍・その他である。特に、皮膚科と共同で行う皮膚悪性腫瘍切除術と様々な皮弁形成術や植皮術を用いた再建手術症例が多いのが特徴である。他の診療科との連携も図り、微小血管吻合術を用いた遊離皮弁術による合同再建手術に力を注いでいる。また、熱傷、切断指や顔面外傷などの救急医療にも積極的に取り組み、瘢痕やケロイドに対しても保存的治療や手術と放射線治療の併用療法を行い、良好な治療成績をあげている。多指症や耳介変形その他の先天異常は、大分県内の小児科・産婦人科よりご紹介いただき、地域の中核施設としての役割を担っている。近年、糖尿病や PAD、慢性腎不全に伴う難治性皮膚潰瘍が増加しており、それらに対して、新しい創傷治癒の概念を取り入れた保存的治療や植皮術・皮弁作成術による再建を行い、創の早期閉鎖と患肢の温存に努めている。レーザー等を用いた美容形成なども開始している。

We treat the patients with several diseases including tumor, traumatic wound, keloid, congenital anomaly and long durated ulcer. We concentrated to operate malignant skin tumors and reconstruct using skin flap or grafts collaborating with dermatologist. Collaborating with other surgeons, especially oral surgeon, we master free flap transfer using microsurgery. We are involved in emergency care of severe burn, finger replantation and facial injury and we can control well keloids or scars by the combined method of surgery and electron beam therapy. The patients with congenital anomalies are referred to us from pediatrician or gynecologist in Oita prefecture. Recently the number of patients with long durated intractable leg ulcers associated with diabetes mellitus, peripheral arterial disease (PAD) or calciphylaxis are increased. We treat such patients with a concept of new wound healing and make effort to rescue the leg from amputation. We start to do cosmetic surgery using LASER therapy.

皮膚科 Dermatology



Website

皮膚疾患全般にわたる、内科的・外科的治療をおこなっている。(1) 水疱性疾患、紅皮症、重症薬疹、重症感染症、難治性潰瘍、難治性慢性痒疹などでは、入院の上、原因検索や治療を行っている。(2) 重症のアトピー性皮膚炎・湿疹皮膚炎、円形脱毛症については、特殊外来で、予約制で治療を行なう。特に円形脱毛症については、局所免疫療法を中心に治療を行なっている。(3) 乾癬、関節症性乾癬、掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎では、生物学的製剤の導入を行っている。(4) 皮膚悪性腫瘍については、腫瘍外来で診察後、手術を行なう。悪性黒色腫のセンチネル・リンパ節生検については、放射性同位元素を用いた方法を導入している。免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬を含む化学療法を行っている。

We treat the whole spectram of skin diseases. (1) In severe or intractable cases of blistering diseases, erythroderma, drug eruption, infection, skin ulcer, chronic prurigo, and so on, we treat them on the hospital with looking for the aggravating factors to explain the patients how to control their skin problems. (2) In cases of atopic dermatitis, eczema, alopecia areata, which are hard to control, special outpatient clinic is available by appointment. Particularly, we treat the patients with alopecia areata using topical immunotherapy. In case of recent-onset and severe alopecia, pulse corticosteroid therapy is considered. (3) In severe or intractable cases of psoriasis, arthropathic psoriasis, palmoplantar pustulosis, and atopic dermatitis, treatments with a variety of biologics are considered. (4) Treatments including surgical ones of patients with malignant skin tumors are planned on special outpatient clinic by appointment. In malignant melanoma, sentinel lymph node biopsy will be performed by the combined method using radioisotope and blue dye. Chemotherapies including immune checkpoint inhibitors and molecular targeted drugs are also performed.

腎臓外科・泌尿器科 Renal surgery and Urology



Website

当科の対象疾患は尿路性器悪性腫瘍、排尿機能障害、尿路結石症、内分泌疾患（上皮小体機能亢進症、副腎腫瘍）、腎不全、腎移植、尿路感染症、女性泌尿器科疾患（尿失禁、性器脱）、小児泌尿器科疾患等、多岐にわたっており、それぞれの領域に精通した専門医が診療に当たっている。診療の特徴は腹腔鏡手術やロボット支援手術を中心とした低侵襲手術に早くから取り組んでいることで、前立腺全摘術や腎部分切除術、膀胱全摘術はロボット支援下に行っている。

The department treats patients with variable urological disorders such as genitourinary tumors, lower urinary tract dysfunction, urinary stones, endocrine disorders (hyperparathyroidism and adrenal tumors), renal failure, renal transplantation, urinary tract infection, female urology (urinary incontinence, pelvic organ prolapse) and pediatric urology. The distinguishing feature of the department is early introduction of minimally invasive surgeries such as laparoscopic and robotic- assisted surgeries. Radical prostatectomy, partial nephrectomy and radical cystectomy are performed by robotic-assisted laparoscopic surgery.

眼科 Ophthalmology

Website



眼科疾患全般にわたる幅広い診療を行っている。一般外来の他に、緑内障、加齢黄斑変性、ドライアイ、斜視・弱視、ぶどう膜炎の専門外来を設置し、紹介された患者さんに高度に対応している。中でも網膜硝子体疾患、ならびに緑内障の画像診断、手術療法に力を入れている。手術治療は網膜硝子体疾患、緑内障、難易度の高い白内障、斜視手術が多く、2023年度は1,500件以上の手術を施行し、治療成績も良好である。また大分県アイバンク協会の協力のもと角膜移植術を行っており、難治性前眼部疾患には羊膜移植を併用した手術を行っている。眼球破裂や眼内異物などの緊急手術にも迅速に対応しており、大分県の中核病院としての役割を果たしている。

Our department covers not only general ocular diseases but also has special clinics to attend glaucoma, age-related macular degeneration, dry eye, strabismus, amblyopia, and uveitis. All specialties are equipped with the most advanced technology and qualified specialists promote accurate diagnosis and effective treatment for these disorders. Special interests are focused on modern imaging and treatments including surgery for vitreo-retinal diseases and glaucoma. Our department provides surgical intervention for vitreo-retinal diseases, glaucoma, complicated cataract, and strabismus, performing more than 1,500 operations with good results in 2023. Keratoplasties are performed in good cooperation with Oita Prefecture Eye Bank Association. Amniotic membrane implantation is conducted for complicated ocular surface disorders. Our department serves as a core hospital in Oita Prefecture and quickly respond to emergency cases, such as ocular perforation and foreign body.

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 Otolaryngology & Head and Neck Surgery

Website



当科では耳鼻咽喉科疾患全般にわたる外科的・内科的治療を行っている。耳では慢性中耳炎や中耳真珠腫に対する手術のほか、高度感音難聴者には人工内耳埋込み手術を施行している。鼻副鼻腔・咽喉頭疾患の手術には内視鏡や顕微鏡、レーザーを導入している。頭頸部悪性腫瘍に対しては積極的な手術治療を行い、術後の欠損部は血管吻合手技を用いて、遊離筋皮弁や腸管による再建を行っている。このほか顔面外傷や気道・食道異物などの救急医療にも力をいれている。外来では一般外来に加え補聴器、アレルギー性鼻炎の予約外来を設けている他、めまい・平衡機能検査、特殊聴力検査、顔面神経検査などの特殊検査、中耳炎に対する鼓膜形成術、アレルギー性鼻炎に対するレーザー手術などの外来手術も行っている。

We treat the entire spectrum of otolaryngological disease within the Department of Otolaryngology. Surgery of the ear is done for patients with chronic otitis media and cholesteatoma. Cochlear implants are inserted for patients experiencing severe sensorineural hearing loss. Surgeries on the sinus and larynx are performed with endoscopic, microscopic, and laser techniques. Patients with head and neck cancer can receive composite operations, which include reconstructive surgery employing microvascular surgical techniques in which a myocutaneous or jejunum flap is applied to cover the defect. Emergency cases, such as those involving facial trauma or foreign bodies in the esophagus or respiratory tract, are also treated. In our outpatient clinic, special hours are reserved for hearing aid and patients with allergic rhinitis. We also perform special examinations to evaluate equilibrium, hearing, and facial nerve function, and day surgery for otitis media, allergic rhinitis, sinusitis, etc.

産科婦人科 Obstetrics & Gynecology

Website



産科婦人科医療は、産科、婦人科腫瘍、婦人科内分泌の3部門からなる。産科部門では、正常妊娠、分娩に加えて、high risk妊娠の管理、カラードプラー法やパルスドプラー法など超音波を用いた診断、妊娠合併疾患の管理、手術などを妊娠初期から産褥期までを通じて行っている。婦人科腫瘍部門では、術前診断、手術療法、化学療法、放射線療法など、集学的な悪性腫瘍の治療を行っている。現在ではロボット支援下手術を含めた悪性疾患に対する高難度低侵襲手術も積極的に行っている。婦人科内分泌部門では、月経異常や不妊の検査および治療、更年期、骨粗鬆症などを対象としている。不妊の治療では、IVF-ETなど高度な医療を行っている。

The obstetrics and gynecology clinic, in both the outpatients unit and the inpatients unit, includes a section for maternal-fetal medicine, one for gynecologic oncology and another for reproductive medicine. Specialties in the maternal-fetal medicine section include high-risk and complicated pregnancies, prenatal diagnosis, operations during pregnancy, as well as normal uncomplicated pregnancies. Specialties in the gynecologic oncology section include preoperative diagnosis, operations, chemotherapy, radiation therapy and follow-up after those treatments. We now perform advanced surgery, including robot-assisted surgery. Highly difficult and minimally invasive surgery for malignant diseases is also actively performed. Specialties in the reproductive medicine section include contraception, menstrual disorders, infertility, menopause and osteoporosis. We provide advanced fertility treatments such as IVF-ET.

放射線科 Radiology



Website

放射線科の業務は画像診断、放射線治療、IVR（超音波やCTガイド下に行う低侵襲治療）の3つに分けられる。画像診断には当院の外来および入院にて行われる単純写真、消化管造影検査、超音波、CT、MRI、血管造影、核医学検査が含まれる。放射線治療では頭頸部癌や肺癌、前立腺癌、骨転移癌など様々な悪性腫瘍に対し、強度変調放射線治療（IMRT）や定位放射線治療（SRT）など、合併症を軽減しつつ治療効果を高める治療を行っている。また子宮癌においては画像誘導小線源療法（IGBT）も導入している。IVRでは大動脈瘤に対するステントグラフト挿入術、動脈瘤や動静脈奇形に対する塞栓術、リンパ管腫に対する硬化療法、肝細胞癌に対する経カテーテル的化学塞栓療法、腎細胞癌に対するCTガイド下凍結療法などを行っている。いずれも最先端の機器を導入し大分県の医療の中核を担っている。

Our clinical work includes diagnostic imaging, radiation therapy, and interventional radiology. All of these services are performed using state-of-the-art equipment and play a central role in medical care in Oita Prefecture. Diagnostic imaging includes plain radiographs, gastrointestinal contrast studies, ultrasound, CT, MRI, angiography, and nuclear medicine. Radiotherapy, such as intensity-modulated radiation therapy (IMRT) and stereotactic radiotherapy (SRT), is used for various malignancies, including head and neck cancer, lung cancer, prostate cancer, and bone metastasis, to reduce complications and improve treatment efficacy. IVR includes stent graft for aortic aneurysms, embolization for aneurysms and arteriovenous malformations, sclerotherapy for lymphangioma, transcatheter chemoembolization for hepatocellular carcinoma, and CT-guided cryoablation for renal cell carcinoma.

麻酔科/ペインクリニック Anesthesiology/Pain Management Unit



Website

生活に支障をきたす様々な痛みを軽減する治療を行う。主な対象疾患は、帯状疱疹・帯状疱疹後神経痛、三叉神経痛や片頭痛などの頭痛・顔面痛、頸椎症などの頸肩腕痛、脊柱管狭窄症や腰椎椎間板ヘルニアなどの腰下肢痛、手術後や外傷後の慢性難治性疼痛などの慢性痛や、癌性疼痛である。この他、四肢の虚血や、眼瞼・顔面痙攣や、顔面神経麻痺、手や足の多汗症など、痛み以外の疾患も扱う。

治療は、硬膜外ブロックや高周波熱凝固術などの神経ブロックを中心に、内服療法を併用して行っている。また、経皮的硬膜外神経形成術や脊髄刺激療法、くも膜下カテーテル留置などの侵襲的な治療法を積極的に取り入れている。

We treat various kinds of pain in our unit. These are pains that lessen the quality of patients' lives. They include herpes zoster/postherpetic neuralgia, headache and facial pain as in trigeminal neuralgia and migraine, cervical spondylosis, lower back pain such as lumbar canal stenosis and herniated disc, refractory postoperative pain, traumatic pain, cancer pain, etc.. Additionally, disorders such as ischemic extremity, blepharism and facial spasm, facial paralysis, and hyperhidrosis are treated.

Nerve block such as epidural injection and thermocoagulation are often provided in combination with drug therapy. We are also dedicated to treating patients with invasive medical techniques, for example, percutaneous epidural neuroplasty/adhesiolysis, spinal cord stimulation, and intrathecal catheterization.

救命救急科 Department of Emergency and Critical Care Medicine



Website

救命救急科は、大学病院内の高度救命救急センターにて、24時間365日の診療体制で、様々な原因により生命の危機に直面した救急患者の診療を行っている。多発外傷、広範囲熱傷、急性中毒、脳血管障害、急性冠症候群、敗血症などの患者や、身体合併症を有する精神疾患患者にも対応している。大分県における最後の砦としての役割を全うすべく、専任医師と各診療科医師および看護師をはじめとした様々な医療従事者が連携し、高度かつ最先端の救急医療を提供している。

また、本院は大分県ドクターヘリの基地病院であり、救命センター屋上にヘリポートと格納庫、管制室を有している。ドクターヘリやドクターカーで発症現場に赴いて早期に治療を開始し迅速に搬送することによって、大分県全域の重症傷病者に対する高度救命救急医療が可能となり、救命率の向上を目指して積極的に活動を行っている。

Department of Emergency and Critical Care Medicine in Advanced Emergency and Critical Care Center accepts critical emergency patients on a 24/7 basis, such as multiple trauma, extensive burn, poisoning, stroke, acute coronary syndrome, sepsis and psychiatric patients complicated with physical disorder. Not only emergency physicians, but also doctors of other departments, nurses and medical staffs have well-coordinated teamwork to provide advanced and state-of-the-art emergency medical treatments.

In addition, air ambulance service of Oita prefecture is based on this center, which has a helicopter pad, a hangar and a flight control room on the roof. That enables our medical team to be dispatched to the scene to start advanced treatments for patients throughout the entire prefecture before arrival at the hospital, leading to improved outcome.

リハビリテーション科 Rehabilitation Medicine



Website

リハビリテーション科は、障害された機能の回復と社会復帰を目指した医学的治療および訓練、人材育成、リハビリテーション医学に関する研究活動を行っている。当科では運動器疾患や脳血管疾患はもちろん、大学病院という特性上、がん、心臓大血管手術後など、重度の病態に対応している。多職種でのカンファレンスを定期的におこない、個々の患者に適した治療・看護・社会復帰支援計画を作成し実践している。

また当院は、日本リハビリテーション医学会ならびに日本専門医機構認定研修施設であり、リハビリテーション科専門医の養成を担うとともに、学生の教育や療法士の養成に力を注いでいる。博士・修士課程における研究や学会活動も積極的に行っている。

In the department of rehabilitation medicine, we perform the medical treatment and physical therapy for patients, training experts in rehabilitation, and research activities. There are many serious cases who suffer from diseases such as tumor, cardiovascular disease, or multiple traumas in our university hospital. A multi-disciplinary team has a regular meeting to make individual rehabilitation program suitable for each patient.

Oita university hospital is a training facility authorized by the Japanese Association of Rehabilitation Medicine and the Japanese Medical Specialty Board, so that we make efforts to train specialist in rehabilitation medicine, educate students, and perform research activities in doctor's and master's course of a graduate school and presentations at academic meeting.

歯科口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery



Website

口腔腫瘍、口唇・口蓋裂、顎変形症、顎顔面外傷、顎関節症疾患、これらの疾患治療後の咀嚼機能障害に対しての外科的治療、さらに内科疾患患者の歯科治療（有病者歯科治療）と口腔ケアを行う。

1. 口腔腫瘍：口腔がんや歯源性腫瘍などの口腔腫瘍の治療と、治療後も口から食べられることを目標としている。放射線治療と化学療法を手術前に行なうことにより、機能温存治療や低侵襲治療を目指す。
2. 口唇・口蓋裂：初診時から口蓋床を装着させて哺乳の改善をはかり、適切な時期に形成手術や言語治療などを行う。生まれた時（または生まれる前の出生前診断）から成人にいたるまでの一環治療を実施している。
3. 顎変形症：顎の発育異常のために生じた咬み合わせやことばの障害、顔の形態異常に対して、歯科矯正医と協力して治療を行う。
4. 顎顔面外傷：交通事故やスポーツによる顎骨骨折などの外傷に対して、かみ合わせの回復を重視して治療を行う。
5. 有病者の歯科治療：循環器疾患、感染症、他の病気のある方の歯科治療を関連医科診療科と連携をとって行っている。
6. 口腔ケア：口腔乾燥症、摂食・嚥下障害などのある方の口腔衛生状態と口腔機能の両面に重点をおいた口腔環境の改善を行う。

Our field of treatment covers various oral and maxillo-facial diseases, including oral tumors, lip and palatal cleft, jaw deformity, maxillo-facial trauma, temporomandibular joint (TMJ) diseases, masticatory dysfunction related with such diseases, and dental treatments of patients with systemic diseases. In addition, we provide professional oral health program.

1. Oral tumors (oral cancer, odontogenic tumor etc.): Our goals of treatment against oral tumors are not only to eradicate tumors, but also to recover oral functions such as eating and speaking. Function-preserving operations accompanied with preoperative chemo- and radio-therapies and minimal invasive therapies are employed.
2. Lip and palatal clefts: In the treatment of cleft lip and palate patients, we collaborate medical doctors, such as gynecologists, pediatricians, orthodontists and general dentists. From the first visit (or the pre-natal stage) to the adolescent stage, we manage the maxillo-facial growth of patients by doing reconstructive surgery of clefts, orthodontic treatment, speech therapy and, if necessary, repair of facial deformities.
3. Jaw deformity: We carry out surgical treatment against congenital deformity and abnormal growth of jaws under the cooperation with orthodontists.
4. Maxillo-facial trauma: We perform surgical repair of jaw fractures and soft tissue traumas from the standpoint of recover of dental occlusion.
5. Dental treatment of patients with general diseases: Under the close communication with medical doctors, we carry out dental treatments of patients with cardiovascular diseases, respiratory diseases etc.
6. Oral health program: We provide professional oral health program, which consisted of the improvement of poor oral hygiene and the support of eating and speaking problems.

中央診療施設等 Central Clinical Facilities

検査部 Clinical Laboratory Center



Website

検査部では4名の検査担当医師、36名の臨床検査技師、5名の看護師、2名の事務官にて臨床検査業務を運用している。主な業務内容として、患者さんからの採血、採取した血液・尿などを用いた検体検査、患者さんの心電図検査・脳波検査・超音波検査といった生理機能検査を行っている。また、迅速な検査結果の報告を目的とした検査体制や検査システムを構築するとともに、2015年より国際標準規格 ISO15189 認証を取得し、正確かつ精度の高い検査結果の提供を行っている。検査業務以外にも、院内の各部署との連携を取ることで、チーム医療の一翼を担うとともに、医学部学生・研修医・検査技師学校生の臨床教育を積極的に行うことで、地域医療への貢献を果たしている。

Clinical laboratory center consists of 4 medical doctors, 36 clinical laboratory technologists, 5 nurses, and 2 secretaries. We are responsible for blood sampling, laboratory tests, and physiological examinations. Development of laboratory organization and on-line ordering system facilitated the accurate and quick reporting of examination results. We obtained International Organization for Standardization (ISO) 15189 certification in 2015. In addition to the laboratory work, we also contribute to the education of medical students and attend practical training.

手術部 Surgery Center



Website

手術部は、当院診療各科が先端知識と技能を駆使し最先端の手術・検査ができるように、また手術を受けられる患者様が安全・快適に手術を受けられるよう環境を整えることを第一の使命としている。年間全手術件数は6,000件を超えており、また重症患者の手術、長時間手術が多く、手術1件当たりの診療報酬は大学病院の中でもトップクラスを維持している。病院再開発により、手術室数は15室となり、心臓・大血管、肺、食道、肝臓等の高度侵襲が加わる長時間手術だけでなく、低侵襲手術として主流となっている内視鏡手術専用室や、X線透視下手術用ハイブリッド手術室、手術支援ロボット（ダヴィンチ）手術室、日帰り手術に対応した手術室など高度先進医療に対応した手術室が完成し運用を開始している。最先端の医療を患者様に提供するための知識・技術の習得に励むだけではなく、高度手術を安全に行うための危機管理も積極的に行い、患者様の安全を第一とし患者様のニーズの多様化にも迅速に対応できるように努力している。

After the hospital re-construction, the operating theater has fifteen modern, well-equipped operating rooms, which are managed to provide advanced operations safely and efficiently. The annual number of operations reaches more than 6,000 cases and our operating theater is one of the busiest theaters in the same-scale university hospitals in Japan. The professional and highly skilled staffs have been performing not only invasive operation such as heart, aorta, lung, esophagus and liver surgery, but also advanced minimally-invasive surgery using endoscopes, advanced medical imaging devices, and da Vinci (Robotic-Assisted Surgery). The rooms for outpatient surgery are newly introduced. We have been continuously acquiring new knowledge and keeping up-to-date on the rapid developments in medical technology to provide the best service to the patients.

放射線部 Radiological Center



Website

放射線部は放射線診断、放射線治療、核医学診療、超音波診療、磁気共鳴診断の5部門を有し、各部門とも最高水準の装置を導入し全身のすべての領域の画像診断および放射線治療を行っている。さらに画像技術を応用したIVRを含む低侵襲治療を積極的に行い、最新の治療法を研究開発し患者のQOL向上に寄与している。

放射線部における各種の患者情報、検査情報及び画像診断レポートはすべて放射線情報システムにて一括管理され、病院情報システムを用いて診療各科に配信している。また各モダリティから発生する医用画像データを保管・転送するPACSを導入し、大型のサーバーシステムと高速ネットワークにて病院情報管理システムおよび放射線情報システムとリンクさせ、診療能率の向上や患者サービスの推進、医学研究・教育への貢献を果たしている。

The Radiological Center consists of five major divisions: Diagnostic Radiology, Radiation Oncology, Nuclear Medicine, Ultrasound and MRI (Magnetic Resonance Imaging). All diagnostic imaging examinations and radiotherapy are performed in the center. Several innovative projects in Minimally Invasive Therapy including Interventional Radiology are in progress to contribute to the improvement of the QOL of patients.

Various kinds of information of patients with examination data in the center including official diagnostic reports are operated by the Radiology Information System (RIS) and delivered to each department in the hospital through the Hospital Information System (HIS). PACS (Picture Archiving and Communication system) has been equipped to preserve and transfer the imaging data derived from each modality. With the integration of HIS and RIS using the server system and high-speed network system, improvement in the efficacy of medical practice, advanced application to medical research and education is targeted.

材料部 Sterile Supplies

滅菌部門・物流部門 Sterile Processing Division Medical Supply Division

材料部の使命は、滅菌に関わる業務を中央化することで業務を省力化し、医療サービスの向上を図ることにある。また、滅菌業務の遂行により安全・安心な医療材料を医療現場に提供することである。

材料部の業務内容から2つの部門に大別される。まず、手術部を含む全部署の鋼製小物や手術部の器械セットの回収から滅菌まで、一連の滅菌管理業務を行う滅菌部門である。2つ目は、医療材料を一括管理し、物品管理に関わる雑務を集約する物流部門である。これらの部門により材料部では、院内全体の滅菌の質を保証し、医療材料に関わる業務を一元化、効率的な運用と定期的な定数見直しや期限切れ防止などにより経費削減に取り組んでいる。

The missions of our Materials Handling Division are twofold. The one is to improve the quality of medical services by executing promoting labor-saving programs and practicing economy in the ordinary course of business operations by centralizing all operations and services pertinent to in-house sterilization and the other is to provide safe medical materials to clinical wards by timely and adequate execution of sterilization services. The work contents of our Materials Handling Division could be divided broadly into two main categories. The first work category is the series of sterilization management tasks such as the collection and sterilization of semi-steel small articles belonging to all divisions including the Operation Division and the collection and sterilization of medical appliances belonging to the Operation Division. The second work category is the physical distribution center-like service such as the across-the-board management of medical materials as well as the consolidation of all jobs related to the management of goods and articles. Through the aforesaid tasks, our Materials Handling Division guarantees the quality of in-house sterilization, works on the centralized management of all operations related to medical materials, and the Division tackles issues such as the efficient materials management and cost reduction.

クオリティマネジメント室 Quality Management Office

本院の医療の質向上のため教育研究診療機能の評価、監督、指導及び提言を行い、患者の安全と高い医療の質を維持しつつ先端医療を提供することを目的としている。4つの部門を設置し、高難度新規医療技術管理部門では、高難度新規医療技術の導入の可否を審査し、実施後の評価を行う。未承認新規医薬品等管理部門では、未収載または保険適応のない医薬品等の使用の可否を審査し、使用後の評価を行っている。臨床指標管理部門では、臨床指標項目を設定し、医療の質の向上を目指している。医療業務の質改善部門では、診療科その他の医療業務の質に関係する部署が医療業務の質改善の計画を策定し、適切に実施しているかについて確認を行う。また、医療安全管理業務に係る監査等を行う医療安全監査委員会に関すること及び内部通報窓口に関する業務等も行う。さらに、リスクマネジメント委員会と連携し、医療に係る安全の確保に資する診療の状況を定期的にモニタリングしている。

This office functions to assess, manage, instruct and propose to the medical staffs to improve education, investigation and clinical performance of the hospital. It consists of four sections and an external audit committee to provide advanced medical care while maintaining high quality of care and patient safety.

The section of highly advanced technology is assigned a role to decide an appropriateness of implementation of highly advanced medical technique. Second section plays a part to decide whether to apply disapproved and/or newly developed drugs and medical products to patients or not. Third section is assigned management of clinical indicators to improve quality of medical care. An external audit committee inspects the patient safety system. This office also assesses clinical indicators to improve the medical quality of this hospital.

集中治療部 Intensive Care Unit

集中治療部は、1985年より開設され、現在8ベッドで運営されている。さらに、2016年1月より特定集中治療管理料2に対応した高規格ICUとして稼働している。年間入室症例数は約600～700例で、これまで約18,000例の患者管理を行ってきた。治療患者は、おもに大手術後患者であり、また、手術後に限らず呼吸・循環不全や敗血症、DIC、熱傷患者等も管理している。

集中治療部専従医師を中心に、各科医師の協力により、集学的な治療・運営が行われており、臓器機能不全に対して、各臓器サポートを施行している。集中治療医学は、麻酔科学の重要な分野を担っており、臨床研究では、循環作用薬の臓器血流変化、臓器機能維持等を、基礎研究では急性肺傷害の機序や虚血・再灌流モデルを用いた臓器障害の防御・治療の研究を近年行っている。

Our Intensive Care Unit (ICU) was established in 1985. At present, we operate 8 beds for high standard ICU, which the specific intensive care management fee (2) is applied to. Approximately 600-700 patients are admitted to this unit every year. We have treated about 18,000 cases in total. Most of them are the postoperative patients, in addition, we treat a wide range of patients who have severe clinical conditions such as respiratory dysfunction, circulatory dysfunction, sepsis, DIC, and burns.

We, intensivists provide the combined modality therapy in collaboration with other expert physicians. The most appropriate organ support in present status has been introduced into managements of severe organ failure patients. Intensive Care Medicine plays an important role in the field of Anesthesiology. In the recent clinical studies, we have tried to reveal the effect of circulatory drugs on the organ blood flow. Moreover, we have conducted the basic researches on the mechanism of acute lung injury and the protection/therapy against organ failure in ischemiareperfusion injury animal models.

Website



高度救命救急センター Advanced Trauma, Emergency and Critical Care Center



Website

当センターは、1989年に開設された救急部に端を発し、2008年に救命救急センター、2013年に高度救命救急センターの指定を受けた。大分県で唯一の高度救命救急センターとして、24時間365日の診療体制で、様々な原因により生命の危機に直面した救急患者の診療を行っている。

当センターは、救急外来(計10床)および救命ICU(計24床、うち1床は熱傷ベッド)で運用しており、救急外来には64列MDCTを設置、経皮的心肺補助装置や大動脈バルーンパンピングなどの機器を配置しており、救命ICUでは人工呼吸器、補助循環装置、体温管理法などを駆使して重症救急患者に対する集中治療を行っている。

本院は大分県ドクターヘリの基地病院であり、救命センター屋上にヘリポートと格納庫、管制室を有している。ドクターヘリやドクターカーで発症現場に赴いて早期に治療を開始し迅速に搬送することによって、大分県全域の重症傷病者に対する高度救命救急医療が可能となり、救命率の向上を目指して積極的に活動を行っている。また災害拠点病院として、大規模災害時にも迅速な傷病者対応が可能な体制を構築している。

さらに、教育研究機関として、一般市民、学生、研修医、医師、看護師、救急隊員(救急救命士)などへの教育・啓蒙活動および救急医療に関する研究、治療法の開発に携わっている。

Department of Emergency medicine was established in 1989, and was renewed as designated Advanced Emergency and Critical Care Center in 2013. As only one advanced Emergency and Critical Care Center in Oita prefecture, it accepts critical emergency patients on a 24/7 basis.

This center has 10-beds Emergency Room and 24-beds Intensive Care Unit. ER is equipped with 64-line MDCT, extracorporeal membrane oxygenation and intra-aortic balloon pumping. In ICU, intensive care is provided for critical patients, utilizing artificial organ support device, such as mechanical ventilator, mechanical circulatory support and temperature management.

In addition, air ambulance service of Oita prefecture is based on this center, which has a helicopter pad, a hangar and a flight control room on the roof. That enables our medical team to be dispatched to the scene to start advanced treatments for patients throughout the entire prefecture before arrival at the hospital, leading to improved outcome. Even in case of disaster, it is used for quick dispatch and treatments of patients.

Furthermore, this center is engaged in education for not only students, medical staffs and ambulance crew, but also the public people. It is also involved in research and development of new therapeutics.

輸血部 Blood Transfusion Center



Website

輸血部では、年間約20,000単位の血液製剤の管理と検査を行っている。スタッフは医師2名と、技師7名で構成されている。主な検査と業務は血液型判定、交差試験、GVHD予防のための血液製剤に対する放射線照射である。

特殊な検査としてフローサイトメトリーによるCD4、CD8、CD34等陽性細胞の測定を行っている。特殊業務としては、末梢血幹細胞の採取と凍結保存や細胞療法の管理を実施している。

より安全で有効な輸血療法が行われるように、検査体制の充実に努めており、各診療科に対して適切な輸血療法の指導を行っている。

This center manages and examines about 20 thousand units of blood products per year, and consists of two medical doctor and seven medical technologists. Blood typing and blood crossmatching are practiced and the irradiation of blood products performed for prophylaxis of GVHD, as routine procedures. Positive cells for CD4, CD8, CD34 and so on are detected by flow cytometry in this center. The harvesting and cryopreservation of peripheral blood hematopoietic stem cells and management of cell therapies are also performed. With a view to achieving safe and efficient blood transfusion, the center is making an effort to do complete examinations. We also provide proper transfusion information to many clinical departments.

病理部 Pathology Center



Website

治療の前提たる適切な診断を下すための病理組織検査、細胞診検査、術中迅速検査を業務とする。必要に応じて免疫染色、免疫電子顕微鏡的観察、in situ hybridizationを加え、個々の症例の診断や病態評価に役立っている。これを実践する際の諸問題の解決とその応用を研究課題としており、特に皮膚病理、唾液腺腫瘍病理を中心に、形態学的・遺伝学的・臨床的検討を行っている。

Surgical pathology, cytopathology and intraoperative consultation on frozen sections, which provide patients with the proper diagnosis for treatment, are our routine work. Modern techniques such as immunostaining, in situ hybridization, and immunoelectron microscopic study are employed to ascertain various diagnostic and prognostic markers for the benefit of the patients. Our main interest is to solve the problems encountered in the practice of these examinations and to develop new techniques to help in diagnostic pathology. Especially, we concentrate our efforts to the fields of skin pathology and salivary gland tumor pathology.

医療情報部 Hospital Informatics Center

Website



医療情報部は、昭和 63 年 2 月に病院総合情報システムの開発推進目的に設置された医療情報室を母体とし、平成 7 年 4 月に医学情報センター医療情報部、平成 11 年 4 月に訓令施設医療情報部となった。平成 17 年 1 月には電子カルテを基盤とした病院情報管理システム (BUNGO) を導入し、令和 4 年 1 月には BUNGO2022 に更新されている。医療情報部の主業務であるセキュリティの確保、個人情報保護を重視した上での利便性のある BUNGO の安定稼働に加え、医療情報連携 (ID-Link、医療関係者間コミュニケーションアプリ Join、クラウド型 EHR 高度化事業など)、災害時バックアップ (The Gemini Project、千年カルテ) などの業務も行っている。さらに、テレビ会議のサポートや患者向け Wi-Fi の提供などの業務も手がけており、今後は、PHR、オンライン診療、職員のテレワークなどへの対応も計画している。

The Hospital Informatics Center was established in April 1995, based on the Medical Information room, to develop the integrated hospital information system of the University Hospital (BUNGO). The BUNGO with Electronic Health Record started in January 2005, and was replaced in January 2022. We must manage the integrated hospital information system for stable operation, careering about security and personal information protection. We also provide medical information networks, data backup in the case of disaster, teleconference, and Wi-Fi offering for patients. In future, we will provide PHR, online medical examination, and telework.

臨床薬理センター Clinical Pharmacology Center

Website



本臨床薬理センターは、我が国で初めて臨床薬理を実践する特殊診療科として国立大学附属病院に設置された“臨床薬理センター”である。昭和 57 年のセンター開設当時には、外来部門に加えて 6 床の入院病床での運用で始まった。臨床薬理センターの最大の使命は、質の高い臨床試験・臨床研究を計画・実施することで、薬物治療の有効性と安全性を高め、より合理的な薬物治療を確立することで“未来の医療”を実現させることである。センターでは治験をはじめとした種々の臨床研究を実施する一方で、合理的薬物治療に関する相談、地域の患者さんを対象にした薬物治療コンサルテーションを実施している。治療学の実践においては、より良い医師患者関係を確立することは何よりも重要であり学生への医療コミュニケーション教育 (特に医療面接) も担当している。また、総合臨床研究センターと共に、附属病院における治験を含む臨床研究の推進に取り組んでおり各診療科を支援するための治験外来を設置している。

This Clinical Pharmacology Center was established as a special clinical unit to advance clinical pharmacology and therapeutics (CPT) in 1982 for the first time in Japan's national university system. The center started with outpatient and inpatient services using a 6 bed clinical ward, and currently operating a 20 bed state-of-art Clinical Trial Unit (20 beds). The ultimate goal of the center is to learn, confirm and optimize the safety and efficacy of new therapies and establish “future medicine” by planning/executing high quality clinical trials. The Center also accommodates patient needs for therapeutic consultations. In medical education, the center plays a critical role in teaching medical communication, in particular, methods for medical interview. By collaborating with General Clinical Research Center, we promote clinical trials for other medical departments as well.

リハビリテーション部 Rehabilitation Center

Website



リハビリテーション部は、疾病や外傷の初期より、社会復帰というゴールを念頭に置いた治療や支援を行う部門である。また、高齢者の介護予防などの教育的訓練の一翼も担っている。当院では発病・受傷直後や手術後早期の急性期リハビリテーションに重点を置き、専門職員で構成するリハビリテーションチームにより、病態を評価して治療計画を策定し、それに沿った治療を行っている。疾患別では、脳血管疾患等、運動器、心大血管疾患、呼吸器、がん患者リハビリテーションに対応している。学部学生の教育や療法師の養成にも力を注ぎ、表面筋電計や歩行解析装置等を用いた研究も活発に行っている。

The rehabilitation center assists to recover the body function and to return to their social activities of patients from early stage of a disease or a trauma. It has also an educational role for the elderly to prevent a decline in activity of daily living. We put weight on the rehabilitation from early stage of diseases or postoperative period and team treatment, including the evaluation of dysfunction and disability, and the creation of adequate individual program suitable for each patient. We rehabilitate patients of cerebrovascular and neuromuscular diseases, musculoskeletal diseases, cardiovascular diseases, respiratory diseases and tumor, etc. In addition, we make efforts to educate students and perform research activities.

総合患者支援センター *Comprehensive Patient Support Center*



Website

地域医療機関との連携強化を目的に 2003 年（平成 15 年）、地域医療連携センターが開設された。その後、機能強化を重ね、2016 年（平成 28 年）10 月に、地域包括ケアシステムに対応した患者中心の医療体系を提供するというミッションを掲げ、総合患者支援センターへ名称変更を行った。

総合患者支援センターは、「受付部門」「患者サポート部門」「地域連携推進部門」の3部門から成り、「受付部門」は、外来、検査の FAX 予約などの受付の充実や文書管理、「患者サポート部門」は、入院支援から退院支援、および在宅まで切れ目のない療養支援を目指し、患者情報を多職種で連携・共有しながら円滑な診療に繋げている。「地域連携推進部門」は、地域医療・福祉機関との医療連携の推進、情報収集、広報業務などに取り組んでいる。これらの部門により、質の高い医療サービスを提供し、総合的な患者支援をおこなっている。

The Regional Medical Liaison Center was established in 2003, with the aim of strengthening cooperation with regional medical institutions. After that, it strengthened its functions, and in October 2016, the Center changed its name to the Comprehensive Patient Support Center, to reflect its new mission of providing comprehensive community-based and patient-oriented health care.

The Comprehensive Patient Support Center consists of three sections: the Reception Section, the Patient Support Section, and the Regional Liaison Support Section. "The Reception Section" manage the outpatient clinic and manage documents. "The Patient Support Section" aims to provide seamless medical care support from hospitalization to discharge and subsequent home care, and promote a smooth medical care by coordinating and sharing patient information in interprofessional collaboration. "The Regional Liaison Support Section" is working on promotion of medical collaboration with regional medical and welfare institutions, public relations, and information gathering. These sections provide high quality medical services and provide comprehensive patient support.

周産母子センター *NICU, Maternity and Perinatal Care Center*



Website

大分大学医学部附属病院周産母子センターは妊娠・分娩から新生児までを連携して治療している。妊娠、分娩は産婦人科の専門医が担当し（母性部門）、小児科医を基盤とする新生児専門医が新生児未熟児医療に対応する新生児部門（NICU 及び GCU）を担当し、両者が協力して周産母子センターでの診断・治療を行っている。

母性部門は、助産師とともに母親学級を行い、妊娠、分娩、育児に関する講習および院内の案内を行っている。夫立ち合い分娩の講習会も月に1回行っている。また、子宮筋腫、糖尿病、腎炎、妊娠高血圧症候群、妊娠うつ病など多様な合併症妊娠症例を数多く担当しており、内科や精神科等、関連各科と密に連絡を取りながら、医学的根拠に基づいた最適な妊娠・分娩管理に努めている。

胎児の状態を確認するため、パルスドップラー法、カラー・パワードップラー法や MRI 検査、羊水検査なども施行している。新生児科はもちろん、小児科、小児外科とも緊密な連携を保ちながら、共同でより正確な胎児診断を心がけており、胎児、母体にとって一番良い対応ができるように常に配慮している。

新生児部門（NICU）では、超低出生体重児を含む集中治療を新生児専門医—看護師—コメディカルの協力下、365 日、24 時間体制で行っている。また、自発運動評価等、極力非侵襲的な脳機能評価に基づいた管理を実施している。看護では、早期よりカンガルーケア、母乳栄養を行い、健康な新生児の発育を支援している。

Maternity and Perinatal Care Center, Oita University Hospital, is concerned with pregnancy, delivery and newborn.

The specialist from the obstetrics and gynecology department is in charge of medical care and pregnancy and delivery, and the specialist of newborn, neonatologist, basis of pediatrician, is in charge of neonatal intensive care unit (NICU and GCU) concerned with the intensive medical care for newborns and premature babies, and both cooperate to do our best on medical care for pre- and perinatal mothers, and newborns.

We have held a prenatal class with delivery assistant (midwife) and a class about pregnancy, delivery and baby care. And a monthly class about delivery in the presence of husband is also held. In addition, we are in charge of a multi-complicated pregnancy cases such as myoma of the uterus, diabetes, nephritis, toxemia and maternity blue. We try for the most suitable pregnancy and delivery management with evidence based medicine contact to each subject such as internal medicine and psychiatry concerned each other. We enforce pulse doppler method, color power doppler method and MRI, amniotic fluid analysis depending on the fetomaternal state. We keep a more correct fetal diagnosis and treatment in mind while keeping close cooperation with the pediatrics, pediatric surgery in addition to NICU by sharing if and always consider the first for an embryo and a mother's health so that good correspondence can.

In NICU or GCU, intensive care including for extremely low birth weight infant or newborn babies requiring intensive monitoring are provided by neonatologists, nursing, comedical staffs for 24 hour for 365 days. We perform non-invasive brain functional evaluation such as video monitoring of general movement. Nursing staffs provide "kangaroo care" and breast-feeding assistance from early stage of life to promote healthy growth and development of infants.

CCU部 Coronary Care Unit

Website



冠動脈疾患の集中治療を行う部門である。心電図、心臓超音波法（経胸壁法、経食道法）、冠動脈造影法、および冠動脈内超音波法を診断に供している。薬物療法の他、経皮的冠動脈形成術やステントを用いた冠血行再建術を行っている。心筋炎、心筋症、弁膜症などを原因とした致死のおよび難治性心不全の治療、ならびに頻拍性不整脈や致死性重症不整脈に対する高周波カテーテルアブレーション治療や植込み型除細動器・心臓再同期療法も積極的に施行している。さらに、代謝・糖尿病診療部門との連携により、生活習慣病を中心とした背景疾患の治療にも力を入れている。

Coronary artery diseases such as myocardial infarction and angina pectoris are intensively treated in this section. Admitted patients are diagnosed using electrocardiography, echocardiography (transthoracic, trans-esophageal), coronary arteriography, and intra-coronary ultrasound. Some patients are treated non-invasively. Others are invasively treated with PTCA or stenting. Patients with uncontrolled cardiac failure caused by ischemic heart disease, hypertension, myocarditis, cardiomyopathy, and valvular disease are also treated here. High frequency catheter ablation for tachyarrhythmia, implantable cardioverter defibrillator (ICD) for lethal arrhythmia, and cardiac resynchronization therapy have been performed recently. Finally, emphasis is placed on the treatment for patients with background diseases, the so-called life habit diseases, in cooperation with metabolologists and diabetologists.

血液浄化センター Blood Purification Center

Website



血液浄化センターは、病気の治療目的に体液中の物質を選択的に除去する部門である。

具体的には急性・慢性腎不全患者に対する血液透析、自己免疫疾患や神経疾患、血液型不適合腎移植に対する血漿交換や各種吸着療法、難治性腹水症に対する腹水ろ過濃縮再静注法、化学療法前の癌患者に対する末梢血幹細胞採取を行っている。

同時血液透析能力は 15 名で、維持血液透析の外来患者も受け入れている。

血液浄化センターの管理・運営は腎泌尿器外科医、腎臓内科医、3名の看護師、4名の臨床工学技士が行っている。

The blood purification center is a department that selectively removes substances in body fluids for the purpose of treating diseases.

Specifically, hemodialysis for acute / chronic renal failure patients, plasma exchange and various apheresis for autoimmune diseases and neurological diseases and ABO incompatible kidney transplants, cell-free and concentrated ascites reinfusion therapy (CART) for intractable ascites, and peripheral blood stem cells harvesting (PBSCH) for cancer patients before chemotherapy.

Simultaneous hemodialysis capacity is 15 people and maintenance hemodialysis for out-patients is acceptable.

The blood purification center is managed and operated by urologists, nephrologists, three nurses, and four clinical engineering technicians.

内視鏡診療部 Endoscopy Center

Website



内視鏡診療部で行われている内視鏡診療は、消化器疾患、呼吸器疾患にわたり、上部・下部消化管、気管支、超音波内視鏡、逆行性膵・胆管造影（ERCP）などとそれらに関連する治療手技である。内視鏡検査は診断手技のみでなく、治療手段としての地位を確立してきたことから、内視鏡診療の重要性は高まる一方である。現在、6台の電子スコープが検査に使われており、スタッフとして内科・外科医師、看護師、内視鏡技師が常時勤務している。当院における内視鏡診療を基礎とした専門分野としては、①ヘリコバクターピロリと上部消化管疾患（胃炎、胃潰瘍、胃癌）との関連 ②食道、胃、大腸の早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）③胃・食道静脈瘤に対する内視鏡的治療 ④食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切開術（Pre-oral Endoscopic Myotomy: POEM）⑤膵・胆道疾患の内視鏡的治療（ERCP・EUS ガイド下ドレナージなど）、⑥炎症性腸疾患の診断、内視鏡治療などである。最近では地域医療連携センターとも連絡を密にしており、患者さんに細やかで苦痛がなく、かつ大学病院として、より高度な内視鏡診療を実践できるよう努力している。

The division of endoscopy provides therapy for diseases of the gastrointestinal and respiratory system, namely the upper and lower gastrointestinal tract, and bronchi, by means of ultrasound endoscopy, ERCP (imaging of biliary and pancreatic ducts) and other related techniques. The importance of endoscopy is increasing as it is an important tool not only in diagnostics but also in therapy. Recently, physicians, surgeons, nurses, and endoscopy technical assistants have been routinely operating six electronic endoscopes. The interest of research in our hospital focuses on the research of: 1. the correlation between *H. pylori* and diseases of the upper gastrointestinal tract (gastritis, gastric ulcer and gastric cancer), 2. endoscopic excision of early carcinoma in the esophagus, stomach and colon, 3. endoscopic therapy for gastric and esophageal varices, 4. Pre-oral Endoscopic Myotomy: POEM to esophagus achalasia, 5. endoscopic therapy (ERCP/EUS-guided drainage) for pancreatic and biliary tract diseases, 6. diagnosis and endoscopic treatment of inflammatory bowel disease, and others. Recently, we have cooperated intensively with the local medical centers to provide a high level of painless endoscopic care as a university hospital.

感染制御部 *Hospital Infection Control Center*

病院内における感染予防対策はきわめて重要である。感染制御部は、①MRSAをはじめとする耐性菌の院内感染予防、②抗菌薬の適正使用の推進、③結核などの感染性の強い病原体の病院内での患者や医療従事者への感染防止対策、④肝炎ウイルスやヒト免疫不全ウイルス（HIV）などの針刺し事故対策、などをおこなっている。これらの活動により患者の在院日数の短縮、医療費の抑制、医療従事者の健康維持などの効果が期待されている。また大分県下の医療機関と連携し、地域における耐性菌などの感染予防対策を進めている。

It is essential to control infections in hospitals. The hospital infection control center was established to prevent infections in the hospital. This center conducts the following; a) epidemiology and control of hospital infection due to antimicrobial resistant bacteria such as methicillin resistant *Staphylococcus aureus*, b) promotion of appropriate antimicrobial use, c) prevention of *Mycobacterium tuberculosis* transmission in facilities for patients and health-care workers, d) protection of workers against acquisition of hepatitis viruses or human immunodeficiency virus while performing job duties. These activities provide shortening of hospital stays, decreasing medical costs for patients, and maintenance of health for the workers. Furthermore, we are cooperating with the hospitals in Oita prefecture in infection control.

ME機器センター *Medical Engineering Center*

医療機器の高度化に伴って、多用途の高機能を有する医療機器が導入され診療に応用されている。これらの医療機器を総合的に機能管理、メンテナンスを行うとともに、適切に配置し、医療経済の面からも合理的に資源を投入し病院経営に資することを目的に設立された部門である。

The medical university hospital is providing high-level clinical technology to ill patients. To realize this purpose, many precision instruments are employed in physiological examinations and life-saving intensive care in the specialized clinical departments and facilities. This ME-Center manages mechanical maintenance and rational purchase of this equipment to ensure safe and effective use in patients.

腫瘍センター *Cancer Center*

悪性腫瘍（がん）は現在、わが国の死亡原因の第一位である。治療法は改善されつつあるが、いまだ十分とは言えない。このような状況において、内科・外科・放射線科・緩和ケアセンターなど複数の診療科等が協力しながら集学的治療を行ってゆくことが重要と考えられている。また、医師だけではなく看護師、薬剤師などを含む多職種の関係者が協力しながらチームとして診療に関わってゆくチーム医療の実現も重要な課題のひとつである。

大分大学では標準治療の実践とより効果的な治療法の開発のための臨床研究の推進を目標として、附属病院内に腫瘍センターが設立された。センターでは、腫瘍内科が中心となり内科系診療科、外科系診療科、緩和ケアチームなどの部署と連携してがん診療の実践を行っている。各がん腫に対する抗がん剤治療は化学療法運営委員会で承認された治療法であり、個々の治療法は各領域の専門家により cancer board（14 領域よりなる）で決定されることとなっている。また、各種薬剤の投与方法、副作用の種類と頻度、副作用に対する対処法などの情報はセンターで一元化され、医療スタッフはこれらの情報を共有しながら日常診療にあたっている。同時にこのような安全な診療体制下で新薬治験をはじめとした各種臨床試験も行われている。

なお、本センターを中心としたこのような診療活動により本学医学部附属病院は、都道府県がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院に指定されており、大分県のがん診療の中心的役割を担っている。

Cancer is the leading cause of death in Japan today, and while treatments for cancer have been improving, further progress needs to be made. We believe that a multidisciplinary approach to treatment is crucial, with cooperation among the departments of internal medicine, surgery, and radiology, the palliative care center, and others. Also important is the practice of team medicine with doctors, nurses, pharmacists, and other healthcare professionals working together.

The Cancer Center at Oita University Hospital was established with the dual aims of providing standard care to patients and advancing clinical research for the development of more effective treatments. The Department of Medical Oncology takes the central role at the Cancer Center, providing cancer treatment in coordination with other departments in the areas of internal medicine, surgery, and palliative care. Anticancer drug treatments for each type of cancer are approved by a chemotherapy advisory committee, while a cancer board consisting of specialists in 14 different areas decides individual treatments. Information on method of administration, types and frequencies of adverse effects, management of adverse effects, and other matters is consolidated at the Cancer Center. This information is then shared with healthcare staff in the provision of routine care. At the same time, various clinical trials are carried out for new drug treatments and other therapies under this safe medical care system.

Based on these medical care activities at the Cancer Center in concert with our other departments, Oita University Hospital has been designated a prefectural cancer hospital by the national government and a Cooperative Hospitals for Cancer Genomic Medicine in Japan, and plays a central role in cancer treatment in Oita Prefecture.

Website



医療安全管理部 Medical Safety Management Center

本院の医療安全管理は、平成 11 年に病院リスクマネジメント委員会が開設され、医療事故防止への取り組みが組織化された。その後、平成 13 年には、一層の医療安全管理の推進を目的として、医療安全管理部が設置された。当初は専従看護師 1 名の配置であったが、平成 18 年より専任医師が配置され、その後も医師、看護師、薬剤師、事務職員などの増員を行い、体制の強化を図っている。

医療安全管理部は提供する医療の質向上を目的に、①インシデント報告に対する情報収集・分析、②医療事故防止策の立案・周知、③医療安全管理マニュアルの整備、④職員研修の企画・運営、⑤医療に関する患者相談、⑥医療事故防止にかかわる病院内の巡視・評価などの業務を行っている。また、外部機関と連携した活動として、国立大学病院医療安全管理協議会の相互チェックやピアレビューの実施、さらに平成 27 年から開始された医療事故調査制度への対応を行っている。

The active medical safety management in our hospital started by the organization of risk management committee in 1999. In 2001, medical safety management center was established for further promotion of medical safety management. A nurse as a general risk manager was assigned in the beginning. A full-time medical physician was assigned in 2006 and several medical staffs were deployed for strengthen the medical safety management.

In order to improve the quality of patients safety, we conduct following activities;

- 1) Analysis and evaluation of incidents.
- 2) Designing measures to meet the incidents and notify those to medical staffs in the hospital.
- 3) Publish manuals for medical safety management.
- 4) Education of staffs in the hospital
- 5) Response to patients' consultations and claims.
- 6) Inspection and evaluation for prevention of incidents in the hospital.

Furthermore, as associated activities with outside agencies, we promote the mutual check system and peer review of the current status of medical safety management among the national university hospitals and correspond to an institution of investigation of medical accidents, which is established in 2015.

卒後臨床研修センター Center for Postgraduate Education and Training



Website

卒後臨床研修センターは、平成 16 年度から必修化された卒後臨床研修に伴い、企画・運営・管理などのすべての業務を統括するために平成 15 年 4 月に設置された。

主な業務は下記のとおりである。

- 1) 卒後臨床研修の計画及び実施
- 2) 研修医の募集及び登録
- 3) 研修医に係る連絡・照会等の対応
- 4) 研修実施課程におけるカリキュラム管理
- 5) 指導医の確保及び評価
- 6) 研修医の評価
- 7) 研修医に係る臨床研修病院との連絡調整
- 8) 研修医のメンタルヘルス及び労働条件
- 9) 研修医の処遇
- 10) 研修医の救急当直等
- 11) 新専門医制度関係

Since the clinical training program is to become a compulsory program for graduates from FY2004, the Center for Postgraduate Education and Training was established in April 2003 to unify the various tasks of planning, administration, and management etc. Its main roles are as follows.

- 1) Planning and implementation of clinical training program for graduates.
- 2) Recruitment and registration of interns.
- 3) Communication, inquiries and other interns related matters.
- 4) Curriculum management of the internship program.
- 5) Maintaining and evaluating instructing doctors.
- 6) Evaluating interns.
- 7) Liaising and coordinating with training hospitals for interns.
- 8) Supervision of mental health and working conditions of interns.
- 9) Management of treatment for interns.
- 10) Arrangement of emergency duty rotation for interns.
- 11) New specialist institutional relationship

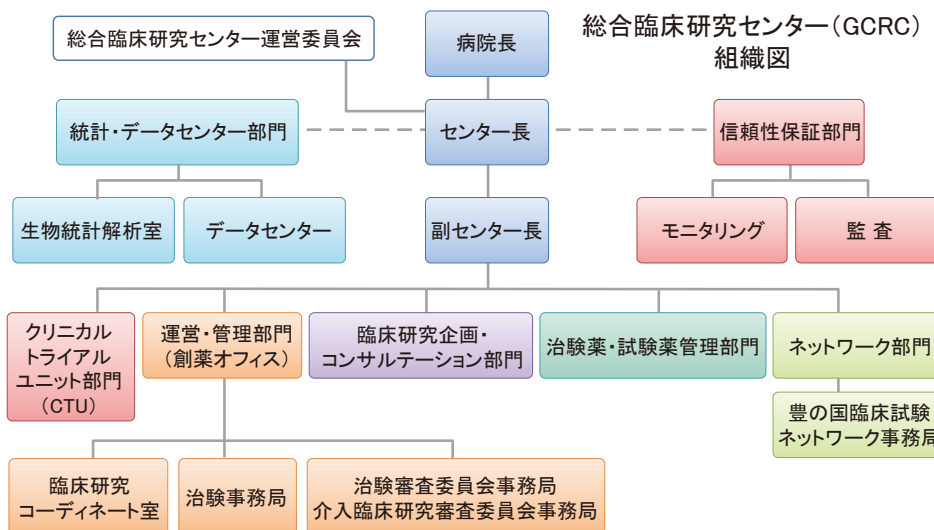
総合臨床研究センター General Clinical Research Center

Website



総合臨床研究センターは、クリニカルトライアルユニット部門、運営・管理部門、臨床研究企画・コンサルテーション部門、治験薬・試験薬管理部門、統計・データセンター部門、信頼性保証部門の7部門からなり、大分大学医学部附属病院における治験、臨床研究の支援を行う機能組織である。

クリニカルトライアルユニット部門は附属病院4階にある臨床試験専用病床（クリニカルトライアルユニット、CTU）を管理し、特に早期臨床試験を実施している。運営・管理部門は、治験事務局業務、介入臨床研究事務局業務、臨床研究コーディネイト業務を行う。臨床研究企画・コンサルテーション部門は、主に院内の自主臨床研究を計画段階から支援し、研究の質の向上を目指す。治験薬・試験薬管理部門は、治験薬及び臨床研究で使用する試験薬剤の管理を一元的に行う。ネットワーク部門は大分県下の医療機関からなる「豊の国臨床試験ネットワーク」の事務局業務を主に行う。統計・データセンター部門は生物統計家及びデータセンターを擁し、院内の臨床研究のみならず、多施設共同臨床試験の中央データセンター機能も有する。信頼性保証部門はモニタリング及び監査機能を有し、臨床研究データの信頼性向上を業務とする。



The General Clinical Research Center (GCRC) has a central management function of clinical researches in Oita University Hospital. GCRC consists of 7 divisions, which bring together thought leadership, global and local experience, scientific rigor, and a skilled workforce to efficiently coordinate clinical trials and answer clinical questions that improve patient care.

認知症先端医療推進センター

Center for Propulsion of Advanced Medicine for Dementia

Website



高齢化社会の到来により認知症の患者数は増加の一途を辿っている。認知症の克服は全世界的な課題であり、我が国においても国家戦略として認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）が推進されている。認知症先端医療推進センターは、世界最先端の認知症医療・研究の実現に向けた共同診療・研究体制を構築することで、大分県の認知症医療レベルの向上、超早期診断技術および根本的治療薬の開発を目指す。本センターは、認知症診療を担う神経内科、総合内科および精神科、画像診断機能を有する放射線医学及び先端分子イメージングセンター、臨床研究の包括的実施機能を有する総合臨床研究センターが連携し、認知症の研究・診療・教育の各部門を構成する。

各部門の主な取り組み

- 1) 研究部門は、認知症の危険因子の解明、認知症の予防法の探索のデータ駆動型研究と、アルツハイマー病の早期診断技術および根本的治療薬の開発、革新的診断技術や根本的治療薬の治験等のミッション達成型研究を推進する。
- 2) 診療部門は、PET 検査・MRI 検査等の高度な診断技術を活用し、地域の医療機関との機能分化・連携強化を推進する。
- 3) 教育部門は、専門的な知識・医療技術を持つ医師および看護師の育成、地域への派遣を推進することで地域における認知症医療レベルの向上を図るとともに、地域医療の活性化を目指す。

A super aging society in Japan is facing a dramatic increase of patients with dementia. We need to take an immediate and global action to deal with this issue. Recent government dementia plans, comprehensive strategy to promote measures and policies of dementia, has been announced as "New Orange Plan". To lead Japan's medical front of dementia in Oita prefecture, CPAMD aims to provide preventive approaches to Alzheimer's disease (AD), including development of novel diseasemodifying therapies to delay or prevent the onset of AD and diagnosis-developing research to identify people with increased risk of AD. The three major divisions, research, medicine, and education are tasked in cooperation with a couple of department of neurology, general medicine, neuropsychiatry, and radiology as well as advanced molecular imaging center and general clinical research center.

Mission of each division

- 1) Research Division focuses on AD, and promotes a "three-arrowed research": datadriven research, mission-oriented research, and translational research.
- 2) Medical division designs innovative medical system linked to PET/MRI imaging, and promotes medical network system in a cooperation with multiple task force which is an independent panels of experts in medical care and service.
- 3) Educational division aims to bring up medical experts for dementia all over Oita, who can promote the physical and mental health of demented people or the one at risk of dementia, and also provide advanced quality of dementia care, leading to the activation of medical community in Oita.

生殖医療センター Reproduction Center

Website



当院の生殖医療は、産科婦人科診療の一環として、主に通常の不妊カップルを対象とした不妊治療技術の提供を行っています。近年の生殖医療は、技術の進歩とともに、従来の不妊治療だけでなく、がん患者に対する妊孕性温存等、様々な分野との連携が必要な医療になりつつあります。

女性患者を対象とする婦人科に加え、男性不妊に対応する泌尿器科、妊孕性温存の主要患者層となる小児科、血液内科を主軸とし、腫瘍センター（地域がん連携センター）、遺伝子診療室、周産母子センターなど、院内の多様な部署や診療科と様々な職種が連携しつつ、総合的な生殖医療が行える体制づくりを目指しています。

Reproductive medicine has provided fertility treatment technology mainly for normal infertility couples as part of obstetrics and gynecology medical care. In recent years, reproductive medicine is becoming a medical treatment that requires cooperation with various fields such as fertility preservation for cancer patients as well as conventional infertility treatment with technological innovation.

In addition to gynecology for female patients, we aim to create a system that enables comprehensive reproductive medicine with urology for male infertility, pediatrics and hematology which is the main patient group for fertility preservation, tumor center (regional cancer cooperation center), while coordinating various occupations with various departments and clinical departments such as genetic clinic and perinatal maternal and child center in the hospital.

看護師特定行為統括センター

General Center Pertaining to Specified Medical Acts for Nurse

Website



看護師特定行為統括センターの目的は、高度医療や地域医療の現場において質の高い安全なチーム医療を実現するため、特定行為に必要な専門的な知識と技術を有した看護師を育成し、社会に輩出することである。特定行為とは医師・歯科医師の作成する手順書に従って行う診療の補助行為であり、保健師助産師看護師法に定められている。このような特定行為を行う看護師を育成し、その能力を円滑に発揮する職場環境を整えることにより、専門性を有する医療従事者の業務の分担と連携を促進することが可能となり、良好な医療を提供できる社会が実現すると期待している。

本センターの業務は以下のとおりである。

1. 特定行為の研修計画の立案
2. 特定行為の研修に係る関係診療科及び診療施設との調整
3. 特定行為の研修の実施と評価
4. 特定行為の円滑な業務に関する企画と運営
5. 特定行為に係る関係診療科及び診療施設との調整

The purpose of “the General Center Pertaining to Specified Medical Acts for Nurses” is to develop nurses with the expertise and skills necessary for specific actions and to produce them into society in order to realize high-quality and safe team medical care in advanced and community medical settings. Specified medical acts are auxiliary works to medical treatment provided according to the manual prepared by physicians and dentists, and is stipulated in “the Act on Public Health Nurses, Midwives, and Nurses”. It becomes possible to promote the sharing and cooperation of the work of the medical practitioner with the specialty by developing the nurse who carries out such specified medical acts, and by developing the workplace environment which smoothly shows the capability. And, it is expected that the society which can provide the good medical treatment realizes.

The missions of this center are as follows:

1. Planning of training for specific activities
2. Coordination with medical departments and medical facilities related to training on specific practices
3. Implementation and evaluation of training for specific activities
4. Planning concerning the smooth procedure of specified medical acts
5. Coordination with medical departments and medical facilities related to specified medical acts

肝疾患相談センター *Liver disease consultation unit*



Website

平成 20 年 4 月、新しい肝炎総合対策が始まり、大分大学医学部附属病院が「肝疾患診療連携拠点病院」に選定された。肝疾患相談センターは、拠点病院の業務の中心的な役割を果たす組織である。

1. 患者・キャリア・家族からの相談等に対応する。
2. 県内の専門医療機関（協力病院）やかかりつけ医と連携し、大分県の肝疾患の病診連携のしくみをつくる。
3. 医師や医療関係者に対する研修や講習会を実施し、情報提供を行う。

地域によって診療に偏りのないよう、患者さんが等しく最新の治療が受けられるようにする。

With the introduction of the Government's new comprehensive measures against hepatitis in April 2008, the Oita University Hospital was designated as the "Base hospital for cooperation in the medical care of liver diseases" in Oita Prefecture. The Liver Disease Consultation Unit is an organization playing the central role in the activities of the base hospital, which include:

1. Counseling patients, carriers, and their families.
2. Collaborating with specialized medical institutions (cooperating hospitals) and general practitioners in the prefecture to develop prefectural systems for hospital-clinic cooperation against liver diseases.
3. Holding training sessions and workshops for physicians and other healthcare professionals to provide them with relevant information.

The Liver Disease Consultation Unit strives to give each patient an equal opportunity to receive the latest treatment irrespective of their location.

臨床栄養管理室 *Clinical Nutrition Office*



Website

近年、生活習慣病をはじめ、多くの疾病と食生活の関係が注目されている。当院の臨床栄養管理室は、栄養治療及び食事療法の臨床部分と、食事を提供するというフードサービス部分を兼ねた、管理栄養士と調理師で構成された組織である。室員全員が、「食事の提供は、それ自体が食生活改善と食事療法における最高の指導媒体である」をモットーとし、病状に応じた食事、さらには食事の楽しさを提供できるように心がけている。また、NST(栄養サポートチーム)、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、糖尿病透析予防チームなど、栄養に関わるすべてのチーム医療に栄養管理の専門職として参画し、疾病の治癒へ貢献できるように努力している。

患者様には、入院・外来を問わず、個人栄養指導・集団栄養指導などを行い、食事療法が継続できるよう支援している。その他、栄養士の臨地実習を受け入れる教育支援や、院外においては疾病予防に関わる活動への参加を通して大学病院としての地域支援を行っている。また、学会活動を通じ、学会認定資格の取得や更新についても積極的に取り組んでいる。

Recently, the relation including the lifestyle disease between a lot of quality diseases and eating habits is paid to attention.

Member of clinical nourishment management quality is an organization that held the Food Service part to offer a clinical part of the nourishment treatment and the dietetic treatment and meals concurrently composed of the national registered dietitian and the cook.

For all clerks to assume "In the offer of meal, it is the highest guidance medium in the eating habits improvement and the dietetic treatment" to be a motto, to eat according to the condition, and to offer the happiness of the meal furthermore, it bears it in mind.

Moreover, it makes an effort to participate in all the team medical treatments related to nourishment such as NST (nutrition support team) and bedsores team, palliative care team, and diabetes dialysis prevention team as a profession of the nutrition management, and to contribute to the treatment of the disease.

To guide individual nourishment, to guide the group nourishment to the patient regardless of hospitalization or the outpatient, and to intermit the dietetic treatment, it supports it. Additionally, the region as the university hospital is supported through participation in the activity related to the disease prevention in the support of education and outdoor that accepts the dietitian's temporary practice.

Moreover, the society activity runs, and works positively about acquisition and the update of the society recognition qualification.

遺伝子診療室 *Genetic Counselling*



Website

ヒトゲノム配列に関する完全なデータは、臨床科学の様々な分野で広く適用されています。臨床遺伝学の進歩は、遺伝病の診断、治療および予防のための新しい戦略を提供する事を容易にしています。近年このような状況下で、遺伝カウンセリングは臨床医学のどの分野においても本質的に重要な医療として認識されています。

遺伝子カウンセリング部門は、遺伝的専門家からなるチームであり複雑な遺伝学性疾患を有する個人や家族の医療的選択を支援します。遺伝子診療室では、遺伝的リスク評価、臨床評価、遺伝子検査、遺伝カウンセリングなど、幅広いサービスを提供しています。また遺伝性疾患の患者さんの診断、管理、治療にも取り組んでいます。また、複雑な遺伝的問題に直面しているクライアントには理解しやすい方法で教育、情報、サポートを提供しています。

Complete data on human genome sequence have extensively been applied in various fields of clinical science. The progress in medical genetics has facilitated to provide new strategy for diagnosis, treatment, and prevention for the genetic disorders. In the recent years under such circumstances, the genetic counseling has been recognized as an essentially important component of health care practice in any field of clinical medicine.

The Division of Genetic Counseling offers a team of genetic specialists to help individuals and families navigate the complex genetics disorders. Our team of clinical geneticists provides a wide range of services, including genetic risk assessment, clinical evaluation, genetic testing, and genetic counseling. Our team is committed to the diagnosis, management and treatment of patients with genetic disorders. We also provide education, information and support to the clients facing complicated genetic issues in ways easy to understand.

薬剤部 Pharmacy



Website

薬剤部は、安全かつ適正な薬物療法の実施、医薬品の適正使用推進という責務を果たすために、より質の高い薬剤業務の展開を目指している。また、医薬分業の推進とともに外来処方中心の業務から入院患者中心の業務へ移行している。業務内容としては、調剤・製剤・医薬品管理だけでなく、TDM、チーム医療、病棟薬剤業務および薬剤管理指導業務など多岐に渡っている。さらに、積極的に臨床研究を行い、より効果的な薬物療法の開発を行っている。

主な業務は、下記のとおりである。

- 1) 調剤
- 2) 医薬品情報管理
- 3) 医薬品管理
- 4) 病棟薬剤業務および薬剤管理指導
- 5) TPN 無菌調製と抗がん剤調製
- 6) 治療薬物モニタリング
- 7) 治験薬管理
- 8) チーム医療

Pharmaceutical department aims for the development of high-quality business to discharge our duty which is the practice of safe and appropriate medicinal therapy and the propulsion for the best use of medicine. As the separation of medical professionals from drug dispensing progresses, hospital pharmacists' roles have shown a shift from outpatient prescription-based services to inpatients-centered services. Our services range not only from drug dispensing, formulation and management but also to therapeutic drug monitoring (TDM), team medicine care, inpatient pharmaceutical services and pharmaceutical care services. And we perform some clinical studies positively and develop more effective medicinal therapy.

Its main roles are as follows.

- 1) Dispensing
- 2) Management of drug information
- 3) Management of drugs
- 4) Inpatient pharmaceutical services and pharmaceutical care services
- 5) Aseptic preparation of TPN and anticancer drugs
- 6) Therapeutic drug monitoring
- 7) Management of investigation drugs
- 8) Team medicine care

看護部 Nursing Department



Website

看護部は、深い関心と確かな技で「その人らしく生きる」を支える看護を提供することを理念とし、基本方針は、患者中心で質の高い看護の提供、看護を創造し探求すること、多職種との協働、地域との連携である。

患者中心の看護実践を大切にして、様々な治療の段階にある患者さんのニーズを捉え、患者さんの持つ力を引き出すとともに、その人らしい療養生活を実現するための支援に力を入れている。そのために、他職種や地域医療機関との連携を強化している。

社会環境が大きく変化する中で、看護の専門性を発揮するため、学習環境を整備し、専門的な資格の取得を支援している。

ライフサイクルの様々な段階の看護職が、協力しあいキャリアを継続できるように、職場環境改善に取り組み、多くの子育て世代がいきいきと働いている。

The philosophy of the Nursing Department is to provide nursing with deep interest and certain skills for people live as they are. The basic policy is providing high quality patient-centered nursing, creating and questing nursing, and collaboration with various medical members and community.

We value patient-centered nursing practice, catch the needs of patients at various stages of treatment, draw out the power of patients, and focus on support to realize their own medical treatment life. ... To that end, we are strengthening cooperation with other occupations and regional medical institutions.

In the midst of major changes in the social environment, we are improving the learning environment and supporting the acquisition of professional qualifications in order to demonstrate our nursing expertise.

We have been improving the work environment to cooperate and continue their careers of nurses at various life stage, so that many parenting generations are working vigorously.

医療技術部 Medical Technology Department



Website

医療技術部は、医療技術専門職として医療技術の質の向上を図り、高度な技術提供に努め、診療部門・病院管理部門との密接な協力体制を確立することを理念として平成 18 年 10 月に設置された。

医療技術部は、臨床検査部門（臨床検査技師）、放射線部門（診療放射線技師）、リハビリテーション部門（理学療法士、作業療法士、視能訓練士、言語聴覚士）、臨床工学・歯科部門（臨床工学士、歯科技工士、歯科衛生士）の 4 部門からなり、医療技術専門 9 職種が所属し、中央診療施設等に配置され当該中央診療施設等の長の命を受けて業務を遂行している。

患者本位の診療に徹し、診療部門への迅速な診療情報の提供に努めること、医療技術の質の向上と患者サービスの向上に努めること、医療技術職員間の連携を図り、部門の交流の促進と相互の技術水準の向上を図ること、医療技術職員の適正配置による業務運営の効率化を図ること、専門性と豊かな人間性を兼ね備えた医療技術部を目指すことを目標としている。

The Medical Technology Department was founded in October 2006. The department presses for improvements in the quality of the available medical technology, its professional medical technicians provide high quality specialized medical treatment, and it works to build up an effective cooperation system between the outpatient and control departments.

The Department has 4 sections; Clinical laboratory (Clinical laboratory technologists), Radiological (Radiological Technologists), Rehabilitation (Physical Therapists, Occupational Therapists, Orthoptists, Speech-Language-Hearing Therapists), and Clinical Engineering with Dental (Clinical Engineering Technologists, Dental technicians, Dental hygienists). The department also has 9 medical specialty technologists that operate under the leadership of the medical director.

The department is tasked with providing adequate health care for all patients as well as providing all necessary information to the central clinical department. It also aims to raise the standard of available medical treatments, enhance partnerships among staff, and to seek further efficiencies, effective postings, and efficient rationalization. Furthermore, our department aims to inculcate a high degree of professionalism and humanity within the department.

災害マネジメント総合支援センター *Disaster Management Center*

災害対策室は、平成25年4月に国立大学法人大分大学危機管理規程に基づき、地震時などの大規模災害への対策を講じるとともに、災害対応の迅速かつ的確な実施を図るために、医学部附属病院に設置されました。令和6年4月に専任教員2名を追加配置して、BCP部門、コーディネート部門、データマネジメント部門から構成される災害マネジメント総合支援センターへと組織改編を行いました。これまでに、本院の災害対応体制の構築、BCP作成・BCMの推進、災害対策マニュアル・アクションカードの管理、医療救護班の管理・運営などの多岐にわたる業務を行ってきましたが、今後は、行政や医療機関などとの連携を更に深め、地域BCPや大分県全体の訓練・研修にも密接に関わって行きます。また、大分大学滅災・復興デザイン教育研究センター(CERD)と共同で、自然災害データと救急・災害医療データを統合して、AI解析なども含んだ情報管理業務も推進しています。

The Disaster Risk Management Office was established at Oita University Hospital in April 2013, to measure large-scale disaster such as earthquake. In April 2024, we added two full-time faculty members and reorganized our organization into the Disaster Management Center, which consists of a BCP department, coordination department, and data management department. So far, We have been involved in a wide variety of tasks, including building the hospital's disaster response system, creating BCP and promoting BCM, managing disaster response manuals and action cards, and managing disaster response teams. We will further deepen our collaboration with the government, medical institutions, etc., and be closely involved in regional BCP and Oita prefecture disaster training. Additionally, in collaboration with Oita University Center for Education and Research of Disaster Risk Reduction and Redesign (CERD), we are integrating natural disaster data with emergency and disaster medical data, and promoting information management operations that include AI analysis.

女性医療人キャリア支援センター *Career Path Support Center for Medical Staff*



Website

女性医療人キャリア支援センターは、医学部附属病院で医療に携わる医療人（医師、看護師、薬剤師、コメディカル）のキャリア継続、復帰、およびキャリアアップを支援するためのセンターとして、平成26年12月24日に設立された。

女性医療人の割合は増加する傾向にあるが、出産、育児などでキャリアを中断せざるを得ない、その後の職場復帰が困難になる、といった本人だけでは解決し難い問題に直面している。こうした現状を踏まえ、ハード、ソフト両面でどのような支援が必要であるか女性医療人の声を聴きながら支援策を構築するとともに、女性のみならず医療人全体の意識啓発を行っていく。

女性も男性も医療人がキャリアを継続し、活躍できる多様性のある職場環境にしていくことにより、病院全体の質の向上、ひいては地域医療への貢献につなげることを目指している。

Career Path Support Center for Medical Staff was established on 24 December 2014 as an organization of Oita University Hospital, in order to support medical staff, such as doctors, nurses, pharmacists, and co-medicals, for their lifelong career, return-to-work, and career development. Despite the increased rate of female medical staff, they are facing difficulties, hardly solved by themselves, in maintaining their career and returning to work due to pregnancy and parenting. Considering the current circumstances, we listen to their voices to seek what kind of support they need from both the hard and soft aspects, develop support measures, and enlighten overall awareness beyond genders.

Our mission is to contribute to community medicine as well as improve quality of Oita University Hospital by making the work place variable, where both male and female medical staff are able to keep their career and play successful roles.

移植・再生医療支援室 *Support Office for Transplantation and Regenerative Medicine*

移植・再生医療支援室は、移植医療及び再生医療に係る関係機関等との連絡調整、各種手続、患者・ドナー及びその家族への支援、データ管理等の業務を統括するため、平成28年5月25日に設置された。

The Support Office for Transplantation and Regenerative Medicine was established on May 25, 2016 to unify duties such as the support to the communication adjustment with relations engines, various procedures, a patient, a donor concerned with transplant medical care and regenerative medicine and the family, the data management.

看護職キャリア開発支援センター *Nursing Career Development Support Center*

看護職キャリア開発支援センター（以下、センター）は、医療環境の変化に対応できる組織をつくり、人を育てることを目的に、令和元年12月1日に設立された。センターは、現行の教育プログラムの評価とブラッシュアップ、新規プログラムを開発する「教育プログラム開発部門」、看護職の研究支援による看護研究の実績向上、看護学科との協働により研究を推進する「研究支援部門」、地域看護の質向上に貢献する事業の展開を行う「地域交流推進部門」からなる。卒後臨床研修センターや他部門など、組織を超えた人的資源の活用や多職種との協働により、多職種参加の教育プログラムの開発や提供を行い、院内外の看護職がキャリアを発展させる機会を提供し、地域看護の質向上に貢献することを目指している。

The Nursing Career Development Support Center (here in after referred to as "Center") was established in the first year of the Reiwa era, with the aim of creating an organization that can respond to changes in the medical environment and raising people. The center consists of three departments: "Education Program Development Department" "Research Support Department" "Regional Exchange Promotion Department". Education Program Development Department evaluates and brushes up the current educational programs, and develops new ones. Research Support Department improves the results of nursing research by supporting the research of nursing staff, and promotes research by collaborating with nursing departments.

Regional Exchange Promotion Department develops businesses that contribute to improving the quality of community nursing. By utilizing human resources across organizations such as postgraduate clinical training centers and other departments and collaborating with multiple occupations, we develop and provide nursing professionals inside and outside the hospital with educational programs that participate in multiple occupations to develop their careers, and it aims to contribute to the improvement of the quality of community nursing.

低侵襲手術センター Minimally Invasive Surgery Center

2022年6月、国産手術ロボット「hinotori™」を附属病院に導入し、既存のda Vinci®と2台体制となったことから、①手術ロボットの運営の効率化、②医療安全管理、③ロボット手術術者などの高度医療人育成、を目的として2022年8月、低侵襲手術センター（センター長：猪股雅史、副センター長：秦聡孝）を開設した。10月には、医療従事者だけでなく、医学生や一般職員が手術ロボットを体験する「大分ロボット手術体験セミナー」を開催した。また同11月には市民への啓発活動として、市民公開講座「もっと知りたい！からだに優しいロボット手術」を行った。また腎臓外科・泌尿器科、消化器外科、産婦人科医師が参加し、骨盤内リンパ節郭清に関する領域横断的なセミナーを開催するなど意欲的な活動を行った。これらの取り組みを継続し、さらに精度の高い安全な低侵襲手術の普及、高度医療人育成、また将来的には遠隔手術指導による大分県内のロボット手術の安全な導入を目指している。

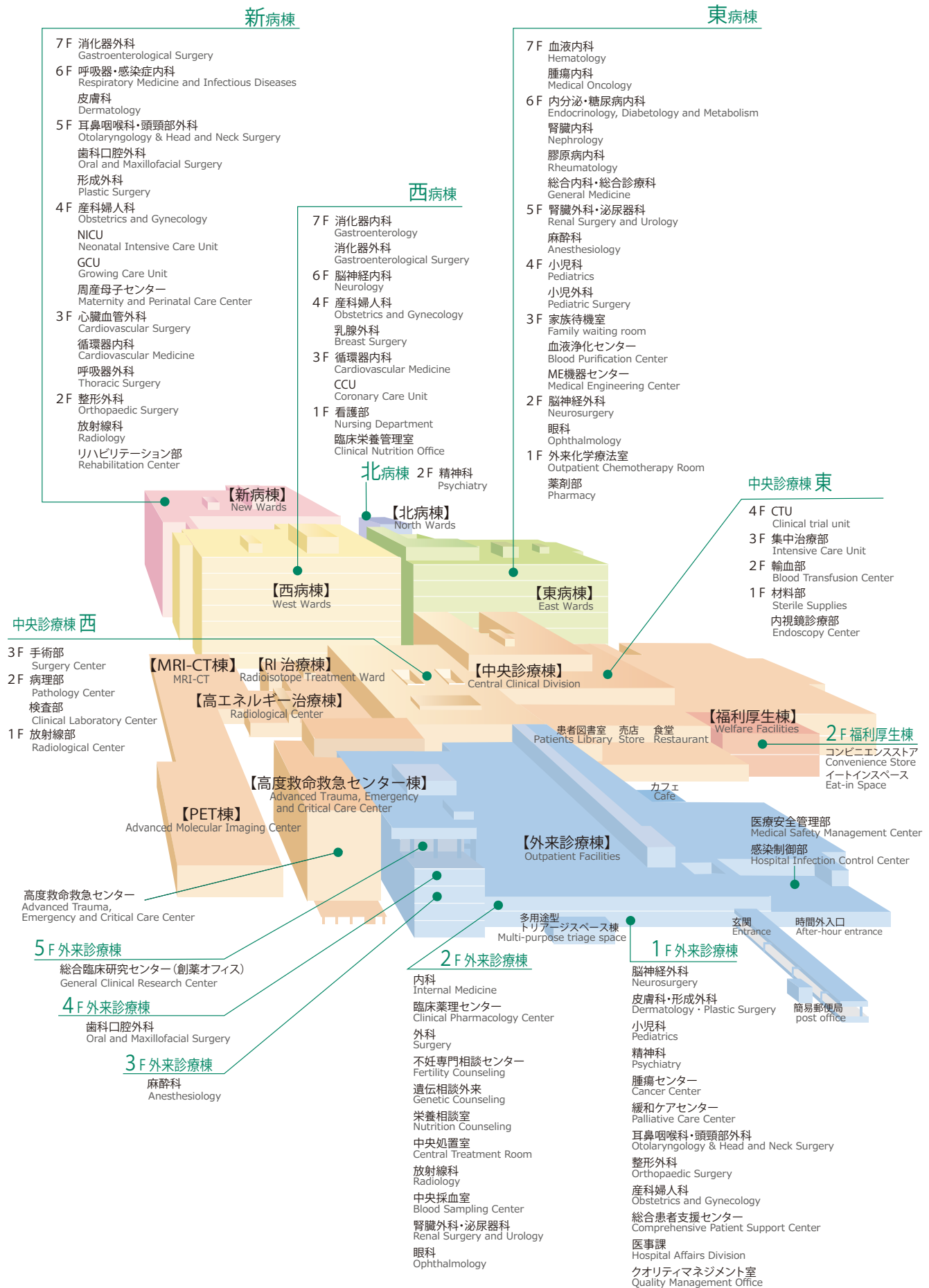
In June 2022, the domestically produced surgical robot “hinotori™” was introduced to the affiliated hospital, creating a two-unit system with the existing da Vinci®. In August 2022, the Center for Minimally Invasive Surgery (Director: Masafumi Inomata, Deputy Director: Toshitaka Shin) was established for the purpose of cultivating advanced medical personnel such as surgeons. In October, the Oita Robotic Surgery Experience Seminar was held, where not only medical professionals but also students and general staff could experience surgical robots. Also, in November of the same year, as an educational activity for citizens, an open lecture was held for citizens on “I want to know more! Minimal invasive robotic surgery.” In addition, renal and urological, gastrointestinal, and gynecology surgeons participated in ambitious activities such as holding a cross-disciplinary seminar on pelvic lymphadenectomy. Continuing these efforts, we aim to spread safe minimally invasive surgery with a high system, develop advanced medical personnel, and in the future, safely introduce robotic surgery in Oita Prefecture through remote surgical guidance.

肥満・糖尿病先進治療センター Obesity and Diabetes Center for Advanced Medicine

肥満症や糖尿病は、冠動脈疾患や慢性腎臓病、脂肪性肝障害、変形性関節症など様々な健康障害につながる。肥満・糖尿病先進治療センターでは、肥満症や肥満を伴う糖尿病に関連する内科と外科の医師、各診療科の専門医と管理栄養士、看護師、理学療法士などメディカルスタッフがチーム医療で協同して治療に取り組む。肥満症や糖尿病患者に合併する様々な合併症について多診療科の連携と治療をさらに促進したいと考えている。治療の過程では食事、運動、薬物療法など様々な治療方法で、その患者さんへのベストな治療を進めていく。肥満症や肥満を伴う糖尿病の内科的治療アプローチに関しては、大分大学附属病院内分泌糖尿病内科で長年にわたり継続している内分泌糖尿病内科独自で開発したグラフ化体重日記など食行動質問紙票や行動療法と併せて、肥満を伴う糖尿病患者さんへの治療薬としてSGLT2阻害薬、GLP-1受容体作動薬や持続的GLP-1/GIP受容体作動薬などの内科的治療も行う。また高度肥満症や糖尿病患者さんに対して胃を小さく切除し体重を減らす我が国の保険診療で行えるスリーブ状胃切除術などの外科治療も行うことも可能である。肥満・糖尿病先進治療センターでは、当院を受診した肥満、糖尿病患者へのアプローチ、当院を受診していない大分県民への市民啓発、臨床研究データの解析を通して肥満糖尿病の診療の発展と確立に繋がりたいと考えている。

Obesity and diabetes lead to various health disorders such as coronary artery disease, chronic kidney disease, fatty liver disease, and osteoarthritis are important health problems. Physician and surgeon related to obesity and diabetes, specialists in each clinical department, dietitians, nurses, and physical therapists cooperate in team medical treatment at the Obesity and Diabetes Advanced Treatment Center. Various treatment methods such as diet, exercise, and drug therapy are used to provide the best medical treatment for the patient. As for medical approach, management is performed with behavioral therapy such as an eating behavior sheet and charting weight-graph developed by the Oita University Hospital, which has been continued for many years at the Department of Endocrinology and Diabetes Medicine for the treatment of obesity and diabetes. We also provide medical treatments such as SGLT2 inhibitors, GLP-1 receptor agonists, and sustained GLP-1/GIP receptor agonists as therapeutic agents for diabetes patients with obesity. Additionally, we will consider surgical treatments such as laparoscopic sleeve gastrectomy, which can be covered by health insurance for severe obesity and diabetes in Japan. At the Obesity and Diabetes Advanced Treatment Center, we have focused on medical approach for obese and diabetic patients who visited our hospital, citizen enlightenment for Oita residents who have not visited our hospital, and clinical research. We would like to further promote establishment of a center for multidisciplinary collaboration for various complications associated with obesity and diabetes patients.

病院各階案内 *Hospital Floor Guide*



病 床 数

Number of beds

○種類別病床数 Number of Each Kind Rooms

種 類	病床数
一般病床	588
高度救命救急センター	24
I C U (集中治療室)	8
NICU (新生児集中治療室)	6
GCU (新生児回復期治療室)	6
精神病床	30
計	618

○差額病床 Private Rooms

種 類	病床数
特別室 (新病棟)	3
東病棟個室	33
西病棟個室	12
新病棟個室	27
準個室	12
計	87

○病棟別配分病床数 Number of beds for Each Ward

	東病棟		西病棟		新病棟		その他	
	診療科等	病床数	診療科等	病床数	診療科等	病床数	診療科等	病床数
7F	血液内科	21	消化器内科	23	消化器外科	38	—	—
	腫瘍内科	13	共通 (一般)	5	共通 (特別室)	1		
	共通 (一般)	2			共通 (一般)	1		
6F	内分泌・糖尿病内科	13	膠原病内科	4	呼吸器内科	24	—	—
	腎臓内科	9	脳神経内科	18	形成外科	3		
	膠原病内科	9	共通 (一般)	4	皮膚科	13		
	総合内科・総合診療科	2						
5F	共通 (一般)	1	(休床)	25	形成外科	4	—	—
	皮膚科	2			耳鼻咽喉科・頭頸部外科	26		
	腎臓外科・泌尿器科	27			歯科口腔外科	9		
	麻酔科	1			共通 (特別室)	1		
4F	共通 (一般)	2	乳腺外科	2	産科婦人科	15	NICU	6
	小児科	28	産科婦人科	18	共通 (一般)	1	GCU	6
	小児外科	1	共通 (一般)	2				
3F	共通 (一般)	4	循環器内科	24	循環器内科	2	ICU	8
	—	—	共通 (一般)	2	呼吸器外科	9		
					心臓血管外科	27		
					共通 (特別室)	1		
2F	脳神経外科	28	—	—	共通 (一般)	3	高度救命救急センター 精神科	24 30
	眼科	23			脳神経外科	3		
					整形外科	42		
					放射線科	3		
					腫瘍センター	2		
					緩和ケア病床	2		
	計	186	計	127	計	231	計	74
			合		計		618	

施設・設備

施設名・設備名	台 数
手術室 (16室)	
遠隔内視鏡手術装置	2
ダビンチ	1
hinotori	1
ハイブリッド手術装置	1
血管撮影装置 (アンギオグラフィシステム)	1
診療用放射線照射装置	
アフターローディング	1
診療用高エネルギー放射線発生装置	
リニアック	2
サイクロترون	1

施設名・設備名	台 数
診療用X線撮影装置	23
CT撮影装置	
一般検査用CT装置	4
治療計画用CT装置	1
RI・PET複合型CT装置	2
MRI撮影装置	3
血管造影装置	
全身用血管造影装置	4
心臓用血管造影装置	1
放射性同位元素装備診療機器	1

先進医療

施設名・設備名	件 数
先進医療 A	6
先進医療 B	4
計	10

令和5年度 診療稼働状況

①診療報酬請求額（入外）（合計）

診療報酬請求額（単位：千円）	24,724,025
----------------	------------

②診療報酬請求額・患者数（入院）（合計）

診療報酬請求額（単位：千円）	18,008,871
患者数（単位：人）	187,895

③診療報酬請求額・患者数（外来）（合計）

診療報酬請求額（単位：千円）	6,715,155
患者数（単位：人）	248,586

④病床稼働率 (年平均)

病床稼働率（単位：％）	83.1
-------------	------

⑤平均在院日数 (年平均)

平均在院日数（単位：日）	13.6
--------------	------

⑥一日平均外来患者数 (年平均)

一日平均外来患者数（単位：人）	1,023.0
-----------------	---------

⑦診療単価（入院）（年平均）

診療単価（入院）（単位：円）	95,845
----------------	--------

⑧診療単価（外来）（年平均）

診療単価（外来）（単位：円）	27,011
----------------	--------

⑨新入院患者数（合計）

新入院患者数（単位：人）	12,829
--------------	--------

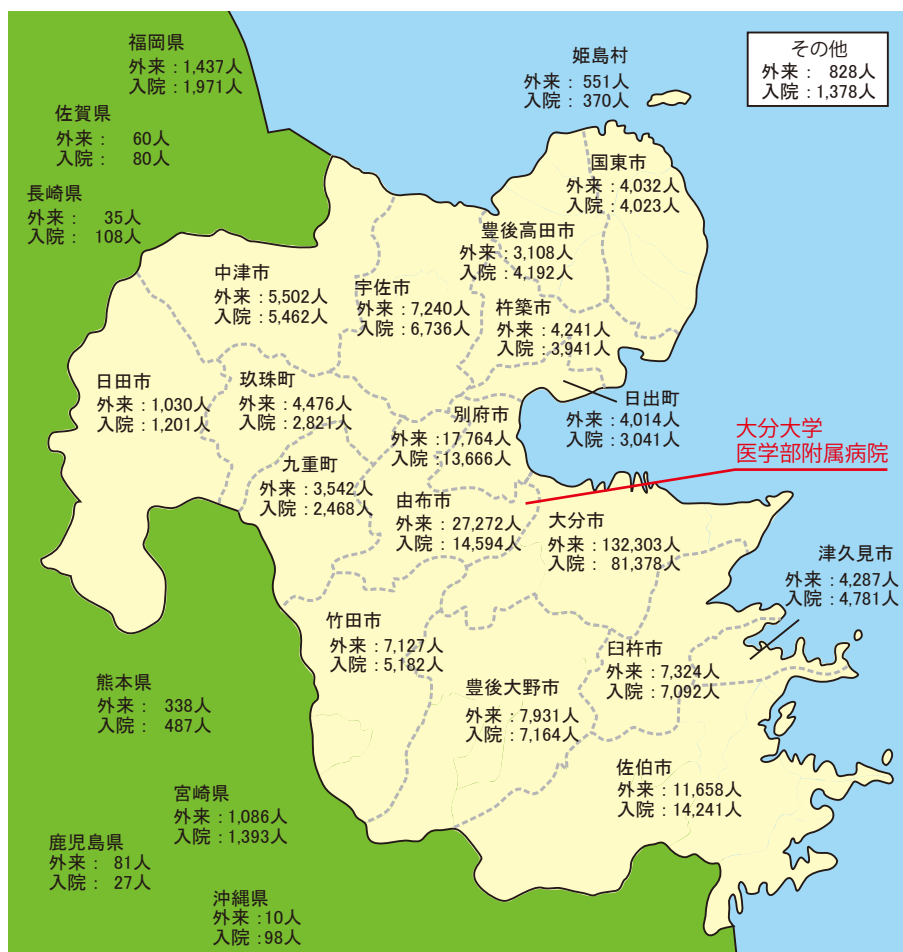
⑩新外来患者数 (合計)

新外来患者数（単位：人）	12,231
--------------	--------

⑪手術部手術件数 (合計)

手術部手術件数（単位：件）	6,464
---------------	-------

令和5年度 地域別患者数内訳



大分県内	外来	入院
宇 佐 市	7,240	6,736
臼 杵 市	7,324	7,092
杵 築 市	4,241	3,941
九 重 町	3,542	2,468
玖 珠 町	4,476	2,821
国 東 市	4,032	4,023
佐 伯 市	11,658	14,241
大 分 市	132,303	81,378
竹 田 市	7,127	5,182
中 津 市	5,502	5,462
津久見市	4,287	4,781
日 出 町	4,014	3,041
日 田 市	1,030	1,201
姫 島 村	551	370
別 府 市	17,764	13,666
豊後高田市	3,108	4,192
豊後大野市	7,931	7,164
由 布 市	27,272	14,594

九州内	外来	入院
沖 縄 県	10	98
宮 崎 県	1,086	1,393
熊 本 県	338	487
鹿 児 島 県	81	27
福 岡 県	1,437	1,971
長 崎 県	35	108
佐 賀 県	60	80

その他	外来	入院
九州以外	828	1,378

	外来	入院
計	257,277	187,895

画像診断検査件数

令和5年度

Diagnostic Imaging Examinations

(in 2023)

区分 Classification	X線撮影 Radiograph	X線透視 Fluorography	放射線治療 Radiotherapy	核医学検査 NM	CT X-ray CT	MRI MRI	血管造影 Angiography	PET-CT PET-CT	計 Total
入院 Inpatients	43,744	1,328	250	541	6,955	2,267	1,845	267	57,197
外来 Outpatients	41,862	797	134	459	16,978	6,106	103	1,257	67,696
計 Total	85,606	2,125	384	1,000	23,933	8,373	1,948	1,524	124,893

分娩件数

令和5年度

Number of Deliveries

(in 2023)

経膈分娩 Vaginal delivery		帝王切開術等 Cesarean section		全分娩数 Total delivery
成熟児 Mature	未熟児 Immature	成熟児 Mature	未熟児 Immature	
62	28	59	35	184

麻酔件数

令和5年度

Number of Clinical Anesthesia

(in 2023)

全身麻酔 General anesthesia	局所麻酔 Local anesthesia	計 Total
4,025	7,247	11,272

処方箋枚数

令和5年度

Prescriptions

(in 2023)

区分 Classification	調剤薬 Prescription Drug	注射薬 Injection Drug
入院 Inpatients	159,584	254,622
外来 Outpatients	院内 In-house Pharmacies	7,413
	院外 Outside Pharmacies	26,030
計 Total	136,937	—
	303,934	280,652

臨床検査件数

令和5年度

Number of Clinical Examinations

(in 2023)

区分 Classification	一般検査 Urinalysis	血液学的検査 Hematology	生化学的検査 Clinical Chemistry	免疫学的検査 Immunology	微生物学的検査 Microbiology	生理機能検査 Clinical Physiology	採血・採液等 Blood sampling	内視鏡検査 Endoscopy	輸血検査 Blood Transfusion	計 Total
入院 Inpatients	13,405	176,932	870,999	36,410	38,355	13,882	0	1,606	6,038	1,157,627
外来 Outpatients	56,749	249,446	1,849,124	128,117	13,086	27,638	84,537	4,771	14,604	2,428,072
計 Total	70,154	426,378	2,720,123	164,527	51,441	41,520	84,537	6,377	20,642	3,585,699

病理診断件数

令和5年度

Number of pathological diagnosis

(in 2023)

入院 Inpatients	外来 Outpatients	合計 Total
5,085	8,567	13,652

病理解剖数

令和5年度

Number of Autopsies

(in 2023)

死亡患者数 (人) Hospital Deaths	病理解剖数 (件) Autopsies	剖検率 (%) Percentage	受託解剖数 (件) Autopsies of Outdoor Patients
265	20	7.5	3

血液製剤使用数

令和5年度

Total amount of Transfusion

(in 2023)

赤血球製剤(本) Red Cells Concentrates -Leukocytes Reduced	血小板製剤(本) Platelet Concentrate	新鮮凍結血漿(本) Fresh Frozen Plasma -Leukocytes Reduced	特殊血液製剤(本) others	院内採血 drawing blood in the hospital					患者延べ数(人) patient deferred number
				自己血輸血 autologous blood transfusion		末梢血幹細胞移植 peripheral blood stem cell transplantation		その他 Others	
				患者数(人) number of patients	使用量(本) consumption	患者数(人) number of patients	使用量(本) consumption	使用量(本) consumption	
5,504	2,143	2,493	124	103	122	19	40	0	6,291

関連施設

Affiliated facilities

グローバル感染症研究センター

Research Center for GLOBAL and LOCAL Infectious Diseases (RCGLID)

Website



グローバル感染症研究センターは、感染症に関する全学的な研究力強化を戦略的に推進するため、2021年10月1日に本学初となる全国共同利用型の研究施設として設置されました。

本センターは、4つの研究部門と共同利用・共同研究を支援する研究支援部門の全5部門を擁し、本学の国際的な感染症研究に従事する教員及び本学に蓄積された研究成果等を集結させたいと、先進的な感染症に関する研究を先導するとともに、医学部関連講座とも連携し、新薬の開発なども積極的に展開しています。特に、グローバルな視点からの海外渡航医療・医学や微生物ゲノム解析を研究領域としている点や、創薬までを含めた臨床と基礎研究を併せて遂行できる点が本センターの特色の1つであり、全国に先駆けたモデルケースとなり得ると考えています。

研究力強化のための計画の1つとして、当センターが共同研究公募（学外研究者と本センター研究者による共同研究の公募）を主催し、全国から共同研究者を本センターに集めることで、オールジャパン体制での感染症研究を推進するとともに、若手研究者の育成を図ります。将来的には、本センターの特色となる「新興・再興ウイルス・細菌感染症」、「創薬」を活かし、国内外の関連する大学や研究機関と連携を進めるなどして、ネットワーク型の共同利用・共同研究拠点を目指します。

The Research Center for GLOBAL and LOCAL Infectious Diseases (RCGLID) was established by Oita University on October 1, 2021 as Oita University's first jointly-use research facility to strategically promote the strengthening of nation-wide research on infectious diseases.

The center has four research divisions and a research support division which promotes advanced research on infectious diseases by bringing together faculty members engaged in international infectious disease research and the results of research accumulated at the university. At the same time, we plan to actively develop new drugs in collaboration with medical school-related courses.

In particular, one of the unique features of this center conducts research in the area of overseas travel medicine and microbial genome analysis from a global perspective, and it is able to conduct both clinical and basic researches including drug discovery. As far we know it will be the first model case in Japan.

As one of the plans for this center is to strengthen research capabilities, the center hosts a joint research competition (open call for joint research between researchers from outside the university and those from our center) to attract researchers from all over Japan to our center, thereby promoting research on infectious diseases under an all-Japan system and fostering young researchers.

In the future, the center aims to become a network-type joint-use and joint-research center by promoting collaboration with both domestic and international researcher communities, taking advantage of its unique features of "emerging and reemerging viral and bacterial infections" and "drug discovery".

研究マネジメント機構

Institute for Research Management

Website



研究マネジメント機構は、研究推進センターの「戦略的研究推進部門」と「国際戦略推進部門」、産学官連携推進センターの「産学官連携部門」と「知的財産管理部門」、研究支援センターの「先端技術部門」、「動物管理部門」、「RI 管理部門」、「実験機器管理部門」、「機器分析部門」からなり、本学における研究力強化に向けた学術研究の高度化及び活性化並びにイノベーションの推進を図るとともに、研究成果を社会に還元するための総合的検討を行い、その効果的な具現化に向けて統括することを目的とする。

The Institute for Research Management comprises the Center for Research Promotion's Strategic Research Promotion Department and International Strategy Promotion Department; the Center for the Promotion of Collaboration Between Industry, Academia, and Government's Industry-Academia-Government Collaboration Department and Intellectual Property Management Department; and the Center for Research Support's Advanced Technology Department, Animal Management Department, RI Management Department, Experimental Equipment Management Department, and Instrumental Analysis Department. The objectives of the Institute are to strive for the sophistication and vitalization in academic research and the promotion of innovation to enhance the University's research capabilities, to consider research results comprehensively to give back to society, and to unify these functions to achieve them effectively.

研究推進センター

The Center for Research Promotion

研究推進センターは、本学における基盤研究の支援及び重点研究の推進を図るため、研究プロジェクトの創生及び支援体制の整備並びに若手研究者の育成を目的とする。

研究推進センターの戦略的研究推進部門と国際戦略推進部門においては、本学の優れた研究及び特色ある研究の推進、先駆的な研究領域の創出、独創的研究、萌芽の基盤研究及び学内組織間連携の融合研究による研究シーズの育成並びに研究プロジェクトの推進、特色ある国際共同研究及び国際展開プロジェクトの企画・開発及び推進、海外の研究機関との学術交流の推進を図る。

The objectives of the Center for Research Promotion are to create research projects, establish a support system, and train young researchers in order to strive to aid scientific research and promote important research at the University.

The Center for Research Promotion's Strategic Research Promotion Department and International Strategy Promotion Department aim to encourage excellent and unique research at the University; create pioneering research fields; as well as promote research projects from, and cultivate the seeds planted by original research, exploratory scientific research, and research blended from cooperation between university organizations. They also strive to plan, develop, and promote distinctive international joint research and internationally deployed projects as well as to drive scientific exchange with research institutions overseas.

研究支援センター

The Center for Research Support

研究支援体制及び研究環境を整備及び維持管理し、もって本学の研究力向上に資することを目的とする。

The objectives of the Center for Research Support are to establish a research support system and research environment, maintain and manage these, and, in so doing, contribute to the advancement of the University's research capabilities.

実験機器管理部門 (ゲノム・タンパク・細胞解析・メタボローム・微細形態)

Division of Scientific Equipment

実験機器管理部門は、医学・生命科学分野の基礎から応用まで、各種の高度・精密分析機器やシステム類の保守・管理を行い、本設備を利用する学内外の学生・大学院生・研究者に機器利用の指導を行うとともに、機器分析の教育・指導や高度な技術を要する解析装置を用いた共同研究を行っている。本部門では、DNA 配列分析、アミノ酸分析、タンパク質電気泳動分析、代謝物の網羅的解析 (メタボローム)、細胞機能解析、各種顕微鏡や免疫電顕などによる超微細構造からマクロの形態分析まで、幅広く対応できる装置と技術を有している。今後、大学の基盤組織として、大学院教育および研究における核となるべく、最新の技術や情報を進取し、講習会、研修の開催を通して、広く学内外の研究者が連携し、研究が促進されるよう運営を行う。

We provide equipment to support medical and life science research and education at Oita University. Our services also include instruction in equipment operation and equipment maintenance. We manage a variety of equipment, including DNA sequencers, next-generation sequencer, flow cytometry, mass spectrometry, electron microscopes, and confocal microscopes. We promote collaboration with basic and clinical research laboratories at Oita University and academia-industry cooperation to develop new medical and life science research technology.



四重極型ガスクロマトグラフ質量分析計



細胞解析装置フローサイトメトリー

動物管理部門

Division of Laboratory Animal Science

近年のめざましい医学の発展に実験動物を用いた高度な医学研究が多大な貢献を果たしている。動物管理部門では、本学において実施される動物実験をハード面とソフト面から支援し、衛生的かつ安全な研究環境を提供している。ハード面では動物実験棟を中心に処置室や実験室を提供し実験動物の飼育管理を支援するとともに、ソフト面では動物実験の申請手続きをサポートし、研究者に対する倫理教育や技術支援などを行っている。また、平成 27 年度から、中型動物を用いた外科的手術の教育・研究開発拠点として、サージカル・ラボ SOLINE(Surgical Operation Laboratory for Innovation and Education) の運営を開始し、医学教育および医療デバイスの開発等を支援している。

The advanced medical studies using the laboratory animals have made a great contribution to recent remarkable progress in the medical field. The Division of Laboratory Animal Science (DLAS) supports researchers to perform animal experiments in Oita University. We provide hardware as well as software to create the safe environment for researchers using laboratory animals. DLAS provides animal breeding rooms and laboratories. In 2015, we opened a new animal surgical laboratory named SOLINE (Surgical Operation Laboratory for Innovation and Education) for surgical training and development of medical devices. We support the application procedure of the animal experiment and provide educational programs of animal ethics. We also assist researchers in animal handlings and technical skills.



サージカル・ラボ SOLINE
(動物実験部門)

RI管理部門

Division of Radioisotope Research

放射性同位元素を用いてトレーサ実験を行う RI 実験施設ならびにガンマ線照射装置を設置しているガンマセル室から構成され、それらを利用した研究を支援し、併せて法令に基づいた放射線の安全管理を担当する部門である。32P,35S,3H,14C,125I,等の核種が使用されており、バイオイメージングアナライザー、液体シンチレーションカウンタ、オートウエルガンマカウンタ等の測定器が設置され、利用されている。また、部門の研究として放射線照射による遺伝子の発現の変化、とくにコラーゲン遺伝子に対する放射線照射効果について研究を行っている。

Division of Radioisotope Research consists of both laboratories of unsealed radioisotope tracer experiments and gamma irradiation, and is managed in law.

Radiation facilities: a laboratory for unsealed radioisotope tracers and a gamma irradiator of sealed 137Cs sources.

Using of radioactive nuclides: 32P, 35S, 3H, 14C, 125I, etc. for tracers, and 137Cs for irradiation in radiation controlled areas.

Instruments: Bio-imaging analyzer system, Liquid scintillation system, Gamma counters, Gamma ray irradiator and other instruments are available for medical and biological research projects.

Our research project is to investigate the effects of radiation on the gene expression, especially collagen gene.

クライシスマネジメント機構

Crisis Management Organization



Website

クライシスマネジメント機構は、グローバル感染症研究センター、減災・復興デザイン教育研究センター、医学部附属病院災害対策室及び福祉健康科学部を中心とした、学内のハザードに対応するセンターや教員によって構成される組織である。

同機構は、本学各学部や、大分県、各自治体、関連団体等との連携のもと、感染症・防疫、防災・減災、医療・福祉に係る各種データを統合し、分析・可視化することでインテリジェンス・ハブとしての機能を拡充し、感染症の流行（パンデミック）や自然災害をはじめとするマルチハザードへの対応を強化し、安全・安心で持続可能な地域社会形成に寄与することを目的としている。

The Crisis Management Organization is an organization composed of the Research Center for GLOBAL and LOCAL Infectious Diseases, Center for Education and Research of Disaster Risk Reduction and Redesign, Disaster Risk Management Office of the University Hospital, and Faculty of Welfare and Health Science. It is an organization composed of centers and faculty members who deal with hazards on campus.

In collaboration with each faculty, Oita prefecture, local governments, and related organizations, the Crisis Management Organization integrates various data related to infectious diseases / epidemics, disaster prevention / mitigation, and medical care / welfare. This organization also analyzes and visualizes the retrieved data. In addition to expanding its function as an intelligence hub, we will strengthen our response to multi-hazards such as infectious disease epidemics (pandemics) and natural disasters, and contribute to development of sustainable regional communities and the formation of a safe and secure society.

学術情報拠点（医学図書館）

Center for Academic Information & Library services (Medical Library)



Website

大分大学学術情報拠点（医学図書館）は、大分医科大学附属図書館として昭和 55（1980）年 3 月 25 日竣工、同年 4 月 25 日に開館し、以来 44 年間学術情報の拠点として、大学の教育・研究・診療活動を支えてきた。平成 20（2008）年 4 月、附属図書館、医学分館、総合情報処理センター、医学情報センターとの統合により現在の組織、学術情報拠点（医学図書館）となった。平成 26（2014）年には耐震改修工事を行い、翌 27（2015）年 7 月 1 日から新図書館でのサービスを開始した。自然光を取り入れ明るく開放的に一新した館内はバリアフリー化し、ラーニングコモンズやグループ学習室など新時代の多用な学びに対応した多機能な学習環境も充実している。現在蔵書数は約 110,000 冊、入館者数は年間約 21,000 人。

また、平成 20（2008）年 1 月から地域における医療・医学の発展に寄与するため、大分県内の医療従事者を対象に医学文献を提供する「医学文献デリバリーサービス」を行っている。現在の利用状況は 1 か月当たり約 16 件、医学部と地域における医療・教育研究全般を支える医学図書館としての重要な支援サービスとなっている。

Oita University Center for Academic Information & Library Services (Medical Library) has been supporting education, research and medical services for the past 44 years as an academic research information center. Originally, it named "Oita Medical College Library", and it was completed on March 25 in 1980 and opened on April 25 that year. In April 2008, it became a center for academic information library (Medical Library) consisting of the University Library (Medical Branch), the Information Processing Center and the Medical Information Center. The name was later changed to "Center for Academic Information and Library services (Medical Library)".

In 2014 the Medical Library's building was upgraded to make it earthquake resistant and it was reopened on July 1, 2015. The interior of the building is exposed to natural light from the outside. Furthermore it incorporates barrier free design, thereby forming a conducive environment for studying. The learning commons space can be used for group work and meets the diverse needs of students. Its book holdings total 110,000 volumes, and we have had approximately 21,000 visitors per year.

Since January 2008 it is our desire to serve practitioners in the community, and we have been running a 'Medical Document Delivery Service'. The number of users of this service is about 16 per month. This service is vital support between our medical university and our local community.

24時間無人入退館システム

24-hour Entrance System

利用者から開館時間外の図書館利用の希望が多くなってきた情勢の中で、平成6（1994）年、全国に先駆け24時間無人入退館システムを導入し運用を開始した。磁気カード式の学生証（身分証明書）により、通常開館時間外の日、土曜、日曜・祝日を含めた24時間の入館が可能である。時間外利用の希望者は利用申請を行い、基本的な利用講習の受講のみで自動貸出装置による資料の貸出、閲覧、複写並びに情報検索機器による情報検索などのサービスを24時間受けられる。導入時の利用対象者は教職員と大学院生に限られていたが、平成8（1996）年4月からは大学に所属するすべての者が利用対象となった。

In 1994, the University Library introduced Japan's first unmanned entry system because of visitors needs. This system operates using magnetic ID card and security code for 24-hour entry, including Saturdays, Sundays and public holidays. After the users fill out a simple application form and undertake a basic training session, 24-hour lending, reading, copying and computer network database access can be available. At first, only faculty staff and graduate students were allowed access this system, but since April 1996, the facility has been available to all staff and students.

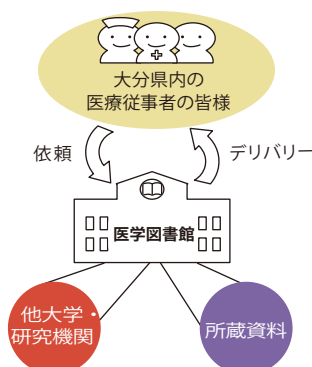
医学文献デリバリーサービス

Medical Document Delivery Service

大分大学学術情報拠点（医学図書館）では、文献デリバリーサービスを行っています。個人単位のお申込で、医学文献の複写申込がウェブ上から可能となります。当館所蔵の文献はもとより、他大学所蔵資料などから、お求めの論文をお届け致します。

当館では、これからも地域における医学及び医療の発展に寄与するため、県内の全ての医療従事者の皆様に医学情報を提供して参ります。「医学文献デリバリーサービス」をどうぞご利用ください。

購入雑誌一覧は、
図書館ウェブサイトの「雑誌タイトルリスト」
からご覧いただけます。



利用案内

図書貸出冊数・期限／6冊以内 2週間 ※雑誌は館内のみの利用となります。

■図書館ウェブサイトの「OPAC」より蔵書の検索ができます。

■初めて本を借りられる方には、貸出カードを作成します。運転免許証等で身分を証明するものをご持参ください。

申請から受け取りまでの流れ

①大分大学学術情報拠点（図書館／医学図書館）ウェブサイト医学文献デリバリーサービスから申請書をダウンロードしてプリントアウトしてください。

申請

②用紙に必要事項を記入して医学図書館宛に郵送してください。（医学図書館の住所は左下に記載してあります＊送料は申請者負担です）

③医学図書館から文献複写申込時に必要なIDとパスワードを郵送致します。

ご利用

④図書館ウェブサイトの「ILL 複写依頼」から必要な文献をお申込みください。

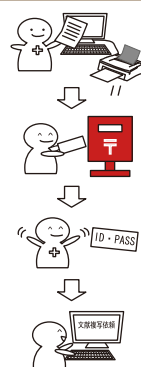
⑤お申し込みに基づいて複写料や送料等を計算し、申込者にお知らせ致します。（＊後払いの徴収猶予制度もございます。詳しくはお問合わせください）

⑥料金のお知らせが届いたら現金書留または為替を医学図書館宛にお送りください。

受け取り

⑦複写物をお届けします。

複写・送付は著作権の範囲内でのサービスとなります。ご了承ください。



お問合せ

〒879-5595
大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地

大分大学学術情報拠点（医学図書館）
医学情報サービス係

Tel 097-586-5580（直通）－5581
Fax 097-586-5579
E-Mail ijyoserv@oita-u.ac.jp
Website https://opac.lib.oita-u.ac.jp/

開館時間
平日 9:00－20:00
土日祝 10:00－17:00
休館
年末・年始 12/29～1/3
夏季休業期間中 ※年により異なります。

駐車場は附属病院の外來駐車場をご利用ください。（有料）

文献到着までの日数

（月・金の日中のお申込で後納の場合）

当館所蔵資料	他館所蔵資料 他館から当館まで
普通 2～3日	+ 一週間以内 = 10日以内
速達 翌日	+ 2～3日 = 3～5日
FAX	一両日 = 2～4日

土日、祝日、夜間のお申込については
翌日又は休み明け以降の対応となります。

ご利用料金

当館所蔵資料
複写料：白黒1枚40円×枚数
カラー1枚60円×枚数
送料：郵送料（速達の場合は＋速達料金）

他館所蔵資料
複写料：1枚（所蔵館ごとに異なります）×枚数
送料：（他館から当館までの郵送料）＋
（当館から申込者までの郵送料）

関連施設 *Affiliated facilities*

利用状況

Library Use

令和5年度

(in 2023)

開館日数 Open Days	350日
入館者数 Visitors (うち学外者) Outside Visitors	21,528人 (599人)
貸出冊数 Loaned Books (うち自動貸出装置によるもの) by Automatic Book Circulation System	3,562冊 (1,927冊)
学外文献複写依頼 Photocopying Service Requests Received	1,221
受付 Requests Granted	331
無人自動入退館システムによる時間外利用者数 Use of the unmanned entrance system	1,233人

図書 (冊)

Books (Number of Volumes)

令和5年度

(in 2023)

区分 Classification	和書 Japanese	洋書 Foreign Language	計 Total
専門 Medical	648	95	743
一般 General Education	265	16	281
計 Total	913	111	1,024

雑誌 (種類)

Journals (Number & Type)

令和5年度

(in 2023)

区分 Classification	和書 Japanese	洋書 Foreign Language	計 Total
専門 Medical	507	823	1,330
一般 General Education	107	47	154
計 Total	614	870	1,484

電子情報サービス 2024年版

Electronic Information Services

＜電子ジャーナル＞ Electronic journal

	名称 Title	分野等 Fields
1	Elsevier Science Direct	900誌以上
2	Springer Link	全分野 約2,200誌
3	Oxford Journal Online	全分野 372誌
4	ACS Web Edition (Am Chem Soc)	化学 68誌
5	Nature 本誌ほか	自然科学 7誌
6	Cancer Research	医学 1誌
7	The New England Journal of Medicine	医学 1誌
8	Academic One File	全分野アグリゲータ系ジャーナルデータベース 約20,400誌

＜主要な文献検索データベース＞ Main literature search database

	名称 Title	分野等 Fields
1	今日の診療	総合診療データベース
2	CINAHL	国内看護学文献データベース
3	Cochrane collection	EBM データベース
4	医学中央雑誌 1983～	国内医学文献データベース
5	Journal & Highly Cited Data	インパクトファクターデータベース
6	朝日新聞クロスサーチ	記事データベース
7	理科年表	科学データベース
8	日経BP 記事検索サービス 大学版	記事データベース
9	ジャパンナレッジ	百科事典等データベース
10	eBook Collection	eBook データベース
11	最新看護索引	看護学文献検索
12	Up To Date	エビデンスに基づいた臨床情報
13	Scopus	抄録・引用文献データベース

学術情報拠点（医学情報センター）

Center for Academic Information & Library services (Medical Information Center)

Website



医学情報センターは、平成7年4月に旧大分医科大学の学内措置で設置された後、平成15年10月の大学統合により、総合情報処理センター挾間分室（医学情報センター）となり、平成20年4月には、図書館と統合して学術情報拠点（医学情報センター）となったが、一貫して挾間キャンパスの学内LANの設計・運営・管理にあたっている。医学情報センターは、医学部の統合認証ID管理、Webサーバ、ファイルサーバなどの管理、通信環境の運用管理、不正アクセスの防御、ウイルス対策などの学内LANの運用管理を行うとともに、オンライン教材やホームページの作成支援、ユーザサポートなどを行っている。医学情報センターへの問い合わせは、電話（内線6231・6078）あるいはメール（micenter@oita-u.ac.jp）で対応している。

The Medical Information Center was established in April 1995 to plan and administrate campus network system. At April 2017, the Medical Information Network System was replaced and serves Integrated authentication system, WWW servers, file server, and other intranet/internet servers. It also have firewall and virus check system. Help desk is extension 6231・6078 or e-mail to micenter@oita-u.ac.jp.

保健管理センター挾間健康相談室

Hasama Division, Health Support Center

当室は挾間キャンパスにおける学生および職員の心身の健康に関する相談、保健・健康教育、保健指導の場として平成8年より開設されている。スタッフは専任医師1名、専任保健師2名、非常勤カウンセラー1名に加え、旦野原キャンパスより精神科医師が週に1回健康相談を行っている。医学部相談医として産婦人科、精神科をはじめ各科の医師が専門的な立場から相談にのっている。

This Hasama division was established in 1996 to maintain and promote health care and provide mental and physical consultations to all students and staffs in the Hasama campus area. The regular staff are a full-time doctor, 2 full-time public health nurse and a part-time clinical psychologist. A psychiatrist of this center from Dannoharu campus make consultation once a week. We also have university hospital expert consultants to respond to various needs.

保健管理センター挾間健康相談室の主な活動

区 分 Activities	対 象 Studentgroup	対象者数 Number of student served
定期健康診断 Periodic medical examination	医 学 科 School of Medicine	約1,000名
	看護学科 School of Nursing	
	先進医療科学科 Department of Advanced Medical Sciences	
	大 学 生 Graduate Students	約200名
	留 学 生 Foreign Students	約20名
感染予防対策 (実習前を含む) Infection prevention and control	全学生・全職員 All Students and the Staff	B型肝炎ワクチン接種 Hepatitis B Vaccination インフルエンザワクチン接種 Influenza Vaccination 希望者 Applicants (のべ接種総数) 約2,000 麻疹ワクチン接種 Measles Vaccination 風疹ワクチン接種 Rubella Vaccination 水痘ワクチン接種 Chicken pox Vaccination ムンプスワクチン接種 Mumps Vaccination

令和5年度健康相談・カウンセリング件数

Counseling Cases 2023

区 分 Activities	学生件数 Cases of students	職員件数 Cases of staffs
メンタルヘルス相談 Mental Health Consultation	140	17
健康相談 Physical Health Consultation	1,900	33

医学部

Faculty of Medicine

- ① 管理棟
Administration Build.
(医学・病院事務部総務課, 経営戦略課, 学務課/
財務部経理課挾間調達室, 施設管理課/
保健管理センター挾間健康相談室)
Dept. of Medicine and Hospital Administration, General
Affairs Div., Management Strategy Div., Student Affairs Div. /
Dept. of Financial Affairs, Accounting Div., Facilities
Administration Div. / Hasama Div., Health Support Center
- ② 校舎講義棟 (チュートリアル教室 1・2 階)
Lecture Build.
- ③ 基礎実習棟
Basic Practical Training Build.
- ④ 看護学科棟
School of Nursing Build.
- ⑤ 臨床講義棟 (臨床中講義室 1 階 / 臨床大講義室 2 階)
Clinical Lecture Build.
- ⑥ 基礎臨床研究棟
Basic and Clinical Research Build.
- ⑦ 院生研究棟
Graduate School Build.
- ⑧ 臨床研究棟
Clinical Research Build.
- ⑨ 学術推進研究棟
Academic Promotion Research Build.
- ⑩ スキルスラボ・情報棟
Clinical Skills Lab.・Computer Room Build.
(スキルスラボセンター/情報処理実習室)
Clinical Skills Lab. Center Computer Room

附属病院

University Hospital

- ⑪ 附属病院
University Hospital
- ⑫ 医事課
Hospital Affairs Div.
- ⑬ 看護師宿舎
Nurse Housing
- ⑭ 卒後臨床研修センター
Center for Postgraduate Education and Training
- ⑮ 医療情報棟
Medical Information Build.
- ⑯ 立体駐車場
Parking Build.
- ⑰ 多用途型トリアージスペース棟
Multi-Use Triage Space Build.

グローバル感染症研究センター

Research Center for GLOBAL and LOCAL Infectious Diseases (RCGLID)

- ① グローバル感染症研究センター
Research Center for GLOBAL and LOCAL Infectious
Diseases (RCGLID)

研究マネジメント機構

Institute for Research Management

- ⑥ ⑦ ⑧ 研究マネジメント機構
Institute for Research Management
- ⑮ 動物実験施設
Lab. Animal Research Center
- ⑰ RI 実験施設
Radioisotope Lab. Center

学術情報拠点

Center for Academic Information & Library services

- ⑰ 医学図書館
Medical Library
- ⑱ 医療情報棟
Medical Information Build.

体育施設

Physical Education Facilities

- ⑲ 体育館
Gymnasium
- ⑳ 武道場
Kendo and Judo Hall
- ㉑ プール (50m 7 コース)・付属室
Swimming Pool
- ㉒ 弓道場
Japanese Archery Hall

福利厚生サークル施設

Welfare Facilities for Students

- ㉓ サークル施設
Facilities for Extracurricular Activities
- ㉔ 課外活動共用施設
Facilities for Extracurricular
- ㉕ 福利施設 (職員・学生食堂)
Welfare Facilities
- ㉖ 福利厚生棟 (病児保育室、コンビニ、休養室)
Welfare Facilities

宿泊施設

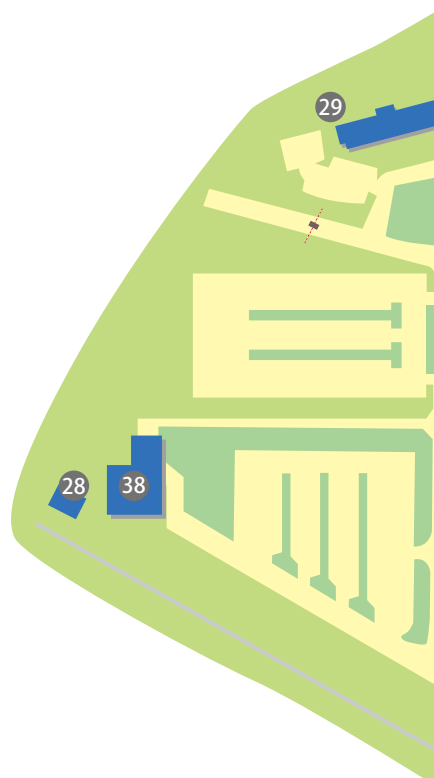
Lodging Facilities

- ㉗ 東院会館 (非常勤講師等宿泊施設)
Toikaikan Guest House
- ㉘ 外国人研究員等宿泊施設
Foreign Researcher Apartments
- ㉙ 外国人留学生等宿泊施設
Foreign Student Apartments
- ㉚ 患者家族滞在施設
Accommodations for Patients' Families

その他

Others

- ① 郵便局
Post Office
- ③ 慰霊碑
Cenotaph
- ④ 動物慰霊碑
Cenotaph for Animals
- ⑤ 車庫
Garage
- ⑥ 中央機械室
Energy Center
- ⑦ 特別高圧受変電室
Special High Voltage Substation
- ⑧ 院内保育園
Nursery School
- ⑨ 備蓄庫
Stockpile warehouse



Map of Oita University



位置図 施設所在地

LOCATION, MAILING ADDRESS,
AND TELEPHONE NUMBER



所在地

Mailing Address and Telephone Number

大分大学医学部・医学部附属病院
Oita University Faculty of Medicine and Oita University Hospital
〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地
1-1 Idaigaoka Hasama-machi Yufu Oita 879-5593 Japan
TEL 097-549-4411 (電話案内)
(Information)

交通案内

Access

(主要空港から大分空港まで)

羽田空港から	1時間30分	by plane	1 hour 30 minutes from Haneda Airport
大阪空港(伊丹)から	55分		55 minutes from Osaka Airport (ITAMI)
名古屋空港から	1時間10分		1 hour 10 minutes from Nagoya Airport

(JR利用により大分駅まで)

		by train	
小倉駅から	1時間15分		1 hour 15 minutes from Kokura Station
博多駅から	2時間		2 hours from Hakata Station

(大分空港から大分駅まで)

		from Oita Airport to Oita Station	
バス利用	55分		55 minutes by bus

(大分駅から医学部まで)

		from Oita Station to University	
バス利用	30分		30 minutes by bus
(行先番号「L*」のバスに乗車,「大学病院」で下車) (Take bus No. 「L*」 and get off at the Daigaku Byoin bus stop.)			
タクシー利用	20分		20 minutes by taxi

(東九州自動車道利用により医学部まで)

		Via Higashi Kyushu Expressway	
大分インターチェンジから	10分		10 minutes from Oita Interchange



西洋医学発祥記念像（大分市府内町遊歩公園）

1551年に国主大友宗麟の招きによって聖フランシスコザビエルが大分の地に布教した。6年後の1557年、この地に日本最初の洋式病院が建ち、ポルトガルの青年医師アルメイダにより、日本最初の洋式手術が行われた。また、この病院で医学教育も始められ、日本人学生が西洋医学を学んだ。

Statue Commemorating the Birthplace of Western Medical Practice in Japan

In 1551, Ohtomo Sorin, the ruler in the Oita region, invited St. Francisco de Xavier to Oita to carry out missionary work. Six years later, in 1557, the first Western hospital in Japan was built here. In this hospital, Luis de Almeida, a young Portuguese doctor, performed surgery for the first time in Japan. Moreover, it is at this hospital that this country's medical education program began and Japanese students first learned about Western medicine.



大分大学 医学部・医学部附属病院概要

OITA UNIVERSITY FACULTY OF MEDICINE AND
OITA UNIVERSITY HOSPITAL GENERAL PROSPECTUS

発行 令和6年

Published 2024

編集 大分大学医学・病院事務部総務課

Edited by Department of Medical and Hospital Administration General Affairs Division

<https://www.med.oita-u.ac.jp/>



医学部HP



附属病院HP